

目 次

哲 学	1
思 想	22
心 理	36
倫 理 学	39
宗 教	43
美学・芸術	46
歴 史	51
伝 記	55
地 理	56
国 際 関 係	57
政 治	61
法 律	73
経 済	80
経営・商業	101
社 会	118
教 育	142
福 祉	152
物理・化学・その他	157
体育・スポーツ	159
中国語・その他語学	162
日本文学・外国文学	166
電子書籍一覧	173
書 名 索 引	179
著（訳編）者名索引	196
主な取扱書店一覧	209
電子書籍取扱店一覧	212

ご注文のしおり

※この図書目録は、小社の既刊・近刊書を、2019年10月現在で収録しました。在庫が僅少になり（†で表示）品切を生じたり、制作費等の変動でやむをえず定価を改定したりすることがあります。ご了承下さい。

※円で表示した数字は本体価格（税別）です。

※書目の左下の5桁の数字はISBNの商品コードです。接頭数字(978)、国別コード(4)、出版社コード(7710)は省略しています。たとえば、0197-9の書籍コードはISBN978-4-7710-0197-9となります。



(商品コード)

※お買い求めはなるべくお近くの書店にてお願い致します。書店で品切の際も、多少日数がかかりますが、書店にご注文いただいたほうが送料不要でお得です。

※小社へ直接ご注文いただく場合は、代金引換の宅配便にてお届けします。この場合、送料として300円（税別）が本代に加算されます（お買上げ価格合計が3,000円（税別）以上の場合は不要です）。また、郵便振替、銀行振込（本目録最終ページ参照）でもお受け致しますが、書籍代金に送料（300円（税別））を加えた金額をお振込み下さい。現金書留でも承っております。

※ご注文の際は、著者名・書名・巻数・冊数および住所氏名を、注文カードにはっきりとお書き下さい。不明瞭ですと送本できない場合もございますので、ご注意下さい。

※お買上の書籍が、乱丁・落丁本の場合は、お買上の書店にてお取り替えします。

株式会社 晃洋書房

ご注文の問い合わせ先

営業部

TEL 075-312-0788 FAX 075-312-7447

E-mai mail@koyoshobo.co.jp

http://www.koyoshobo.co.jp/

哲 学

菅原 潤著

上山春平と新京都学派の哲学

3268-2 四六判・216頁・2,200円(本体価格)

茶谷直人著

アリストテレスと目的論

—自然・魂・幸福—

3267-5 A5判・216頁・3,000円(本体価格)

山下和也著

カントとオートポイエーシス

3231-6 A5判・202頁・3,000円(本体価格)

金子裕介著

論 理 と 分 析

—文系のための記号論理入門—

3207-1 菊判・288頁・2,900円(本体価格)

斎藤拓也著

カントにおける倫理と政治

—思考様式・市民社会・共和制—

3228-6 A5判・366頁・7,200円(本体価格)

山口祐弘著

ロゴスと存在——ヘーゲルの論理思想 第1巻 存在の諸相

3119-7 A5判・264頁・3,400円(本体価格)

山口祐弘著

ロゴスと存在——ヘーゲルの論理思想 第2巻 本質の自己参照

3124-1 A5判・282頁・3,600円(本体価格)

山口祐弘著

ロゴスと存在——ヘーゲルの論理思想 第3巻 概念の主体性

3127-2 A5判・290頁・3,600円(本体価格)

石田京子著

カント 自律と法

—理性批判から法哲学へ—

3217-0 A5判・246頁・3,200円(本体価格)

人間魚雷回天からの生還、プラグマティズムの創設者パースとの出会い、今西錦司・梅棹忠夫をはじめとする人文研のメンバーとの交流を通じて比較文明史を構築する哲学者の立場から、21世紀の文理融合のモデルを模索する。

「目的論」をキーワードに、アリストテレスの絡み合う諸思索を解きほぐす。それにより、自然哲学(目的論的自然観)・魂論(アリストテレス流機能主義)、倫理学(幸福主義)という3つの「目的論の諸相」に迫る。

「純粋理性批判」を中心にカントの認識論を、現時点で最新のシステム論であるオートポイエーシス論による人識論と比較、検討し、さらに脳科学や認知心理学など現代の認知科学の成果を取り入れることで、認識論の完成を目指すまったく新しい試み。

メタ論理とは何か、記号論理を対象言語において精査しながら、その背後に避けられない仕方で存在するメタ言語の論理を問う。ゲンツェンの自然演繹NKを中心に据え、術後論理の完全性定理、健全性定理までの見通しのよい道筋を描く。

カントの思想において、市民社会はなぜ必要であり、どのような結合でなければならないのか。従来、政治的社会的観点からのみ考察されてきたこれらの問いを、倫理的社会的観点からも問い直し、カントの「市民社会」概念を新たに再構築。

学の境位であり始元とされる「存在」は、伝統的形而上学の主題であった。それは、質、量、質量として規定され、その真理は「本質」(ト・ティ・エーン・エイナイ)であるとされる。存在論各部の逐次的解釈により、その存在論的歴史の意味を考える。

「本質」が「論理の学」の方法的中心概念とされる「反省」の運動であることに照らし、伝統的論理学、形而上学、近代自然科学の諸概念が検討され、その有限性が暴露され、真の無限性の意味が明らかにされ、「実体」の概念の止揚として「主体」たる「概念」への道が拓かれる。この事情を考察する。

「存在」と「本質」を統一したものが「概念」とされ、そこに「客観的論理学」を止揚した「主観(主体)的論理学」が成立する。「主観性」、「客観性」を経て到達される「絶対理念」において、ヘーゲルが意図していた「真の存在」の意味が説き明かされる。それは、自由と主体性の国と称される。その意義を問う。

自律思想の法哲学的展開 定言命法や意志の自由はどのように法に関わるのか、なぜカントは法哲学を必要としたのか、カント法哲学の根底にある思想に迫る。

山下善明著

哲学の苑にて

氏の文章はロゴスを縦糸にバトスを横糸に織り上げられており、その紋様はどうやら「形なきものの形を見、声なきものの声を聞く」(西田幾多郎)ことを目指しているようだ。野家啓一

3201-9 A5判・360頁・5,400円(本体価格)

池松辰男著

ヘーゲル「主観的精神」の哲学 —精神における主体の生成とその条件—

自己意識と知性の背後、没意識的なものと習慣的なものとの交錯のなかで、主体はいかに生成し、転倒し、新生するのか。ヘーゲルの未完の体系「主観的精神の哲学」を通じ、近代の主体の来歴と行方を追う、初の試み。

3202-5 A5判・292頁・7,000円(本体価格)

田中龍山著

ソクラテスの ダイモニオンについて

ソクラテスは本当に「理性の人」だったのか？彼が語る「神霊の声」とは何だったのか？さまざまな文献をもとに「ダイモニオン伝説」が形成されていく過程を追ひ、ソクラテス哲学の謎に新しい光をあてる。

—神霊に憑かれた哲学者—

3163-0 四六判・272頁・3,500円(本体価格)

田端信廣著

書評誌に見る批判哲学 —初期ドイツ観念論の展相

書評紙で展開された哲学的諸対決の全貌—カント vs ヘルダー、カント vs エーベルハルト、フィヒテ vs シュミット、フィヒテ vs フェーダー、カント vs フィヒテ・シェリング、シュッツ vs シェリング、フリース vs シェリング—。イェーナ大学哲学部の全講義題目を付す。

—『一般学芸新聞』『哲学欄』の一九年—

3158-6 菊判・482頁・6,200円(本体価格)

重久俊夫著

メタフィジックス

この私は死ねばどうなるか？〈輪廻転生〉や〈永劫回帰〉は単なる空想か？時間は本当に流れているのか？世界はインド仏教の説くように夢幻なのか？夢幻である「この世界」に、「日常」「科学」「価値」「歴史」は、いかにしてたち現れるか、探求する明晰な論理がファンタジーを哲学に変える。

—この世界が夢幻であるということ—

3096-1 四六判・224頁・2,700円(本体価格)

樋口浩造・飯野勝己 編著

暴力をめぐる哲学

いま、暴力とは何か？人間はそもそも暴力的な存在なのか？暴力の克服は、ついにしえないことなのか？現代社会における暴力の多様性と、歴史に現出する暴力の多層性を見すえつつ、その根源的ありようと克服の可能性をさぐる。「暴力の哲学/倫理学」の試み。

3121-0 四六判・304頁・3,500円(本体価格)

西田雅弘著

カントの世界市民主義

知識社会学的手法によって、カント同時代の「ベルリン水曜会」を発掘し、「啓蒙」の社会規範としての道徳性優位のエートスを析出する。その上で、カント一次資料のデータベースを駆使して精査し、カント歴史哲学の重層的構造と、それに基づく道徳的な「世界市民社会」の理念を明らかにする。

—十八世紀ドイツ啓蒙における
カント歴史哲学の知識社会学的研究—

3269-9 A5判・390頁・6,800円(本体価格)

黒岡佳証著

ハイデガーにおける 共存在の問題と展開

名著『存在と時間』における共存在の内在的解釈を発端とし、1930年代までのハイデガーの学問観から本来の共存在を照射。さらに、有限性と共存在の批判的受容から、他者性と共同性の今後の展望を提示する。

—哲学・有限性・共同性—

菊判

近刊

ダン・ザハヴィ 著
中村拓也 訳

初学者のための現象学

「現象学」の創始者とされるフッサールをはじめ、ハイデガーやメルロ＝ポンティなどの思索をたどりながら、現象学の根本的主題と対峙するための入門書。豊かな専門的研究に裏打ちされた本書は、最短距離かつ的を貫くような論述で読者を現象学へと誘う。

2610-0 A5判・150頁・1,400円(本体価格)

中澤 務 著

哲学を学ぼう

哲学という学問にはじめてふれる人のために、そのエッセンスを解説した入門書。哲学の代表的問題を整理し、それぞれの問題の概要を平易かつ簡潔に説明した。哲学者の生涯とその思想、さらにその歴史的な位置づけを理解するための年表も収録。本文解説とのリンクを図った。めまぐるしく変化する現代社会を生きるために哲学的思考を身につけよう。

2838-8 A5判・184頁・1,800円(本体価格)

有 福 孝 岳 著

哲 学 の 立 場

本書は、人間的知の営みとしての哲学の位置付けを探求する。著者多年の研鑽の成果による透徹された識見が随所にあふれる珠玉の一冊。基礎から専門の要素までを網羅しており、哲学を学ぶ人の為には最適な入門書である。

1319-5 A5判・254頁・2,900円(本体価格)

三崎和志・水野邦彦 編

西 洋 哲 学 の 軌 跡

—デカルトからネグリまで—

個人の自覚と文化の合理化と経済の市場化がすすむ近代社会のなかで、西洋の哲学者たちはそれぞれに〈人間—世界関係〉を論じてきた。本書は、近代以降の哲学者19人の理論を時代を追って簡潔にわかりやすくまとめ、今日の私たちの立場で把握することを試みた哲学入門書。

2341-3 A5判・246頁・2,700円(本体価格)

篠原資明 著

あ い だ 哲 学 者 は 語 る

—どんな問いにも交通論—

いかめしげな既成概念や固有名詞の羅列に終始する哲学書が氾濫するなか、〈あいだ〉と交通という基本概念によりオリジナルな哲学を展開してきた著者が、哲学の主要問題から卑近な問題まで、わかりやすく縦横無尽に語りつくす、哲学者と女子学生との対話集成。

3113-5 四六判・172頁・1,700円(本体価格)

伊藤邦武・藤本 忠 編著

哲 学 ワ ー ル ド の 旅

哲学の基本の基本について、やさしく教えるテキストブック。哲学史から芸術や宗教まで、現代文化について考えてみようと思う誰にとっても役立つよう、基本的な概念や考え方を幅広く説明しています。哲学は難しそうだと考える人にとって最適な入門書。

3044-2 A5判・232頁・2,500円(本体価格)

河本英夫・稲垣 諭 編著

哲 学 の メ タ モ ル フ ォ ー ゼ

今、哲学に何を希望できるのか? 「自然」や「超越」、「意識」といった伝統的な哲学の基礎タームから、「情報」「制作」「臨床」といった実践領域における新しいタームまで、それぞれの思考と経験をどこまで展開できるのか、道筋を提示する。私たちが希望できるのはまず、哲学そのものの変貌なのかもしれない。

3005-3 四六判・216頁・2,500円(本体価格)

E. マルテンス 著 有福美年子・有福孝岳 訳

子 供 と と も に 哲 学 す る

—ひとつの哲学入門書—

日本図書館協会選定図書

子供とともに哲学することは、大人も、認識、行為、希望、人間など哲学の根本問題について先入観にとらわれず本音で熟考することであり、今特に注目される研究分野である。これは、その理論的基礎づけを試みた本であると同時に大人のための哲学入門書でもある。

1411-6 四六判・230頁・2,300円(本体価格)

松山壽一 監修
加國尚志・平尾昌宏 編著

哲 学 の 眺 望

従来の「哲学史」や「哲学入門」のように哲学の学説史を順に学ぶのではなく、哲学以外の諸学問や精神文化と哲学との接線や境界線をたどりながら哲学の大まかな輪郭をつかめるように、それぞれのトピックに合わせて各章を構成。

2056-6 A5判・238頁・2,800円(本体価格)

池田善昭 著

「 哲 学 」 の ゆ く え

—近代認識論から現代存在論へ—

近代哲学から現代思想へと至る道筋を見ればこれからの進みゆく方向が見えてくる。それは装いを新たにした存在論への道である。その道では従来の西洋形而上学が脱構築されているばかりではない。われわれの日本思想も時宜にかなうべくその道で協和するだろう。

1670-4 A5判・218頁・2,400円(本体価格)

佐藤義之・安部 浩・戸田剛文 編

知 を 愛 す る 者 と 疑 う 心

—懐疑論八章—

日本図書館協会選定図書

哲学と懐疑のダイナミズムの展開の中で、懐疑も、そして哲学も、自己を新たにし、既成の「本質」を打破することでラディカルなものとしての自らの命を保ってきた。哲学と懐疑が展開してきたダイナミズムを目にして、哲学の姿の認識を新たにす。古代から現代までの懐疑思想を広くカバーした。

1918-8 四六判・254頁・2,600円(本体価格)

ジェームズ・レイチェルズ、スチュアート・レイチェルズ 著 古牧徳生・次田憲和 訳

哲 学 の ア ポ リ ア

—批判的に思考する—

絶対的原理によって全てを説明するのが哲学ではない。批判的(クリティカル)に問い続ける態度こそ哲学の真の方法である。哲学のアポリア(難問)の論理構造を解き明かすことで健全なる答えを求める。レイチェルズ父子が世に問う、批判的思考を駆使した新世紀の革新的哲学入門。

2511-0 A5判・222頁・2,600円(本体価格)

小川 侃 編
井上克人・安部 浩・嶺 秀樹・松井三郎 著
京都学派の遺産

—生と死と環境—

日本図書館協会選定図書

1947-8 四六判・212頁・2,300円(本体価格)

片柳榮一 編著

ディアロゴス

—手探りの中の対話—

1840-2 A5判・346頁・4,500円(本体価格)

松井吉康 著

存在の呪縛

3116-6 A5判・164頁・2,400円(本体価格)

アンソニー・ゴットリーブ 著
坂本知宏 訳

理性の夢 I

—ギリシアからルネッサンスまでの西洋哲学の歴史—

2960-6 四六判・230頁・2,400円(本体価格)

伊藤慶郎 著

シュライアマハーの対話的思考と神認識

—もうひとつの弁証法—

2475-5 A5判・234頁・3,200円(本体価格)

石崎嘉彦 著

政治哲学と対話の弁証法

—ヘーゲルとレオ・シュトラウス—

2441-0 A5判・252頁・2,800円(本体価格)

門屋秀一 著

絵画で綴る哲学と倫理学

—西洋思想のイコノロジー—

日本図書館協会選定図書

2078-8 四六判・202頁・2,400円(本体価格)

松浦明宏 著

プラトン後期的ディアレクティケー

—アイデアの一性と多性について—

3022-0 四六判・216頁・2,800円(本体価格)

加茂英臣 著

欲 望 論

—プラトンとアリストテレス—

2175-4 A5判・324頁・4,000円(本体価格)

内藤純郎 著

善いものと美しいもの

2406-9 A5判・240頁・3,500円(本体価格)

本書は人類の死活にかかわる環境問題解決への道を、京都学派の源、西田幾多郎の「場所」の哲学を甦らせながら探求した。京都大学名誉教授・上田閑照氏推薦。序、環境概念の三段階と人間存在。1章、環境と人間。2章、現代日本において「共生」は何故かくも流行しているのか。3章、田辺元と自然の問題。4章、環境問題解決のための宗教倫理の吟味。

近代文明という異他的なるものうちに放りだされている我々がこの異他的な知のシステムを、このシステムによってもたらされた環境世界そのものを理解してゆく思惟の歩み自身も一つの対話と言える。対象に問いかけ、その反応を読み解くための1冊。

論理的に考えうる第一の問いは「まったくの無か、そうではないのか」であり、第一の真理は「無ではない」であるはずだが、これらは、これまでの哲学において一度も提示されたことがない。従来の哲学は「無」を「存在の欠如」と捉えてきたからである。本書は哲学のすべての歴史(欧米スタンダード)に挑戦する「端的な無」を巡る思索である。

潑刺としたユーモアと学識に満ち、明解でわかりやすく、面白く読める古代ギリシア哲学の歴史。I巻ではソクラテス以前の哲学者たちに精彩ある描写が与えられる。ギリシア思想史を知るために最適の書。II巻続刊予定。

ヘーゲルの弁証法とは異なる「もうひとつ」の弁証法としてのシュライアマハーの弁証法を特に対話的思考と神認識という観点から明らかにする。批判版全集の刊行に伴い、従来の研究諸業績を参照しそれらの真理契機を生かし弁証法の全体へ迫る。

啓蒙的合理性からの必然的帰結としてあるテクノロジーの僭主支配と市場の暴走、総戦力とテロリズム、これら近代的理性の陥穽の結果としてある対立構造を、対話と討議の弁証法によって打ち破る新たな政治哲学を提示する。

哲学を視ることは果たして可能なか…? 図像解釈学の観点に依拠しつつ、難解といわれる哲学の諸理論を非常に簡潔明瞭な筆致で手際よく説明し記述。類をみないほど自由な解釈。

本書は、プラトンのアイデア論イメージを一新するアポリアへの解答である。プラトンの後期的ディアレクティケーはアイデアの多性と一性を反映した真理探究法である(分割と総観)、『パルメニデス』篇後半にこの対をアンチノミーとして描く中で、プラトンは一が多に分かれることを示し、対話篇前半に描いたアイデア論のアポリアを解いた。

「限度を超えて、より多く一取る」という複合動詞を名詞化した欲望概念—プレオネクシア。BC5世紀末古代ギリシアの政治状況に固有なこの欲望論のプラトンとアリストテレス理論における位置づけ、意味づけを具体的にテキストに即して考察した。「よく生きる」というソクラテス、プラトン、アリストテレスのテーマを論考の主題とした。

本書の論考は、ギリシア神話・抒情詩から哲学・宗教まで、古代ギリシアから近代フランス、日本と広範囲におよぶが、すべて著者独自の詩的直観の鋭さと確かな分析が特徴となっている。特にプロティノスについては日本における先駆的業績であり、すぐれた道標となっている。

水地宗明著

アリストテレスの神論

—「形而上学ラムダ巻」注解—

1586-4 A5判・220頁・2,800円(本体価格)

小川 侃著

ニコロ・マキアヴェッリと現象学

—彼の汚名をすすぐ—

2644-5 四六判・186頁・2,300円(本体価格)

山本道雄著

**ドイツ啓蒙の哲学者 クリステイ
アン・ヴォルフのハレ追放顛末記**

—ドイツ哲学の一潮流 2—

2771-8 A5判・280頁・4,100円(本体価格)

G. W. F. ヘーゲル 尼寺義弘 訳

自然法および国家学に関する講義

—1817/18冬学期講義, ハイデルベルク

1818/19冬学期序説(付録), ベルリン—

阪南大学翻訳叢書

1342-1 A5判・332頁・6,800円(本体価格)

G. W. F. ヘーゲル 尼寺義弘 訳

自然法および国家法

—[法の哲学]第二回講義録 1818/19冬学期, ベルリン—

阪南大学翻訳叢書

1447-7 四六判・240頁・4,000円(本体価格)

G. W. F. ヘーゲル 尼寺義弘 訳

ヘーゲル教授殿の講義による法の哲学I, II

—1822/23, 冬学期, ベルリン H.G. ホト—手稿—

阪南大学翻訳叢書

1611-9 (I) A5判・292頁・5,800円(本体価格)

1962-1 (II) A5判・286頁・5,800円(本体価格)

G. W. F. ヘーゲル 尼寺義弘 訳

法の哲学

—「法の哲学」第四回講義録—

阪南大学翻訳叢書

2069-6 A5判・300頁・6,000円(本体価格)

G. W. F. ヘーゲル 尼寺義弘 訳

法・権利・正義の哲学

—「法の哲学」第五回講義録

1822/23年冬学期ベルリン—

1739-5 四六判・156頁・2,100円(本体価格)

寄川条路著

ヘーゲル

—人と思想—

3117-3 四六判・206頁・2,000円(本体価格)

寄川条路編著

ヘーゲルと現代社会

3008-4 四六判・204頁・1,900円(本体価格)

ラムダ巻は形而上学史において最も重要な文献の一つであるが、いくつかの基本的な点で研究者の解釈が対立している。本書は翻訳と注釈と解説「ラムダ巻の思想」の三部分で構成され、アリストテレス哲学は完全な一元論であるという見地からの解釈の試みである。

政治と道徳の分離を唱えたことで悪名高いマキアヴェッリ。しかし、彼は感情が政治において決定的な役割を果たすことを洞察し、「感情の政治学」の可能性を与えている。彼の政治哲学を感情と雰囲気現象学的な仕方でも再構成し、「感情の政治学」構築を試みる。

ヨーロッパ思想界のスターであるヴォルフはプロイセンのフリードリヒ王(一世)から突然、国外追放または絞首刑を宣告される。当時の思想界を震撼させたこの大事件の背景を探る。あわせてデイドロ、ヴォルテールらのフランス百科全書派との思想的連関も解説。

『法の哲学』第一回講義録として注目される本書で、ヘーゲルは人間理性への強い確信を表明する。家族を核とし、市民社会の経済分析を土台とし、司法・ポリツァイ・コロラツィオンを足場とする豊かな国家概念の構想は、自由への限らない希求である。

ヘーゲルは近代社会の規範をなす法・権利・正義について、人間の自由を基本的なイデーとして抽象法・道徳・人倫態を系統的に展開する。古典古代の思想をふまえ、近代市民社会の理論的営為の原像を指示する。『法の哲学』の思想的な源泉をなす必読の文献である。

『法の哲学』第5回講義録の初邦訳。本講義では、ヘーゲルは法・権利・正義に基づく人間の自由の概念を明示的に構築し、生きている弁証法的方法を意識的に応用する。ここでは法の哲学が応用理論・応用倫理学として見事に適用されている。

ヘーゲルは、本講義録のなかで『法の哲学』各節を詳細に展開する。たとえば、「理性的なもの」は「現実的」であり、「現実的のもの」は「理性的」である。それは、理性の実現の過程として整除することができる。さらに、理性の狡知、欲求の体系の経済分析も、自由の一翼をなし新鮮。

家族・市民社会・国家の具体的な分析において普遍・特殊・個別の弁証法的方法を適用し、法・権利・正義に基づく人間の自由概念を展開する。現行『法の哲学』を敷衍し補強する。ヘーゲル研究・解説に不可欠の必読の書である。

この1冊でヘーゲルのすべてがわかる。伝記と作品の総まとめ。論理から自然へ、社会から国家へ、政治から経済へ、法律から歴史へ、芸術から宗教へ、あらゆるものを包み込む、壮大な学問の体系。ヘーゲルの全作品を読み解いて、21世紀の現代を解き明かす。

21世紀の現代社会に生きるヘーゲル哲学。新自由主義と共同体主義、人間をモノ扱いする社会、脱宗教化する哲学、フェミニズムとジェンダー、新しい實在論と現代の生命論。あらゆる社会問題に切り込む実践の書、ついにここに誕生。理論編に続く待望の実践編。

寄川 条路 編著

ヘーゲルと現代思想

2891-3 四六判・192頁・1,800円(本体価格)

山内 廣隆 著

ヘーゲルから考える 私たちの居場所

2581-3 四六判・168頁・2,000円(本体価格)

W.シュヴァイドラー 著 有福孝岳 監訳
小野 真・門屋秀一・羽地 亮 訳

形而上学の克服

—近代哲学の終焉—

1658-5 A5判・410頁・3,800円(本体価格)

近堂 秀 著

『純粹理性批判』の 言語分析哲学的解釈

—カントにおける知の非還元主義—

2974-3 A5判・232頁・4,000円(本体価格)

高田 太 著

カントにおける神学と哲学

—プロイセン反啓蒙政府とカントの自由を巡る闘い—

2766-4 菊判・310頁・5,000円(本体価格)

中島 義道 著

空間と身体

—続カント解釈の冒険—

1139-7 A5判・282頁・3,300円(本体価格)

ゲアハルト・シェーンリッヒ 著
加藤 泰史 監訳

カントと討議倫理学の問題

—討議倫理学の限界と究極的基礎づけの価値/代償について—

1898-3 A5判・262頁・3,000円(本体価格)

山本 道雄 著

改訂増補版

カントとその時代

—ドイツ啓蒙思想の一潮流—

2154-9 A5判・478頁・5,800円(本体価格)

ゲルノート・バーメ 著
河村 克俊 監訳

新しい視点から見た カント「判断力批判」

2959-0 A5判・210頁・2,600円(本体価格)

甲田 純生 著

美と崇高の彼方へ

—カント『判断力批判』をめぐる—

1093-5 四六判・198頁・2,200円(本体価格)

ヘーゲル哲学から誕生した現代思想の潮流をたどる。19世紀のデンマーク実存主義から、20世紀のドイツ文化哲学へ、そして、アメリカのプラグマティズムを経て、21世紀の英米哲学へ、さらには、フランスの現代思想と欧米のフェミニズムへと展開していく。

一体、今私たち人類はどこにいるのか、この永遠の問いに対しレオ・シュトラウスの近代理解を導きとし、フランス革命についてのヘーゲル解釈を基に考察した。ドイツ観念論研究を軸に、人生の根本問題を問いながら、「人類としての私たちの居場所」を論じた。

近代哲学の終焉と現代哲学の開始の分岐点に立ちつつ、形而上学を自己克服する営みとして展開された哲学的大著。著者、若干30歳の時にその浩瀚な知識と蓄に基づいて執筆。

カントの心の哲学と意味の理論として『純粹理性批判』の超越論的心理学と超越論的論理学を読み直す言語分析哲学的解釈の新たな試み。カントの哲学とデイヴィッドソンの哲学の構造的共通性から明らかになる知の非還元主義を現代に問う。

宗教勅令、改訂検閲令、これらは『単なる理性の限界内の宗教』出版に、またカントと神学やキリスト教との関係にどのように作用していたか。時代の宗教政策を詳細に検討し、キリスト者カントを見通すために一石を投じる著作。

カントの超越論的観念論における空間と身体との根源的關係をえぐり出し、ニュートンの自然とは異なるカント独自の自然観を解明する。また、倫理学においても、内的動機に対する行為の外形の優位や徳論に対する法論の優位など、極めて斬新な解釈を提示する。

ミュンヘン大学での原著者の講義録をもとに編纂。博士論文、教授資格論文の成果にもとづき超越論的記号論的立場からアベルやハーバマスらの討議倫理学をより内在的に批判すると同時に、そこで論じられた問題を通して規範性の問題へ展開してゆく。

前著ではヴォルフの存在論からカントの類推論までを体系的視点のもとに考察。今回新たに現代的問題も視野に入れて、「ドイツ啓蒙主義哲学における心身問題」および「カントの経験の哲学」を増補。わが国におけるカント研究に新しい視野を切り開いた力作である。

カント自身の美的体験を、テキスト上の実例を丹念に読み込むことにより跡付け、美学や崇高論の領域での読書経験を通じてカントが用いることになったと思われる独特の表現や言葉遣いについて、その起源を探ることにより、新たなカント哲学を浮かび上がらせる。

†

カント『判断力批判』の精緻な読みに基づいて、この書を様々な角度から分析し再構築。フロイト、バタイユ、アドルノ、ホルクハイマーなどの思想家たちに依拠しながらカント哲学を越えたより広い視点から美と芸術の根源へと迫ろうとする意欲作。

山下和也 著

カントと敬虔主義

—カント哲学とシュペーター神学の比較—

2684-1 A5判・382頁・7,200円(本体価格)

「敬虔主義の父」神学者シュペーターを中心に、敬虔主義の歴史、本質、影響を概観し、カントと敬虔主義の五つの接点を探る。その上で、シュペーター神学とカント哲学の論点ごとの原典比較を通じ、ドイツ敬虔主義がカントに与えた影響を再検討する。

新川信洋 著

カントの平和構想

—『永遠平和のために』の新天地—

2625-4 四六判・172頁・2,200円(本体価格)

『永遠平和のために』を真摯に読み直し、その構成に沿ってカント平和論の有機的構造を再解釈する。批判哲学との接合やフィヒテ哲学との差異といった視点からの分析も加えられ、永遠平和に向けてカントが抱いたビジョンを総合的・体系的に現代によみがえらせる。

八幡 さくら 著

シュリング芸術哲学における構想力

2847-0 A5判・252頁・5,200円(本体価格)

芸術の産出力である構想力に着目し、シュリング芸術哲学を理論と作品分析の両面から議論する。カント哲学との比較、自然哲学との関係、芸術哲学の具体的側面という三つの観点から、シュリングの構想力概念を検討し、芸術哲学の新たな解釈の可能性を示す。

玉田 龍太郎 著

三木清とフィヒテ

2908-8 四六判・162頁・1,700円(本体価格)

三木清が思想形成の過程でどのようにフィヒテ哲学を受容していったかを辿り、そのなかに三木哲学成立の実情とそこでフィヒテ哲学が果たした役割を見出す。また、フィヒテの国民教育論や言語論、高等教育施設論から現代にも通用する教育上の理念も探る。

長澤邦彦・入江幸男 編著

フィヒテ知識学の全容

2525-7 A5判・354頁・4,500円(本体価格)

自我の自己定立・自己限定、自我と非我との交替限定、それらを通じてまさに為すべきことを為し、知識学と成るべく努力する事こそ知識学の本位である。この為・努力こそ人間の本性である。フィヒテ没後200年にフィヒテ研究者が終結して〈知識学〉を問う。

ギンター・ツェラー 著
中川明才 訳**フィヒテを読む**

2584-4 四六判・182頁・2,200円(本体価格)

カント研究から出発した著者のフィヒテ読解は、著書と論考のいずれも、フィヒテをカントの後継者として扱うという共通の姿勢を有し、なかでも本書は「フィヒテをカントから読む」という点に大きな特色を有する。この観点からフィヒテ哲学の全体像を考察する。

玉田 龍太郎 著

フィヒテのイェーナ期哲学の研究

2550-9 A5判・142頁・1,600円(本体価格)

人がどういう哲学を選ぶかは、その人がどういう人間であるかによる。フィヒテの理論的研究から得られた知見を実践の見地から検証し、その応用哲学についての研究を並行させながらその成果を理論と実践との関係を考慮しつつ総合的・統一的視点から纏め上げた。

高橋 陽一郎 著

藝術としての哲学

—ショーペンハウアー哲学における矛盾の意味—

2756-5 A5判・264頁・3,700円(本体価格)

「矛盾の哲学」と見なされてきたショーペンハウアー哲学。これを統合的に読解するための道筋を示しながら、「矛盾」を著作が「藝術」であるための積極的構造としても読もうした意欲的労作。ショーペンハウアーから見た新しいドイツ観念論像を創出する。

伊藤 貴雄 著

ショーペンハウアー兵役拒否の哲学

—戦争・法・国家—

2551-6 A5判・306頁・4,100円(本体価格)

現代の軍事思想のうち基本的なものは19世紀初頭までに出そろっていた。憲法論議は一人ひとりが自分の問題として考えなければならない。その意味でもあらためて哲学から学ぶべきことは多い。軍備と兵役をめぐる根源的課題と現性とは何か。山室信一氏推薦!

谷口 静浩 著

**ハイデッガーの思惟と
宗教への問い**

3187-6 A5判・272頁・3,300円(本体価格)

ハイデッガーの思惟を「宗教の本質への問い」の連関で、言語へと焦点を合わせるという仕方でも解明するものである。この解明を受けてハイデッガーの思惟による私たちの宗教理解にどのような知見が加えられたのかを考察する。そのさい、宗教の本質究明にとって大きな意味を持ち続けている「聖なるもの」概念が吟味されることとなる。

後藤嘉也著

ハイデガーとともに、ハイデガーに抗して

—無意味な世界における意味の誕生—

2901-9 A5判・278頁・2,800円(本体価格)

細川亮一・齋藤元紀・池田 喬 編著

始まりのハイデガー

2343-7 A5判・202頁・2,400円(本体価格)

渡邊和典著

最初期ハイデッガーの意味論

—発生・形成・展開—

2527-1 A5判・262頁・3,300円(本体価格)

ジュビレ・クレマー 著

宇和川雄・勝山紘子・川島 隆・永畑沙織 訳

メディア、使者、伝達作用

—メディア性の「形而上学」の試み—

2532-5 菊判・326頁・3,900円(本体価格)

ナミン・リー 著

中村拓也 訳

本能の現象学

2772-5 A5判・356頁・4,800円(本体価格)

河本英夫・稲垣 論 編著

現象学のパースペクティブ

2861-6 四六判・222頁・2,500円(本体価格)

浜渦辰二 著

可能性としてのフッサール現象学

—他者とともに生きるために—

2995-8 A5判・490頁・6,000円(本体価格)

ダン・ザハヴィ 著

中村拓也 訳

自己と他者

—主観性・共感・恥の探究—

2923-1 菊判・320頁・3,900円(本体価格)

ダン・ザハヴィ 著

工藤和男・中村拓也 訳

新装版

フッサールの現象学

2892-0 四六判・274頁・2,400円(本体価格)

梶尾悠史 著

フッサールの志向性理論

—認識論の新地平を拓く—

2521-9 A5判・288頁・4,000円(本体価格)

ハイデガーとともに、彼に抗して、存在することの意味と無意味を考える。世界は無意味に、ただ存在するだけだが、しかし、隠されたありさまでしばし存在する他なるものが、死すべき私に呼びかけ、私にこれに応えるなかで、存在することの意味が誕生する。

若きハイデガーのみずみずしい「始まり」の思考は、現代哲学の胎動の中、同時代の思潮と対話を重ねつつ自らの哲学を確立していく。ハイデガーがいかにして『存在と時間』へ至ったかを知るための、初期フラインブルク期ハイデガー哲学を論じた本邦初の書。

『存在と時間』は「存在の意味」を究明している。しかし、なぜ「意味」なのか。ハイデッガーの修学時代の思索に遡り、「意味」という事柄に存する構えを明らかにする。「意味」という問題領域の「解きほぐしと汲み尽し」「存在の問い」を内的に考察する。

現代思想の「メディア論的転回」を見据えながらも、メディアこそが人間の文化・社会を規定するという素朴な決定論に陥ることを避け、何がメディアをメディアたらしめているのかを哲学的に考え抜く。ベンヤミンからグーグルアースまでを渉猟する思考実験の書。

本能の現象学を超越論的現象学として体系的に再構築し、発生の現象学の原部分として露わにすることによって、超越論的現象学の全体系を再解釈。現象学の知られざる新局面を露わにし、全く新しいフッサール現象学の全体像を打ち出した画期的研究。

現象学にはどのような展開可能な選択肢が残されているのか。現在の現象学を方法という観点から確認するとともに、今まさに現象学が開かれていく様々なフィールドの可能性を身体論、精神分析、芸術、リハビリテーション臨床といった固有の経験領域から模索する。

本書はフッサール現象学を縦糸に、自身の思索の軌跡を横糸にして織り上げられた、一枚の見事な哲学的タペストリーである。「他者との共生」という現象学的布地の上に織り出された図柄は、対話を通じた「魂のケア」というソクラテスに淵源する哲学本来の営みにはかならない。まさに「可能性としての現象学」を最大限の音域で奏でることを試みた、掛け値なしの労作である。野家啓一(東北大学名誉教授・総長特命教授)

現代現象学を牽引する、主観性研究センター所長ダン・ザハヴィの積年の研究の集大成。自己と他者をめぐる哲学と経験科学の豊饒にして生産的な対話。古典的現象学の心の理論論争、共感理論への寄与の可能性を余すところなく論じた現象学の現代的展開の到達点。

フッサール現象学を数々の誤解から救い出し、志向性、直観構成、時間、身体、主観性、相互主観性、生世界などの現象学の根本概念を明解に読み解く。現代の現象学研究を牽引する第一人者による、世界で最も信頼されているフッサール現象学への本格的入門書。

意識が対象そのものを真にとらえる知覚は、いかにして可能となるのか。「实在論 vs. 観念論」「外在主義 vs. 内在主義」「統制主義 vs. 構成主義」などの対立見解を止揚し、フッサール志向性理論の手法を駆使して認識論の脱構築をもくろむラディカルな試み。

丸山徳次著

現象学と科学批判

2802-9 A5判・390頁・4,800円(本体価格)

レナート・クリスティン・酒井 潔 編著
大西光弘訳**現象学とライブニッツ**

1924-9 A5判・276頁・3,000円(本体価格)

ヒラリー・パトナム 著
高頭直樹訳**プラグマティズム**

—限りなき探求—

2411-3 四六判・148頁・1,700円(本体価格)

大津眞作著

思考の自由とはなにか

—スピノザとシモン・ランゲにおける自由—

2409-0 A5判・208頁・2,400円(本体価格)

リリアン・アルワイズ 著
工藤和男・中村拓也 訳**フッサールとハイデガー**

—世界を取り戻す闘い—

2374-1 A5判・234頁・3,000円(本体価格)

伊藤邦武著

**フランス認識論における
非決定論の研究**

龍谷叢書 XLV

3054-1 四六判・312頁・3,800円(本体価格)

アドルフ・アドラー、フレデリック・クリスチャン・シバーン著
大坪哲也編訳**キルケゴールとデンマーク
の哲学・神学**

3068-8 四六判・146頁・1,800円(本体価格)

金子裕介著

新版

心の論理

—現代哲学による動機説の展開—

2972-9 菊判・198頁・2,300円(本体価格)

伊東道生著

哲学史の変奏曲

—文学と哲学、ドイツとフランスが交錯する19世紀—

2646-9 A5判・232頁・3,500円(本体価格)

ジョン・デューイ 著
栗田 修訳**人類共通の信仰**

2305-5 A5判・146頁・1,900円(本体価格)

現象学の学問論および「科学の目的内在化」論による現代科学の動態分析と科学批判そして現象学による社会哲学についての諸論考を集め、人文科学と大学の危機に挑む。

現象学とライブニッツ哲学の関係を論じた論文集。内容は、1. 現象概念、2. 現象の形而上学と超越論哲学、3. 可能性、4. 論理、5. 神、6. ハイデガーとライブニッツの現象、7. 身体性、8. 世界を作りつつ作られるモノド、平明な訳者解説を付けた。

現代アメリカ哲学を代表する H. パトナムによる、独自の「プラグマティズム」再解釈について論じた連続講演。古典的プラグマティストの議論をカント、後期ヴィットゲンシュタイン、さらに現代哲学の課題と比較し、その可能性を独自の視点から簡潔に論じる。

デカルト二元論を生のコナツスの心身一元論で止揚するスピノザは思考の自由を身体の自由と一体化し、ヘーゲルの矛盾論の観念性を克服。ネグリのスピノザ的生政治概念で、市民社会では奴隷よりも不幸な国民の四分の三の貧困を告発するランゲをマルクスに接合。

本書は、現代の哲学は懐疑論を退けるのに早まった、と強く主張し、このことを、同じ歴史的系統を共有し密接に關係する二人の思想家、フッサールとハイデガーの著作に焦点を当てることによって例証した。

数学や物理学のみならず宗教や社会について「自由の哲学」創始の試みをブートラー、ポアンカレ、デュルケムを中心に、フランス第三共和政時代の非決定論の思想を見る。

19世紀、隣国からヘーゲル哲学が流入したデンマークは、自国の文化や学問的伝統にその挑戦を受けた。本書は、ヘーゲル哲学をめぐって大論争が巻き起こるデンマークで、キルケゴールと同時代を生きた思想家たちによる、ヘーゲル論稿の翻訳である。ヘーゲル哲学のこれまで明かされなかった影響史を紐解く上でも重要な1冊。

科学的・数理的な記述に還元されないものとしての人間の思考を、デイヴィッドソンやオースティンに代表される現代分析哲学の成果を踏まえながら「心の論理」として形式化し、そこに、伝統的な哲学と倫理の議論(カントや功利主義)を組み込んで行こうとする。

徐々に展開していく近代資本主義を横目に、七つの政体、三つの革命、二度の外国の侵入を経験するフランスと、相次ぐ革命とナポレオンの火の粉を振り払いながら、統一国家を目指すドイツ。動乱の連続であった十九世紀に二つの国が描く思想と哲学の歴史。

デューイ最晩年の著作にして、正面から宗教の問題を扱った本書は、宗教の原点ないし源泉である「経験の宗教的性質」を、諸々の成立宗教から解放し、より素晴らしい民主主義社会を建設しようと呼言する。デューイ研究者である訳者が注釈をふんだんに加えた新訳。

片上 平二郎 著

アドルノという「社会学者」

—社会の分光と散乱する思想—

2982-8 四六判・236頁・3,200円(本体価格)

岡田 勝明 著

悲 哀 の 底

—西田幾多郎と共に歩む哲学—

2869-2 四六判・222頁・2,200円(本体価格)

伊集院 令子 著

像 と 平 面 構 成 I

—フッサール像意識分析の未開の新地—

1289-X A5判・268頁・3,200円(本体価格)

齊藤了文・中村光世 著

「正しく」考える方法

1095-6 A5判・182頁・1,700円(本体価格)

佐藤 啓 著

死者と苦しみの宗教哲学

—宗教哲学の現代的可能性—

2790-9 A5判・218頁・2,900円(本体価格)

池田 全之 著

ベンヤミンの人間形成論

—危機の思想と希望への眼差し—

2645-2 A5判・278頁・3,800円(本体価格)

ホセ・オルテガ・イ・ガセット 著
杉山 武 訳**形 而 上 学 講 義**

2025-2 A5判・200頁・2,300円(本体価格)

清 眞人 著

《想像的人間》としてのニーチェ

—実存分析的読解—

1689-5 A5判・308頁・3,300円(本体価格)

G. ベルトナー・渋谷治美 編著

ニヒリズムとの対話

—東京・ウィーン往復シンポジウム—

1601-1 A5判・218頁・2,500円(本体価格)

L. W. ベック 著

藤田 昇吾 訳

6 人の世俗哲学者たち—スピノザ・ヒューム・カント・
ニーチェ・ジェームス・サンタヤナ—

2809-8 A5判・164頁・1,800円(本体価格)

哲学者、文化批評家として語られることが多いアドルノには、社会学者という一面も存在する。本書は、社会学という経験が彼の思想にもたらした意味を考える。多様な学を横断したアドルノからは、一味違った「社会」が見えていたはずだ。

哲学以前にして哲学以降となる「哲学」の試み、「主体から主体を越えて主体の底」へ行こうとした西田哲学と共に、「悲哀の底」の「底なき底」におりたとうとする論考。

† 白眉の問題草稿フッセリアーナ第23巻の像意識分析の全貌に迫る。像概念修正の逆説的帰結を解明して、像の発生的現象学を提唱し、フッサール像理論の批判的継承を図る。併せて、現象学における非現実性の起源の解明により、新たな哲学的絵画論を基礎づける。

本書の狙いは、自分に関心のあるテーマを論理的に追求したい人のために、論理的分析のレッスンの場を提供することにある。文章理解のテクニクを向上させる練習問題を豊富に用意し、就職の論文試験にも有効。専門用語をほとんど使わずに理解できる論理学入門。

苦しみの叫び声は何を求めているのか。2011年の東日本大震災に代表される未曾有の災害や不幸。そうした災害の中、死者や記憶、悪などをめぐる研究の一つの筋道をつけた宗教哲学研究が本書である。一死という悪に死者は抗議できるのか。

† 20世紀初頭の危機の時代を生きたベンヤミン。そのアレゴリ-的な眼差しは、子どもや子ども時代を、完成に向けて指導され克服されるべきものではなく、大人や社会に対する批判的審級とみなすものだった。その批判の展開を言語観、想起論、メディア観に見る。

† 形而上学は一般に馴染みがうすいとはいえ、人生の根本的指針をさずけてくれる学である。それは特別な人だけでなく、みんなにかかわる。知の専門化による混迷にあって、知を真に自己のものとしてとらえなおす必要があり、形而上学は確実な知への道である。

ニーチェ思想の全体像を、ザロメの視点やサルトルが《創造的人間》についておこなった実存的精神分析からの示唆を基礎に、その「反対」形成的な仮面構造のダイナミズムにおいて解明する試み、同時にまた、著者の「異種交配的アイデンティティ」の哲学を提示。

川原栄峰—ニーチェの「ヨーロッパのニヒリズムについてのレンツァーハイデ断片」をめぐって 崎川修—他者と沈黙 丹木博—自己の生滅の場所への問い 出口剛司—パルマコンとしてのニヒリズム 藤野寛—人生の無意味さ、良し悪し、尊敬について 渋谷治美—カントにおける価値のコペルニクスの転回。

世俗哲学とは何か、これは簡単な問題である。しかし、もし答えが過度に単純化され独断的であるべきでないとするれば、我々は一見回り道にも見える仕方でもそこに到達しなければならない。宗教哲学を6人の哲学者を軸に平易に解説した概説書。

ルートヴィッヒ・ワイトゲンシュタイン 著
羽地 寛訳

原因と結果：哲学

2158-7 四六判・156頁・1,600円(本体価格)

千代島 雅著

大学生のための知性を磨く 哲学と論理40問

2954-5 四六判・214頁・2,500円(本体価格)

千代島 雅著

アキレスと亀

—時間の哲学と論理—

日本図書館協会選定図書

1613-5 四六判・222頁・2,500円(本体価格)

甲田純生著

スリリングな哲学

—人間を知るための旅—

1464-7 四六判・230頁・1,900円(本体価格)

甲田純生著

生きることの哲学

—人生を考えるための哲学エッセイ—

日本図書館協会選定図書

2257-7 四六判・166頁・1,350円(本体価格)

伊集院 利明著

愛の哲学的構成

3013-8 A5判・330頁・4,800円(本体価格)

林 信弘著

無の人間学

2397-0 A5判・238頁・3,200円(本体価格)

金子裕介著

心の論理

—現代哲学による動機説の展開—

2669-8 菊判・182頁・2,300円(本体価格)

山崎広光著

共感の人間学・序説

—概念と思想史—

2600-1 A5判・300頁・4,800円(本体価格)

福田正治著

欲望を知る

—脳科学の視点から—

2421-2 四六判・158頁・1,700円(本体価格)

『原因と結果』は『哲学探究』の純粋な先行研究であり、ワイトゲンシュタインの基本的な把握に資する。『哲学』は中期から後期にかけてのワイトゲンシュタインの哲学観を知るには格好のテキストである。彼の哲学に興味をもつすべての人に読んでほしい。

飛行機は自動車より危険なのか、人食いザメは怖いのか、多様な情報があふれている現代には、根拠のないでたらめな主張、混乱した支離滅裂な考え、大げさに誇張して注目を集めようとする軽薄な報道、うまい話で人をだまそうとする危険な情報が氾濫している。本書が目指しているのは「哲学と論理」によって「知性を磨く」ということである。

ゼノンの奇怪なパラドックスを、我われはどう考え、どう解決すべきか、時間に関する不思議な興味深い諸問題について、哲学の立場から深く、鋭く、論理的に考察する。

わかりやすい哲学入門書は哲学書としての質を落としているのが常であり、面白く質の高い哲学入門書は初学者には歯がたたないことが多い。この矛盾を解決し、哲学書としての質を落とすことなく、なおかつわかりやすく面白い哲学入門書、それが本書である。

なぜ勉強するのか？ 善人とは？ 友達とは何か？ こういった素朴な問いを取上げ、哲学的に考えていくことをテーマに編集。哲学という学問を日常生活にはめこみ、「生きること」の絶望と希望とを問う。中学生にも読めて、大人にも面白い、哲学入門。

愛の問題は、アカデミックな哲学議論の場での重要な論題の一つであり、専門の哲学者による活発な議論が、多面的に繰り広げられている。本書は、今日の愛についての諸説を取り上げ、論じていくことにより、愛の新しい全体像を形成しようと試みることで愛の核心に迫る。

本書は、無の思想から「我々はどこから生まれ、どこに消えて行くのか、いったい我々は何者で、この矛盾だらけの人生をどう生きて行けばいいのか」という底無しの人間学的問いになんとか応答しようと悪戦苦闘した思想の軌跡を呈示した。

科学的・数理的な記述に還元されないものとしての人間の思考を、デイヴィッドソンやオースティンに代表される現代分析哲学の成果を踏まえながら「心の論理」として形式化し、そこに、伝統的な哲学—カントと功利主義—を融合させようとする。

シンパシーとエンパシーの交差する軸による共感概念の精練と、西洋近代思想史における共感論の系譜の探求。あわせて倫理、医療、共同体、文学といった問題への共感論からの人間学的考察を加える。

人間を知る—そもそも欲望とは何かを知ろうとすると、実は何も知らないことに愕然とする。脳・欲求の四階層モデル(進化論的脳階層仮説)を提唱し、欲求・欲望の姿に迫る！

ロイ・バスカー著
式部 信訳

自然主義の可能性

—現代社会科学批判—

1756-5 A5判・226頁・2,700円(本体価格)

ギンター・ベルトナー 著
渋谷治美 監訳

哲学としての美学

—〈美しい〉とはどういうことか—

2497-7 A5判・370頁・5,000円(本体価格)

ゲルノート・ペーメ 著
梶谷真司・斎藤 渉・野村文宏 編訳

霧 囲 気 の 美 学

—新しい現象学の挑戦—

1709-3 A5判・308頁・3,800円(本体価格)

山下善明 著

美 と う つ く し さ

—〈あるがまま〉についての思索—

2679-7 四六判・216頁・2,500円(本体価格)

ルドルフ・カルナップ 著
吉田謙二 訳

論理的構文論：哲学する方法

1905-8 四六判・114頁・1,200円(本体価格)

近年、人間、社会科学の諸分野で実証主義やポストモダニズムに代わる第三の潮流として注目を集める批判的実在論。本書はその礎を築いた理論的達成であり、社会と人間に関する透徹した洞察を通じて、社会科学や人間科学がいかにして成立しうるかを明らかにする。

〈哲学としての美学〉の核心的課題は、芸術を越えて〈美学的なもの〉の領域を拡張することに存するのではもちろんなく、哲学としての〈美学〉が美学であろうと意志すること、にある。〈美学〉という思索がその始原から直面していた事実を今ここに真剣に検討する。

† 人間の生において「雰囲気」とは何か。身体、感情、空間、光色、音、自然、都市、建築、芸術……多彩なテーマをめぐって繰り広げられるゲルノート・ペーメの思索。シュミッツの〈新しい現象学〉から出発して、さらに新たな境地への挑戦。

ヨーロッパの〈美〉と日本の〈うつくしさ〉—それは単に比較文明の問題ではない。両者の邂逅に、西洋形而上学が形而上学=美学の歴史であった所以が立ち現われるなか、〈あるがまま〉という〈うつくしさ〉の存在論が、ヨーロッパの存在論の忘れられた根底と呼び合う。

† 1934年10月、著者がロンドン大学で行った3つの講演をまとめた。ウィーン学団が用い、さらに発展させようとしている哲学する方法の主要な特徴の説明。科学の論理分析の方法であり、いっそう厳密には科学的言語の構文論的分析の方法。

シリーズ・ギリシア哲学講義 全4巻

日下部 吉信 著

西洋近代世界のルーツを知るための簡潔
かつ平明なギリシア哲学史入門講義

日下部 吉信 著

I 初期ギリシア哲学講義・8講

2369-7 四六判・178頁・1,700円(本体価格)

日下部 吉信 著

存在(ピュシス)の思索。古代ギリシア人の思索を根源層から駆動していた原理は自然であり、初期ギリシア哲学やアリストテレスの哲学は自然からの呼び声に呼応したそれぞれの哲学表現である。それがギリシア哲学の本体である。

II プラトニズム講義・4講

2356-7 四六判・138頁・1,300円(本体価格)

日下部 吉信 著

西洋の運命、プラトニズム、ソクラテス・プラトンにはじまり西洋2600年の哲学を支配した「主観性の哲学」。自己ならびに他者に対して常に告発的であらざるをえない主観性の原理は、西洋近代世界を決定づける発端となった。

III アリストテレス講義・6講

2342-0 四六判・154頁・1,400円(本体価格)

日下部 吉信 著

アリストテレスというパルテノン。西洋哲学に不動の基礎を与えたアリストテレス。その巨大かつ不朽の知性を展望する。西洋近代世界のルーツを知る、簡潔かつ平明なギリシア哲学史入門講義の第1回配本!

IV ヘレニズム哲学講義・3講

2369-7 四六判・84頁・1,000円(本体価格)

日下部 吉信 著

ヘレニズム時代の全般を通じて哲学は一貫してギリシア人の営みであり、ギリシア哲学でありつづけた。本講義ではヘレニズム時代の代表的学派であるストア派、エピクロス派、懐疑派の哲学を展望。シリーズ・ギリシア哲学講義の完結編。

講演集ハイデガーと西洋形而上学

2638-4 四六判・162頁・1,600円(本体価格)

西洋世界を支配した「主観性原理」(Subjektivität)。それこそが存在の真理を隠蔽し、その結果、西洋近代世界から存在が脱去してしまったとハイデガーは言う。2500年の西洋形而上学を「存在と主観性の抗争」の歴史として俯瞰する。

木田元・池田善昭・三島憲一 編集委員
哲学書 概説シリーズ 全12巻

山田弘明著

I デカルト『方法序説』

2205-8 四六判・126頁・1,200円(本体価格)

河井徳治著

なぜ生きるか、いかに生きるか、それは自分で決めるしかない。それでも人は迷うことが多いだろう。まさに森の中の旅人である。…しかし人は自ら選んだ道を進むしかない。

II スピノザ『エチカ』

2277-5 四六判・148頁・1,300円(本体価格)

池田善昭著

スピノザの紹介としても、『エチカ』の解説としても、大変読みやすく、うってつけの入門書。『エチカ』の基本的視点、方法、ホッブズやデカルトとの相違点など、無限性についても貴重な示唆を与える。

III ライプニッツ『モナドロジー』

2254-6 四六判・162頁・1,400円(本体価格)

有福孝岳著

それぞれの単一なる実体は、他のすべてのものを表出するさまざまな関係をもちつつ、それらは「宇宙の永遠なる生きた姿となっている。」ライプニッツの『モナドロジー』は20世紀になってハイデガーによって「時間のモナドロジー」へと、また西田幾多郎によって「場所のモナドロジー」へと展開されたのではないか。

IV カント『純粹理性批判』

2316-1 四六判・206頁・1,600円(本体価格)

海老澤善一著

形而上学は、哲学者にとって結局は最後の落ち着きどころなのだが、かつては「万学の女王」であった形而上学が今や侮蔑の対象となっている時代に、カントという哲学者が出現した。かの『純粹理性批判』、初学者のための渾身の書下ろし。

V ヘーゲル『大論理学』

2510-3 四六判・162頁・1,400円(本体価格)

山下秀智著

論理学の死んでしまった骨を、精神によって実質と内容を与えて蘇らせる。そのための方法は、論理学を純粹学(形而上学)とする方法以外にない。哲学はこれまで未だその方法(弁証法)を発見していない。かの「大論理学」においていくつかの存在の国々を巡る旅の様子をここに描ききった。

VI キェルケゴール『死に至る病』

日本図書館協会選定図書

2216-4 四六判・154頁・1,300円(本体価格)

山本誠作著

死によって、父との出会いが反復される(受け取り直される)。死は死にゆく人の問題であるばかりでなく、残された人間の、魂の課題でもあるのである。

IX ホワイトヘッド『過程と實在』

—生命の躍動的前進を描く「有機体の哲学」—

日本図書館協会選定図書

2235-5 四六判・134頁・1,200円(本体価格)

氣多雅子著

発見の真実の方法は、飛行機の飛行のようなものである。それは特殊な観察の地盤から出発する。それは創造的一般化という稀薄な空中を観察する。そして合理的解釈によって強められ、改めて観察するため、再び着陸する。

X 西田幾多郎『善の研究』

2220-1 四六判・152頁・1,300円(本体価格)

後藤嘉也著

上田閑照氏推薦「善の研究」百周年を記念して、百年の間読まれてきた『善の研究』は今後百年さらに大きな意義を現わしてくるであろう。このことを本書は示している。

XI ハイデガー『存在と時間』

2296-6 四六判・146頁・1,300円(本体価格)

私はストーブの炎を眺め猫の頭をなで、人々の交わす声を聞くともなく聞いて、ここに存在し、生きている。それでは、ある、いる、存在するとはどういうことだろうか。『存在と時間』の語ろうとしたことは、誕生と死のあいだをそのつど存在している自己がこの世界を愛することだったと、要約できるかもしれない。

以降順次刊行予定

三島憲一著

神原哲也著

VII ニーチェ『ツァラツストラかく語りき』 VIII フッサール『ヨーロッパ諸学の危機』

加國尚志著

XII メルロ=ポンティ『知覚の現象学』

カント研究会 編集

(カント研究の最新の成果を論文として収録。本シリーズは、
現代に呼びかける主体的な思想書としての資格を狙う)

中島義道・石川文康・大橋容一郎 編

超越論哲学とはなにか

現代カント研究 1

『純粹理性批判』を中心とするカントの理論哲学・超越論哲学に関する論文・書誌等を収める。カント研究会が初めて世に問うた論文集の復刊。

0907-4 A5判・244頁・3,450円(本体価格)

牧野英二・福谷 茂 編

批判的形而上学とはなにか

現代カント研究 2

理論哲学・実践哲学・美学にまでおよぶ幅広い視野からのカント研究の成果。70年代わが国のカント研究文献の目録などを収めた待望の復刊。

0908-2 A5判・338頁・4,100円(本体価格)

平田俊博・渋谷治美 編

実践哲学とその射程

現代カント研究 3

カント研究の最新の成果である6篇の論文を通して、本書はカントの実践哲学が内在する論理的射程と歴史的射程の大きさと今日的意義を論じる。

0560-5 A5判・298頁・3,107円(本体価格)

松山壽一・犬竹正幸 編

自然哲学とその射程

現代カント研究 4

従来のカント研究では扱われることの稀であった自然哲学をテーマとして編まれたカント研究会論集の第4弾。

0618-0 A5判・376頁・3,883円(本体価格)

樽井正義・円谷裕二 編

社会哲学の領野

現代カント研究 5

欧米において活況を呈する社会哲学の諸領域から、私法・公法を含めた法哲学、政治哲学、啓蒙思想や歴史哲学、宗教論、教育論に至るまで概観。

0738-1 A5判・298頁・3,398円(本体価格)

久呉高之・湯浅正彦 編

自由と行為

現代カント研究 6

自由とは何か。自由な行為はいかにして可能か。「意志の自律」の思想によって近現代に屹立するカント自由論への登攀をなす諸論考の集成。

0953-8 A5判・274頁・3,200円(本体価格)

長倉誠一・加藤泰史・大橋容一郎 編

超越論的批判の理論

現代カント研究 7

カント『純粹理性批判』にかかわる問題点について、現代の諸理論との関連の中で、新しい側面に光をあてる試み。

1098-6 A5判・292頁・3,600円(本体価格)

植村恒一郎・朝広謙次郎 編

自我の探究

現代カント研究 8

フーコーは、「人間」という概念は耐用年数が尽きかけており、いずれ「人間は波打ち際の砂の表情のように消滅するだろう」と予言した。「人間」は、カントの創始した「自我」概念の別名でもあり、その「知の配置」が21世紀の我々にとって持つ意味を再検討する。

1292-9 A5判・308頁・3,800円(本体価格)

木阪貴行・菅沢竜文・河村克俊 編

近代からの問いかけ

—啓蒙と理性批判—

現代カント研究 9

カントと啓蒙哲学をめぐる8章と2書評。理論と実践に渡るテーマは存在・認識・自由・自律・倫理・道徳・歴史・宗教など。欧米の現在の研究水準での明快な論証。最新のカント伝記資料(著作・大学職・住居)、日本のカント文献目録を所収。

1507-4 A5判・320頁・3,900円(本体価格)

御子柴善之・檜垣良成 編

理性への問い

現代カント研究 10

1817-4 A 5判・268頁・3,100円 (本体価格)

小野原雅夫・山根雄一郎 編

判断力の問題圏

現代カント研究 11

2087-0 A 5判・224頁・2,700円 (本体価格)

石川 求・寺田俊郎 編

世界市民の哲学

現代カント研究 12

2307-9 A 5判・232頁・2,900円 (本体価格)

加藤泰史・船場保之 編

カントと現代哲学

現代カント研究 13

2654-4 A 5判・190頁・2,600円 (本体価格)

中野裕考・山脇真之・浜野喬士 編

哲学の体系性

現代カント研究 14

2992-7 A 5判・212頁・2,900円 (本体価格)

理性的普遍性への懐疑が広く行き渡り、コンテクスト主義が優勢になる中、カント哲学と向き合うことで主張できることは何か。これが本巻を貫く問題意識。「北米カント研究史をめぐる往復書簡」「日本におけるカント文献目録補遺」も併載。

理論・実践の両部門から、規定的・反省的判断力の双方の視点から、美感的判断の問題に過度に偏ることなく、論集を構成。「判断力」をテーマとし、両批判書その他の関心領域にも言及した。

東西冷戦後の新しい世界秩序をめぐる議論において、カントの世界市民主義は一つの軸であり続けており、アクチュアルな意義もっている。実践哲学に留まらず、理論・歴史哲学、人間学、趣味論、宗教論など、カント哲学のいくつかの関連において「世界市民」という概念を検討する論考を収めた。

必ずしもカントの哲学研究を専門とするわけではない論者たちが、自由な発想に基づいて展開するアクチュアルなカント解釈を精査・吟味しつつ、現代におけるカント哲学の可能性(したがって同時にその限界)を見定めることを視野に入れた諸論考。

存在と真理、道徳と善、美と合目的性といった哲学の古典的な主題は、相互にどのように連関しあうのか。個々の主題が形作る領域内部には収まらない広い視野をもって、中世以来の伝統と同時代の存在論を取り込みながら形成されたカント批判哲学の構造を問う。

フ イ ヒ テ 研 究

(A 5 判)

0639-8	'93創刊号	152頁	・2,136円	(本体価格) †
0756-X	'94第2号	196頁	・2,621円	(本体価格) †
0824-8	'95第3号	198頁	・2,621円	(本体価格) †
0914-7	'96第4号	150頁	・2,136円	(本体価格) †
0979-1	'97第5号	126頁	・2,000円	(本体価格) †
1059-5	'98第6号	150頁	・2,200円	(本体価格) †
1131-1	'99第7号	148頁	・2,200円	(本体価格) †
1225-3	2000第8号	168頁	・2,500円	(本体価格) †
1315-2	2001第9号	131頁	・2,000円	(本体価格) †
1417-5	2002第10号	146頁	・2,200円	(本体価格) †
1492-2	2003第11号	122頁	・1,900円	(本体価格) †
1600-3	2004第12号	146頁	・2,200円	(本体価格) †
1703-4	2005第13号	152頁	・2,300円	(本体価格) †
1801-4	2006第14号	150頁	・2,300円	(本体価格) †
1922-5	2007第15号	132頁	・2,100円	(本体価格) †
2030-6	2008第16号	138頁	・2,100円	(本体価格) †
2105-1	2009第17号	174頁	・2,700円	(本体価格) †
2195-2	2010第18号	122頁	・1,900円	(本体価格) †
2306-2	2011第19号	120頁	・1,900円	(本体価格)
2404-5	2012第20号	114頁	・1,800円	(本体価格)
2492-2	2013第21号	128頁	・2,100円	(本体価格)
2582-0	2014第22号	150頁	・2,200円	(本体価格)
2666-7	2015第23号	114頁	・1,800円	(本体価格)
2788-6	2016第24号	90頁	・1,400円	(本体価格)
2949-1	2017第25号	124頁	・2,000円	(本体価格)
3123-4	2018第26号	130頁	・2,100円	(本体価格)
3275-0	2019第27号	136頁	・2,100円	(本体価格)

監修 三宅剛一

企画 西谷裕作
磯江景孜
竹市明弘

現代哲学の根本問題 全12巻

H. ロムバッハ (中岡成文 訳)

第1巻 存在論の根本問題

0235-5 A5判・380頁・4,100円 (本体価格)

G. ブラウス (観山雪陽・訓覇暉雄 訳)

第2巻 認識論の根本問題

0162-6 A5判・446頁・4,300円 (本体価格)

F. カウルバッハ, A. バルツィ,
F. カムバルテル (西谷裕作他 訳)

第3巻 倫理学の根本問題

0172-3 A5判・406頁・4,100円 (本体価格)

新田博衛 編 (ハイデッガー, ヘンリッヒ,
デュフレンヌ他, 全14篇)

第4巻 藝術哲学の根本問題

0145-6 A5判・448頁・4,563円 (本体価格)

E. ハインテル, H. ロムバッハ,
K.-O. アーベル他全4篇 (磯江景孜他 訳)

第5巻 言語哲学の根本問題

0171-5 A5判・416頁・4,300円 (本体価格)

E. シュトレーカー (常俊宗三郎・西谷 敬 訳)

第6巻 科学哲学の根本問題

0127-8 A5判・238頁・2,600円 (本体価格)

O. ベゲラー 編 (ガーダマー, アーベル,
ハーバーマス他, 全11篇)

第7巻 解釈学の根本問題

0128-6 A5判・428頁・4,175円 (本体価格)

新田義弘・小川 侃 編 (ラントグレーベ,
トイニッセン, ヘルト他, 全15篇)

第8巻 現象学の根本問題

0147-2 A5判・454頁・4,563円 (本体価格)

竹市明弘 編 (ライル, アーベル, アルバート他,
全10篇)

第9巻 分析哲学の根本問題

0293-2 A5判・500頁・4,700円 (本体価格)

† 実体の存在論が崩壊した現代に、近代科学の体系のみならずサイバネティックスや情報理論までも新しく位置づける構造存在論、それはいかなるドグマにも頼らない「自由の現象学」であると共に、安全な伝統的日常的真理にすぎりつく人々の幼想を打破する「不安の存在論」でもある。

† 現代では認識論は解体されてしまったのか？ 本書は、近代認識論の源泉たるカント哲学において従来未解決のままにされてきた「現象」の問題、とりわけ「知覚判断」の理論に執拗なる分析を試みることによって、認識論の復権と知識の新しい基礎づけを果たさんとするものである。

† まずバルツィが「実践哲学とは何か」を問い、ついでカウルバッハが行為の普遍的な理性と言語を求め、意思決定を行う思惟の内に弁証法的運動を見、そこからエイヤー等のメタ倫理学を徹底的に批判する。他に構成主義の著作(カムバルテル)を含む、実践哲学のための必読書。

† 藝術の謎に挑む現代哲学の最新の成果をここに結集！ 現象学から、存在論から、解釈学から、分析哲学から、サイバネティックスから、美術史方法論から……角度はさまざまであるが、どれも「藝術とは何か」という現代藝術の謎を含んだ問いかけに鋭く切り込むものばかりである。

† 現代では言語の研究が哲学の主流の一つとなりつつある。本書は、ハインテル、ガーダマー、アーベル、カムバルテル、いずれもヨーロッパの伝統的な言語哲学に立脚点を見出し、分析哲学とは違った、言語の超越論的な働きから、その本質を徹底的に解明せんとしている。

† 本書は、現代の代表的現象学者による科学哲学と科学史への入門書であるが、英米の科学哲学を西欧の現象学の立場から批判的に摂取発展させた野心作でもある。科学史研究に画期的な転機をもたらしたクーンの科学革命の理論に、著者の立場から加えた批判検討は専門家をも啓発する。

† 古来の「解釈術」が「解釈学」となり、哲学の普遍的方法にまで高められ、現代では歴史と実存の両面にわたって言語を広く深く問う最も新しい哲学となった。本書は、解釈学の成立と展開を伝える9論文に編者ベゲラーの周到解説を付し、解釈学的哲学を知る上で必須の文献とした。

† 現象学とは、現実を現実そのものから先入見なく明らかにしようとする哲学の方法である。本書は、共同主観性、歴史性、身体性についての代表的論文のほかに、新しい現象学的研究の方向を示す論文を集めたことにより、現象学の歴史、現在、将来を見渡さしめる画期的な手引である。

† 本書はまず英米の分析哲学の紹介を行い、ついで現代ヨーロッパの代表的六学派(解釈学、超越論的プラグマチーク、歴史主義、批判的合理主義、構成主義、超越論的哲学)が、分析哲学との対決の中で生み出した主要論文を集め、各学派の主張点と分析哲学の問題点を浮き彫りにする。

M. ハイデッガー, H.-G. ガーダマー, W. ベッカー,
K. ローレンツ (安井邦夫他 訳)

第10巻 弁証法の根本問題

0146-4 A5判・358頁・3,592円 (本体価格)

A. V. ヴァイス, M. ホルクハイマー,
M. トイニッセン (磯江景孜 訳)

第11巻 ^{ネオ}新マルクス主義の根本問題

0130-8 A5判・248頁・2,600円 (本体価格)

O. ペゲラー (大橋良介・溝口宏平 訳)

第12巻 ハイデッガーの根本問題

0150-2 A5判・438頁・4,300円 (本体価格)

本書はまず、ハイデッガー、ガーダマーがそれぞれの立場から弁証法を根本的に吟味し直し、次にベッカーが唯物弁証法に潜むヘーゲルの観念論を摘出し、弁証法をその非合理的な根底にまで遡って解明する。そして最後に、ローレンツが対話的真理概念による弁証法の蘇生を試みる。

公式的マルクス主義に対し、マルクス思想の原理に遡って考え直そうとする新(ネオ)マルクス主義の思想的系譜を、ルカーチからフランクフルト学派の批判的理論に至るまで詳細にたどる。ついで、批判理論が挫折を余儀なくされた理由を鋭く究明するトイニッセンの著作をかかげる。

ハイデッガーの思索は何であったのか? 2500年に及ぶ西洋哲学の総決算を行い、来るべき新しい思惟への展望を開いた彼の思惟の道を、その発展から展望、そして晩年の決定的段階に至るまで、詳細な叙述と研究によって解明した、定評ある「ハイデッガー入門書」である。

シェリング論集

高山 守・藤田正勝 編

シェリングとヘーゲル

シェリング論集 1

0794-2 A5判・262頁・3,301円(本体価格)

伊坂青司・森 淑仁 編著

シェリングとドイツ・ロマン主義

シェリング論集 2

0955-4 A5判・264頁・3,300円(本体価格)

渡邊二郎・山口和子 編

モデルネの翳り

—シェリング『自由論』の現在—
シェリング論集 3

1107-9 A5判・264頁・3,400円(本体価格)

松山壽一・加國尚志 編

シェリング自然哲学への誘い

シェリング論集 4

1579-1 A5判・276頁・3,400円(本体価格)

長野順子・小田部胤久 編著

交響するロマン主義

シェリング論集 5

1735-2 A5判・206頁・2,600円(本体価格)

† ドイツ近代思想を代表するシェリングとヘーゲルとは敵手であっただけでなく、同時に相互に相手から刺激を受け、それを思索の原動力にした。この両者の思想にさまざまな角度から光をあて、その親近性と相違、今日的な意義を浮き彫りにすることを試みた論文集。

† シェリングとドイツ・ロマン主義に関する国内外の最新の研究成果を踏まえ、両者の密接な関連を文学・哲学・宗教・芸術の各分野にわたって学際的に総合しようとする画期的な試み。シェリング・ルネサンスとロマン主義再考に一石を投じる意欲的な論集。

† シェリングの『自由論』は、悪の起源への根源的な問いを介して、ヨーロッパの近代が拠り所とした合理性に鋭い懐疑の眼差しを注いだ。本書は、近代的理性の創りあげたイリュージョンを暴き、現代への地平を開くシェリングの革新性を、様々な角度から検証した。

現在の日本でのシェリング自然哲学理解の不十分さを払拭すべく、同一哲学期のシェリング哲学を中心として、初学者から研究者までを対象とした論文集。単なる概説書ではなく、執筆者の独自の観点や、最新の研究動向の紹介などの専門的内容も加味されている。

ロマン主義、それは生じつつあった「近代」世界に対する批判的対応という関心に裏付けられた思想的運動であり、ロマン主義者の提起した問いは今日なおその意義を失っていない。ドイツ・ロマン主義をめぐって交叉するさまざまな知的・芸術的運動を描き出す。

思想

寄川 条路 著

教養としての思想文化

3257-6 四六判・186頁・2,000円(本体価格)

佐藤 光 著

日本リベラルの栄光と蹉跌

—戦間期の軌跡—

3239-2 A5判・250頁・3,000円(本体価格)

京都市人間学塾 編

自己の正体を求めて

—人間であることⅡ—

3126-5 四六判・222頁・2,200円(本体価格)

山内 廣隆 著

過剰な理想

—国民を戦争に駆り立てるもの—

3227-9 四六判・240頁・2,400円(本体価格)

坪井秀人・白石恵理・小田龍哉 編著

日本研究をひらく

3213-2 A5判・196頁・3,400円(本体価格)

浜渦辰二 著

ケアの臨床哲学への道

—生老病死とともに生きる—

3134-0 A5判・568頁・6,500円(本体価格)

山下秀智 著

「いのち」を生きる

—キェルケゴールと親鸞に学ぶ—

3155-5 四六判・174頁・1,800円(本体価格)

渡邊裕一 著

ジョン・ロックの権利論

—生存権とその射程—

3224-8 A5判・216頁

近刊

森 哲彦 著

善く生きることとカント

3233-0 A5判・306頁・5,500円(本体価格)

高度な技術や専門性が求められる現代社会で、私たちはどのように自分の生き方を決めていけばよいのだろうか。教養は、偏らず、調和のとれた人間を形成し、全体を俯瞰し、客観的に考える力を与えてくれる。高校生・大学生・社会人向け、現代社会を生き抜くための「人生のトリセツ」。

戦前の自由主義者たちは軍国主義とどのように闘ったのか、戦間期の言動の軌跡と時代背景の分析を通して、彼らの栄光と蹉跌の理由を探る。

白黒はっきりできること、世の中はそんなことばかりではない。自分は何者なのか、どう生きればよいのか。この問いの答えも曖昧なのかもしれない。しかし、そうであってもあきらめずに問い続けたい。京都市人間学塾のメンバーがこの問を模索した足跡である。

マッカーサーの「非武装」の夢、西晋一郎の「理想国家」の夢、森瀧市郎の「核絶対否定」の夢——日本思想史に「過剰な理想」という新視点を提起。

国際日本文化研究センター「国際日本研究」コンソーシアム記録集『なぜ国際日本研究なのか』に続く第2弾。「国際日本研究」「国際日本学」を掲げる国内の研究所、大学院課程などの連携をはかり、日本の歴史・社会・文化を相対化する方法を考えるための1冊。

「哲学」はじぶんが立つ場所をぬきに語らない。「臨床哲学」はさらに、じぶんが遇った人びととの関係をぬきに語らない。そのかぎりでもだれもがそれぞれの「臨床哲学」から始める。鷲田清一(哲学者)

如や神と関係しつつ人生を送ることが、宗教的な生である。しかもそのことが、「いのち」の方から可能となるというのが、仏教、キリスト教の教えである。また、「いのち」の目覚めは、「いのち」に背いて生きている自己を発見することでもある。

ロック政治哲学のうち、特に権利論を主題として考察。所有権を中心とした従来のロック権利論解釈とは一線を画して、自然権としての生存権に光を当てる。そこには、生命を尊重し、人間の自然的欲求を承認するという、ロック政治哲学の原理的主張が見出される。

行動経済学では、経済の選択こそが人を幸福にすると考えられる。しかし人は、財産や金銭はだけでは真に幸福とはなりえない。真の幸福とは、「善く生きる」というベクトルを持つことなのである。本書は哲学の歴史的研究を切り口に、「善く生きること」とカント哲学を探求する。

上野 太祐 著

花 伝 う 花

— 世阿弥伝書の思想 —

2800-5 A5判・148頁・2,600円(本体価格)

小山 和伸 著

無知と文明のパラドクス

— 複雑系人間社会へのハイエク・アプローチ —

2808-1 A5判・198頁・2,000円(本体価格)

カタリーナ・ライス、ハンス・ヨーゼフ・フェアメア 著
藤澤文字 監訳 伊原紀子・田辺希久子 訳**スコポス理論とテキストタイプ別翻訳理論**

— 一般翻訳理論の基礎 —

3110-4 A5判・244頁・5,500円(本体価格)

武田 珂代子 編著

翻訳通訳研究の新地平— 映画、ゲーム、テクノロジー、戦争、教育と翻訳通訳 —
立教大学異文化コミュニケーション学部研究叢書 I

2813-5 四六判・240頁・2,200円(本体価格)

村上 寛 著

鏡 ・ 意 志 ・ 魂

— ポレトと呼ばれるマルグリットとその思想 —

3111-1 A5判・186頁・4,000円(本体価格)

山本 通 著

禁 欲 と 改 善

— 近代資本主義形成の精神的支柱 —

2814-2 菊判・346頁・4,000円(本体価格)

徐 京植 著

抵抗する知性のための19講

— 私を支えた古典 —

2749-7 A5判・176頁・1,900円(本体価格)

シルヴィ・クルティエヌ＝ドゥナミ 著
庭田茂吉・沼田千恵・富岡基子・西田充穂・服部敬弘 訳**暗い時代の三人の女性**

2112-9 A5判・296頁・3,300円(本体価格)

菅原 潤 著

「近代の超克」再考

2176-1 A5判・220頁・2,600円(本体価格)

田中雅一・船山 徹 編

**コンタクト・ゾーンの
人文学 第I巻**

— Problematique／問題系 —

2209-6 A5判・300頁・3,500円(本体価格)

第68回日本倫理学会 和辻賞受賞

禅・儒・歌の思想が入り混じる中世に身を置いた世阿弥は、その教養を元に伝書を遺した。「初心を忘るべからず」「無心の感」「花」などの彼の言葉の奥底には、時代の中で抱えた伝えをめぐる葛藤が刻まれていた——伝書の精読から世阿弥の語りの深層に迫る。

文明は人間の知性が創ったとする主知主義を排し、むしろ人間の無知なる無数の試行錯誤と偶然で稀な成功例の模倣が多様な文明を創ってきたプロセスを明らかにする。人間に全知的知性があれば最適な様式が選択され、文明の多様性は遙かに小さかったに違いない。

あらゆる翻訳行為に当てはまる理論的枠組みとされるスコポス理論(第I部)と、個別理論への応用として展開するテキストタイプ別翻訳理論(第II部)。グローバル化が進展する今、理論提唱から40年の歳月を経た日本の文脈でその時空を越えた有効性を問う。

「境界線を動かす」。2015年度立教大学異文化コミュニケーション学部が開催した連続講演会「通訳翻訳と異文化コミュニケーション」内容を収録。分野を超え多角的な視野による挑戦的な翻訳通訳研究。

本書は、1310年にパリで異端思想のゆえに生きたまま焼かれたマルグリット・ポレトによる唯一の著作である『単純な魂の鏡』における意志の滅却を契機とした「魂の完成」について分析、解釈することによって、その人間理解を明らかにするものである。

本書は、近代資本主義についてのヴェーバー「倫理」テーゼを歴史学の視座から批判したうえで、イギリス資本主義形成期の企業家の精神世界を渉猟する。そこに現れるのは、「禁欲的職業倫理」「革新的企業家精神」そして「産業的啓蒙」という3本の精神的支柱である。

現代社会にはびこる「反知性主義」という怪物に抗うために、著者が人生の過程で出会った書物について、自身を切り開き、さらけ出して語った魂の19講。本書を通じて、自分なりの「切り口」で自分にとっての「古典」を探し、自由な対話を続けることが、怪物への真の抵抗となりうる。

三人の女性哲学者、エディット・シュタイン、ハンナ・アーレント、そしてシモーヌ・ヴェイユは、あの「暗い時代」(1933-1943年)をどのように生きたか。学ぶこと、信じること、生きること、愛と苦難と希望を生きた20世紀の歴史的な貴重な証言。

「近代の超克」という言葉の意味、そして「近代の超克」とほぼ同時期に催された企画である「世界史的立場と日本」との対比を通じて、「近代の超克」の射程とそのポテンシャルを問う。

メアリー・L・ブラットによって提唱された、グローバル世界を読み解くキーワード、コンタクト・ゾーン。その概念にもとづく日本初の本格的論集全4巻の第1弾! わたしたちは人文学が対象としてきたさまざまな事柄が、ある社会や文化に自生したものとみなすのではなく、さまざまな他者との交渉の結果であるという視点をもつことが必要である。

田中雅一・稲葉 稔 編

CONTACT・ゾーンの 人文学 第Ⅱ巻

— Material Culture / 物質文化 —
2211-9 A5判・280頁・3,100円 (本体価格)

私が死んで、墓場まで行く時、この絨毯をみんなが見るわ。折りに来るたびに、ああ、あれはC婆さんの絨毯だねって(本文より)。モノから考えるグローバルな世界、新しい人文学の可能性をモノから考える！ 無国籍の商品世界との戯れこそが現在を特徴づけているかに見えるが、モノによる不意の一撃をさけることはできない。

田中雅一・小池郁子 編

CONTACT・ゾーンの 人文学 第Ⅲ巻

— Religious Practices / 宗教実践 —
2210-2 A5判・330頁・3,700円 (本体価格)

[宗教]
CONTACT・ゾーンとしてのオリシャ崇拜運動—アフリカ系アメリカ人の社会運動とキューバのアフリカ系宗教との境界をめぐって、ヴェーダの「発見」—インドにおける古代と現代の接触、ラスタファリアニズムの商品価値、他。

田中雅一・奥山直司 編

CONTACT・ゾーンの 人文学 第Ⅳ巻

— Postcolonial / ポストコロニアル —
2212-6 A5判・326頁・4,100円 (本体価格)

[植民地主義・移住・グローバル化]
明治印度留学生、トランスカルチュレーションとナショナリズム、フランス共和国とFGC裁判、『困難な私たち』への逆行—接触領域における暴力の記憶の民族誌的記述、他。

ジャン・ボベロ、門脇 健 編著

揺れ動く死と生

— 宗教と合理性のはざまで —

2042-9 A5判・264頁・2,800円 (本体価格)

ライシテ→政教分離。ライシテをめぐって、フランスでは国を二分するような激しい対立の渦中にある。宗教と政治、死と生、この古く・重い二大テーマに対して、日仏文化の比較を通して人間の生き方をさぐる。

林 信弘 著

人間、その光と闇

— 人生問題への哲学的メッセージ —

2767-1 A5判・216頁・2,600円 (本体価格)

人間は宇宙のほんの小さな微粒子にすぎない。それでもこの矛盾に満ちた人生をどう生きたいのかと問わずにはおられないのが人間である。本書は人間の光と闇を深く見据えつつ、人生問題に思い悩む人に向けて発せられた著者自身の哲学的メッセージである。

林 信弘 著

いかに生きるか

2398-7 四六判・258頁・2,500円 (本体価格)

私が本当に私であると言っている自己同一性の根拠、私を私たらしめている根拠とはそもそも何なのかという根源的問いに応答してきた著者がこれまでの研究履歴を振り返りながら、折々に関心の向いた事共をエッセイ風にまとめた。

林 信弘 監修・京都人間学塾 編

人間であること

— 9人9色の物語 —

2617-9 四六判・256頁・2,600円 (本体価格)

看護師・ソーシャルワーカー・臨床心理士・会社経営者・教師である著者たちが、それぞれのフィールドの中で紡ぎだしたナマの「ことば」の表出！ そこには、どうしようもない矛盾の中で葛藤し、如何に生きるべきかを問い、苦悩する自身の人間の生き様が描き出されている。

佐藤泰子 著

苦しみと緩和の臨床人間学

— 聴くこと、語ることの本当の意味 —

2253-9 四六判・282頁・2,700円 (本体価格)

悲しみとは何か、苦しみはどこから来るのか、絶望的悲嘆の前に人は何をなすことができるのか。「苦しみ」の構造を把握したうえで、そこから緩和されていく道筋を、臨床例に基づいて提示。多くの終末期患者を看取ってきた著者だからこそ提示できた渾身の書！

カール・ベッカー 編著

山本佳世子 訳

愛する者の死とどう向き合うか

— 悲嘆の癒し —

京都大学 ころの未来研究センター ころの未来叢書
2021-4 四六判・220頁・1,900円 (本体価格)

大切な人を亡くした遺族は、どのように悲嘆を癒したらいいのか。遺族にとって、大事な役割を果たすのが周囲の人間。話を聞き、一緒に墓参りをするなどで痛みをわかち合い、死者と生者のきずなを再生することができる。それが慰め、安らぎをもたらす。

カール・ベッカー 編著

駒田安紀 監訳

愛する者は死なない

— 東洋の知恵に学ぶ癒し —

京都大学 ころの未来研究センター ころの未来叢書 2
2535-6 四六判・170頁・1,500円 (本体価格)

死別の悲しみは消えることはない。しかしそれをあるがままに受け入れ、悲しみと共に生きる。それこそが目覚めた人間の姿ではないか。「死の日常性」を忘れてしまった我々が、悲しみと向き合い「死」を受容する為の方法を考える。

カール・ベッカー／奥野元子 編著

愛する者をストレスから守る

—瞑想の力—

京都大学こころの未来研究センターこころの未来叢書 3

2543-1 四六判・216頁・2,100円(本体価格)

鎌田東二・近藤高弘 著

火 ・ 水 (KAMI)

—新しい死生学への挑戦—

日本図書館協会選定図書

2192-1 A5判・208頁・2,100円(本体価格)

伊東久智 著

「院外青年」運動の研究

3188-3 A5判・382頁・5,500円(本体価格)

川合大輔 著

土田杏村の思想と人文科学

—1910年代日本思想史研究—

2713-8 A5判・336頁・5,600円(本体価格)

沖田行司 編著

新編

同志社の思想家たち 上巻
下巻上巻 3055-8 四六判・2,200円(本体価格)
下巻 3133-3 四六判・2,700円(本体価格)

橋本高勝 編

中国思想の流れ(上)

—兩漢・六朝—

0851-5 四六判・316頁・2,816円(本体価格)

橋本高勝 編

中国思想の流れ(中)

—隋唐・宋元—

1122-2 四六判・258頁・2,300円(本体価格)

橋本高勝 編

中国思想の流れ(下)

—明清・近現代—

1505-8 四六判・326頁・2,900円(本体価格)

フランク・E. マニユエル／フリッツ・P. マニユエル 著
門間 都喜郎 訳**西欧世界におけるユートピア思想**

2835-7 A5判・1,098頁・16,000円(本体価格)

寄川 条路 著

構築 と 解体

—ドイツ観念論の研究—

1415-9 A5判・264頁・3,000円(本体価格)

子どもから大人まで、ストレスは現代社会を生きる上で避けて通れない問題である。瞑想は私たちのストレス軽減のための、こころのエクササイズといえる。日本人の智慧である瞑想に、こころと身体のための健康のための秘策を探る。

世には「告げる器」があつていい(松岡正剛評)。酒鬼薔薇事件の衝撃。自ら骨壺を焼き、自らの母を弔う。「時代閉塞の現状」を抜けて、「天護摩壇野焼き講」の活動を通して、死と生を新たに考察する。対談、実践記録付き。

日露戦後～第一次大戦期の帝国議会周辺に簇生した「青年党」そこに集った若者——「院外青年」——たちは何を指し、いかなる運動を展開したのか。若者独自の政治とのかかわり方という観点から、「青年」研究と「大正デモクラシー」研究を架橋する。

「人間」や「思想家」、あるいは知識人といった漠然とした概念からは、そろそろ別れを告げるべきである。文明批評家・土田杏村の初期の論説の他、多岐にわたる主題をとおして、人文科学の黎明を考究した画期的な日本思想史研究

同志社ゆかりの思想家21人(上巻10人・下巻11人)を取り上げ、私学同志社が輩出した思想家・社会事業家の思想と生涯を初学者にもわかりよい叙述で綴る。今日の「大学の危機」にあつて同志社のみならず高等教育の在り方と日本のこれからを考える一助として、熱き先達に学ぶ。

秦以前にくらべ簡略に記述されがちであつた漢以降2000年に及ぶ中国思想の歴史を、兩漢・六朝あわせて20数名の人物に光をあてつつ、その思想的特徴や時代的役割などを鳥瞰。儒教のみならず老荘・道教・仏教などを含む総体的中国思想史の第一弾。

儒仏道三教が鼎立した隋唐時代から、近世の幕明けである宋元までを33人の思想家を取り上げ論述。老仏排斥論を唱える儒者韓愈、復性説の李翱。仏教者では、吉蔵、善導、義玄。道教の成玄英、『雲笈七籤』の張君房、詩人の李白、杜甫、白居易などを収めた。

明代、清代、そして近現代、国際社会のダイナミズムに取り込まれつつも、独自の思想を展開してきた中国。新しい儒教の流れ(朱子学・陽明学)のみならず、清朝期末のウエスタン・インパクト、洋務運動からアナーキズムなどの思想状況の変遷を概観。中国の思想を紐解くシリーズ最終巻。

人をひきつけてやまないユートピアについて、およそこれまでにない夥しい数の西欧の文献を広く蒐集し深い洞察力で綴られた本書は、古代から現代まで、神話・宗教から政治・思想は言うに及ばず、性愛から現代科学技術の遺伝子工学や宇宙技術までを取り上げ、人類が幸福を求めて夢を描き、その実現に挑戦し、あるいはそのために悲運に殉じた偉大な群像とともにユートピアの多面体を描きだす。

学問の体系は、いかに構築され、そして解体したか。ドイツ観念論を中心として、体系が成立する歴史を再構するとともに、ヘーゲル・ヘルダーリン・シェリング・ゲーテ・ハイデガーを手がかりに、体系が完成して、存在の全体が無の根底へと解体する過程を描く。

寄川 条路 編著

インター・カルチャー

—異文化の哲学—

2019-1 A5判・204頁・2,600円(本体価格)

池田 善昭 著

心身関係論

—近世における変遷と現代における省察—

0989-9 四六判・188頁・2,000円(本体価格)

長綱 啓典 著

ライプニッツにおける 弁神論的思惟の根本動機

2231-7 A5判・198頁・2,500円(本体価格)

森岡 邦泰 著

増補版

深層のフランス啓蒙思想

—ケネー・デイドロ・ドルバック
ラ・メトリ・コンドルセ—

1444-2 A5判・340頁・3,500円(本体価格)

ハインリッヒ・マイアー 著

石崎嘉彦・飯島昇蔵・太田義器 監訳

レオ・シュトラウスと神学—政治問題

2166-2 四六判・202頁・2,000円(本体価格)

ドミニク・ベーカー・スミス 著
門間 都喜郎 訳

モアのユートピア

2503-5 A5判・274頁・3,800円(本体価格)

市川 功 著

ピアジェ思想入門

—発生的知の開拓—

1338-1 A5判・170頁・2,200円(本体価格)

加國 尚志 著

沈黙の詩法

—メルロ＝ポンティと表現の哲学—

2801-2 A5判・250頁・3,400円(本体価格)

加國 尚志 著

自然の現象学

—メルロ＝ポンティと自然の哲学—

1325-X A5判・266頁・3,200円(本体価格)

堀 栄造 著

フッサールの後期還元思想

—『危機書』への集束—

2913-2 A5判・262頁・3,800円(本体価格)

複数の文化が平和的に共存する社会を創造するために、私たちはいま何をなすべきなのか。異文化理解の原理的な問題から、現代社会が直面する具体的な問題の解決へ向けて、思想・芸術・宗教が鋭い切り口で迫っていく、グローバル化時代の学際シンポジウム。

近世の哲学者たちは、合理的思考では決して解決し得ない心身関係の問題に頭を悩ませた。心身結合の根拠への問いは、理性認識の限界を超えて新たな形而上学を必要としたのである。本書は、ライプニッツの「予定調和説」に依拠し、この問いに答えようとする。

正義の基礎は愛である。ドイツ・バロック期の万能人、哲学をはじめ諸分野に通じ、理論・実践両面に活躍したライプニッツの再解釈、『弁神論』出版300年記念出版！

フランス啓蒙思想を、ケネー、デイドロ、ラ・メトリ、コンドルセらの思想家を中心に、機械論的思考様式の展開という観点から解明。現代の支配的学問理念の反省と相対化を射程に入れ、さらにあるべき学問理念の哲学的考察も含む。

ドイツ語版レオ・シュトラウス全集の編者ハインリッヒ・マイアーによる、会心のシュトラウス論集。ニーチェが予見しハイデガーが超ええなかったポストモダンのニヒリズムに立ち向かい、われわれを21世紀の政治哲学議論の最前線へと誘う最新作。

これまで幾重にも多様に解釈されてきた『ユートピア』に対して、著者は、その形成過程であるルネサンス人文主義の文学運動に依拠して解釈を試み、『ユートピア』は文学書として読まれるべきであると主張する。これまでの『ユートピア』研究を超えた着眼による画期的研究。

教育学・発達心理学で世界的に著名なピアジェは、根本では「発生的認識論」の構築を生涯通して試みていた。本書はサイバネティックス、情報理論、進化論などに多岐に関わるその認識論の捉え方の基本にある思想を、初学者にもわかる様に出来るだけ平易に語る。

後期メルロ＝ポンティの哲学における表現の問題を中心として、2003年以降の10年間に発表した論文を収録する。『眼と精神』の絵画論における芸術論は、晩年の講義では文学や音楽とともに論じられ、『見えるものと見えないもの』での「見えないもの」や「理念」についての論述と関係している。これらの点を基軸に後期メルロ＝ポンティの哲学をここに再考した。

後期メルロ＝ポンティの講義録におけるデカルト、カント、シェリング、フッサール、ホワイトヘッド、ユクスケルへの言及をもとに、物理的なもの、生命、人間の諸次元からなる「野生の自然」の存在論の可能性を展望する現象学研究。

『イデーナ I』(1913年)から『危機書』(1935・36年執筆)へ至るフッサールの後期還元思想が、現象学的心理学による實在論的修正を被って中期の理念重視の「観念論的現象学」から後期の現実重視の「実存の現象学」へ変貌する、その過程の透徹した解明の書。

ダン・ザハヴィ 著
工藤和男・中村拓也 訳

フッサールの現象学

1501-5 四六判・270頁・2,850円(本体価格)

小川 侃 著

近年、フッサール現象学への関心が高まり、世界的なルネサンスが興っている。フッサールは、ますます主要な思想家として認知され、彼の時間性・主観性・相互主観性などの研究は、多様な異なる分野に対して有意味である。本邦初訳。

風の現象学と雰囲気

1209-1 A5判・270頁・3,200円(本体価格)

小川 侃 著

国際的な現象学者である小川侃が、渾身の力を奮って著した雰囲気、ギリシャ哲学(ヘラクレスとプラトン)における構造論的思惟、地球環境問題についての政治的現象学、構造論的現象学の視点からの文化比較論に関わる諸論文を集めた刮目すべき論文集。

環境と身の現象学

—環境哲学入門—

1554-6 四六判・256頁・2,500円(本体価格)

佐藤義之 著

身と氣と革命、効率主義、環境バルチザン、フェミニズムなど現代社会の大問題を、現象学者小川侃が思想史の森から解き明かす。

物語とレヴィナスの「顔」

—「顔」からの倫理に向けて—

1548-1 四六判・240頁・2,500円(本体価格)

宮原 勇 著

レヴィナスの中心思想である「顔」の批判的分析により、顔の事象的解釈の倫理的必要性を確認した上で、その解釈に学語的な論理が有効だということを、物語倫理学やケア倫理学などを手がかりに示す。こうして「顔」による倫理再構築を、彼とは別の道に模索する。

ディアロゴスの現象学

—対話的言語行為の構造と原理—

0986-4 A5判・228頁・2,500円(本体価格)

ハンス-ヨハン・グロック 編
吉田謙二・新 茂之・溝口隆一 訳

現代ドイツの言語コミュニケーション哲学(ハーバーマス、アーベル)と対決し、フッサール現象学の立場から相互人格的な関わり合いとしての言語コミュニケーションの構造とその倫理的原理を解明。最新の言語理論や現代哲学の論争も意欲的にフォローした労作。

分析哲学の生成

1437-4 四六判・206頁・2,000円(本体価格)

リチャード・ローティ 著 小澤照彦 訳

本書は、分析哲学を言語の哲学とする考え方に対する挑戦である。ここに収められている五つの論文は、通時的・共時的視点から分析哲学の要諦を析出し、分析哲学誕生と言語論的転回の峻別を強調しながら、哲学における分析的動向を鮮明に描き出している。

新装版

アメリカ未完のプロジェクト

—20世紀アメリカにおける左翼思想—

2910-1 四六判・236頁・2,900円(本体価格)

J.ハーバーマス 著
佐藤嘉一・井上純一・赤井正二・
出口剛司・斎藤真緒 訳

哲学者リチャード・ローティが、マルクス主義の立場ではなく、新プラグマティズムの立場からアメリカ左翼の物語を再構成する試み。保守化、右傾化していく現代社会にあって、左翼の新しい物語こそアメリカ人の誇りを回復させ、未来を展望させることができる。

テクストとコンテクスト

1751-4 A5判・232頁・2,800円(本体価格)

永井 彰・日暮雅夫 編著

『コミュニケーション行為の理論』から『事実性と妥当性』への思想の深化と並行して行われた、ドイツの思想的モデルネ(ジンメル、ハイデッカーたち)との格闘、そして訣別の軌跡。ハーバーマスによるドイツ社会学史の整理と戦後精神の再構築。

批判的社会理論の現在

1462-0 A5判・234頁・2,600円(本体価格)

ジョナサン・ウルフ 著
坂本知宏 訳

1990年代以降のハーバーマスの仕事や、ホネットの承認論を検討し、批判的社会理論の現状を解明する。コミュニケーション行為、承認関係といった基礎概念を吟味し、法・権利や国家の理論を内在的に検討。現代的諸問題への批判的社会理論の射程を吟味。ホネットへのインタビューを収録。

政治哲学入門

1184-2 A5判・298頁・3,400円(本体価格)

政治哲学の本当の面白さがわかる見事な入門書。国家・自由・財産・正義・フェミニズムなど多彩なテーマについて、プラトン・ホッブズ・ロック・ルソー・ミル・ロールズ他の主張が論じられる。政治の原理を考えたい人は勿論、現代社会に生きる万人に必携の書。

ルートヴィヒ・ホール 著
吉用宣二 訳

覚書 性急ではない和解のために

2676-6 A5判・556頁・8,800円(本体価格)

篠原三郎 著

“大学教授” ウェーバーと “ホームレス” マルクス

—Tさんへ「現代社会論ノート」—
2663-6 A5判・134頁・1,200円(本体価格)

篠原有子 著

映画字幕の翻訳学

—日本映画と英語字幕—

3102-9 A5判・248頁・5,700円(本体価格)

岡田紀子 著

まど・みちお詩論

—ハイデガー哲学の視座から—

2918-7 A5判・258頁・3,600円(本体価格)

岡田紀子 著

丸山眞男とハイデガー

—近代・近代化を焦点に—

2541-7 A5判・392頁・5,300円(本体価格)

門屋秀一 著

美術で綴る西洋思想

—レオナルド・ダ・ヴィンチからマルクス・ヴェーバーまで—

3082-4 A5判・174頁・2,000円(本体価格)

門屋秀一 著

美術で綴るキリスト教と仏教

—有の西欧と無の日本—

2730-5 四六判・232頁・2,400円(本体価格)

門屋秀一 著

美術で綴るギリシアの宗教と思想

—その永遠不滅志向と日本の中央希薄構造—

2785-5 四六判・248頁・2,600円(本体価格)

岡林 洋 編著

カルチャー・ミックス

—文化交換の美学序説—

同志社大学人文科学研究所研究叢書 XLVII

2529-5 A5判・232頁・2,900円(本体価格)

岡林 洋・清水みさを 編著

カルチャー・ミックスII

—「文化交換」の美学応用編—

3028-2 A5判・286頁・3,200円(本体価格)

ルートヴィヒ・ホールにとって生の意味は労働である、そして労働とは「考えること」である。その考える経過をホールは、思考の強度に匹敵する形で言語的に表現する。そうして『覚書』は、1930年代の一人の繊細で強靱な精神の証言となった。

本書は、現代社会、そして近代科学(者)の限界を「共生倫理」の視点から描き出す。今日の知的格闘のなかに「共生の科学」の胎動を探索しながら、ウェーバーと対照的なマルクスの生き方に共生の思想を発見するとともに、資本主義にその存在理由を解く。

映画字幕について論じた本邦初の学術書。日本映画に付けられる英語字幕の特徴を字幕の制作プロセスから探る。本書は字幕のルール、翻訳者と参与者の関係性、視聴者の多様性から、ボランティア翻訳やファンサブまで、字幕翻訳の様々な側面を明らかにする。

ハイデガー研究者による まど・みちおの詩と絵画の解明というユニークな試み。息苦しい現代の現実世界で癒しを与えるとともに、将来に向けて詩人的にこの大地に住むことを探求する共感と批判の書。ハイデガーの試論・芸術論としても必読。

ハイデガー研究者である著者が、ハイデガー哲学、とくにその人間論、近代性やとりわけ近代科学・技術論・芸術論を土台に、丸山の日本の社会的現実についての批判的考察を通じて、日本における共同存在の解明を目指す。

西洋思想をキリスト教とともに絵画で綴る。レオナルド・ダ・ヴィンチ、コペルニクス、パスカル、ジョン・ロック、スピノザ、ライプニッツ、ヴォルテール、ヒューム、ルソー、コンディヤック、フィヒテ、ショーペンハウアー、ニーチェ、フロイト、ヴェーバー。

『絵画で綴る哲学と倫理学』に続く第二作。日本文化を、西欧の有と日本の無という対立軸から考える。キリスト教と仏教を、信仰からではなく美術とともに読み、対比を際立たせる。故ジョブズの愛読した哲学者ヘリゲルの日本論、西田幾多郎の絶対無も扱う。

古代ギリシアの神話宗教と哲学を美術とともに扱い、日本文化と比較する。永遠不滅の神々を憧憬する神話宗教、永遠の美を形成しようとする美術と、永遠不滅の原理を探求する哲学を共通項とするギリシアに、変化する自然に忍従する中央希薄型の日本を対置する。

「ものカルチャー」が日米、日欧の間で、あるいはグローバルなアジアの中で国際交流を引き起こす起爆剤の役割を担う。「文化交換」の方法を用いて文化・芸術問題の打開策を探った。[ひととはだれもが芸術家]をテーゼとしてここに美学の力を問うた画期的労作。

複数の文化が互いに引き付けあい、また反発しあう「文化のダイナミクス(動態力学)」の仕組みを、「文化交換」という美学的分析と解釈方法によって読み解く。これまで注目されてこなかった文化やアートの中に創造的文脈を発見することを本書の目的とする。

寺前典子 著

リズム (身体感覚) からの逃走

—音楽の現象学的・歴史社会学的研究—

2943-9 A5判・210頁・3,700円 (本体価格)

シャンタル・ジャケ 著
岩崎陽子 監訳・北村未央 訳**匂いの哲学**

—香りたつ美と芸術の世界—

2642-1 菊判・296頁・3,200円 (本体価格)

西谷 敬 著

文化と公共性

—和辻倫理学の再構築—

2458-8 A5判・254頁・3,000円 (本体価格)

藤本 忠 著

時間の思想史

—双対性としてのフィジカ・メタフィジカ—

2848-7 A5判・230頁・3,500円 (本体価格)

三ツ木道夫 著

翻訳の思想史

—近現代ドイツの翻訳論研究—

2208-9 A5判・244頁・3,700円 (本体価格)

チャールズ・C・ギリスピー 著
島尾永康 訳**創世記と地質学**

—19世紀の科学思想とその神学的背景—

2693-3 A5判・290頁・4,700円 (本体価格)

竹内真澄 著

**水田洋 社会思想史と
社会科学のあいだ**

—近代個人主義を未来へ貫く—

2634-6 A5判・94頁・1,000円 (本体価格)

松田利彦・磯前順一・榎本 渉・前川志織・吉江弘和 編著

なぜ国際日本研究なのか

—「国際日本研究」コンソーシアムシンポジウム記録集—

3065-7 A5判・162頁・2,800円 (本体価格)

須藤義人 著

久高オデッセイ

—遙かなる記録の旅—

2273-7 A5判・232頁・2,800円 (本体価格)

大浦康介 著

誘惑論・実践篇

2286-7 四六判・230頁・2,300円 (本体価格)

本書は、近代的な音楽コミュニケーションの成立過程を現象学的・歴史社会学的に論じている。音楽コミュニケーションは、時空間を共にする他者間に「同時性」のうちに成立するのみならず、合理化により、時空間を異にする他者間にも「疑似同時的」に成立する。

長きにわたる沈黙を破り、ついに匂いの哲学・美学に正面から挑む。香水やワインを生み出した「匂いの国」フランスから、『源氏物語』の時代から薫り文化をもつ「香りの国」日本へと、気鋭のフランス・ソルボンヌ大学哲学教授が大胆に贈る「鼻の哲学」。

国家倫理学としての和辻倫理学の様々な問題点を指摘し、それが倫理学として可能かどうかを検証する。その上で本書は和辻倫理学がむしろ文化倫理学として意味があることを説明する。

時間の本性をめぐる謎は非常に長い期間にわたって哲学の重要な主題であり続けてきた。本書はこの主題を特に、近・現代における自然学、物理学、存在論の枠組みの中で検討しようとするものである。時間をめぐる多面的なテーマについての極めて刺激的な研究書。

「ゲーテ時代」からベンヤミンに至るまでの翻訳論の歴史を、方法選択の歴史として描き、それぞれの歴史意識を手がかりにこの選択の理由を問う。翻訳の「忠実」原理が復活もしくは転調されるのなら、その理由をそれぞれの翻訳思想の内部から明らかにする。

ほとんどすべての科学者が同時に聖職者でもあった19世紀。地質学や進化論の登場は、彼らの信仰心を大きく揺さぶり、大論争を巻き起こした。「宗教対科学」ではなく、「科学の中の宗教」の問題として19世紀科学史を描き出した名著の本邦初訳。

アダム・スミス研究の第一人者であると同時に、社会思想史研究でも著名な水田洋が、思想の変遷、近代個人主義を通底する思想、歴史的状况に翻弄されながらも揺るがない社会思想などを自ら語り、われわれが直面している社会問題にまで言及した一冊。

「国際日本研究」コンソーシアムによる外部に開かれた活動としての最初の試みが2017年5月日文研でシンポジウムとして開催された。そのシンポジウムを編集し「国際日本研究」を自明の前提とせず、その存立から考え直すために書き下ろした気鋭の9章！

梅原猛氏推薦—この書は、比嘉康雄氏の遺志を受け継ぎ、神々に憑かれた大重潤一郎氏が神の島の映画を撮った感動的な記録である。大重監督の愛弟子が継った2002年～2010年にわたる制作ドキュメント。

いかに「落す」か—謎のダンス教師、誘惑の極意を語る。身体技法と口説きのテクニク、ドン・ジュアン、カサノヴァ、キルゲールからデュラス、漱石まで。「誘惑者が卓抜な聞き手であるのは、彼らが相手の向かいそうなポイントに「聞所」を設けることができるからです」幻の対話、ついに公開！

和田 渡 著

18歳の読書論

—図書館長からのメッセージ—

2407-6 四六判・152頁・1,700円(本体価格)

柔軟な思考が刻む文体のリズムに酔う。携帯電話もいけれど…。読書は人を内面から美しく、魅力的にする。読書は、おそらく心をやわらかく、しなやかにするトレーニングなのだ。異世界への扉を開く新しい読書歳時記。

和田 渡 著

続・18歳の読書論

—図書館長からのメッセージ—

2558-5 四六判・186頁・2,100円(本体価格)

読書の技術とは本の中に人生を見、本を通してそれをよりよく理解する技術である(アンドレ・モーロフ)。すぐれた書物とは、読者が最後のページを閉じたとき、今までとちがう自分になっていると感ずることができる本である。好評前書に続く読書歳時記第2弾。

和田 渡 著

新・18歳の読書論

—図書館長からのメッセージ—

2687-2 四六判・230頁・2,700円(本体価格)

樹木が空高く伸びるためには、地中深く根を張らなければならない。人間も、魅力的な存在として成長するためには、若い時代にこそ、成長につながる「読む・考える・書く」という人間的な実力をつけることが大切だ。本書は、長年大学の図書館長を務めた著者が、若者に活字とつきあう経験の大切さを語り、本を読むことの喜びを生き生きと伝える貴重な一冊である。

和田 渡 著

19歳の読書論

—図書館長からのメッセージ—

2967-5 四六判・270頁・2,800円(本体価格)

読書は、成長への原動力である。すぐれた本とつき合うことによって、ひとは平板で窮屈な日常から、奥行きと深さのある世界へと移行することができる。読書は思索への招待でもある。

千代島 雅 著

双子のパラドックスの論理

1361-6 四六判・214頁・2,300円(本体価格)

アインシュタインの相対性理論における「時計の遅れ」は互いに相手が若いと主張し合う奇妙なパラドックスをもたらす。従来の科学者の理論の誤りを哲学の立場から徹底的に分析し、加速度運動の非相対性を厳密な論理的考察によって明示することで解決する。

千代島 雅 著

温暖化のウソと真実

1925-6 四六判・198頁・2,100円(本体価格)

今や地球温暖化説は世界の常識になっている。しかし、よく考えると、謎や疑問点、誇張、虚偽がたくさんある。「異常だ、大変だ」と大げさに騒いで不安をおおるのは、かえって人類を不幸にする。本書は冷静で厳密な考察によって、ウソや誇張を鋭く見抜く。

千代島 雅 著

自己理解と自己超克

1484-1 四六判・230頁・2,400円(本体価格)

自己をいかに理解し、いかに高めるか。混迷する冬の時代に要求されるのは単なる「自分探し」や「自我そのもの」の探究ではなく、絶えざる「自己超克」と「自己創造」、不毛な「明日なき逃亡」を拒否し、能動的・創造的ニヒリズムに基づく最強の生を目指す。

千代島 雅 著

知性を磨くための論理37問

2579-0 四六判・202頁・2,200円(本体価格)

読者が一緒に考えながら読む楽しさを味わえるように、具体的問題の一つずつ例文として提示、それはどこが間違っているか、どこがおかしいのかを論理的に解明、自分の思考力や理解力に自信が無い人にも容易にわかるように哲学者がわかりやすく説明、解説した。

ナイジェル・ウォーバートン 著
坂本知宏 訳**思考の道具箱**

—クリティカル・シンキング入門—

1746-8 四六判・216頁・2,100円(本体価格)

議論したり思考したりする誰にとっても有益な批判的思考(クリティカル・シンキング)の入門書。偽りの二分法や政治家の答えなど、印象的な項目名と明快な説明が魅力的。事例も身近でユーモアに溢れている。他所参照も行き届いており、明晰に考える力が身につくこと間違いなし。

村瀬 学 著

長新太の絵本の不思議な世界

—哲学する絵本—

2134-1 A5判・212頁・2,000円(本体価格)

「絵本の神さま」と形容される長新太の作品は、その不思議な作風から理解されることが難しく、従来から「ナンセンス絵本」として紹介されることが多かった。その誤解を解き、はじめて彼の作品を絵画論と絵本論のはざまにすえて、知られざる作風の魅力、その特異性に迫る。

総監修 梅原 猛

シリーズ 文明のゆくえ ——近代文明を問う

「今文明が問われている」という基本認識のもとに各界、各分野の研究者による近代文明の諸問題を問う著作シリーズを刊行する。有史以来人類が積み重ねてきた文明に反省を加える機会になれば幸いである。

池田善昭編著

近代主観主義の超克

2562-2 四六判・158頁・1,500円（本体価格）

渡辺 学著

オウムという現象

—現代社会と宗教—

2574-5 四六判・152頁・1,500円（本体価格）

清水 博著

近代文明からの転回

2462-5 四六判・170頁・1,600円（本体価格）

池田善昭著

原子力時代の終焉

—東日本大震災に臨んで—

2465-6 四六判・154頁・1,500円（本体価格）

大嶋泰治著

人類は今やその行動力で 自滅に向かっている

—地球の生態系よりの考察—

2471-7 四六判・106頁・1,000円（本体価格）

大塚正之著

場所の哲学

—近代法思想の限界を超えて—

2493-9 四六判・148頁・1,400円（本体価格）

山下和也著

システムという存在

2494-6 四六判・128頁・1,300円（本体価格）

言葉によらず顕になる「存在」—本書では「主観性の枠組み」から解放されて自由である事こそが「存在者の本来性」を回復する道とし「包みつつ包まれる」場所を根源的に問う。一章 池田善昭、二章 和田渡、三章 北村妃呂恵、四章 山下和也、五章片井修。

現代社会と宗教を考える上でオウム真理教事件は特異なものだったが同教団の閉鎖性の故に、その内実を知ることが困難であった。20年近くたった今だからこそわかってきたこともある。元幹部たちの証言を重視し、事件の概要を宗教社会学の立場から解明する。

〈いのち〉の天動説から地動説への転回。新しい文明は、一体どんなものになるだろうか。それは近代文明の思想である自我中心の思想を乗り越える新しい思想的内容をもっていなければならない。本書はその思想を日常の疑問の解決に活用できるように書かれた。

われわれは植物である—。東日本大震災以後アリアドネの導きはあるのだろうか。ありうるとすれば、今まさに要請される新たな文明が「落ち着き」の哲学で裏打ちされた思想に基礎づけられていなければならない。本書は見逃すべきではない徴を描きだす。

微生物が地球を救う！ 科学技術が高度化した現在、先端技術の生活現場への導入に際しては、一般社会における人々の気持ちを考え、適切に対応することが必要となる。地球生物と生態系の基本、遺伝子操作技術などの新しい育種法について言及し世に警鐘を鳴らす。

近代法思想の本質を明らかにすることにより、その限界を超えてその先にある法思想、それを基礎づける哲学はどのようなものかを考えることが可能となる。その哲学的視点を持ちつつ我々がどの報告に向かうべきかを本書は問う。

近代思想には大きな存在論的欠陥があったのではないかと、では近代思想が見落としたであろう存在とはいかなるものか？一言で言うなら、それはシステムという存在である。その存在を具体例に即しつつ、現代の哲学的近代批判を織りこんで明らかにする。

シリーズ 近代日本の知 全5巻

哲学・政治・倫理・芸術・宗教の5つを中心にそれぞれの領域を超えて対話を試みる。

藤田正勝編

第1巻 知の座標軸

—日本における哲学の形成とその可能性—

1179-6 A5判・288頁・3,500円(本体価格)

西田 毅編

第2巻 近代日本のアポリア

—近代化と自我・ナショナリズムの諸相—

1233-4 A5判・326頁・3,600円(本体価格)

加藤尚武編

第3巻 他者を負わされた自我知

—近代日本における倫理意識の軌跡—

1371-3 A5判・278頁・3,400円(本体価格)

岩城見一編

第4巻 芸術／葛藤の現場

—近代日本芸術思想のコンテクスト—

1302-0 A5判・342頁・3,900円(本体価格)

細谷昌志編

第5巻 「根拠」への探究

—近代日本の宗教思想の山並み—

1197-4 A5判・294頁・3,500円(本体価格)

† 明治から現代にいたるまで日本の哲学は西洋の哲学から大きな刺激を受けながら展開してきた。第1巻では、その確立に向けてなされたさまざまな試みの跡をたどるとともに、それが、困難な問題に直面する現代世界においてもつ創造的な意味について考察した。

† 「外圧」に抗して国民国家を建設した日本は、同時にアジアに向って武力侵略し、やがて韓国、台湾に対する植民地支配と皇民化政策を強行していく。本巻では政治史と思想史という二つの歴史的パースペクティブが交錯する地点からその正と負の両面を考察する。

† 西周によれば東洋の経世済民の思想といちばん近いのはイギリスの功利主義である。功利主義と民権運動を教育勅語が遮る形になって、近代日本の権威的正統性の軌道が確立された。現代の功利主義は、生命倫理・環境倫理など応用学の必要を満たすことができるのか。

† 本巻は明治以後、西洋文化の受容を通してわが国に定着した「美」や「芸術」を巡る思考を近隣アジア諸国の研究者も加わり、日本近代芸術思想の諸側面に批判的な考察を加え、これからの美や芸術に関する知のあり方を問うという目標の下に編まれた。

† 世紀末の現代、いよいよ混迷を深める現代において、宗教に求められているものは何か。はたして宗教は何らかの意味を持ちうる営みであるのか。本巻は宗教が単なる「癒し」のレベルを超えた一つの「思想」たりうることの可能性を探る。

人間存在論叢書

内藤可夫著

ニーチェ思想の根柢

人間存在論叢書

1129-X A5判・284頁・3,300円(本体価格)

† 権力への意志概念を再構成し、ニーチェの理論的な思索を批判的に検証する。また、その思索の本質にある、「哲学的」には語り得ない思想を様々な文脈から追求し、そこにヨーロッパの文化的・哲学的伝統の制約を超えた哲学への可能性が存することを解明。

吉本浩和著

ハイデガーと現代の 思惟の根本問題

人間存在論叢書

1235-0 A5判・256頁・2,900円(本体価格)

† 〈自己〉〈他者〉〈物〉〈自然〉〈言葉〉という5つの事象の考察を通して、現代世界の危機的状況を真に打開する道を探る。ハイデガーと共に問いながらも、時にハイデガー自身よりも徹底して問い抜いた思惟の記録。天逝した著者の渾身の力を込めた遺著。

安部 浩著

「現」／そのロゴスとエートス

—ハイデガーへの応答—

人間存在論叢書

1391-8 A5判・252頁・5,400円(本体価格)

マルティン・ハイデガー——20世紀最大の哲学者は何をどのように考えたのか、その思想は現代世界に対していかなる指針を示しうるのか。「現」という鍵概念を其に、新資料も含め、彼のテキストを徹底的かつ縦横に読み解く、劃期的論改。彼の深奥を照射する一冊。

渡辺雄三著

精神分裂病者に対する 心理療法の臨床心理学的研究

人間存在論叢書

1421-3 A5判・312頁・7,600円(本体価格)

† 具体的な事例を提示して、難問と言われる精神分裂病者に対する心理療法の援助技法と、それを支える基本視座について、臨床心理学の立場から考究する。精神分裂病者の心理療法に長年取り組んできた著者が、ライフワークを博士論文としてまとめた意欲的労作。

総田純次著

精神病理学の認識論的基礎

—解釈学的立場からのアプローチ—

人間存在論叢書

1419-1 A5判・290頁・3,300円(本体価格)

† 精神病理学、精神分析の学問論は混迷の内にある。本書は近年の解釈学の潮流を踏まえ、ヤスパーズ、フロイトといった古典の綿密な解釈を通じて精神病理学、精神療法の対象と方法を解明するとともに、哲学と精神病理学間の関係にも示唆を与えている。

西洋思想叢書

石井基博著

ヘーゲル法哲学が目指したもの

—〈体系としての人倫〉・自由・国家—
西洋思想叢書

2596-7 A5判・268頁・3,500円(本体価格)

ヘーゲル法哲学体系において相互に関連する、ヘーゲル的な「人倫的」共同体論、その「人倫」を統括する「近代国家」論とその本質的特性を示す自由論の三つのテーマの体系的な内在的連関の問題に特に光を当てて、それらについて包括的かつ統一的に究明した。

堤 正史著

ヤスパースとハイデガー

—形而上学のゆくえ—
西洋思想叢書

2520-2 A5判・310頁・3,800円(本体価格)

愛しつづの戦い—ヤスパースかハイデガーか、その優劣を論じることは愚かだ。「実存の生活実践」を通してみずからの限界を意識し、超越者に面する態勢が整えられてこそ、「存在の言葉」が届くのではないか。形而上学をめぐる思索の核心に迫る、存在への問い。

川島秀一著

自由の探求

西洋思想叢書

2354-3 四六判・226頁・2,300円(本体価格)

—自在思想の本質は「愛」である—本書はカントの自由論、西洋的自我主義を越える真の自由を、日本の仏教文化の核心をなす「自在思想」に探り、その本質を波多野哲学の愛の人格主義と自覚し継承しようとする試みである。

エルンスト・W. オルト 著

フッサール〈危機〉書の研究

西洋思想叢書

1207-5 A5判・264頁・3,200円(本体価格)

ヨーロッパ諸学の危機を通して現代の人間の危機を論じたフッサールの名著『危機』書の初めてのトータルな解釈書。しかも『現象学研究』『フッサール研究』等の国際的な哲学誌の編集者として著名な元ドイツ現象学会会長オルトによる透徹した解釈書。

工藤和男著

フッサール現象学の理路

—『デカルト的省察』研究—
西洋思想叢書

1211-3 A5判・294頁・3,800円(本体価格)

日本初のフッサール著作研究。難解で特異な主著『デカルト的省察』全体を徹底的に読み解く。誤解にさらされた相互性主観性論などの省察を貫くフッサール現象学の理念と方法が、デカルト批判に基づくデカルト主義として整合的・原理的にここに明らかにされる。

庭田茂吉著

現象学と見えないもの

—ミシェル・アンの「生の哲学」のために—
西洋思想叢書

1282-2 A5判・368頁・3,800円(本体価格)

本書はミシェル・アンの哲学を「生の哲学」と捉え、コギトの問題、身体の問題、運動と知覚の問題、他者の問題をを通してその全体的な意味と価値とを明らかにしたものである。現象学は、この「見えないものの現象学」の試みによって新たな歩みを始めることになるだろう。

村田誠一著

自然との和解の美学—序説

—西洋近代美学における芸術と自然—
西洋思想叢書

1332-2 A5判・258頁・4,800円(本体価格)

自然の概念をわれわれの内なる自然とも解し、主としてカント、アドルノを中心に、西洋近代の美学芸術理論のうちに、人間の精神と内外の自然との和解の可能性を探る。人間の自然支配への反省に基づく「自然との和解」なくして「自然との共生」はありえない。

林 克樹著

奥行の生と世界

—フッサール主観性理論の研究—
西洋思想叢書

1358-6 A5判・218頁・2,900円(本体価格)

『算術の哲学』から『論理学研究』への最初の転回においてすでに発見され、やがて超越論的哲学の根拠に据えられた「生」。その正体を突き止めようとするフッサールの思索に共鳴し、自我の生は我有化できないという根本的事態の含意を十全に引き出そうと試みる。

倉本 香著

道徳性の逆説

—カントにおける最高善の可能性—
西洋思想叢書

1486-8 A5判・236頁・2,800円(本体価格)

カントの複数主義には、「格律の普遍的承認の要求に拘束されない者」が「非合理的なる自己」として出現する次元が存在する。それはいかなる地点であろうか。この問題を明らかにすることによって、カント実践哲学の限界を乗り越えていく方途を模索する。

中川明才著

†
フイヒテ知識学の根本構造

西洋思想叢書

1546-5 A5判・218頁・2,600円(本体価格)

加賀裕郎著

デューイ自然主義の生成と構造

西洋思想叢書

2024-5 A5判・414頁・4,900円(本体価格)

新 茂之著

パース「プラグマティズム」の研究

—関係と進化と立論のカテゴリー論的整序の試み—
西洋思想叢書

2206-5 A5判・290頁・4,500円(本体価格)

†
フイヒテとの対話ならびにヤコービやシェリングとの批判的対決を通じて、生きることと哲学することの合一の可能性、人間の真なる生の実現と哲学的思惟の徹底をひとつに結びつけることの可能性を、超越論哲学としての知識学の自覚的構造に求める画期的論考。

民主主義と形而上学という問題点から、デューイの形而上学に新しい光を当てる試み。道具主義的、実験主義的自然主義の成立と展開、形而上学的展開を本書の中心的課題に据え、デューイと実在論との関わりに論及。

パースが顕在化させた、アブダクション、演繹、帰納という立論の三分法のカテゴリー論的意義を洗い出し、パースの導出したカテゴリーの関係性がパースのプラグマティズムを貫く基底として定位できることを立証した。

心 理

武藤 崇 編著

臨床言語心理学の可能性

—公認心理師時代における
心理学の基礎を再考する—

3249-1 A5判・176頁・2,500円(本体価格)

青木みのり著

「クライアントの視点」再考

—ブリーフセラピーからの一提言—

3251-4 A5判・220頁・2,600円(本体価格)

松田幸弘著

人間関係の社会心理学

3061-9 A5判・260頁・2,800円(本体価格)

クリス・セグリン 著
田中健吾 監訳

対人プロセスと心理的諸問題

—臨床社会心理学の視座—

2223-2 菊判・256頁・3,000円(本体価格)

藤原武弘 編著

社会心理学

2010-8 A5判・274頁・2,900円(本体価格)

D. M. テイラー, F. M. モグハッダム 著
野波 寛・岡本卓也・小杉考司 訳

集団間関係の社会心理学

—北米と欧州における理論の系譜と発展—

2121-1 菊判・240頁・2,800円(本体価格)

松田与理子 著

従業員—組織の関係性と ウェルビーイング

—「健康組織」形成の視点から—

3107-4 A5判・162頁・4,200円(本体価格)

榊原良太 著

感情のコントロールと心の健康

2933-0 A5判・182頁・4,500円(本体価格)

岩崎久志 著

ストレスとともに働く

—事例から考える ころの健康づくり—

2832-6 四六判・184頁・1,800円(本体価格)

言語心理学は「心理言語学」という言語学の周辺領域ではない。このテーゼが、本書の始点かつ支点である。言語心理学(あるいは心理学自体)を認識論的に捉え直し、新たな心理学的なアプローチの展開を紹介する。

相談に訪れるクライアントは、自らが抱える問題とその解決について、どのようにイメージしているのだろうか。心理療法に関する重要な問いを、質的データ分析によって探求し、ブリーフセラピーの立場から提言を試みた。

人間関係に関する社会心理学の最新の研究を「社会的認知」、「自己・他者」、「集団・社会」、「人間関係の新展開」の4部で構成し、初学者でも理解できるように簡潔で分かりやすく解説した入門書である。

近年、人との付き合いがうまくいかず、精神的な苦境に陥っている人が増加している。対人関係そのものが苦痛であり、精神的な安寧からは程遠いのが現実である。本書は、これらの問題の背景、現状を分析し、どのように対応すべきかをテーゼする。抑うつ、社交不安などの社会的関心の高い事象を取り上げ、より具体的な方法を明示し、臨床社会心理学の新しい世界を切り拓いている。

社会行動の基礎、対人相互作用と集団過程、社会生活の三つのパートからなり、社会行動の多様な側面をカバーする社会心理学のテキスト。本書のユニークな試みとして、博士論文の指導教授と学生の間から、著名な社会心理学者のネットワーク系譜図を明らかにし巻末に収録。

本書は、人間や社会をとらえる際に米国と欧州のそれぞれで特徴的な2つの視点——個人主義と集団主義——に沿って、集団間関係に関する社会心理学の諸理論を解説したものである。この2つの視点が社会心理学に及ぼした影響について、網羅的に解説される。

従業員—組織の関係性と従業員のウェルビーイングとの関連について、組織内自尊感情、組織シニシズムに着目し、そのメカニズムを実証的に明らかにする。さらに、従業員の健康や満足感が組織の業績や生産性に大きくかかわることから、「健康組織」を視野に入れた介入案の検討を試みる。

苦しい出来事や辛い経験に直面したとき、それをいかに頭の中で捉え直して、自身の感情をコントロールするか。本書は、そうした「認知的感情制御」という現象に着目し、それが心の健康に及ぼす影響を与えるかについて、複数の実証研究をもとに考究していく。

2017年 齊藤勇記念出版賞(日本応用心理学会) 受賞

学校や企業でカウンセラーとして心理臨床に携わってきた長年の経験を基に、実際にあった事例とともに、働く人の「こころの健康」や「ストレス・マネジメント」について解説。ストレスを避けられない現代社会で、ストレスとうまくつきあう方法を考える。

石川利江・松田与理子 編著

ライフコースの健康心理学

2887-6 A5判・188頁・2,200円(本体価格)

岡田昌毅 編著

働くひとの生涯発達心理学

—M-GTAによるキャリア研究—

2811-1 A5判・224頁・2,600円(本体価格)

紀司かおり 著

Psychosocial Factors Associated with Recidivism among Male Japanese Criminals in Offender Rehabilitation Facilities

3095-4 A5判・128頁・4,100円(本体価格)

松田 真理子 著

医療心理学を考える

—カウンセリングと医療実践—

2750-3 A5判・210頁・2,500円(本体価格)

上尾真道・牧瀬英幹 編著

発達障害の時代とラカン派精神分析

—〈開かれ〉としての自閉をめぐって—

2900-2 A5判・310頁・3,800円(本体価格)

佐々木 掌子 著

トランスジェンダーの心理学

—多様な性同一性の発達メカニズムと形成—

2845-6 A5判・216頁・2,500円(本体価格)

望月 昭・武藤 崇 編著

応用行動分析から対人援助学へ

—その軌跡をめぐって—

2707-7 B5判・180頁・2,800円(本体価格)

師岡宏之・石村真紀 著

実践 音楽療法

関係の創造を目指して

—セラピーでの勘所を解く—

2881-4 A5判・140頁・1,800円(本体価格)

松田 真理子 著

芸術と文学の精神世界

—病跡学的視点から—

3071-8 A5判・202頁・2,500円(本体価格)

増田梨花 著

増補版

絵本を用いた臨床心理面接法に関する研究

—不登校生徒に対する読み合わせ面接を通して—

3073-2 A5判・284頁・2,900円(本体価格)

健康心理学は、誰にとっても役立つ身近な学問です。この本では、前半で健康心理学の基礎理論を学び、後半で発達期(乳幼児期、児童期、青年期、成人期、高齢期)ごとの特徴や課題を考えます。関連コラムも多数掲載した、健康心理学の入門テキストとして最適な一冊です。

本書では、M-GTAを選択し、働く人のさまざまなキャリア形成プロセスの解明に応用することを試みた。この方法は我々が我々自身のキャリアを考えると、我々が人のキャリア支援をする時に、多くの知見や示唆を与えてくれるはずである。

本書は更生保護施設で生活する元受刑者を対象に、再犯との関連を初めて実証検討した研究をまとめたものである。刑務所出所後の元受刑者の社会生活をサポートすることは、社会の安全を確保することに繋がる。そのサポートのための具体的支援策を提示する。

医療領域において現代社会が抱えている様々な課題を挙げ、「健やかであること」「病むこと」「死ぬこと」「人間存在」についての本質を問いつつ、私たちの課題を直視する勇気と「いのち」への慈しみを育てる書。

私たちは発達障害の時代を生きている——発達障害をめぐって生じた社会的知覚の変容を読み解きつつ、今日の自閉を「開かれ」として知る。ラカン派精神分析を軸に臨床と思想を交錯させながら、来るべき「心」の倫理を探求する共同作業の成果。

3300組以上の双生児と545名のトランスジェンダー当事者への調査を通じて、多様で流動的な性別のあり方がどのような発達メカニズムで起こり、形成されていくのかを解明。「病理」としてではなく、自己成長の視点からトランスジェンダーの豊かな性同一性の育みを探求する。

これまでに発表された望月昭の論文の中から7つの重要論文を収録。望月昭と武藤崇が当時の研究動向など執筆秘話を交えて対談し、行動分析学の黎明期から対人援助学への変遷を辿る。絶えず新たな挑戦を続けてきた「望月昭」の情熱とラジカルな研究スタイルを追う。

音楽療法における音・音楽の出どころとなり受けどころとなる「人」の心の動きと、クライアントとセラピストの関係性という点に焦点を当て、臨床的に活きた場をクリエイトするために必要なセラピストの基本姿勢とセラピーの実践原理を日々の臨床から吟味し明示する。

作品には芸術家の生き方そのものが映し出される。芸術作品が私たちの心をつ打つのは、芸術家が命がけて作品に命を吹き込むからである。私たちは命がけて自分の人生に取り組む瞬間があるだろうか？あなたは自分の人生に何を刻みたいですか？

不登校生徒が絵本を用い読み合わせ面接によってどのように変化して行くのかをP-Fスタディの心理検査により検証し、有効な手段であることを証明する。さらに増補部分では、東北大震災の災被災地支援の実践例から絵本と音楽のコラボレーションイベントの可能性をさぐる。

増田梨花 編著

絵本とともに学ぶ

発達と教育の心理学

2932-3 菊判・250頁・2,800円 (本体価格)

市川 きみえ 著

いのちのむすび

—愛を育む豊かな出産—

2578-3 四六判・136頁・1,600円 (本体価格)

学問分野の専門化、細分化が進むなか、「発達心理学」と「教育心理学」の学問的知見を架橋し総合的な人間理解を見出し、ていくこと念頭に編まれたテキスト。また、本書では、絵本とコラムを通じて、読者によりわかりよい形で発達、教育の心理学のトピックを提供し、考え学ぶことができるよう工夫されている。

生まれてくる赤ちゃんにとって、家族みんなにとって、良い出産とは何か。助産師として数多くの赤ちゃんをとりあげてきた著者が自身の体験にもとづき自然出産の魅力をわかりやすく、語りかけるようにまとめた。心と身体と魂が喜ぶ最高のお産の本がここに！

倫 理 学

マティアス・ルッツ＝パツハマン 著
桐原隆弘 訳

倫 理 学 基 礎 講 座

2919-4 A5判・180頁・2,000円(本体価格)

小西 真理子 著

共 依 存 の 倫 理

—必要とされることを渴望する人びと—

2927-9 A5判・312頁・3,000円(本体価格)

中山 剛史 著

ヤスパース 暗黙の倫理学

—〈実存倫理〉から〈理性倫理〉へ—

3125-8 A5判・330頁・4,500円(本体価格)

佐藤 義之 著

感 じ る 道 徳

—感情の現象学的倫理学—

2022-1 四六判・246頁・2,500円(本体価格)

ピーター・シンガー 著
浅井 篤・村上弥生・山内友三郎 監訳

人 命 の 脱 神 聖 化

1860-0 A5判・252頁・2,700円(本体価格)

サイモン・ブラックバーン 著
坂本知宏・村上 毅 訳

ビーイング・グッド：倫理学入門

1479-5 四六判・202頁・2,200円(本体価格)

小城 拓理 著

ロ ッ ク 倫 理 学 の 再 生

2812-8 A5判・204頁・2,800円(本体価格)

J. レイチェルズ/S. レイチェルズ 著
次田 憲和 訳

新版

現 実 を み つ め る 道 徳 哲 学

—安楽死・中絶・フェミニズム・ケア—

2761-9 A5判・242頁・2,500円(本体価格)

リチャード・テイラー 著
古牧徳生・次田憲和 訳

卓 越 の 倫 理

—よみがえる徳の理想—

2388-8 A5判・234頁・2,800円(本体価格)

本書は、哲学的倫理学の中心的諸問題を紹介し、人の振る舞いの道徳性を吟味するための体系的見地を提案する。なぜ道徳的であるべきか、という倫理学の根本的な問いに向き合い、読者が自ら考察し、哲学的考察に取り組むことを促す入門書。

第4回「生存学奨励賞」受賞

「病理／非病理」、「偽物の愛／真実の愛」、「不幸／幸福」、「支配・従属／支え合い」など、多くの両義性を抱える「共存」をめぐる言説を分析し、そこに存在する倫理観を暴き出すことで、臨床の専門家や各領域の理論家が見逃してきた倫理と現実を提示する。

ヤスパース哲学はまさに現代および未来においてわれわれに指針を与えるべく、新たに復活しなければならない。本書ではヤスパース哲学を実存的な〈訴えかけの倫理〉として浮き彫りにし、そのアクチュアリティを問い直すことを試みる。

感情や気分の分析においては、世界と私の生全体とのかかわりのなかで感情を考える、現象学特有のアプローチの仕方の有効性は明確である。感情の側面から道徳を再検討する試みにおいて、現象学に残された課題に応える。

ピーター・シンガーの論文集「Unsanctifying Human Life」収録の24論文の中から、本邦未訳で生命倫理、応用倫理的要素が強い論文10篇、古典的論文「All animals are equal」新訳、ヘルガ・クーゼの「Introduction」の計12篇を収録。

現在入手可能な最良・最短・最新の倫理学入門。著者はケンブリッジ大学哲学教授。第一部は倫理学に対する七つの脅威を論じ、第二部は生と死、人生の意味、自由といった倫理的諸概念を扱い、第三部は倫理学を基礎づけるやり方を幾つか考察する。図版多数。

第68回日本倫理学会 和辻賞受賞

本書はロックの『統治二論』が理論的に構築された著作であること、そしてそれは従来言われていたような神学の書ではなく、あくまでも世俗的な人間の学としての倫理学の書であることを証明。また、従来のロック研究に抗して彼には今日でも学ぶべき点が多くあることを高らかに宣言する書である。

安楽死・中絶・同性愛・死刑制度さらには女性の権利——アリストテレスからカントそして現代の倫理まで、現実の事例をあげて徹底的に解説。とかく難解で無味乾燥も思われがちな道徳哲学の世界をこれまでにないほど明快にしてくれる本は、初学者のみならず、研究者にも必携といえる。

神の前での人間の平等を唱えるヘブライズムと人間の不平等を公言するヘレニズム——西洋思想の二大潮流を鮮やかに対照させつつ描き、キリスト教の平等思想を完全否定する。古代ギリシアにまで遡る過酷な徳（アレテー）の思想の深部を照射し、現代倫理における徳の再生を説く名著。

古牧徳生 編著

神と生命倫理

2667-4 A5判・260頁・3,800円(本体価格)

アンゼラム・W・ミュラー 著
越智 貞 監修/後藤弘志 編訳

医療技術の発達による新たな問題群に対し、生命倫理が誕生するなか神学者たちによる熱い議論が巻き起こった。なぜ医療問題に神学者たちが関与し、神が語れたのか。本書は、神と生命倫理との緊張関係について、哲学の立場からさまざまな思索を行い、広く宗教や倫理について考える。

徳は何の役に立つのか

2895-1 A5判・272頁・3,000円(本体価格)

加藤尚武 著

応用倫理学入門

—正しい合意形成の仕方—

1270-9 四六判・196頁・2,200円(本体価格)

ミリヤード・シューメーカー 著
加藤尚武・松川俊夫 訳

性格の賞賛と侮辱によって繰り広げられる現実の道徳の現象学的分析を出発点に、道徳の存在意義を人間学的に基礎づける試みを待ち受けていたのは、アリストテレス中庸論との決別という予期せぬ帰結だった。アンスコムの弟子による最良の徳倫理学入門。

†

生命・環境・情報の時代の合意形成はいかにして可能か。本書では、生命倫理、環境倫理、企業倫理、情報倫理の基本原則を解りやすく要約し、全体像をつかむことができるよう工夫されている。「……をしてもいい条件は何か」というガイドラインを自分で作る手引き。

愛と正義の構造

—倫理の人間学的基盤—

1239-3 四六判・232頁・2,500円(本体価格)

加藤尚武・松山壽一 編

†

義理と人情は西洋にある。困っている人をたすける義務(人情・不完全義務)のほうが、借りた物を返す義務(義理・完全義務)よりも強くなる場合もある。完全義務と不完全義務という倫理学のもっとも基本的な概念について詳細な文献を用いて考察をすすめた世界最初の本。

改訂版

現代世界と倫理

1375-6 四六判・272頁・2,600円(本体価格)

宮坂和男 著

生きること死ぬこと物語ること

—終末期医療と倫理—

広島修道大学テキストシリーズ

2650-6 A5判・178頁・2,500円(本体価格)

西平 直・中川吉晴 編著

ドラスチックな変貌を遂げる今日の世界に即応する新たな倫理学の問題圏を、科学技術・医療・環境・情報・経済・法・政治・宗教など、すぐれて倫理的な諸問題が噴出する8つの領域にわたり俯瞰。現代倫理学の到達点をやさしく説いた本格的入門書。

終末期医療の問題を扱う、生命倫理学の教科書。同時に、人間が生きる意味について実存論的に考える。がんなどの病のために死と向き合う体験を参照しながら、死を避けることができずに人間が生きたらとはどういうことかを考えようとする。

ケアの根源を求めて

2921-7 四六判・285頁・2,800円(本体価格)

工藤和男 著

改訂版

いのちとすまいの倫理学

2164-8 四六判・226頁・1,900円(本体価格)

工藤和男 著

本当にケアしているのは「私」なのか。その問いから議論は始まった。どうやらケアの主体は「私」ではないらしい。しかしその先の理解はそれぞれ異なっていた。互いのズレの中で見えてきた驚き、疑問、違和感、共感…ズレの中でこそあらわれる洞察。いまケアの根源へと降りてゆく。

いのちの力という視点から生命倫理学を、自然を私たちのすまいと捉え直して環境倫理学を再考する。新たな諸問題に対して、対症療法ではなく、「よく生きたい」という人間の変わらぬ願いを基に、伝統的倫理学の原則論から一人ひとりの考えるべき筋道を示す。

くらしとつながりの倫理学

1714-X 四六判・210頁・1,900円(本体価格)

佐藤幸治 著

社会を「官」「民」「公」から捉えなおし、それぞれの多様な共同体と関わる「私」のあり方を、欲望から自律への幸福追求の変革として構想する。家族、仕事、文化、経済、政治、社会をめぐる、共同体と個人の調和をめざす市民のための新しい社会倫理学である。

生と死の現在

1838-9 四六判・222頁・2,200円(本体価格)

人間の誕生と死を生命とは何かという点から考察し、それが性と関連性があることを証明する。その上で現代における生命倫理の諸問題を追究する。誕生に関するさまざまな生殖医療補助技術の問題、死に関する脳死・臓器移植という問題に陥穽はないのか検証する。

藤井美和・浜野研三・大村英昭・窪寺俊之 編著

生命倫理における宗教とスピリチュアリティ

2124-2 四六判・226頁・2,500円(本体価格)

上杉敬子 著

宗教やスピリチュアリティについて、日本の研究者の論文4編とこれまであまり紹介されることのなかった生命倫理の議論に大きな影響を与えたアメリカ、イギリスのキリスト教神学者の翻訳論文4編を収録。いのちの問題を考える大きなヒントを与えてくれる良書。

理系の学生と学ぶ倫理

3059-6 四六判・130頁・1,200円(本体価格)

宮坂和男 著

「製品事故や重大事故で問われる科学・技術者の倫理的責任。でも、『変な使い方をした消費者のほうはどうなの』『なんでも製造者の責任にされたらたまらないよ』そうですね。では視野を転じましょう。たとえば、幼児に、『技術者倫理』+『子育て』の異色の倫理書。

科学技術の現況といま必要な倫理

3130-2 A5判・234頁・3,000円(本体価格)

市川 功 著

科学技術が著しく発達した今日、それをめぐってどのような問題が生じているか、それにどのように対処することができるのか、素人が科学技術に関する問題について考えるためにはどのようにしたらよいのか、本書はこの問いに答えるために「関連事象に関する知識」にもとづき考え、「技術デザイン」を適切なものに変更することを試みた。

技術・倫理・教育

—技術理解と「技術者倫理教育」実践の基礎—

1660-6 A5判・172頁・1,800円(本体価格)

シュレーダー＝フレチェット 編
京都生命倫理研究会 訳

技術の基盤を、技術外の人間・社会のさまざまな要素との関係やつながりからとらえねばならないという前提のもとに、技術者倫理においては、これまで必ずしも十分に分析されてはこなかった「技術者倫理教育」実践の基礎理論を明確にする。

環境の倫理

0641-5 (上) A5判・374頁・3,800円(本体価格) †
0642-3 (下) A5判・334頁・3,500円(本体価格) †

ロバート・E.カーター 著
山本誠作・平田一郎・村田康常 訳

上巻では「宇宙船倫理」などの新たな理論的モデル、未来世代と動物の権利など。下巻では、環境保護と経済的格差や人口増加、核エネルギーの必要性和危険性など複雑にからみあう環境を巡るさまざまな危機をどう克服するか、倫理学は問う。

日本倫理思想と悟り

1887-7 A5判・286頁・3,500円(本体価格)

藤田隆正 著

カナダ人の著者による、「悟り」を鍵とした日本の倫理思想についての研究。神道、儒教、仏教から西田、和辻に至る近代までの広い範囲を概観し、その現代世界に対する意義について考察する。欧米文化と日本文化との異文化交流による日本人には無い視点からの研究。

新・倫理考

—「分かち合い」の発見—

1856-3 四六判・238頁・1,700円(本体価格)

アントワーン・ベルマン 著
藤田省一 訳

勝ち組・負け組という考え方を、本書は「分かち合い」の視点から鋭く批判する。著者はダーウィン・今西錦司等を実証的に検討し、人間は強者の弱者排除ではなく、強者と弱者が分かち合い生活することで進化・発展をとげたという新しい考え方を提唱している。

翻訳の倫理学

—彼方のものを迎える文字—

2530-1 A5判・232頁・2,800円(本体価格)

田村公江・細谷 実 編著

翻訳とは……奇跡の経験である。「精神と文字」の二元論を翻訳に即して問い直し、「意味か文字」が問題に対し、倫理の次元を導入しつつ、他者との関係において問い直す。前著の名作、ベルマン『他者という試練』で展開された翻訳理論の歴史的考察を補完する。

大学生と語る性

—インタビューから浮かび上がる
現代セクシュアリティ—

2298-0 四六判・298頁・2,500円(本体価格)

大町 公 著

恋愛至上主義に対して、差別みたいなのを感じますね。モテない奴はイコールキモイみたいな扱いになっている…。高校ぐらいから男性恐怖症みたいなものがあった…。大学教員が真剣に若者と性を語り、セックスを考えることで、大学生の生の本質を探る！ ツーの大学生の現代セックス事情。

生きられた死生観

—作家 高見順の場合—

2859-3 四六判・144頁・1,600円(本体価格)

作家高見順は食道ガンで死ぬ直前まで日記を書き続けた。高見の死生観に関しては、従来詩集『死の淵より』が取り上げられてきたが、真骨頂はそこではなく、『続高見順日記』『死生の十字路』にある。二大宗教との対決を中心に、高見順最期の日々を追う。

橋本法明著

生きなおしたいあなたに—あなたにかけられた魔法を解き
自分と未来を変える方法—

1635-6 四六判・200頁・1,300円(本体価格)

大峰光博著

野球における暴力の倫理学

2705-3 A5判・134頁・1,600円(本体価格)

クラウディア・バヴレンカ著
藤井政則訳**スポーツ倫理学の射程**

—ドーピングからフェアネスへ—

2755-8 A5判・240頁・3,800円(本体価格)

関西倫理学会編

倫 理 学 研 究

こころの傷(トラウマ)を癒すことこそ自分らしさを取り戻すことだ。葬儀仏教から脱却し、人々の苦悩と向き合おうとする住職が、今まで接してきた12人との「生きなおし」の記録。

なぜ私達は、野球の暴力に対して肯定的であるのか。体罰、報復死球など個々の暴力事例の構造的問題に、責任概念からアプローチする。

本書は直接的にスポーツ倫理学の体系づけを試みるものではないが、世界的に最重要課題であるドーピング問題およびスポーツの本質とも言えるフェアネスと競技性を規定するルールの意味、これらを様々な観点から問い、スポーツ倫理学を浮かび上がらせている。

A5判・1952-2	第38号・172頁・1,800円	(本体価格)†
A5判・2054-2	第39号・198頁・2,100円	(本体価格)†
A5判・2139-6	第40号・158頁・1,700円	(本体価格)†
A5判・2245-4	第41号・206頁・2,200円	(本体価格)†
A5判・2371-0	第42号・222頁・2,400円	(本体価格)†
A5判・2463-2	第43号・226頁・2,400円	(本体価格)
A5判・2557-8	第44号・198頁・2,100円	(本体価格)
A5判・2641-4	第45号・170頁・1,900円	(本体価格)
A5判・2764-0	第46号・232頁・2,500円	(本体価格)
A5判・2911-8	第47号・192頁・2,200円	(本体価格)

宗 教

有福考岳著

「観音経」入門

3242-2 A5判

有福考岳著

道元の心の哲学

A5判

奥山倫明著

制度として宗教

—近代日本の模索—

2987-3 A5判・302頁・4,000円(本体価格)

小原克博著

宗教のポリテクス

—日本社会と一神教世界の邂逅—

2165-5 四六判・212頁・2,100円(本体価格)

芦名定道編著

比較宗教学への招待

—東アジアの視点から—

1728-3 A5判・226頁・2,200円(本体価格)

芦名定道著

自然神学再考

—近代世界とキリスト教—

1830-3 A5判・340頁・6,700円(本体価格)

芦名定道編著

多元的世界における寛容と公共性

—東アジアの視点から—

1826-6 A5判・246頁・3,300円(本体価格)

岸根敏幸著

日本の宗教

—その諸様相—

1519-8 四六判・204頁・2,300円(本体価格)

岸根敏幸著

日本の神話

—その諸様相—

日本図書館協会選定図書

1833-4 四六判・214頁・2,300円(本体価格)

鳩摩羅什の漢訳『妙法蓮華経』8巻28品中第8巻第25品目に位置づけられる『観世音菩薩普門品』についての詳細な言語的思相的かつ自由闊達な宗教的法話。読者の便のためにこの『観音経』の音読を、曹洞宗における伝統的説誦法に従ってルビをつけ、その書き下し文としての訓読観音経を提示。

近刊

曹洞宗開祖である道元が、生涯をかけて著した87巻(=75巻+12巻)に及ぶ大著であり、曹洞禅思想の神髄が説かれている「正法眼蔵」。NHKブックス701として刊行した旧著『「正法眼蔵」の心』(1994年刊、絶版)を基礎に「ですます」調に書き改めて、可能な限りやさしい読み物とした。

近刊

近代日本に導入された「宗教」概念がたどってきた道のりを多角的に捉える試み。さまざまな議論を紹介しながらも問いを開かれたままにし、国家神道や政教分離を基軸に「宗教」をめぐる議論をここから新たに展開する。

第I部では近代日本を舞台とし、一神教をどのように捉え、どのような影響を受けたのかを考察。第II部では一神教を舞台としてその問題を追いつながら一神教の視点から日本社会における課題を浮き彫りにしていく。

現代の宗教研究の成果をふまえ、グローバル化と多元化の新しい思想動向の中で、新たな比較宗教学の構築をめざす。現代宗教学の基礎と神話による宗教の比較、古代から現代にいたる日本宗教を取り巻く宗教交流の歴史、平和思想と宗教間対話をめぐる比較宗教思想。

古代のキリスト教思想の発端から、近代の科学革命の時代(ニュートンとニュートン主義)まで、自然神学の展開を辿り、現代の生命論と環境論の地平で自然神学を問い直す。キリスト教思想と諸学とのコミュニケーション合理性の問いとして自然神学を解明する。

現代の多元的世界における寛容の可能性を、東アジアの現場から、公共性の問いとして検討する。若手研究者による最新の論文集。京都大学21世紀COEプログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」における共同研究の成果が開く新しい地平。

日本において展開されてきた宗教の思想および文化に関わる諸事象の中でも、とりわけ興味深い七種のテーマー日本神話、八幡信仰、因果応報の観念、御霊信仰、神仏習合、地獄観、キリスト教の伝来—を取り上げ、その具体的な諸様相について考察。

日本の神話に関する諸問題の中で、特に興味深い五種のテーマー「日本神話の世界観」「日本神話の神観念」「スサノヲのウケヒをめぐる諸伝承」「ホノニギとホヨリの神話」「風土記の神話」—を取り上げて、その具体的な諸様相について考察する。

岸根敏幸著

古事記神話と日本書紀神話

2665-0 四六判・242頁・2,500円(本体価格)

村田充八著

宗教の発見

—日本社会のエートスとキリスト教—

2138-9 A5判・290頁・3,600円(本体価格)

池見澄隆編

日本文化と仏教イメージ

2868-5 A5判・228頁・4,200円(本体価格)

可藤豊文著

真理の灯

—ブッダの言葉☆30講—

1594-4 四六判・238頁・2,400円(本体価格)

岸根敏幸著

宗教多元主義とは何か

—宗教理解への探求—

1262-8 四六判・202頁・2,300円(本体価格)

嶋田英晴著

ユダヤ教徒に見る生き残り戦略

2652-0 A5判・198頁・2,600円(本体価格)

村田充八著

戦争と聖書の平和

—キリスト者からの問いかけ—

2997-2 A5判・368頁・5,200円(本体価格)

村田充八著

キリスト教と社会学の間

—宗教と社会倫理論集—

2853-1 A5判・376頁・5,200円(本体価格)

シュルーター 智子著

宗教科にみる〈他者〉表象

—ドイツにおける宗派混成学校の登場とバイエルン州公立ギムナジウム宗教科指導要領の分析—

2947-7 A5判・330頁・6,800円(本体価格)

塚本 潔著

普遍教会と国家-法理論

—近現代カノニスティク研究—

2095-5 四六判・196頁・2,200円(本体価格)

「記紀神話」と総称されてきた『古事記』と『日本書紀』の神話には多くの違いが存在し、それは世界観の違いなど、根本的なものにまで及んでいる。本書では両神話の違いを徹底的に検討し、それぞれが独自の体系をもった神話であることを明らかにしようとした。

一貫して宗教社会学・社会倫理学研究を行ってきたカルヴィニニストの著者が、生駒山系宗教調査やキリスト教社会の実経験をもとに、日本社会の宗教動向とキリスト教の本質に迫る。日本社会のエートスやキリスト教の現実を「発見」するに格好の宗教社会学研究書。

中世の世界感覚として、冥／顕の重層性がある。冥とは神仏や死者の世界、顕とは生きた人間の世界。顕界から冥界は透視できないが、冥界から顕界はつねに透視されている。このような一方的被透視感、時代の精神や社会の心性の形成にいかにかかわったか、12篇の論文から探求する。

いわゆる原始仏典と呼ばれるものが、日本の仏教(真言密教、浄土、禅など)とどう繋がっていくのかを明らかにするために『ダンマパダ』などからいくつかの章句を取り出し、解説を付すとともに、さらに仏教と関わる主要テーマを選び出し、仏教の本質を問う。

宗教間の対話や相互理解の問題とも密接に関わっている宗教多元主義(Religious Pluralism)を、現代における宗教理解のキーコンセプトとして捉え、その位相、成立要因、具体的な理論、問題などを多角的に考察した、宗教多元主義への入門書である。

神に選ばれたユダヤ教徒は、多くの戒律を遵守しつつ「残りの者」として生き残ることを重視する。国を失い世界に離散した彼らは今日までいかにして生き残ってきたのか、その背景にある戦略・戦術を中世イスラーム世界の具体的歴史状況を取り上げ解明する。

キリスト者の視点から、「否定の論理」なき日本社会の現状や平和に対峙する宗教的根本動因、社会的エートスを問い返した警醒の書。好戦的で他者排除の社会的特質、それを支える社会的性格、などに焦点を当て、「聖書」が示す平和のヴィジョンと規範を提示した好著。

宗教社会学、社会倫理学研究の著者が、キリスト教の視点から社会をみるという問題設定のなかで考察した論集。職業、環境、教育、女性、ソーシャル・キャピタル、宗教、国際社会と戦争などに焦点をあて、人間の現実と社会の本質に迫る。

宗教的〈他者〉はいかにして〈自己〉から線引きされ、〈他者〉として描かれてきたのか。ドイツにおける近代的な学校制度や宗教科指導要領の分析により、宗教的〈他者〉に対する関心の高まりとその位置づけを明らかにし、問題への新たな視座を提供する。

「条約」が持つ拘束力は、国家法と教会法が歴史的に共有するに至った共通の本質的特性によっても規範的に基礎付けられ、その基盤は「公共善への奉仕」へ義務付けられる。その理論の歩みを「慣習法」を手がかりに探る。

落合雄彦 編著

スピリチュアル・アフリカ

—多様な宗教的実践の世界—

2089-4 A5判・252頁・3,300円（本体価格）

水谷 周 著

イスラーム信仰とその基礎概念

2670-4 A5判・224頁・2,500円（本体価格）

大川 玲子 著

イスラームにおける運命と啓示

—クルアーン解釈書に見られる
「天の書」概念をめぐって—

2027-6 四六判・222頁・2,200円（本体価格）

スピリチュアリティ（靈性）をキーワードとしながら、アフリカの宗教的実践がもつ多様性や豊かさ、そしてその危うさともいべきものを多角的に描き出す。考察対象はアフリカ独立教会、ペンテコステ的キリスト教、マーミワタ信仰、崇教真光など多岐に及ぶ。

本書は法学や神学の学問体系とは異なり、イスラームを信仰体系として把握する。クルアーンより信仰の全容を提示し、次に天性、心的静穏、単一性、魂といった基礎諸概念を分析。倫理道徳を含む信仰諸論はイスラームの広い裾野を示し、新たな展望を可能にする。

イスラームの「運命と啓示が書かれた天の書」概念を解明。古典期から現代まで千年にわたる、多様なクルアーン（コーラン）解釈の展開を通観し、イスラーム思想において運命論と啓示理論が交差する場をとらえつつ、その人生観や世界観、聖典観の変遷をたどる。

美学・芸術

牧野圭子著

日常生活の中の趣

—情趣に関する消費の美学—

3240-8 四六判・228頁・2,700円(本体価格)

人はどのようなとき、どのような条件で、趣を感じるのか。また、そこに普遍性はあるのか。日常生活の様々な場面や、美術作品、文学作品などから感じられる「情趣」について、消費の美学や心理学の視点からアプローチすることで、新たな知見を提示する。

長沢幸子著

ファッションイラストレーションの体系

—スーパーグラデーション—

3062-6 A5判・280頁・4,200円(本体価格)

ファッションイラストレーションの理論・描写・歴史と作品制作の実際について論じる。研究者・作家の両視点からファッションイラストレーションを定性的に論じるとともに、技法の定量化による検証をも試み、新技法「スーパーグラデーション」を創造した。

ボナヴェントウーラ・ルベルティ 編著

日本の舞台芸術における身体

—死と生、人形と人工体—

3168-5 菊判・318頁・6,900円(本体価格)

舞台芸術をめぐる日本と4名の外国の研究員が、日本文化・思想における「身体観」を演劇史、美学、比較文化、宗教史、ダンス研究などを1年をかけて様々な観点から検討していった共同研究の成果をここに展開した。

上野 仁著

アドルノの芸術哲学

2940-8 A5判・248頁・3,000円(本体価格)

なぜわれわれには知性が必要とされるのだろうか。芸術・音楽・知性がもたらす生のあり方は、現代哲学の巨頭アドルノの哲学全体を芸術の観点から再構成し、そこに秘められたユートピアを音楽作品の分析を通じ実証する。アドルノ哲学の新たな展開。

篠原資明著

差異の王国

—美学講義—

2450-2 四六判・142頁・1,500円(本体価格)

ムソグルスキーのピアノ曲『展覧会の絵』とラヴェルのオーケストラ曲『展覧会の絵』の根本的な違いは何なのか、本物とまがいものの違いとはそもそもどこから来るのか、芸術がわかるとはどういうことか、平易に書かれた美学入門書。

村上真樹著

美の中斷

—ベンヤミンによる仮象批判—

2573-8 四六判・208頁・2,800円(本体価格)

否定美学が救済の美学か。美しい仮象を中斷する表現をもたぬものの一、ベンヤミンはゲーテのテクストが持つ救済的契機を浮かびあがらせたのである。ゲーテが小説の中にしたばせた2つの美と1つの真理。ベンヤミンがいかにそれを批判したかを丁寧に紐解く。

岡林 洋著

すべての人は芸術家である

—見巧者が主役の美学—

2747-3 A5判・140頁・1,700円(本体価格)

二〇〇〇年代に入って世界に「豊かな社会」(ガルブレイス『ゆたかな社会』一九五八年)が作り上げられていたことを懐かしむような学者が、それをまた今日別のポストモダンの話題に作り変えるのであろうか。本書はこの問題を阿部次郎など近代日本の美学の文脈で論じる。

岡林 洋編著

パサーージュ文化論

—〈花・歌・人形〉の開かれた文化研究—
同志社大学人文科学研究所研究叢書 XLI

2232-4 A5判・236頁・2,800円(本体価格)

お人形さんを作るってことと、自己愛、ナルシズムの関係が融和していくような人形を愛することは作り手として大切なテーマなんです(四谷シモン)。四谷シモンや恋月姫の創作人形はもうとっくの昔に現代文化のメインストリームとなっている。花・歌・人形の三つのテーマに基づいた研究会の集大成がここに結実!

井島 勉著

芸術の創造と歴史

2968-2 A5判・308頁・6,400円(本体価格)

深田康算・植田寿蔵に続く「京都学派第三世代の美学」の原点(学位論文)の復刻(原著1964年)。美学史の精緻な再構成に基づく独創的な思想。後年、著者は第二次世界大戦の戦火が迫る中で「遺書」として本書を書き紡いだ、と回想している。

井島 勉 著

美 学

深田康算・植田寿蔵に続く「京都学派第三世代の美学」の代表作の復刻（原著1958年）。美学史から個別の芸術論へと広がる体系的な美学概論。適宜キーワードを付し、美と芸術をめぐる哲学的思索への入門を図る。

2969-9 四六判・266頁・4,500円（本体価格）

神林恒道 編著

京の美学者たち

日本図書館協会選定図書

「美学」によって導かれた、美意識の近代化あるいは変革が、伝統的文化を伝える京都においてどのようになされたか。「美の思索者」「美のプロデューサー」の眼差しを通じて重層的に浮き彫りにする。

1777-8 A5判・224頁・3,000円（本体価格）

A. ニヴェル 著
神林恒道 訳

啓蒙主義の美学

—ミメーシスからポイエーシスへ—

啓蒙主義時代の文芸美学は、古典主義の規範的美学からバウムガルテンやカントによる近代美学にいたる、転換期の美学として位置づけられる。この啓蒙主義の美学についてこれほど包括的に全体が見渡せる、しかもコンパクトに論じられた概説は他に類を見ない。

1299-7 四六判・176頁・2,000円（本体価格）

ジョン・デューイ 著
栗田 修 訳

経験としての芸術

今日、すぐれた芸術作品は美術館に収納され、われわれの日常生活からは縁遠いものになっている。デューイはこうした芸術の現実生活からの乖離を批判し、本来の芸術を取り戻すために、彼の経験概念を駆使して新しい芸術論を展開する。彼最晩年の最も魅力ある力作。

2168-6 A5判・454頁・5,200円（本体価格）

永井隆則 編著

探求と方法

フランス近現代美術史を解剖する

—文献学、美術館行政から精神分析・ジェンダー論以降へ—

本書は、フランス近現代美術史研究に対して文献学、精神分析、ジェンダー、美術館、文学、ジャポニスム、比較芸術、社会史など様々な分野からのアプローチを示し、これまでの研究方法の自覚的な反省と刷新による、より豊かな美術史研究の可能性を示そうと試みる。

2489-2 A5判・210頁・3,000円（本体価格）

秋丸知貴 著

ポール・セザンヌと蒸気鉄道

—近代技術による視覚の変容—

セザンヌの造形表現の様々な成立要因の一つとして、鉄道乗車視覚の影響の可能性を指摘し、蒸気鉄道による変容は造形表現の様々な成立要因の中で最大の要因であるとする、西洋近代美術史のパラダイム・シフトがここに展開される。

2474-8 A5判・250頁・3,500円（本体価格）

森脇善明 著

アンドレ・マルロー美術史論研究

—「空想の美術館」光と影—

小説家であり戦後フランスの文化大臣でもあったアンドレ・マルローによる美術史論『沈黙の声』、『世界彫刻の空想の美術館』、『神々の変貌』をフランス文学・哲学の専門家である著者が丁寧に解説。文学や美術論の枠内に収まらない、思想家マルローによる文明論ないし「反精神史」を解明する。

2318-5 A5判・326頁・3,500円（本体価格）

浅沼圭司・藪 亨・山縣 照 編著

イ メ ー ジ

—その理論と実践—

本書は、大阪芸術大学名誉教授であり、文芸学・演劇学・映像学の泰斗である山田幸平氏への追悼論集として編纂された。山田幸平自身の「チュー・ホフとホメロス〈自然と純粹〉」をはじめ、浅沼圭司、山縣照、豊原正智、近藤耕人、阪井敏夫、土屋宏之、D・アンドルー、依田義石、藪亨らが理論と実践の交差からの論考を寄せている。

2662-9 A5判・286頁・5,200円（本体価格）

山田幸平・近藤耕人 著

ドストエフスキイとセザンヌ

—詩学の共生—

セザンヌの色彩の面と奥行を目指して、『罪と罰』と『白痴』の絵画的遠近描写、不安な視線の心理の演劇的效果を解析し、エル・グレコの線と点と面、更にはマネ、ピカソ、漱石の抽象と具象に迫る。文学、美術、演劇、映画を自由に行き来する自由なる思考の旅が生み出す画期的論考。

2563-9 四六判・186頁・2,500円（本体価格）

小林頼子・望月みや 著

グローバル時代の夜明け

—日欧文化の出会い・交錯とその残照
—一五四一〜一八五三—

地球規模で人と経済と文化が動き始めた初期近代に、日欧の文化はいかなる往来をしたか。そのとき、日本はいかに異文化と向き合ったか。「出会い・交錯・その残照」の三つの視点からその様態を浮き彫りにする。フルカラー図版多数掲載。

2842-5 A5判・302頁・4,500円（本体価格）

大森淳史・岡林 洋・仲間裕子 編著

芸術はどこから来て どこへ行くのか

1977-5 A5判・546頁・7,000円(本体価格)

山田幸平著

ロシア芸術学序説

—文学・演劇・映像の学際的研究—

2408-3 A5判・270頁・3,600円(本体価格)

太田喬夫・三木順子 編

芸術展示の現象学

1901-0 A5判・296頁・3,400円(本体価格)

福田知子著

詩的創造の水脈

2003-0 A5判・298頁・3,300円(本体価格)

平光睦子著

「工芸」と「美術」のあいだ

—明治中期の京都の産業美術—

2856-2 A5判・216頁・3,300円(本体価格)

山本真紗子著

唐物屋から美術商へ

—京都における美術市場を中心に—

2125-9 A5判・278頁・3,100円(本体価格)

林 公子著

歌舞伎をめぐる環境考

2491-5 A5判・228頁・3,200円(本体価格)

高梨友宏著

美的経験の現象学を超えて

—現象学的美学の諸相と展開—

1252-0 四六判・246頁・2,500円(本体価格)

加藤 茂著

造形の構造

1747-6 A5判・240頁・2,700円(本体価格)

加藤 茂著

身体・空間・造形

1940-9 A5判・212頁・2,600円(本体価格)

1968年に起きた「近代の終焉」という芸術の時代の一大転機を起点として「それ以前」と「それ以後」で歴史の座標軸を区切ろうという問題。この1968年という一大転機を起点として「近代」、「近代以降」をそれぞれ問う！

芸術学の視点からロシア芸術の諸相、文学、演劇、映像、建築などの根源的構造と座標を探ろうとした特異な研究。本書では、ドストエフスキイとチェホフの作品において、これらロシア芸術学上の諸問題を集中して検証する。

芸術の広義の展示の現象（プレゼンテーション、場、ミュージアム、環境を含む）の歴史と諸相を、具体的な事例に即して概観。メディア・アート、建築、ファッション、日本の伝統などにおける展示をめぐって、美学・芸術学、美術史、デザイン史、建築史などの研究者およびアーティストや建築家などがアプローチする。

本書のキーワードは「明治浪漫主義」と「モダニズム」。詩人でもある著者は、「創作」における直観や美感を当時の文学状況に照らし握り下げ現在に照射する。これまで異分野とされてきた文学研究と美学・芸術学研究を創作の視座から架橋した画期的な論考。

明治中期の京都の産業美術は、新しいものを受け入れ変化しつづけることを選択しながらも工芸技術を継承する道を選択する。この選択が「美術工芸」と「工芸」の中庸を貫くことへとつながっていったのではないか。

「美術」品は単純に「美しいもの」として存在することは可能なのだろうか。そこにはさまざまな価値や社会的背景がからみあっている。本書は、我が国における「美術」愛好や受容の歴史を「美術商」の活動の解明を通して論じようと試みたものである。

江戸期の歌舞伎の社会的な環境について、〈興行慣行と江戸の座元〉、〈大名家江戸藩邸における座敷芝居〉、〈歌舞伎享受の視点という観点からみた劇書と役者評判記〉、という3つのテーマから論じる。巻末には江戸三座の由緒書の資料考証も収録。

本書では、まず20世紀前半ドイツの現象学的美学者・オーデブレヒト及びガイガーの所説を概観し、その源流をフィードラーの芸術論に探る。さらに後者を媒介として、現象学的美的経験論を超える二つの展開可能性を、ハイデガーの芸術論と西田哲学に見出す。

人間の世界との志向の関係の営為としての造形を、言語と対比し、現代の変貌を視野に入れつつ構造的に探求する。複製とアウラの狭間を浮遊し、パロディやコラージュの形を帯びるポスト・モダンの造形。世界の人間による形象的支配の現象学的・構造主義的な研究。

身体は「生きられる」空間と造形空間がそこに淵源する共通の母胎、実と虚の両空間を繋ぐ懸橋。シンメトリー・リズムなどの美的原形式が透し模様のようにそこに浮び上る。造形・美・芸術の諸問題を現象学や構造主義を踏まえ身体の根源から問い直す構造造形学。

岸本吉弘 著

絵画 新たなる物語のために

3009-1 B6判・218頁・2,700円(本体価格)

ジョン・A. ウォーカー、サラ・チャップリン 著
岸 文和・井面信行・前川 修・青山 勝・佐藤守弘 訳**ヴィジュアル・カルチャー入門**

—美術史を超えるための方法論—

1254-7 A5判・314頁・3,200円(本体価格)

A. & I. リヴィングストン 著
敷 亨・渡邊 眞 訳**グラフィック・デザイン&
デザイナー事典**

1649-6 A5判・286頁・2,800円(本体価格)

トーマス・ハウフェ 著
敷 亨 訳**近代から現代までのデザイン史入門**

1750-2000年

1824-2 A5判・206頁・2,400円(本体価格)

永井隆則 編著

デザインの力

2179-2 A5判・264頁・3,000円(本体価格)

永井隆則 編著

越境する造形

—近代の美術とデザインの十字路口—

1472-5 A5判・254頁・2,900円(本体価格)

ハンス・ベルティング 著
仲間裕子 訳**ドイツ人とドイツ美術**

—やっかいな遺産—

0999-6 四六判・148頁・1,600円(本体価格)

原田平作・神林恒道 編

芸術の楽しみ

—やさしい芸術学—

0885-4 A5判・236頁・2,500円(本体価格)

A. L. リーズ 著
犬伏雅一・伊奈新祐・大橋 勝・豊原正智・山口良臣 訳**実験映像の歴史：映画とビデオ**

—規範的アヴァンギャルドから現代英国での映像実践—

2137-2 菊判・312頁・3,700円(本体価格)

山田幸平 編著

現代映画思想論の行方—ベンヤミン、ジョイスから
黒澤明、宮崎駿まで—

2156-3 A5判・398頁・3,400円(本体価格)

画家としての著者自身の創作理念に基づいた絵画芸術論。絵画にどう臨み、そこに何を求め見出そうとしているのか、抽象絵画の洗練を受け、その内実や魅力に迫ろうとする画家の創作や研究の四半世紀に及ぶ歩みを、数々の作品やテキストやエッセイを通じ紹介する。現在を生き巨大絵画に挑む画家の問題意識やその姿そのものが浮き彫りにされる。

美術、インターネット、広告、デザイン、写真、映画、テレビ、建築、コンサート……私たちの生活を取り巻くさまざまな〈視覚文化〉の見取図を描いた本書は、カルチュラル・スタディーズやニュー・アート・ヒストリーを批判的に継承する新しい知へのナビゲータとなろう。

言葉とイメージが織りなすグラフィック・デザインの領分を読み解き、その未来を考えるための優れた総合的な手引きであり、世界各国のデザインとデザイナー、芸術運動、印刷技術など、確かな現代情報・専門知識と国際的な歴史・動向が解説されている。

国際的な近現代デザイン史への待望の入門書であり、前産業的な時代から現代までの約250年間にわたって、デザイン現象を文化・社会史的な見地から幅広く読み解き、350点有余の多彩な図版が添えられた本書は、芸術と産業のあいだでいよいよ拡張し錯綜するデザイン領域への格好の手引きである。

デザインの現状を省みて、原初の力を過去と現在に発掘する事を目指したデザイン論の書。研究者が集まり、学生や一般の人も理解してもらおうことを目的に、それぞれの専門から思索した。様々なデザイン現象が東の間のはかない現象ではなく力強い鼓動であることを明らかにした。

近代の美術とデザインの相互作用をモダニズムのヒーロー達によって辿る。ルノワール、セザンヌ、ロートレック、ゴッゲン、マチス、ル・コルビュジエ、カンディンスキー、クリムト、モンドリアン、マレーヴィチ、ジャッド、ウォーホル、シャーマンの果敢な挑戦を気鋭の美術史/デザイン史家13名が解説し、モダニズムに代わる新たな言説を提案する。

国際的モダニズムの正統に反逆してきたドイツ美術は、ドイツ人のアイデンティティを映し出す鏡でもある。本書は、中世から今日に至るドイツ美術を新たにその受容の歴史から考察し、ドイツ人の自己表現と自己疎外の迷宮を通り抜ける導きの糸を手繰る。

芸術とはなにかを理論的ながらやさしく説くことを心がけ、「見る」、「聴く」、「語る」、「演ずる」、「映す」ことの楽しみ方を、それぞれの研究者が自由にかつ楽しく語る。能楽や映画なども含め色々な芸術作品の味わい方の秘けつを伝授する芸術学への手引書。

ムーヴィング・イメージの世界は、今やデジタル・イメージを取り込んで拡大する。本書は、デジタル・イメージの今を展望するために、物語映画、スチル・イメージの展開と通底しつつメディア横断的な試みを続ける実験映像の起源と過去と今を凝縮した一冊。

現代映画をめぐる理論編、日本映画編、アニメーション映画編、外国語映画編、映画音楽編の各編において、先覚者の重鎮から、気鋭の若手研究者の傑出した論稿まで多彩に所収。各論者独自の視点から映像世界の広がりや照射し、見つめようとする試み。

アンドレア・グローネマイヤー 著
豊原正智・犬伏雅一・大橋 勝 訳

ワールド・シネマ・ヒストリー

1524-4 A5判・226頁・2,400円（本体価格）

映画の誕生から現代まで、その理論・技術・産業を歴史を軸に鳥瞰する本書は、映画を「映像メディア史」として読み解き、映画を学ぶ人、メディアを学ぶ人にとっての格好のテキストとなっている。多数の図版・ポスター・カットシーン・注釈を挿入。

ウォーレン・バックランド 著
前田 茂・要 真理子 訳

フィルムスタディーズ入門

—映画を学ぶ楽しみ—

1858-7 A5判・268頁・2,900円（本体価格）

映画制作上の専門的な技術用語や、映画研究の袋小路で待ち構える難解な理論と術語、あるいは映画史にまつわる瑣末な知識を交えることなく、映画作品が分かるとはどういうことかを丁寧に解説！

小山三郎・井上欣儒・牧野格子・山下未奈・
松倉梨恵・山下紘嗣・坂寄仁美 編

新編

台湾映画

—社会の変貌を告げる（台湾ニューシネマからの）30年—

2498-4 A5判・182頁・2,000円（本体価格）

台湾の映画や文学は、中国大陸の映画や文学とは、違った方向に発展してきている。アジアの映画が世界の映画祭で注目を集めている中で、本書は、ここ30年の台湾映画の動向に焦点をあて、映画が台湾社会の変貌を映し出していることを語ろうとしたものである。

歴 史

山本修作 著

天王寺屋五兵衛の事績

3244-6 A5判・230頁・3,500円(本体価格)

布施将夫 著

近代世界における広義の軍事史

—米欧日の教育・交流・政治—

3282-8 A5判・228頁・3,500円(本体価格)

小谷正典 著

明治日本と鉄道

—近代の鉄道政策の形成—

3283-5 A5判

近刊

上田耕造・入江幸二・比佐 篤・梁川洋子 編著

西洋の歴史を読み解く

—人物とテーマでたどる西洋史—

日本図書館協会選定図書

2431-1 A5判・204頁・2,100円(本体価格)

中村啓佑 著

異文化交流の歴史構想と展開

—Q & Aで学生参加型授業を目指す—

2241-6 A5判・280頁・3,800円(本体価格)

柳家重敏 著

「歴史とは何か」の歴史

2685-8 A5判・210頁・2,200円(本体価格)

G. G. イッガース 著

中村幹雄・末川 清・鈴木利章・谷口健治 訳

ヨーロッパ歴史学の新潮流

日本図書館協会選定図書

0306-8 A5判・370頁・4,175円(本体価格)

G. G. イッガース 著

早島 瑛 訳

20世紀の歴史学

0835-9 A5判・220頁・2,500円(本体価格)

有賀 寿 著

ヨーロッパとは

—パクス・ローマを遺産として継承するひとたち—

2182-2 A5判・194頁・2,300円(本体価格)

近世大阪の経済は両替商を基軸として発展してきた。株仲間体制ならびに問屋制機構が整えられ両替商経営が発達した大阪で、両替商・天王寺屋五兵衛は手形の流通を創始したとされる。本書はその天王寺屋五兵衛に関する覚書として構成するものである。

近代の軍事史を幅広く考えればどのような知見が得られるか。本書では、アメリカ・ドイツ・日本の陸海軍が19世紀の教育を通じてどう相互交流し、どのような政治的結末をなぜ迎えたのかを解明する。現代社会への影響も視野に入れた今日の意義をもつ意欲作。

本書の示す近代的鉄道政策の形成とは、近世以来の海運を前提に海港へ鉄道を敷設する政策から、官設・私設を併せた鉄道の連接によって全国的な輸送網を構築する政策への転換をいう。明治時代前期の鉄道政策を、「路線用語」(輸送体系における鉄道路線の役割)の変化に着目して解明する。

本書は、西洋の歴史の中で、ぜひとも知っておきたい人物を「人物と歴史」として古代から現代までの各時代で取り上げ、人物をもとに歴史を紐解き、「テーマ史」で活躍した時代とその背景を学ぶ。歴史を立体的に捉えることにより、「暗記する歴史」から「考える歴史」を目指す今までに無いテキスト。

第一に、講義「異文化交流の歴史」がどのように変化・成長して今日に至ったかを具体的に示し、第二に質問一回答を軸とする実践例を示し、この具体的方法に基づいた教育理論を展開した。

歴史叙述、史学概論、歴史理論の史学史を日本と世界の文化交流の視点から検討。第I部「東アジアと日本」では歴史と道徳、「西欧と日本」では歴史と科学の関係がポイント。第II部「史学概論と歴史理論」では日本の近代歴史学の特徴と問題点を重要著作の解題で解明。

伝統的歴史学の危機／歴史主義から「歴史社会科学」へ／マルクス主義と近代社会史／最近のアメリカ社会史の傾向など、イッガースの史学史的研究についての集大成。欧米の歴史的社会科学の基礎づくりを紹介するとともに、歴史研究のあり方と方向性を示唆する。

ここ30年ほどの間に歴史についての考え方が大きく変化し、「歴史は虚構にすぎない」など、極端な発言もきかれるようになった。これに対し、著者は20世紀の歴史学と歴史思想の諸潮流をたんねんに考察し、歴史の今日的な意味を分かりやすく説明する。

本書は5000年をかけ築かれてきた聖書的な伝統を踏まえて成立したキリスト教を全体として把握するため、序論でその方法論を解明、本論でキリスト教をイスラムとの深いいかわりを追求しながら、その両者融和の可能性を探ってみたものである。

入江幸二・大城道則・比佐 篤・梁川洋子 編著

ヨーロッパ史への扉

1720-7 A5判・210頁・2,100円(本体価格)

森 宜人・石井 健 編著

地域と歴史学

—その担い手と実践—

2930-9 A5判・276頁・5,000円(本体価格)

笠井俊和 著

船乗りがつなぐ大西洋世界

—英領植民地ボストンの船員と貿易の社会史—

2893-7 A5判・330頁・4,700円(本体価格)

W. D. ルーピンスティン 著

藤井 泰・平田雅博・村田邦夫・千石好郎 訳 †

衰退しない大英帝国

—その経済・文化・教育：1750—1990—

0929-5 A5判・282頁・3,300円(本体価格)

平田雅博 著

ウェールズの教育・言語・歴史

—哀れな民、したたかな民—

2716-9 A5判・216頁・2,300円(本体価格)

平田雅博 著

内なる帝国・内なる他者

—在英黒人の歴史—

1532-6 A5判・312頁・3,500円(本体価格)

マイケル・サンダーソン 著

安原義仁・藤井 泰・福石賢一 監訳

イギリスの教育と経済衰退

—1870年から1990年代まで—

2106-8 四六判・222頁・2,500円(本体価格)

西村雅樹 著

世紀末ウィーン文化探究

—「異」への関わり—

日本図書館協会選定図書

2055-9 四六判・256頁・2,800円(本体価格)

加藤善夫 著

ヤコブゾーンの生涯

—劇評家からジャーナリストへ—

日本図書館協会選定図書

2487-8 A5判・240頁・3,000円(本体価格)

東出 加奈子 著

海港パリの近代史

—セヌ河水運と港—

2979-8 A5判・226頁・3,400円(本体価格)

今のヨーロッパを知るためには、過去の歴史を踏まえなければその本質に迫ることは出来ない。通史によって歴史的経過を把握し、諸処のトピックを取り上げたテーマ史により、ヨーロッパを様々な側面から理解することが出来る本書は、ヨーロッパ史入門書として最適であろう。

歴史学の通奏低音をなす地域史研究。そのあり方を、地域史研究をはぐくむ土壌となった社会的環境、歴史記述における地域像・地域概念の創造過程、そして方法論としての地域史の確立に寄与した歴史家に光をあてつつ、西洋史学の視座より史学史的に問い直す。

海運とともに発展した英領植民地アメリカ。その港町ボストンの貿易の構造を、商船の移動経路や船乗りの役割に注目して究明する。海運記録から構築した独自のデータベースを駆使して、積荷の売買から情報伝達までを担った、帆船時代の貿易のあり方を描き出す。

イギリス「衰退」論への反証の書。19世紀末以降イギリスは「反産業精神」により衰退したのではなく、「商業・金融経済」への過程を現実的に認識して理性的に適応していった。これを、独・日・米との比較研究に基づいて主張。ジェントルマン資本主義論のイギリス国内版。

強大なイングランドの隣人だったばかりに辛酸をなめたウェールズの歴史を、一九世紀を中心に英語教育の観点から見る。ウェールズの人々はけっして「哀れな民」にとどまったわけではなく、果敢に抵抗しさらに帝国に活路を見出す「したたかな民」でもあった。

†イギリスの歴史を、未踏の人種の観点(非白人とりわけ黒人)から再検討。在英国人の存在と在英国人に対する意識について、シェイクスピアの同時代から今日まで、広範な「大西洋の枠組み」と「イギリス帝国史」の観点から、多数の原資料に即して、縦横に論じる。

1870年から1990年代のイギリスを対象に、初等教育から高等教育に至る学校・大学における教育や徒弟制を含む様々な形態の教育に目を配りつつ、同国の経済衰退と教育の間とのような関係があったのか、多くの先行研究と論争を整理しつつ検討する。

第2次大戦後の台本改訂における問題点の指摘、音楽家マラーの精神性と対比を含む『オーバーアマガウ受難劇』、クリムトラにより結成された「分離派」による「日本美術特集展」に対するバールの批評家の反応を通し、日本への関心のあり方を探った。

帝政一大戦・革命一共和国の成立という激動の時代を生き、独力で雑誌を刊行したヤコブゾーン。誌を共和主義的な左派知識人が執筆するまでに発展させ、軍部の策動、反動的な司法、反共和制的な風潮、言論弾圧を糾弾したその生涯を追う。

19世紀に入り、パリは人口増加が加速するにつれて、食料や生活物資補給を大量に輸送することが必要になっていった。セヌ河において河川、運河、港、河岸を結ぶ交通網の整備が進められる。パリの港では増加する船をどのように受け入れていったのであろうか。河川整備が進められる過程を検証する。

上田 耕造 著

ブルボン公とフランス国王

—中世後期フランスにおける諸侯と王権—

2507-3 A5判・250頁・3,600円(本体価格)

レオナルド・ブリュッセイ 著
深見純生・藤田加代子・小池 誠 訳**竜 と み つ ば ち**

—中国海域のオランダ人400年史—

1932-4 A5判・254頁・2,800円(本体価格)

キャサリン・クリントン 著
廣瀬典生 訳**自 由 へ の 道**

—逃亡奴隷ハリエット・タブマンの生涯—

3146-3 A5判・480頁・7,000円(本体価格)

井内 敏夫 編著

ロシア・東欧史における国家と国民の相貌

2906-4 A5判・248頁・3,800円(本体価格)

宮本 英 征 著

**世界史単元開発研究の
研究方法論の探究**

—市民的資質育成の論理—

2976-7 A5判・436頁・9,900円(本体価格)

川島 真・中村元哉 編著

中華民国史研究の動向

—中国と日本の中国近代史理解—

3118-0 A5判・440頁・4,500円(本体価格)

松本 保 宣 著

唐王朝の宮城と御前会議

—唐代聴政制度の展開—

1771-9 A5判・386頁・3,800円(本体価格)

秦 源治・劉建輝・仲 万美子 著

大 連 と こ ろ ど こ ろ

—画像でたどる帝国のフロンティア—

3049-7 B5判・274頁・3,500円(本体価格)

松田吉郎・新地比呂志・上谷浩一 編著

**中国の政治・文化・産業の
進展と実相**

2620-9 A5判・256頁・2,800円(本体価格)

高橋 庸一郎 著

中国文化史上における漢賦の役割

—付楽府詩論—

2198-3 A5判・328頁・5,500円(本体価格)

中世後期のフランスで活躍した有力諸侯のひとりであるブルボン公。公は時に国王の助言者となり、時に反乱の首謀者となった。彼の行動を通して、従来の王権を中心とした中世後期フランス史を捉え直し、この時代特有の王権と諸侯との関係を浮かび上がらせる。

東南アジアの海世界を舞台とし、中国人とオランダ人がその利権をめぐる対立。商人が海賊・国家でもあった17世紀から、茶とアヘンが世界を動かし時代、戦争と革命の世紀を経て現代へと、緊張した関係から新たな文明が生まれ、もう一つの世界史を明らかにする。

逃亡奴隷として自由の地に渡ったハリエット・タブマンは、自ら逃亡支援の秘密組織「地下鉄道」の先導者となり、また南北戦争ではスパイとして北軍の勝利に貢献した。戦後は女性権利獲得運動を支援し、そして何よりも、不幸な運命を背負った黒人同胞のための福祉施設建設に命をささげた。本書は南部史家による、そのような黒人女性の伝記である。

日本のポーランド史研究を代表する井内敏夫の下で育ったロシア・東欧史研究者が、近世史と近現代史を架橋し、国家構造と国民・民族・エトノスとを両輪のごとく論じることを通じて、現代歴史学の諸課題への応答を試みる。

科目世界史において市民的資質を扱う世界史教育論、世界史授業論、世界史評価論を体系的に研究し、学習者が主体的に国家や社会に関わるように語用論に基づく世界史教育研究方法論を解明し、個々の学習者が歴史との関係を再構築し、歴史を語れるようにした。

日本の中国研究の特徴の一つは近現代史の流れのなかから現代の動向を読み解こうとすることにある。もしそのような評価が妥当であるとするならば、現時点で日本の中国近現代史研究を中間的であれ総括し、この特徴を今後の研究の発展に活かすことが必要なのではないか。この特徴の意義と魅力を次世代を担うはずの中国近現代史研究者と一緒に考えるために編んだ一冊。

唐帝国の最高レベルの統治集団、すなわち皇帝と宰相・大臣達が政策を論議し、決定する過程であった御前会議の制度を取り上げ、その変遷をたどることにより、唐王朝の政治と、その中枢部である宮城の構造の変容を考究した、政治史と都城史の接点となる研究。

大日本帝国時代の大連での実生活者と、現代において大連を見つめ続ける研究者が一体となり植民地時代の大連の諸相に迫る！ 現地への記憶と記録に約350枚の画像資料を重ね合わせたかつてない意欲的な一冊。

史訪会会員による中国史の共同研究の成果を問う。研究分野としては、「政治」「文化」「産業」であり、時代的には、三国時代から解放直後までの論文集である。通説から一步踏み込み、実証的な新たな視座を求め、中国社会を進展と実相という観点で史的考察を試みた。

漢代の賦の発生発展に随って中国絵画の基礎が築かれ、碑文書法芸術が確定し、吟唱芸術が生まれた。さらに重要なのは、賦の発展が後世の文芸の為に多くの新たな漢字や難解語を含めて、多くの語彙を準備した点である。漢賦は中国古代の、そして現代文化の基礎でもある。

菅原慶乃著

映画館のなかの近代

—映画観客の上海史—

3132-6 A5判・300頁・4,500円(本体価格)

齋藤尚文著

鈴木商店と台湾

—樟脳・砂糖をめぐる人と事業—

2833-3 A5判・306頁・4,800円(本体価格)

楠家重敏著

ジャパノロジーことはじめ

2926-2 A5判・298頁・3,400円(本体価格)

楠家重敏著

幕末の言語革命

2806-7 A5判・220頁・2,400円(本体価格)

川端正久著

伊藤茂七と大阪砂糖商

2945-3 A5判・194頁・2,200円(本体価格)

公益社団法人大阪港振興協会・大阪港埠頭株式会社 監修 森 隆行 著

市民の港 大阪港一五〇年の歩み

—大阪港は市民のたからもの—

2917-0 四六判・186頁・1,700円(本体価格)

庵 功雄著

留学生と中学生・高校生のための

日本史入門

—信長から安保法案まで—

2719-0 A5判・134頁・1,800円(本体価格)

近藤 佐知彦 著

天皇ヒロミチとその時代

—逆説的天皇論の試み—

1996-6 四六判・198頁・2,200円(本体価格)

北垣宗治著

オーテス・ケーリの生涯

3076-3 A5判・166頁・1,800円(本体価格)

中国映画のかつての中心地・上海を軸として、中国における映画観客の成立を紐解く。観客の映画鑑賞習慣やマナーを実証的に明らかにするのみならず、「良き映画観客」の成立が「良き国民」の創出といかに同期していたかを読み解き、この点において広く東アジアの映画観客史とも共有可能な問題を提起する。

三井・三菱とならぶ世界的商社へと急成長した鈴木商店は、台湾進出を契機に巨大な資本蓄積・事業拡張を遂げた。本書は進出目的となった樟脳業と最大の事業であった製糖業に焦点をあて、これまであまり語られてこなかった台湾における鈴木商店の事業展開を明らかにする。

日本最初の学術研究団体である日本アジア協会。日本文化百般を研究する学会の忘れられたジャパノロジストたちの姿をよみがえらせる試み。明治前期の在日西欧人の目に映った日本の姿を再現し、明治前期の理解に新たな視点を提供、日本文化理解の一助とする。

幕末の言語革命はペリー来航に始まり、幕府崩壊で閉幕する。和親条約で蘭語と中国語が注目され、修好通商条約で英語が外交用語となる。日本人は蘭学から英学に転換。英国外交官は日本語学習に力を注ぎ、仏国外交官は仏語に固執する。言語革命は時代の基層。

明治期大阪砂糖商の寵児となった二代伊藤茂七は大阪と東京の二製糖会社を合併し、日糖成立の立役者となった。日糖事件に遭遇したが、日本の実業家として成長し、生涯、船場商人道を貫いた。波乱に満ちた伊藤茂七の軌跡を追究した大阪砂糖商史研究の嚆矢。

2017年、開港150年を迎えた大阪港。なぜ大阪港は「市民の港」と呼ばれるのか？ その理由を150年の歩みとともに詳しく解説するとともに、コンテナ化に伴う大変革の中で、関係者が大阪港発展のためにいかに尽くしてきたかを詳述していく。

「今の日本」はどのようにできたのでしょうか。歴史は「暗記物」ではなく、「今」と直接関わるものです。この本では、室町時代から安保法制までの日本の歴史を、多くのコラムなどを使い、等身大の人間の話として、留学生、中学生、高校生向けに紹介しました。

† 価値顛倒の戦後日本。昭和天皇が正統性を再確立していく一方、ニセ者として抹殺された「もう一人の天皇」がいた。神の子から人間へと変身する昭和天皇と、嗤われ、忘れられ、そして折に触れて茶化される熊澤天皇との対比に、戦後天皇制の仕組みが垣間見える。

敗戦後の同志社大学を支援するため、アーモスト大学から派遣されたオーテス・ケーリの生涯を綴る。日米二つの文化に根を下ろした教育者として、また新島襄前週の編纂といった歴史家としての、その姿を記す。

伝記

安西敏三編著

現代日本と平生 平生 三郎

2623-0 A5判・290頁・2,500円（本体価格）

ライフヒストリー研究所 編著

石中の火, 木中の花

—藤井日光法主評伝—

ライフヒストリー研究叢書 1

1433-7 A5判・218頁・2,000円（本体価格）

池田善昭・加國尚志 編著

我心深き底あり

—西田幾多郎のライフヒストリー—

ライフヒストリー研究叢書 3

1606-2 A5判・240頁・2,900円（本体価格）

ライフヒストリー研究所 編著

闇市から来た

反一哲学者—木田元論

ライフヒストリー研究叢書 4

1993-5 四六判・198頁・1,800円（本体価格）

「自由にして個性を尊重し人物を作る」。旧制甲南高等学校を創立した平生三郎は、教育界、実業の世界や政財界、社会事業の世界に、その偉才を発揮してきました。この知られざる大物の軌跡を描き出し、現代に生きる視座を提供します。

† 日蓮宗総本山身延山久遠寺九十一世法主である藤井日光師の生涯をたどり、その思想を多面的に紹介する。世界に開かれた宗教を唱導し活躍する藤井師の評伝は、混迷の時代に生きる我々に指針を与えるに違いない。ライフヒストリー研究叢書の記念すべき第一冊目。

西田幾多郎の思想研究が彼の悲しき心、偲ばれる心に留まるものとすれば、それは生活地平を意味する「バイオグラフィ」でしかないであろうが、彼の底深き心にまで届くものとすれば、それは生活の奥行きを意味する西田幾多郎の「ライフヒストリー」である。（緒論より）

なぜ『眼と精神』は名訳となり得たのか。なぜ、木田元の哲学は人をひきつけてやまないのか。その秘密のカギは波乱万丈の彼の人生そのものにあった。高校生からでも読めるような、わかりやすく読めるエッセイ調での書き下ろし。

地 理

木村光伸著

改訂版

地 域 生 態 論

2708-4 A5判・228頁・2,500円(本体価格)

地域という概念は生活の社会的な単位であると同時に具体的な暮らしの場を意味する。結果として相互扶助的に見える地域生態系とそこに暮らす個性的な文化を持った人間、日本・中国辺境・アマゾンなどでの体験から地域的自然と文化的環境を生態学的に捉えた地域像が明らかにされる。

江口信清編著

総合的現象としての観光

1641-0 A5判・200頁・2,000円(本体価格)

観光に関する研究は、まだ緒についたばかりである。本書では、観光が総合的現象であるとの観点から、地理学、社会学、文化人類学、農業経営学、考古学、ジェンダー論、エコツーリズムの分野の最新研究動向を踏まえた論考を所収した観光学の入門書。

野尻 亘・古田 昇 著

世界市民の地理学

1708-5 B5判・212頁・2,900円(本体価格)

中学・高校で地理を学習する機会がなかった大学生を対象にしたわかりやすい地理学入門書。地理学史・人文・自然・経済地理全般を網羅し、教員採用・公務員一般教養試験対策参考書を兼ねるとともに、地理学方法論の最新領域の議論について紹介する。

国際関係

閻 学通 著 姜 春潔 訳

歴史の慣性

—これからの中国と世界 2013-2023—

3160-9 A5判・224頁・3,000円(本体価格)

島村直幸著

国際政治の〈変化〉を見る眼

—理論・歴史・現状—

3215-6 A5判・314頁・3,400円(本体価格)

落合雄彦編著

アフリカ安全保障論入門

3144-9 A5判・332頁・3,000円(本体価格)

戸田真紀子・三上貴教・勝間 靖 編著

改訂版

国際社会を学ぶ

3276-7 A5判・322頁・2,800円(本体価格)

松久玲子編著

国境を越える

ラテンアメリカの女性たち

—ジェンダーの視点から見た国際労働移動の諸相—

3248-4 A5判・262頁・2,500円(本体価格)

庄司真理子・宮脇 昇・玉井雅隆 編著

改訂第1版

新グローバル公共政策

2748-0 A5判・256頁・2,500円(本体価格)

松下 冽・山根健至 編著

共鳴するガヴァナンス空間の 現実と課題

—「人間の安全保障」から考える—

2473-1 A5判・304頁・3,000円(本体価格)

水本有香著

途上国研究

—法と開発、ガバナンス、市民社会—

2449-6 B5判・124頁・2,000円(本体価格)

カルロス・エステベス/カルロス・タイボ 編著
大津真作訳

反グローバリゼーションの声

2490-8 菊判・280頁・2,900円(本体価格)

中国の成長がアメリカに迫り二極体制となるなか、欧州は成長力を失い、世界の中心は東アジアに移動する。中国とアメリカの対立は、危険水域にまで高まるなか、安全保障の戦略的パートナーと経済協力による友好国の獲得を競う世界が訪れる。中国を代表する国際政治学者 閻学通が読み解く中国の10年と世界の行方。

国際政治の〈変化〉はいかにもたらされるのか、その〈変化〉をどのように捉えることができるのか、分析にあたって不可欠なのは、〈変化〉がどのレベルの変化なのかを見極めることである。国際関係論の理論動向をたどり、その歴史と現状を精緻に、バランスよく考察する。

紛争予防、平和構築を実現するには何が必要か、人びとの暮らしを脅かす多様化する「暴力」の中で、国家や社会の安定、人びとの安全を求め、アフリカの安全保障課題にさまざまなアプローチから迫る。

本書は「アイデンティティ」「地球文化」「国際協力」の3つの視点から、具体的に事例を用いて持続可能な開発を進めようとする「国際社会」を追究する。そして「人類益」の実現に向けて、「国家中心」でなく「人間中心」の新しいグローバル社会を提起する。

ラテンアメリカ地域の「南」から「南」、「南」から「北」への国際労働移動における様々な事象をジェンダーの視点から読み解く。現代ラテンアメリカの移民問題とジェンダー。

今日の越境する問題群に対し、地球規模で考える「グローバル公共政策」という新たな視座を提示。地球社会の公共政策を国際機構、国家、NGO、CSO、企業などさまざまなアクターによる政策決定の過程、実践の道程から探る。各章末では、アクティブラーニングにも利用できるQ&Aを設ける。

水、情報格差、知的所有権、人身売買、越境型暴力、移民、民主化……国境を超え、リージョナルかつグローバル化する深刻な問題群の拡散を人類は規制できるのか？ 本書は「人間の安全保障」の視点、市民の立場から民主的なガヴァナンスを重層的・多角的に構築することを考える。

本書は、途上国について地球規模の視野で考えることを目的とし、実践編では、スポーツ・法文化・難民・自然災害など10のテーマに沿って、途上国と日本(のローカル)の双方から途上国への理解を深め、理論編で途上国の現状分析を試みる。

イラク戦争下で中南米・欧米から湧き起る反グローバリゼーションの声を集めたスペイン国営TVインタビューでの哲学者A.ネグリ、ノーベル文学賞受賞者のJ.サラマーゴら著名人の発言を収録。資本主義的グローバリゼーションが引き起こす数多くの危険な事態を分かり易く解説。

アラン・ハンター 著
佐藤裕太郎・千葉ジェシカ 訳

人間の安全保障の挑戦

2804-3 A5判・226頁・2,500円(本体価格)

大泉常長 著

激動の欧州連合(EU)の移民政策

—多文化・多民族共生の限界とイスラム過激派組織によるテロリズムの脅威—

2810-4 A5判・226頁・2,600円(本体価格)

落合雄彦・金田知子 編

アフリカの医療・障害・ジェンダー

—ナイジェリア社会への新たな複眼的アプローチ—

1823-5 A5判・270頁・3,300円(本体価格)

落合雄彦 編著

アフリカの女性とリプロダクション

—国際社会の開発言説をたおやかに超えて—

2696-4 A5判・306頁・3,800円(本体価格)

大林 稔・石田洋子 編著

アフリカにおける貧困者と援助

—アフリカ政策市民白書2008—

2085-6 A5判・312頁・2,800円(本体価格)

烏雲高娃 著

1930年代のモンゴル・ナショナリズムの諸相

—満洲国の内モンゴル「知識人」の民族意識と思想—

2946-0 A5判・346頁・7,600円(本体価格)

伊藤秋仁・住田育法・富野幹雄 著

ブラジル国家の形成

—その歴史・民族・政治—

2604-9 A5判・260頁・3,200円(本体価格)

初瀬龍平・松田 哲・戸田真紀子 編著

国際関係のなかの子どもたち

2668-1 A5判・278頁・2,700円(本体価格)

西川佳秀 著

マスター 国際政治学

2870-8 A5判・238頁・2,700円(本体価格)

西川吉光 著

テキストブック 国際政治学

2440-3 A5判・220頁・2,500円(本体価格)

1993年に提唱されて以来、人間の安全保障は国家が国民の安全を保障する責任を負うという国際社会の常識に異議を唱えてきた。人が「善く」生きるために本当に必要なことは何か。環境問題、ビジネス、開発援助などあらゆる側面から英国の平和学研究者が解説する。

欧州全土に広がるテロの脅威。ホームグラウンテロリストを生む土壌は欧州の移民政策にあった。本書は、深刻化する欧州の移民・難民問題、活発化する極右勢力による移民排斥運動や人種差別など、激動する欧州連合の現在と過去を考察し、日本の将来を考える。

アフリカ、特にナイジェリア社会のなかで、病気、障害、差別といった困難を生きる普通の人々の〈生〉とその周辺の問題を複眼的に考察。精神障害や性差別などを生きる当事者の声を収録し、それらを考察に反映させた、まったく新しいアフリカ社会研究の試み。

国際社会の開発言説の影響を強く受けながらも、それをたおやかに超え、みずからのリプロダクションのいまをひたむきに生きるアフリカの女性たち。彼女たちの生活世界の諸相を複眼的に活写する。

アフリカの報道は増え、援助もアジアからアフリカへの転換が進んでいる。しかし、どんな援助がアフリカの貧困者に役立つのか、実はわかっていることは少ない。本書は、アフリカの貧困者の視点に立ち、開発の主体は貧困者自身であることを明らかにし、日本が果たせる役割を提言する。

満洲国・日本を通じて思想形成した内モンゴル「知識人」の軌跡を考察し、満洲国・日本を介した教育・出版事業の振興、新しい啓蒙思想や経済・軍事思想などの受容を通じて、民族の自立を模索しようとする内モンゴル「知識人」たちの民族意識を検討した。

グローバル経済で重要な地位を占めるようになり、大国へと成長を続けるブラジルの歴史・政治を辿ると共に、移民・奴隷制に起源をもつ人種の階層による経済格差・社会的不平等の問題を直視する。

貧困に苦しむ子ども、戦争に苦しむ子ども、搾取される子ども—世界中で脅かされる子どもの権利。子どもたちを苦しめる国際関係とは？ 子どもたちを救う取組みとは？ 子どもの尊厳を守るために私たちが学ぶべきこと。

冷戦終焉後における国際政治の潮流やその構造的特性を解析し、冷戦後世界の姿を浮かび上がらせるとともに、近時の国際情勢を踏まえて世界各地域の政治・軍事・経済情勢と抱えている諸問題、そして将来に向けた展望を概説した。

本書は、冷戦終焉後における国際政治の潮流やその構造的特性を解析し、冷戦後世界の姿を浮かび上がらせるとともに、世界各地域の政治・軍事・経済情勢と抱えている諸問題、そして将来に向けた展望を概説する。

西川吉光 著

国際平和協力論

1590-2 A5判・246頁・2,900円(本体価格)

高原孝生 編著

戦争をしないための8つのレッスン
—二十一世紀 平和学の課題—

2710-7 四六判・220頁・2,100円(本体価格)

西川吉光 著

日本の外交戦略

—歴史に学べ海洋国家日本の進路と指針—

2395-6 A5判・232頁・2,500円(本体価格)

池尾靖志 編著

戦争の記憶と和解

1779-4 四六判・196頁・1,800円(本体価格)

池尾靖志・伊波洋一・井原勝介 著

地域から平和をきずく

—オキナワ・イワクニからみた日本—

2202-7 A5判・190頁・1,800円(本体価格)

池尾靖志 編著

**第2版
平和学をつくる**

2546-2 A5判・270頁・2,600円(本体価格)

小林 泉 著

地域研究概論

国際学シリーズ 1

1360-8 A5判・212頁・2,000円(本体価格)

佐古 丞 著

変容する国際政治

国際学シリーズ 2

1422-1 A5判・196頁・2,000円(本体価格)

広野好彦 著

日本外交史ノート

国際学シリーズ 3

1510-4 A5判・222頁・2,400円(本体価格)

島岡 宏・白井元康 編

国際関係を生きる

—教育する国際学—

国際学シリーズ 4

1514-7 A5判・190頁・2,000円(本体価格)

最新の戦争・軍事研究の成果や潮流を踏まえ、国際国家日本のめざすべき国政策という観点から、国際平和と紛争解決、そして平和貢献のアプローチを論じた。世界平和実現のアプローチ・行動的平和主義へと脱皮するための一里塚となる書。

深い洞察力の下、坂本義和、武者小路公秀、浅井基文といった平和学・政治学の泰斗たちが、われわれが直面する「平和学の課題」を浮き彫りにする。同時に、どのような未来を構築していくのかを検討して、「主体」としてのわれわれのあり方を問うている。

日本外交の歩みを膨張と萎縮の周期過程と捉え、そのような日本外交の構造特性と問題点及び克服の手法を探る。そのうえでアメリカの衰退や中国の台頭など我が国を取り巻く厳しい国際情勢の中で海洋国家日本が生き残るための外交戦略と国家再生の途を考察する。

戦争の記憶が風化する今日、過去の戦争を今の若者がどのように受けとめているのか、なぜ過去の戦争の記憶が「歴史問題」になるのかを明らかにするとともに、今なお続く戦争によって心の傷を負った人どうしをどのように和解に導くのか、その可能性を探る。

在日米軍基地による抑止力を主張し、日米安保の矛盾をひた隠し、なんら真実を説明することのない日本政府の政治手法は、国民に対する裏切りとさえいえる。市民の日常生活における安全を求める戦いのため、地域から平和を築き上げていく手がかりを提供する。

多難を極める国際情勢のなか、直接的／構造的／文化的にもたらされる社会的弱者への暴力性を明らかにし、複雑化する社会を読み解く手がかりを提供する。「地球市民」としてなができるのかを国家や国境の枠に囚われることなく考え、社会変革を志向する平和学を推し進めるための1冊。

現代の地域研究とは何か？ 国際関係理解の基礎となる地域研究の意義と方法論を、文化、民族、宗教、さらには国民国家などの促え方をとおして、平易な事例で解説する。これにより、従来の外国研究と地域研究の違いが鮮明に浮かび上がることになった。

激動する現代の国際政治を考える上で、「東アジア国際体系」、「イスラーム国際体系」、「西欧国際体系」という異なった原理で構成される三つの国際体系の併存時代から説き起こしたのも、冷戦後の新しい国際秩序を抱える問題を、文明史的な視点も交えて考察した書。

本書は第一次世界大戦から現代に至る日本外交史の概説である。国際協調を目指すが果たせず、現状打破をはかるも太平洋戦争で敗れ、戦後復興を経て経済大国になる日本の歩みを、平易な表現で記述し、注釈を多用するなど入門者に配慮した工夫がなされている。

今日直面する人類的諸課題は、人間不在を思わせる。人びとは、国際関係を「生きている」のか、「生かされている」のか。教育する国際学は、グローバルにかわるローバルな発想から、「国際関係を生きる」本質について、21世紀の地球人に新たな視座を提供する。

久保田 賢一・浅野英一 編著

ライフストーリーでつづる 国際ボランティアの歩き方

2043-6 A5判・160頁・1,500円（本体価格）

本書は海外でのボランティア活動を考えている人を対象に、その実際と帰国後の生活を11人の体験者がライフストーリーとして綴り、キャリア形成のための一助となることをねらいとして編集。チャレンジとステップアップのきっかけを提供する。

岡 伸一 著

欧州社会保障政策論

—社会保障の国際関係論—

2737-4 A5判・222頁・2,500円（本体価格）

本書は国内政策に終始しがちな社会保障論を広く国際関係論の一環として捉えなおす意欲作である。社会保障はもはや一国内で完結しない。EUと欧州評議会の社会保障政策を比較考察しつつ、欧州を一つの舞台として各国の社会保障の相互関係を強調している。

山本武信 著

アメリカ型市場原理主義の終焉

—現代社会と人間のゆくえ—

阪南大学叢書

2018-4 A5判・292頁・3,000円（本体価格）

冷戦後、アメリカ型市場原理主義が世界を席卷して約20年。自由放任の競争原理は経済の活性化とともに、食品偽装や金融崩壊など多くの矛盾を生み出した。本書は地球ホスピス論の視点から現代社会の実相と構造を解き明かし、自足と共生へのシナリオを提示する。

山本武信 著

国際関係とメディアクライシス

—地球共生コミュニケーションの座標軸—

阪南大学叢書

1820-4 A5判・286頁・3,500円（本体価格）

文明の共生に向けてメディアは何をなし得るのか？「地球時代のコミュニケーション」という視点から現代世界の深層を多角的に解明、マクロ危機の構図を浮き彫りにするとともに、メディア危機の諸相を具体的に分析し、共生社会への道を提示した警世の書。

政 治

酒井啓子 編著

現代中東の宗派問題 —政治対立と「宗派化」と「新冷戦」—

3193-7 A5判・282頁・3,800円(本体価格)

中東「新冷戦」と呼ばれる現状の原因を、人々は当たり前のようにシーア派・スンナ派間の「宗派対立」だとみなしているが、それは本当だろうか？ その文化決定論を疑い、根拠にある歴史的・政治的要因や域内関係、国際関係の影響から、中東紛争の本質を解きほぐす。

河村有教 編著

台湾の海洋安全保障と制度的展開

3180-7 A5判・310頁・3,600円(本体価格)

日台漁業取決め、尖閣諸島、台湾の領海制度と台湾海峡を挟んでの中国との問題、フィリピンと中国との間の南シナ海仲裁裁判が台湾に与える影響、台湾への密航・密輸犯罪の問題、台湾の海上法執行機組織及びGPS捜査や海上デモの取締りなど、日台研究者が台湾の「海洋問題」について、法学・政治学の観点から分析する。

李玲珠 著

韓国認知症政策のセオリー評価

3211-8 A5判・204頁・3,500円(本体価格)

認知症高齢者が生活するうえで抱えているニーズが認知症政策にどれだけ反映されているのか。韓国「第3次痴呆管理総合計画(2016~2020)」によって実施されている取り組みの状況を、セオリー評価の理論枠組みにもとづいて検討。

有賀 誠 編著

徳 と 政 治 —徳倫理と政治哲学の接点—

3164-7 A5判・282頁・3,100円(本体価格)

西洋と東洋において徳がどのように理解されてきたのかを思想的に考察した第一部と、徳という概念が政治を中心にした諸領域にどのようなインパクトをもたらすかを考察した第二部を通じて、本書は徳のポテンシャルを最大限に引き出そうと試みている。

永井史男・岡本正明・小林 盾 編著

東南アジアにおける地方ガバナンスの計量分析 —タイ、フィリピン、インドネシアの地方エリート・サーベイから—

3246-0 A5判・244頁・3,800円(本体価格)

東南アジア主要3カ国(タイ、フィリピン、インドネシア)の地方エリート・サーベイを計量的に分析した画期的成果。類例がない規模の調査により、政治王国、社会関係資本、住民参加など、東南アジアの地方ガバナンスの諸側面を縦横に論じた11本の論考。

小堀真裕 著

英国議会「自由な解散」神話 —解釈主義政治学からの一元型議院内閣制論批判—

3252-1 A5判・238頁・2,800円(本体価格)

これまで定説とされてきたイギリスの「一元型議院内閣制」と「自由な解散」は、フランス憲法大家を信じ十分に検討されることなく日本に定着した神話であった。日本の憲法学者によって長らく語られてきた「神話」を日仏英の方法論的な違いに着目し、解釈主義アプローチから批判的に検証する。

鏡 圭祐 著

行政改革と行政責任

3265-1 A5判・198頁・2,800円(本体価格)

行政責任論の概念を通じて、日本と先進各国による行政改革の歴史及び日本における庁の設置の歴史を考察する。この考察を通じて、行政学において戦後から現在まで多くの先行研究が蓄積されてきた行政責任論の意義の再検討を試みる。

渋谷典子 著

NPO と 労 働 法 —新たな市民社会構築に向けたNPOと労働法の課題—

3206-4 A5判・212頁・2,700円(本体価格)

実践での気づき、矛盾、疑問を手がかりに、「NPO活動者」という概念を創出し、NPOが抱える、従来の法的枠組みでは対処できない課題を浮き彫りにする。ジェンダー視点、ボランティアにも論点を置き、労働法を導きとして課題解決に向けた方向性を示唆する。

菅 英輝 編著

競合する歴史認識と歴史和解

3277-4 A5判・338頁・4,800円(本体価格)

歴史問題の和解を促進していくには、「歴史問題」を相対化し、異なる歴史認識をもつ者同士が互いに反対論のうちに共通点を求め、「歴史問題」を和解に導く努力を継続していくことが重要である。本書では、歴史問題における国家のパワー・バランス、市民社会相互の交流、歴史和解に関するドイツ・モデルの検討から、和解へのアプローチを模索する。

小笠原 欣幸 著

台湾 総 統 選 挙

3271-2 A5判・358頁・2,800円(本体価格)

大串和雄 編著

21世紀の政治と暴力

—グローバル化、民主主義、アイデンティティー—

2598-1 A5判・272頁・3,800円(本体価格)

堀江正伸 著

人道支援は誰のためか

—スーダン・ダルフルの国内避難民社会に見る人道支援政策と実践の交差—

3109-8 A5判・258頁・5,200円(本体価格)

月村太郎 編著

地域紛争の構図

日本図書館協会選定図書

2401-4 A5判・312頁・3,000円(本体価格)

上久保 誠人 著

逆説の地政学

—「常識」と「非常識」が逆転した国際政治を、英国が真ん中の世界地図で読み解く—

3024-4 A5判・266頁・2,800円(本体価格)

戸田 真紀子 著

貧困、紛争、ジェンダー

—アフリカにとつての比較政治学—

2631-5 A5判・274頁・3,000円(本体価格)

ロバート・コヘイン 著
石黒 馨・小林 誠 訳

覇権後の国際政治経済学

1003-X A5判・362頁・4,500円(本体価格)

松下啓一・瀬島 誠 編著

18歳の政治学

2060-3 A5判・232頁・2,400円(本体価格)

ラルフ・ダーレンドルフ 著
加藤秀治郎・檜山雅人 編・監訳
増補版

政治・社会論集

—重要論文選—

1782-4 四六判・286頁・2,800円(本体価格)

古田雅雄 著

現代政治イデオロギー序説

—現代政治をどのように理解すればよいのか—

2626-1 A5判・322頁・3,000円(本体価格)

本書は、1996年の第1回から2016年の第6回まで全選挙のプロセスと結果を分析。統一/独立の争点から米中の綱引きに到るまで選挙の諸要因を整理し、総統選挙が映し出す台湾政治の変動、そして、台湾の民主主義がたどってきた路を明らかにした。

グローバル化の下で、内戦、テロリズム、越境組織犯罪、国家による弾圧などの暴力に揺れる現代世界。中東、アフリカ、アジア、ラテンアメリカなど、世界各地におけるアイデンティティと暴力の絡み合い、犯罪と市民社会、紛争後の課題を、日本を代表する第一線の研究者が分析。

世界各所で勃発する紛争、そこから国境を越え避難する難民の保護が国際社会の課題となっている。では、国境を越えず国内で避難する人びとはどう保護し、支援すればよいのか、国内避難民が避難生活を続けるキャンプにて、彼らの日常生活や社会から考える。

現在国際政治において解決が求められている課題のひとつ、地域紛争について、アジア・アフリカ、旧ソ連・旧ユーゴから9つの事例を選んでわかりやすく解説すると共に、その全体像をマクロとミクロの視点から提示し、地域紛争一般の理解へと導く基本書。

これまでの地政学による地理上の国家間関係・安全保障だけではなく、石油・天然ガス・原子力など資源エネルギーを独占する多国籍企業ネットワークや金融など、今日の複雑化する国際情勢を新たに「4D地政学」を提唱することで読み解く。

豊富な鉱物資源を有しながら、絶えない紛争、貧困に苦しむ人びとの拡大、そしてテロリストの温床と化しているアフリカ。本書は、このような戦火、富の不平等な配分、旧宗主国との歴史的関係にあえぐアフリカの現実を正しく理解するための入門書である。

情報の非対称性・限定合理性等の用語を駆使して国際政治経済学の新しい分析手法を提示、また一国によるヘゲモニーが成立し難くなった今日の分権的な国際社会において、国際レジーム(原則・規範・意思決定手続等の集合)が果たす役割を解明した不朽の名著の完訳。

平易な表現としつつも高いレベルを確保し、初学者向けに編纂されたテキスト、読者に政治学という学びを通して、もう一つの世界にふれ、市民として自立した生き方を学ばせたいと成長を促す良書。

戦後欧州の代表的社会学者ダーレンドルフの思想を概観できる論集。主要著作を平易な訳文で収め、詳しい解説を付した。初期の紛争理論から、中期のドイツ社会論、役割理論、そして後期のライフ・チャンス論まで網羅。エッセンスが凝縮された1冊。

イデオロギーとは何かから、自由主義、ファシズム、宗教原理主義、民主主義まで、現代政治全般に通じる、基本的な政治イデオロギーとそれに関連する事項を解説。現時点でイデオロギーがその意義を終えたのかも検討する。

星野 智著

現代政治学の世界

2726-8 四六判・214頁・2,100円(本体価格)

土倉莞爾・廣川嘉裕・大村和正・
大藪俊志・森田吉彦 著

政治をはじめて学ぶ人に向けて書かれた入門テキスト。時代とともに変化する政治学の基本的なテーマに加え、監視社会・環境政治といった新しい領域のテーマも組み入れ、わたしたち市民自身が問題を討議し意思表示できるようにするための、基本的な知識・手法を学び、切り拓く。

現代政治の理論と動向

2723-7 A5判・204頁・2,600円(本体価格)

有賀 誠著

本書は、現代の政治学における主要テーマと公共政策における理論および動向についてまとめたものである。現代政治の主要な制度やアクターなどについての理解を促し、政治学テキストのいわゆる「定番」の内容のみならず、教育政策・福祉政策なども検討の対象としている。

臨界点の政治学

2993-4 A5判・246頁・3,500円(本体価格)

菊池理夫・有賀 誠・田上孝一 編著

かつてC.シュミットは、「例外状況」においてこそ、政治の本質が露わになると述べた。本書は、その故知に倣い、「リベラリズム」、「法」、「正戦」といった政治学の重要概念を、その体系の完結性が揺らぎだす「臨界点」において考察しようとしている。

政府の政治理論

—思想と実践—

2821-0 A5判・252頁・2,900円(本体価格)

同志社大学大学院総合政策科学研究科 編著

様々な政治思想が「政府」をいかに考えているかを具体的に明らかにし、また私たちの社会を取り巻く諸問題に対峙する「政府」を描くことによって、新しい政府の可能性を提示していきたい。公共に関わるすべての人々の基本書となり、読者に「政府」のあり方、「統治」のあり方を考える契機を与えることが、本書の目指すところである。

総合政策科学の現在

2724-4 A5判・344頁・3,200円(本体価格)

徳島文理大学大学院総合政策学研究科 編

同志社大学大学院総合政策科学研究科は、1995年に創設され、2015年で創設20周年をむかえた。本書は20周年を記念して編まれた自由で学際的な論文集である。多様な分野の研究と連携・協働し、「総合的な政策」を科学的に解明する。

総合政策学入門

2937-8 A5判・218頁・2,500円(本体価格)

千葉 眞・小林正弥 編著

現代社会に起こる様々な問題を解決するため、社会科学としての研究課題の設定や意義および学問上の位置づけを明確にし、その課題の解決策を提示するための思考方法を身につけ、総合政策学を基礎づける社会科学の基本的な知識や考え方について学ぶ。

平和憲法と公共哲学

1879-2 A5判・320頁・3,300円(本体価格)

岩本 勲著

平和憲法の過去・現在・将来における意義と役割を学際的および多分野的に考察した啓発的な著作。公共哲学としての平和憲法、平和の公共哲学は、将来の日本・東アジア・世界に対して貴重な導きの星として新しい地平を開くであろう。厳密な分析と深遠な考察の書。

基礎から学ぶマルクス主義

—『空想から科学へ』解説—

2962-0 四六判・218頁・2,200円(本体価格)

古賀敬太著

資本主義が危機を迎える今日、日本における格差・貧困の拡大、過労死に代表される強搾取、この資本主義の根本矛盾を扱った理論こそ、マルクス主義に他ならない。マルクス主義の原理を『空想より科学へ』を導きの糸として学ぶ。宗教改革、英・仏の市民革命を経て、マルクス主義へと結実してゆく豊かな思想史的背景についても関連文献と併せて解説。

近代政治思想における
自由の伝統

—ルターからミルまで—

1255-5 A5判・294頁・3,200円(本体価格)

石崎嘉彦・菊池理夫 編著

自由が放縦と混同され、共同体の崩壊が進行する中で、ルターからミルに至る7人の思想家の自由概念を分析しつつ、西欧近代における《自由の伝統》——宗教改革の伝統と共和主義の伝統——を再発見し、それを現代に生かそうと試みる。

ユートピアの再構築

—『ユートピア』出版500年に寄せて—

2931-6 A5判・188頁・2,500円(本体価格)

モアの『ユートピア』や『ユートピア』を現代どのように理解すべきか。現在嘲笑され、終焉を喜ばれることもあるユートピアを新たな視点から再評価し、ポストモダン社会における進歩と成長の限界や、格差社会の拡大などの問題点からユートピアの再生を企てる。

スーザン・モラー・オーキン 著
田林 葉・重森臣広 訳

政治思想のなかの女

—その西洋の伝統—

2129-7 菊判・302頁・3,300円 (本体価格)

トニー・ジャット 著
土倉莞爾・長谷川一年・渡辺和行・神垣享介 訳

知識人の責任

—ブルム、カミュ、アロン—

2062-7 A5判・254頁・2,900円 (本体価格)

清水 習 著

構造と主体

—政策の可能性と不可能性—

2877-7 A5判・248頁・2,800円 (本体価格)

野田 遊 著

都道府県改革論

—政府規模の実証研究—

1891-4 A5判・254頁・3,000円 (本体価格)

務台俊介 編著

3・11以後の日本の危機管理を問う

2420-5 A5判・208頁・2,000円 (本体価格)

岩本 勲 著

歴史に学ぶ侵略と戦争の論理

2142-6 四六判・210頁・2,000円 (本体価格)

岩本 勲 著

天皇制絶対主義 国家論の再構築・試論

2218-8 A5判・242頁・2,800円 (本体価格)

寺島俊穂 著

現代政治とシティズンシップ

2469-4 A5判・236頁・2,700円 (本体価格)

N. ウイントロープ 編 氏家伸一 訳

自由民主主義の理論とその批判

0612-1 (上) A5判・308頁・3,300円 (本体価格)
0689-X (下) A5判・320頁・3,204円 (本体価格)

村田邦夫 著

21世紀の「日本」と 「日本人」と「普遍主義」

2564-6 菊判・440頁・6,400円 (本体価格)

男女平等の理念の背後に潜む排除の論理を抉り出す。女は子を産む道具か、家族のなかの情緒の中心か、それとも男を惑わす魔物か。古代ギリシア、近代の政治哲学から現代の司法的推理にまで浸透する政治的偏見を暴露し、女性解放の針路を探求する古典的名著。

異色な二十世紀のフランス知識人三人—アルベール・カミュ、レイモン・アロン、レオン・ブルム—の生涯を辿って、知的なものと政治との交差する問題に迫る。反ユダヤ主義とユダヤ人アイデンティティのジレンマ、フランス・マルクス主義のモメント、脱植民地化トラウマという最重要問題を検証する。

「我々はどこまで世界を変えることができるのか？」本書では、「構造と主体」の問題を軸に、政治学・行政学・経済学・メディア学・言語学・社会学における最新の理論を取り入れ、政策の「可能性と不可能性」を明確にする大局的分析アプローチを提示する。

近年、都道府県改革論議や道州制論議が再燃している。なぜ、都道府県は改革されるべきであるのか。道州制を導入する場合、大きな政府と小さな政府のいずれが望ましいか。本書は、これらの疑問を定量的に分析した書籍。

† また、あのような大災害が起きたらどうなるのか！ 災害対応の基本となるシステムの標準化を理解し、来るべき災害に多くの人が備えるべき体制をここに提言した。

「坂の上の雲」がテレビ化され、日清・日露戦争賛美と「自虐史観」批判が罷り通る現在、改めて歴史の真実に立ち向かわなければならない。本書は明治元年の征韓論（木戸孝允）からアジア・太平洋戦争までの歴史過程を通観し、侵略と戦争の合理化論を解き明かす。

天皇制は日本近代の成立と密接に関わりつつも現在その議論は下火となっている。本書は「絶対主義」「ボナパルティズム」の概念を精緻に吟味しながら、戦前戦後の天皇制論争の理論的諸問題を明らかにし、明治以降の天皇制絶対主義の成立と変遷を辿る。

政治を市民に取り戻すために、市民活動、公共性、民主主義、市民自治、市民社会などをつうじシティズンシップの概念を徹底考察するとともに、政治哲学の視点から、現代政治についての理論的考察を展開、生活の場における政治参加の方法を探り、市民として、人間として生きていくための方法を問い直す。

現存社会主義が倒壊したとしても、というよりそれゆえにこそ自由民主主義の理論が改めて再検討されるべきである。本書は社会主義や共産主義のみならず、その自己革新の試み、保守主義やキリスト教からの批判、テクノクラシーやフェミニズムによる挑戦をも扱う。

本書は、これまでの自由・民主主義・人権・平和として語られてきた「普遍主義」が覇権システムとその秩序を前提としていることを説き明かし、日本が21世紀を生き抜く方法は、「盲目的」護憲派や「状況追隨的」改憲派の議論によるのではなく、「戦略的」護憲派の立場にしかないことを訴える。

林 尚之著

近代日本立憲主義と制憲思想

3000-8 A5判・218頁・4,000円(本体価格)

藤田宏郎著

米国と日本の天皇制
—1943-1946—

3064-0 A5判・386頁・5,500円(本体価格)

廣澤孝之著

日本政治の政策課題

2385-7 A5判・276頁・2,900円(本体価格)

村山 皓著

日本の民主政の文化的特徴

1426-4 四六判・248頁・2,700円(本体価格)

市川虎彦著

保守優位県の都市政治

2312-3 A5判・238頁・2,800円(本体価格)

萩原 隆著

**日本における保守主義は
いかにして可能か**

2686-5 A5判・248頁・4,300円(本体価格)

西脇邦雄著

大阪都構想の対策

—大都市圏共同体の構想と総合区の活用—

3138-8 A5判・154頁・2,200円(本体価格)

西澤信善著

カ ジ ノ 戦 争

3052-7 四六判・204頁・1,800円(本体価格)

新川匠郎著

**大連立政権は
民主政治の十分条件か**

—21か国の比較を通じて—

3154-8 A5・234頁・5,300円(本体価格)

副島豊次郎著

ヨーロッパ国際政治

—国民国家とヨーロッパ統合—

2103-7 A5判・228頁・2,200円(本体価格)

本書は、「制憲」の思想史という視点から、主権と人権、立憲主義の新たな歴史研究の地平を切り拓く試みである。戦後日本の改憲論は「改憲」の限界を超え、自主憲法制定を目指す「制憲」の思惟に呪縛されてきた。「制憲」の思想的基盤として戦時国体論をとらえ、これらと向き合うなかで形成されてきた戦後憲法秩序をあらためて問直す。

戦後の日本の象徴天皇制生みの親は、米国である！本書は、対日戦後計画開始の1943年から日本の象徴天皇制が確立された1946年までの、米国の天皇制に関する検討過程を、米国の政府文書、政府関係者の個人日記等の資料を用いて明らかにする。

戦後日本政治の基本構造を「自民党支配体制」・「企業社会の構造」・「日米安保体制」の三つの側面から分析し、経済成長を前提とした戦後政治の枠組みに代わる、人口減少と国際化社会に対応した、新しい政治社会秩序を構築するための政策指針を示す。

日本人の意識と行動から、日本での公私関係に見られる文化的な特徴を実証的に明らかにしようとする。人々の意識が民主政システムの入力よりも出力に向かう出力指向が日本の民主政の文化的特徴であることから、出力型民主政システムが日本では適していると指摘する。

愛媛県は戦後の自民党政治を底辺で支えてきた「保守王国」の典型である。本書は、この地域の主要都市の市長選と市政の推移を追うことによって、大都市圏中心に構成された地方政治の歴史とは異なる、「もう1つ」の地方政治の流れを浮き彫りにしたものである。

日本の保守主義の可能性について、これまではほとんど絶望的と考えられてきた。この背景には丸山政治学の大きな影響がある。しかし、津田史学の成果を導入してみると、まったく違う地平が開けてくる。本書は、この視点から政教社の志賀重昂を題材として日本の保守主義がどうすれば成立するかについての結論を出したものである。

大阪市の廃止は大都市の力を奪う！相次ぐ災害に見舞われた大阪、都構想は大阪市の防災力を奪う。EU型の都市連合、フランスの大都市圏共同体と総合区の活用で対策を作る。ヒントは平松元市長の地域主権宣言、太田元知事の大阪新都機構にあった。

IR(統合型リゾート)の名のもとカジノ誘致が着々と進められているが、ギャンブルは依存症など様々な弊害を伴う。カジノをストップすることは、それらの害悪から住民と町を守ることを意味する。「カジノ戦争」に勝利することは歴史的偉業なのである。

そもそも大連立が成立することは民主政治における十分条件であるのか、また、十分に多くの合意を取り付けている大連立とはどういうことなのか。様々な国で成立してきた大連立のなぜ、いかにを質的比較分析(QCA)で読み解き、大連立のメカニズムを明らかにする。

ベルリンの壁崩壊から今日までの欧州国際政治の動きを、国民国家と欧州統合の視点から解説。独を軸足にし、独統一と統一独の状況、独仏関係、中東欧・露との関係、欧州安全保障、EUの現状と更なる統合の諸問題を一堂に取り上げ、欧州の全体像を学ぶ概説書。

渡辺 容一郎 著

イギリス政治の変容と現在

2495-3 A5判・244頁・2,800円(本体価格)

小林大祐 著

ドイツ都市交通行政の構造 —運輸連合の形成・展開・組織機制—

2823-4 A5判・256頁・2,900円(本体価格)

保坂 稔 著

緑の党政権の誕生 —保守的な地域における環境運動の展開—

2419-9 A5判・228頁・3,200円(本体価格)

妹尾哲志 著

戦後西ドイツ外交の分水嶺 —東方政策と断断克服の戦略, 1963~1975年—

2278-2 A5判・306頁・2,900円(本体価格)

江口博保・吉田暁路・浅野 亮 編著

肥大化する中国軍 —増大する軍事費から見た戦力整備—

2333-8 A5判・228頁・2,300円(本体価格)

畠山圭一 編著

中国とアメリカと国際安全保障 —問われる日本の戦略—

2144-0 A5判・294頁・3,200円(本体価格)

齋 敏浩・今野茂充

東アジアのなかの日本と中国 —規範・外交・地域秩序—

2793-0 A5判・210頁・2,700円(本体価格)

家近亮子・唐 亮・松田康博 編著

新版

5分野から読み解く現代中国 —歴史・政治・経済・社会・外交—

2720-6 A5判・322頁・2,700円(本体価格)

家近亮子 著

日中関係の基本構造 —2つの問題点・9つの決定事項—

1494-9 A5判・200頁・2,400円(本体価格)

家近亮子・松田康博・段 端聡 編著

改訂版

岐路に立つ日中関係 —過去との対話・未来への模索—

2361-1 A5判・336頁・3,200円(本体価格)

2010年イギリス総選挙は、36年ぶりのハングパーラメントをもたらし、戦後初の連立政権を誕生させた。近年のイギリス政治は変容しつつあるのだろうか。主要政党や政治思想、政治家、有権者の観点から、イギリス政治の変容と現在について、独自の視点で読み解く。

ドイツの各都市では、地域交通組織(運輸連合)が都市圏の公共交通を一元的に管理し、共通運賃、スムーズな乗り継ぎといった利便性の高いサービスが提供されている。本書は、行政学の視点から、このような地域交通組織が「なぜ」、「どのように」創設され、変化していったのかを8つの事例とともに明らかにする。

2011年5月12日、保守の牙城、バーデン・ヴュルテンベルク州にてドイツ史上初の緑の党出身の州首相誕生! それは福島原発事故だけが原因だったのか。環境先進国ドイツの旗手である緑の党を考察することで、日本の環境運動の可能性を問う!

本書は、西ドイツで東方政策を推進したブランドが、断断克服を長期的目標に据え、東と西の狭間でこなしている巧みな外交に光を照射する。同時に、東方政策における西側との関係にも注目し、一次史料を豊富に利用しながらブランド外交の多面性に迫る。現代を生きる我われの歴史認識にいくつかの事実を提供する。

近年、中国による尖閣諸島をはじめとした日本の領域への接近が相次いでおり、またその軍事費は毎年大幅に増大している。しかしその実態は不透明であり、中国軍のポテンシャルは不明なままである。本書は、不透明な軍事費を解明し、戦略、予算、技術などの様々な視点から、中国軍の将来象を多角的に分析する。

国際テロリズムと大量破壊兵器拡散の脅威、勢力拡大をひた走る中国と、世界覇権の永続を目指すアメリカ。変動著しい国際潮流と国際構造の劇的変容を読み解き、中国とアメリカの近未来を展望し、国際政治の冷徹な論理を前に、日本が果たすべき国際的役割を問う。

比較規範分析のアプローチから日中両国の対外政策の共通点と相違点を浮き彫りにすることにより、日本と中国の重層的かつ多様な関係性を描き出す。本書は読者が日中関係の現状に対する理解を深め、日中関係の将来について思考を深めるための材料を提供する。

中国理解の核心とは何か? 急速な変化を続ける今日の中国を歴史・政治・経済・社会・外交の5分野から読み解いていく。国際社会のなかでますます重要性を増していく中国の今後の行方を見据えるために、研究者、ビジネスマン、学生にとって必読の一冊。

戦後日中間に横たわる2つの問題点——台湾問題と歴史認識問題の——決定要因を近代から現代に至る9つの歴史事項から分析した初めての本格的著作。日中関係史だけではなく、中国近現代史、日本政治史にも十分に対応できる内容をもつ。

本書は執筆者たちがそれぞれの専門分野から近代史の「過去との対話」と「未来への模索」を詳細かつ冷静に分析し、日中関係の正確な理解に不可欠な視座を提供している。

新地 比呂志 著

陳公博の革命イデオロギー 「民生主義革命」の形成と崩壊

2699-5 A5判・242頁・4,000円(本体価格)

松田康博・清水 麗 編著

現代台湾の政治経済と中台関係

2988-0 A5判・238頁・2,500円(本体価格)

金子 芳樹 著

マレーシアの政治とエスニシティ —華人政治と国民統合—

1263-6 A5判・350頁・3,600円(本体価格)

秦 辰也 編著

アジアの市民社会と NGO

日本図書館協会選定図書

2512-7 A5判・296頁・3,000円(本体価格)

川端正久・落合雄彦 編著

アフリカと世界

龍谷大学社会科学研究所叢書 第93巻

2321-5 A5判・440頁・4,500円(本体価格)

川端正久・落合雄彦 編

アフリカ国家を再考する

1730-1 A5判・410頁・4,800円(本体価格)

井野瀬久美恵・北川勝彦 編著

アフリカと帝国

—コロナリズム研究の新思考にむけて—

2172-3 菊判・334頁・3,800円(本体価格)

岩田拓夫 著

アフリカの地方分権化と政治変容

2109-9 A5判・182頁・2,500円(本体価格)

山川 卓著

マイノリティ保護のクロアチア政治史

3143-2 A5判・258頁・4,200円(本体価格)

賀川 真理著

カリフォルニア政治とラティーノ

—公正な市民生活を求めるための闘い—

2275-1 A5判・282頁・2,900円(本体価格)

陳公博の革命論「民生主義革命」はまさに「社会主義的」革命論であった。「民生主義革命」論がどのようにして形成され、どのように崩壊していったかを考察し、「民生主義革命」論の本質を明らかにした。研究の今日的意義と同時に今後の研究の展望を示した。

馬英九政権の8年は台湾社会と中台関係に何をもたらしたのか？ 馬英九政権および民進党関係者へのインタビューを積み重ね、台湾の政治経済と日中台関係の実態に迫る。困難な課題に直面する蔡英文政権に、日本がいかに向き合うべきかを考える。

アジア・太平洋賞特別賞受賞

典型的な多民族国家マレーシアのエスニック関係について、独立前後から1969年「人種暴動」にかけての動乱期の華人政治の軌跡を描きつつ、この国における国民統合の過程とその苦悩を浮き彫りにし、この国特有のプミブトラ政策の生まれる背景を明らかにしてゆく。

アジア社会は今、大きく変わろうとしている。かつてのNGOは、新たなステージを迎え、変化と混乱にさらされている。市民社会組織(CSO)の動きが注目されるなか、「いくつものアジア」で活躍する「いくつものNGO」の動きから、その存在意義を考える。

21世紀はアフリカの時代になる。独立から50年、アフリカは躍進しつつあり、アフリカと世界の関係は変化している。現在、アフリカは従属から自立への「偉大な移行期」にある。アフリカの躍進と課題、アフリカと世界の関係を大胆に活写・解剖する。

21世紀はアフリカの時代だ。今、アフリカ政治とりわけアフリカ国家論が焦点である。旧いアフリカから新しいアフリカへ、激動するアフリカ政治に国家論から接近する。気鋭の研究者がアフリカ国家の再構築に向けて何が必要か、鋭い分析と斬新な提言を展開する。

英国議会上に蓄積された膨大な情報を読み直し、帝国の語りと記述を超える試み。歴史意識と現在意識を相互に照射しつつ、分割・支配されたアフリカの多様な植民地経験に斬り込み、コロナリズム研究に新境地を拓く。そこに、支配の呪縛を乗り越える鍵も見えてくる。

アフリカ諸国において地方分権化に着手されてから10年前後を経過し、その政治的影響が少しずつ明らかになってきた。本書では、選挙と地方分権型国際協力の分析を通して、アフリカ諸国における地方分権化がもたらした政治的变化を考察する。

ユーゴスラヴィアから独立し、クロアチア・ネイションのための国民国家形成を進めたクロアチア政府は、なぜマイノリティ保護のための諸政策を同時に展開したのか。「ヨーロッパ」への同一化とナショナリズムの論理が相互に作用しあう政治過程を、マイノリティの権利基本法、難民帰還政策、ロマ保護政策の展開から分析する。

多民族国家アメリカでは選挙でのラティーノ票は無視できないほど、大きな数となっている。本書は、マイノリティとカテゴライズされているラティーノの政治参加を、カリフォルニアという歴代大統領を輩出している地域を対象に、法律、教育も含めて多角的に分析する。そこには、人間としての正義を貫く、ひとつの心理を見出すことができよう。

梶原克彦著

オーストリア国民意識の国制構造

—帝国秩序の変容と国民国家原理の展開に関する考察—

2444-1 A5判・214頁・2,500円(本体価格)

ラウル・ジラルデ著

中谷 猛・川上 勉・長谷川一年 訳

**現代世界とさまざまな
ナショナリズム**

1498-1 四六判・192頁・2,100円(本体価格)

中谷 猛・川上 勉・高橋秀寿 編

ナショナル・**アイデンティティ論の現在**

—現代世界を読み解くために—

1425-6 A5判・320頁・2,900円(本体価格)

円城由美子著

イラクの女性たち

—平和構築におけるジェンダー—

3131-9 四六判・248頁・3,800円(本体価格)

馬場香織著

ラテンアメリカの年金政治

—制度変容の多国間比較研究—

3037-4 A5判・234頁・3,800円(本体価格)

石黒 馨・初谷謙次 編著

創造するコミュニティ

—ラテンアメリカの社会関係資本—

2586-8 四六判・218頁・2,500円(本体価格)

松岡京美・村山 徹 編著

災害と行政

—防災と減災から—

2743-5 A5判・220頁・2,500円(本体価格)

松岡京美著

行政の行動

—政策変化に伴う地方行政の実施活動の政策科学研究—

2517-2 A5判・258頁・2,800円(本体価格)

金川幸司編著

公共ガバナンス論

—サードセクター・住民自治・コミュニティ—

3080-0 A5判・282頁・2,900円(本体価格)

源 由理子 編著

参加型評価

—改善と変革のための評価の実践—

2780-0 A5判・250頁・2,700円(本体価格)

ハブスブルク家のもとヨーロッパに覇を唱えたオーストリアが、多民族帝国崩壊を受けてドイツ語系の民族国家となった後、国として存続するためにアイデンティティを絶えず読み替え、揺れ動く様を、帝国解体後の大戦間期から第二次大戦後まで辿ることにより、国家と民族の意味を問い直す。

多様化し複雑化する現代世界のナショナリズムを統一的に捉えることは可能か？ ヨーロッパやアフリカの事例を踏まえ、錯綜する理論と現実との関連を分析し、伝統・世代・アイデンティティの問題にまで説き及ぶ、ナショナリズム研究の泰斗による「類型学」の試み。

グローバリゼーション、国民国家の揺らぎ現象の中で検討を迫られている現代世界。いまこそ、国家とアイデンティティとの関わりの解明が、いっそう重要性を帯びてきている。これら諸問題をさまざまな角度から捉え、本質を追求した待望の書。

フセイン政権から女性を「解放」し民主化を進めると謳ったアメリカ主導のイラク戦争から15年。イラク女性は「解放」されたのだろうか。「民主的」選挙の実情とは。イスラーム主義勢力同士の宗派争いの女性への影響は。イラク女性の実情を多角的に分析する。

2000年代のラテンアメリカ諸国で、年金制度の異なる「再改革」がみられたのはなぜか。新自由主義的改革後の各国の異なる分岐は、どのように説明されるのか。本書では、歴史的な制度的要因を重視する視角から、年金再改革の異なるあり方の体系的な説明を試みる。

本書は、資本のグローバリゼーションの進展により、深刻化する社会的排除の問題について、国家に代わって人々を包摂する社会的資本としてのコミュニティに注目。ラテンアメリカにおけるコミュニティを脱伝統的・都市型・農村型の3つのタイプに分け、それぞれについて分析する。

今日、大規模災害が生じる度に防災、復旧、復興、減災へと行政による公共政策の理念と方法が変化してきている。災害を経験した個人の生活の再建と地域の復興を「災害の影響を乗り越える」新たな理念・方法として、本書では「越災」として提示し、これからの行政による災害対応の公共政策のあり方を問う。

政策の実施を担う行政の行動は、政策の変化に伴ってどのように変化するのか。本書は主に地方政府の行政行動(地域振興政策)を分析対象とし、実証的な比較文化論アプローチによる視点から、政策実施の動態を明らかにしようとした政策科学研究である。

指定管理者制度、公民協働など、NPM改革の事例を取り上げ、住民自治組織の活動、財政分権、東日本大震災の復興に関するコミュニティ自治、イギリスのコミュニティにおける資産移転の状況を分析する。さらに、非営利組織の制度改革、社会的企業概念の概念を分析し、今後の日本における公共ガバナンスのあり方を探る。

参加型評価はプログラムの関係者が協働で評価を行うアプローチである。多様な関係者間の「対話」をとおして、新たな関係性の構築、学び合い、エンパワーメントをもたらす。自らが改善と変革の主体に変容した参加型評価の貴重な実践報告を収録する。

山谷清志 編著

公共部門の評価と管理

2140-2 A5判・258頁・2,800円(本体価格)

20世紀末、公共部門のさまざまな領域で管理ツールとして評価が用いられるようになった。しかし現場では理論と実践の齟齬、混乱を生み出した。本書は評価理論本来の視点から公共管理のあり方を分析し、現場における混乱と齟齬を整理、修復しようと試みている。

山谷清志 著

政策評価の理論とその展開

—政府のアカウンタビリティ—

0939-2 A5判・220頁・2,900円(本体価格)

政治改革、行政改革、地方分権といったさまざまな改革が今日進められているが、政策から見直すという視点が無いために、これらの改革は制度論、組織論に偏っている。「政策評価」はこの偏りを是正し、本来の政策論的アプローチを可能にする有力な方法である。

宮脇 昇・玉井雅隆 編著

コンプライアンス論から 規範競合論へ

—ウソの社会的発生から消滅まで—

2389-5 A5判・214頁・2,600円(本体価格)

本書は「ウソ」、「やらせ」に着目し、それらがなぜ許容されたのかを考える。「ウソ」を発信するものと、「ウソ」を黙認・容認するものとの間にある〈as if game〉の概念を理論化し、「ウソと対面する過程」を学術的にとらえ、新たな知の体系を示す。

奈良県立大学地域創造研究会 編

地域創造への招待

1656-9 A5判・168頁・1,800円(本体価格)

わたしたちがいきいきと幸せに暮らせる、そんな地域を創りだしていくこと。これが「地域創造」の意味である。そのために私たちは、人と人、地域と地域、理論と実践、大学と地域、文系的知識と理系的知識、異なる学問体系同士を「つなぐ」必要があるのだ。

見上崇洋・森 裕之
吉田友彦・高村学人 編著

地域共創と政策科学

—立命館大学の取組—

2236-2 A5判・330頁・4,200円(本体価格)

地域共創——地域の多様な主体と共に、専門知・実践知を束ねながら、地域の新たな姿を創り出すこと。地域の現場に身をおきながら共に課題を見つけ、政策の立案、実施、評価の理論化を試みつつ、現場に即した解決を探る。大学による参与型政策研究の成果。

政治概念の歴史的展開シリーズ 全10巻

シリーズ監修・第一～六巻, 第八巻 古賀敬太 編著
 国際政治編 (第七巻) 押村高編著, 日本政治編 (九～十巻) 米原 謙 編著

今日論争的となっている基本的な政治概念のタームについて古代・中世・近代以降といった各時代における連続と不連続、断絶と変容を跡付けると同時に、これらを通して現代の論争に言及・考察する。概念史の変容と展開を正確に理解するために政治学者、思想家が参照すべき必読の書。

古賀敬太編著

政治概念の歴史的展開 第一巻

自由・木部尚志／平等・的射場敬一／友愛・渡邊雅弘／人権・濱真一郎／寛容・大澤麦／正義・渡辺幹雄／公共性・森川輝一／権力・早川誠／国家・古賀敬太／官僚制・佐野誠／市民社会・岡本仁宏／連邦主義・千葉眞

1495-4 菊判・284頁・3,100円(本体価格)

古賀敬太編著

政治概念の歴史的展開 第三巻

徳・木村俊道／平和・寺島俊穂／共同体・菊池理夫／ナショナリズム・富沢克／パトリオティズム(愛国心)・岡本仁宏／コスモポリタニズム・古賀敬太／抵抗権・清滝仁志／専制・石崎嘉彦／例外状態・竹島博之

2086-3 菊判・264頁・2,900円(本体価格)

古賀敬太編

政治概念の歴史的展開 第五巻

自由主義・富沢克／フェミニズム・内藤葉子／政治と宗教・木部尚志／政治教育・井柳美紀／市場・山中優真一／所有・青木裕子

2442-7 菊判・260頁・3,000円(本体価格)

押村 高編著

政治概念の歴史的展開 第七巻

国家主権・押村高／外交・木村俊道／グローバル正義・神島裕子／国際法・松森奈津子／国際秩序・高橋良輔／現実主義・西村邦行／安全保障・内田智／帝国主義・前田幸男／自由貿易・青木裕子／勢力均衡・岸野浩一／国際語・寺島俊穂

2565-3 菊判・268頁・3,000円(本体価格)

米原 謙編著

政治概念の歴史的展開 第九巻

—「天皇」から「民主主義」まで—

政治(まつりごと)・相原耕作／天皇・中田喜万／神道・石川公彌子／家・中村敏子／道徳・辻本雅史／公論・前田勉／国体・米原謙／権利・大久保健晴／自由・宮村治雄／政体・河野有理／都市・刈部直／政党・山田央子

2753-4 菊判・294頁・3,600円(本体価格)

古賀敬太編著

政治概念の歴史的展開 第二巻

政治・早川誠／国民・岡本仁宏／契約・佐野誠／主権・古賀敬太／支配・牧野雅彦／独裁・竹島博之／革命・堀田新五郎／戦争・内藤葉子／共通善・菊池理夫

1865-5 菊判・250頁・2,800円(本体価格)

古賀敬太編著

政治概念の歴史的展開 第四巻

人間の尊厳・古賀敬太／市民・的射場敬一／フロネーシス(知慮)・荒木勝／権威・寺島俊穂／帝国・木村俊道／環境・丸山正次／ユートピア・菊池理夫／終末論・千葉眞

2262-1 菊判・262頁・2,900円(本体価格)

古賀敬太編

政治概念の歴史的展開 第六巻

憲法・佐野誠／デモクラシー・杉田敦／立憲主義・的射場敬一／君主制・木村俊道／混合政体・犬塚元／信託・下川潔／議会・寺島俊穂／政党・野口雅弘／選挙・岡崎晴輝／世論(輿論・公論)・岡本仁宏／政治腐敗・蓮見二郎／シテイズンシップ・山崎望

2435-9 菊判・312頁・3,200円(本体価格)

古賀敬太編

政治概念の歴史的展開 第八巻

民族・加藤節／エートス・柳父園近／共感・井柳美紀／想像力・鍋木政彦／教会・田上雅徳／名誉・鹿子生浩輝／自然・森川輝一／理性・萩原能久／神話・馬原潤二

2639-1 菊判・246頁・3,000円(本体価格)

米原 謙編

政治概念の歴史的展開 第十巻

—「まつりごと」から「市民」まで—

愛国心・松田宏一郎／共同体・武藤秀太郎／社会主義・大田英昭／社会・織田健志／民主主義・清水靖久／平和・出原政雄／アジア・萩原稔／近代・田崎嗣人／性(セクシュアリティ)・菅野聡美／利と理・菅原光／市民・都築勉／戦争・片山慶隆／植民地・浅野豊美

2789-3 菊判・258頁・3,400円(本体価格)

シリーズ 転換期の国際政治

酒井啓子編著

途上国における 軍・政治権力・市民社会

—21世紀の「新しい」政軍関係—
2694-0 A5判・328頁・4,000円(本体価格)

菅 英輝編著

冷戦変容と歴史認識

2796-1 A5判・320頁・4,500円(本体価格)

玉田芳史編著

政治の司法化と民主化

2896-8 A5判・290頁・4,000円(本体価格)

増島 建著

開発援助アジェンダの政治化

—先進国・途上国関係の転換か?—

2794-7 A5判・314頁・3,800円(本体価格)

葛谷 彩・小川浩之・西村邦行 編著

歴史のなかの国際秩序観

—「アメリカの社会科学」を超えて—

2897-5 A5判・258頁・3,000円(本体価格)

月村太郎編著

解体後のユーゴスラヴィア

2894-4 A5判・316頁・4,300円(本体価格)

菅 英輝・初瀬龍平 編著

アメリカの核ガバナンス

2924-8 A5判・326頁・4,500円(本体価格)

劉仙姫著

朴正熙における民族主義の本質

—1970年代の核開発と「自主韓国」—

2994-1 A5判・218頁・3,500円(本体価格)

菅 英輝著

冷戦期アメリカのアジア政策

3151-7 A5判・350頁・4,800円(本体価格)

2011年、「アラブの春」では、軍が市民の側についていたことが政権転覆の成功因といわれた。一方、軍が政権側にあるシリアでは内戦が続き、国は荒廃するばかりだ。市民社会の役割が増すなかで、途上国の政軍関係は21世紀以降どう変わったのか。新機軸から分析する。

戦後日本の対外政策は冷戦後でも、日米安保体制の枠組みから一歩を踏み出せない状況が続き、このため日本はアメリカの政策に追随、従属してきたという論調が、近年改めて増えている。本書はその要因を探り、今日の日本外交が直面する諸問題について熟考する。

政治の民主化と司法化。多数決民主主義を主張する多数派の横暴と、司法の独立尊重と立憲主義を主張する司法の暴走でもある。民主化途上国で、この両者が衝突したり政争の具にされたりすると、政治はどうなるのか、事例に基づいて解明を試みる。

「豊かな国」、「貧しい国」。これは、国際経済の文脈ではよく取り上げられてきた課題である。しかし、国際政治の文脈ではほとんど取り上げられていない。本書では、開発援助に焦点をあて、国際関係を紐解く新たな指針の一つを提示する。

20世紀の覇権国アメリカと対峙して国々や地域の国際秩序観を歴史的に検証する。「アメリカの社会科学」としての国際政治学が軽視してきた多様な国際秩序観の理解を可能にする。同時に、これまでのアメリカ主導の国際秩序が揺らぐ今、今後の世界を展望する。

「解体された国家」の人びとは「新しい国家」に住み続ける。民主化や国際社会に翻弄され、また地域紛争に巻き込まれ、大きな変動を余儀なくされた社会は、どのようなプロセスで諸問題を克服し、同時に残された課題に対処していくのか?

アメリカの核抑止政策は、日本外交の対米依存の源流をなし、中国や北朝鮮の核開発の重要な背景ともなっている。本書は、一次史料にもとづく、「核の世紀」の歴史的検証を通して、アメリカ中心の核ガバナンスがもたらした現代世界のアポリア問題を照射する試みである。

朝鮮半島を中心とする北東アジアの国際秩序における重要な転換期である現在、この局面をどのように見るかは、各々の視点の問題! いまこそ柔軟な洞察力が必要であり、そのために提示する1970年代の朝鮮半島をめぐる政治力学と韓国の政治外交の歴史的再検討。

トランプ政権の登場で、「自由主義的国際秩序」の危機への関心が高まっているなか、アメリカが戦後構築した国際秩序の内実を解明し、この秩序形成にコラボレーターとして補完的役割を果たした日本の役割を論じる。

ガバナンスと評価

橋本圭多著

公共部門における評価と統制

2907-1 A5判・202頁・2,600円(本体価格)

山谷清秀著

公共部門のガバナンスとオンブズマン —行政とマネジメント—

2951-4 A5判・256頁・2,800円(本体価格)

北川雄也著

障害者福祉の政策学 —政策評価とマネジメント—

3072-5 A5判・232頁・2,800円(本体価格)

原田徹著

EUにおける政策過程と行政官僚制

3078-7 A5判・314頁・3,200円(本体価格)

西山廣司著

公共サービスの外部化と 「独立行政法人」制度

3173-9 A5判・228頁・3,200円(本体価格)

公共部門における評価の現状と問題点を、理論研究と事例研究双方の視点から明らかにした著書。評価による管理統制の実態を批判し、今後の可能性を展望する。中央府省、地方自治体、独立行政法人、民間企業、NPOなどで評価に携わるすべての方に必読の書。

オンブズマン、行政相談……日本にもいくつかの行政苦情救済制度がある。個別の意見から公共サービスの改善だけでなく価値の変更にまで迫り得るところに、行政苦情救済の意味がある。多様な活動を行う世界のオンブズマンの実践から観た行政苦情救済のあり方を提示する。

障害当事者のニーズの多様性への対応の成否に着目し、障害者政策の評価の現状と問題点を明示。行政学・政策評価の理論研究と障害者政策の評価・調査の事例を活用して、政策評価の実態を批判し今後の可能性を展望。障害者福祉に携わる研究者・実務家必読の書。

EUの政策過程は多様な国益間・政党間の角逐が繰り返される非合理的な状況にある。それでもEUの行政官僚制たる欧州委員会は、戦略的な政策変化類型を技術として駆使しながら、限定合理性を追求して政策実現を図ってきた。その成否と功罪を見極める。

NPMから生み出された公共サービスの外部化の一つであるエージェンシー化の実際はどのようなものであったか。独立行政法人制度を題材に、英国のエージェンシー制度との比較。制度発足後の諸改革の実証分析を通じて、「独立行政法人」制度を問い直す。

法 律

平野 武・佐久間泰司 著

医療と宗教と法 —医療倫理と宗教の交錯—

今日の日本では、医療と宗教が交錯する場で多くの倫理的な問題が生じている。これらの微妙で困難な問題を法的観点から検討する。

3273-6 A5判・238頁・2,800円(本体価格)

河村有教 著

入門 刑事訴訟法

Due Process of Law にもとづく法的思考力の涵養を目的として、学習すべき論点や判例・裁判例を丁寧に解説。基礎知識の習得から司法試験まで使える、刑事訴訟法学の手引書。

3247-7 A5判・405頁・4,500円(本体価格)

山本修 著

法三章としての法基範

法の実現の場面において、重要なはたらきをするところの「信義誠実の原則」「権利濫用の禁止」「公序良俗の原則」という法原理と、「条理」「社会通念」という法概念への理解を深めることによって、『法』を知り、身に付けるための概説書。

3190-6 四六判・112頁・1,300円(本体価格)

Jun Ayukawa 著

Juvenile Crimes and Social Problems in Japan

本邦初の Social Constructionism (社会構築主義、社会構成主義)の視点から少年犯罪・少年非行、タバコ喫煙問題などの社会問題、人権問題などについて考察した英語の著書。欧米の定評のある専門雑誌や書籍に掲載された珠玉の論文を中心として集成。日本語の序文も付けられている。

Social Constitutionist Approach
3170-8 A5判・198頁・4,000円(本体価格)

宮守代利子 著

景観共同体としての地域

—里山景観を持続させる権利—

里山に暮らす人々はいかにして生活環境づくりを行ってきたか、地域の景観の形成と保全はどのように維持されてきたか。近代以前から続く「入会」ならびに「耕地」と景観の関係から、慣習に培われた村落共同体が景観共同体に移行ないし再生する過程をつぶさに考察する。

3278-1 A5判・184頁・3,000円(本体価格)

高橋正人 著

行政裁量と司法審査論

—アメリカ司法審査論の展開と日本の動向—

アメリカ司法審査論の日本の学説への導入の限界と、アメリカにおける展開・課題を分析する。その上で、日本における行政裁量審査論について、アメリカ法との比較分析を行いながら、その課題について検討を加えた。日米の比較から、行政裁量と司法審査に示唆を与える試み。

3135-7 A5判・274頁・4,000円(本体価格)

角田猛之・市原靖久・亀本 洋 編著

法理論をめぐる現代的諸問題

—法・道徳・文化の重層性—

今日、法は人権、正義、国家、文化、道徳等や地域的な関係をめぐり重層化している。本書では、この重層化した世界的・地域的な現状を法理論的に解明することをめざし、日本の研究者らに加え西洋諸国・東アジア諸国の研究者らの論文を多く収録し読者に幅広い知見を提供する。

2778-7 A5判・316頁・6,800円(本体価格)

角田猛之 著

改訂版

日本社会と法

—〈法と社会〉のトピック分析—

日本の〈法と社会〉にかかわる諸問題を具体的かつ最新のトピックを手がかりに分析する。〈罪と罰〉〈正と不正〉〈男と女〉〈生と性〉のテーマを柱に、裁判員裁判の課題や問題点を新たに盛り込み、また、女性の働き方・職場の問題、LGBTへの日本社会の対応のありかたの変化などについても新たな資料やデータを加えた改訂版。

3089-3 A5判・276頁・2,700円(本体価格)

竹下 賢・角田猛之・沼口智則・竹村和也 編著

第5版

入門 法 学

—現代社会の羅針盤—

憲法・民事法・刑事法と社会法のオーソドックスな解説に、憲法改正、裁判員制度をはじめとする日本の刑事司法のあり方などを加え、さらに生命倫理・環境・ジェンダー・国際社会の問題などについても最近の動向を踏まえた現代社会の羅針盤としての法学入門書。

3012-1 A5判・234頁・2,500円(本体価格)

角田猛之著

第3版

法の世界

— PHILOSOPHY · SOCIETY · CULTURE —

2822-7 A5判・140頁・1,800円(本体価格)

ハンス・ケルゼン著

法思想21研究会 訳

社会学的国家概念と
法学的国家概念

1260-1 A5判・314頁・4,300円(本体価格)

ウィル・キムリッカ著

角田猛之・石山文彦・山崎康仕 監訳

多文化時代の市民権

— マイノリティの権利と自由主義 —

1062-5 A5判・428頁・5,300円(本体価格)

エミリオス・A. クリストドゥリディス著

角田猛之・石前禎幸 編訳

共和主義法理論の陥穽

— システム理論左派からの応答 —

1397-7 A5判・358頁・4,500円(本体価格)

竹下 賢・角田猛之 編著

改訂版

マルチ・リーガル・カルチャー

— 法文化へのアプローチ —

1366-7 A5判・310頁・3,300円(本体価格)

角田猛之著

法文化の諸相

— スコットランドと日本の法文化 —

0935-X A5判・228頁・2,600円(本体価格)

吉田宜路著

罪と罰の哲学的考察

— 刑事裁判の時間論について —

2637-7 A5判・456頁・8,200円(本体価格)

河上倫逸著

多神教世界における日常の法

1679-8 A5判・274頁・2,500円(本体価格)

鈴木龍也・富野暉一郎 編著

コモンズ論再考

1609-7 A5判・280頁・2,900円(本体価格)

蒔田 純著

立法補佐機関の制度と機能

— 各国比較と日本の実証分析 —

2434-2 A5判・378頁・4,800円(本体価格)

本書では、さまざまな法のあり方や、とくに、法学のなかでも基礎法学と呼ばれている法哲学、法社会学、法文化学における法へのさまざまなアプローチを検討することで、〈法の世界〉の一端を垣間見る。

† あの〈純粹法学〉の著者にしてウィーン法学派筆頭のH.ケルゼンが、M.ウェーバーらの〈社会学的〉国家概念に対決して〈法学的〉国家概念のあるべき内容を示した異色の書。〈国家の法の関係の批判的研究〉を副題として掲げ、国家論の原点を示す。

自由主義者により従来否定されてきた集団の権利を、マイノリティの多文化市民権として、自らの確固たる自由主義の立場から再構成し正当化。同時に、きわめて広いパースペクティブにより多文化に関わる豊富な事例にも言及。多文化主義の第一人者の待望の本邦初訳。

† ルーマンのシステム理論に依拠しつつ、法を民主的な政治の保障装置として理解する共和主義理論とりわけドゥウォーキン理論を批判、政治的なものを法によっては尽くしえない、再帰的なもの(reflexive)と把握して法と政治との関係を分析する。著者の本邦初登場。

† 多元的で多層的な法文化へのマルチ・アプローチ。正義・生命・環境(第1部)、動物・フェミニズム・宗教(第2部)、中国・韓国(第3部)やポルノ、教育などアップ・トゥー・デイトなテーマを通して法文化を探究。新たな学問分野である「法文化論」への誘いの書。

比較文化論の手法を加味した、わが国とスコットランドの法文化への複眼的アプローチ。「法文化」への総論に続いて、スコットランド法文化、民族と法、家族と法、犯罪と法、宗教と法の5つのメイン・テーマに沿って、アップ・ツー・デイトな話題を分析。

本書は、「時間(過去)論」に基軸をおいて刑事裁判における犯罪事実の「過去時性」を問い、また、「犯罪と刑罰」の関係逆転させて「刑罰と犯罪」の関係を問うものである。裁かれる側の被告人の視点に基づく刑事裁判の理論構成を試みた。

多神教世界における日常の法とは? ヨーロッパ、特にドイツにおける法の歴史は「文化」を守ったが、東海アジア、特に日本における法の歴史は何を守るのか。諸文明の時代にふさわしい、法の「国風文化」を創造することが、日本にできるであろうか。

近年、注目を集めている「コモンズ」を、民法、農漁業、都市計画、土地利用のみならず、他国との比較をも通し多角的に分析。研究者、行政担当者が、理論と実証の視点から新たなコモンズ論を展開する。

議会の立法活動を補佐する「立法補佐機関」を日米英独の四カ国について制度面と機能面から比較分析。日本において立法補佐機関は、制度的には発達しているが、実際の立法過程ではそれに見合うような機能を果たし得ていないことを実証的に明らかにする。

牛尾洋也・居石正和・橋本誠一
三阪佳弘・矢野達雄 著

近代日本における社会変動と法

1764-6 A5判・336頁・4,800円(本体価格)

元山 健・澤野義一・村下 博 編

平和・生命・宗教と立憲主義

1673-9 A5判・318頁・3,800円(本体価格)

山本 修作 編著

法律用語から条文を引く

ご 語 引 六 法

2300-0 四六判・134頁・1,400円(本体価格)

小林 武著

地方自治の憲法学

1223-7 A5判・334頁・3,700円(本体価格)

佐藤 潤一 著

平和と人権

—憲法と国際人権法の交錯—

2247-8 A5判・238頁・2,800円(本体価格)

小林 武著

人権保障の憲法論

1345-4 A5判・354頁・3,900円(本体価格)

小林 武著

憲法と国際人権を学ぶ

1465-5 A5判・344頁・3,800円(本体価格)

平野 武・片山智彦・奥野恒久 著

改訂版 はじめての憲法

3066-4 A5判・208頁・2,200円(本体価格)

橋本純二・金谷重樹・吉川寿一 編著

改訂版 新・学習憲法

2157-0 A5判・188頁・1,700円(本体価格)

橋本誠一 著

明治初年の裁判

—垂直的手続構造から水平的手続構造へ—

2834-0 A5判・326頁・6,800円(本体価格)

本書は、重要な法史料群でありながら十分な検討がなされてこなかった大審院判例に着目し、法史学研究の領域に新たに判例研究という分野を確立することを目指して、とくに聯合部判決に焦点を当て、法的かつ歴史社会的に分析を加えようとするものである。

混沌として出口の見えない現代。この現実を踏まえ、憲法学者を中心に編纂された一冊。立憲主義、平和、生命、宗教を射程にいれ、さまざまな視点から論じ、21世紀のあるべき姿を問う。

憲法、民法、刑法、民事訴訟法、法律用語を手がかりに法令条文の検索を行うことを目的とした本書は、六法全書のパートナーとして法律を学ぶ人や法律問題を検討する人にとって幅広い利用が望まれる。

21世紀を迎えたわが国地方自治の「いま」を憲法のみで検証した書物。地方自治憲法学の見取り図を示した上で、自治法制の歴史、地方自治法99年大改正のもたらすもの、自治体の機能のありよう、地方自治憲法学の諸課題を論じた。地方自治論などの教科書にも最適。

日本国憲法前文の「平和のうちに生存する権利」(平和的生存権)に表される人権と平和を不可分のものとして捉え、世界的な潮流である戦争の違法化の流れを踏まえながら、憲法、国際人権法の観点から戦争を突き崩し「平和学」の体系化へのアプローチを試みる。

「人権の世紀」と呼ばれる21世紀に、日本国憲法の人権保障は一段と重要性を増している。人権の主な問題を、総論・平等と自由権・社会権を中心に体系立てて検討し、それが実現されるための課題を明らかにしようとした。大学の教科書にするための工夫も加えた。

21世紀の人権保障の課題を、日本国憲法と国際人権法の双方にわたってわかりやすく説く。とくに、国際社会における日本のあり方を考えた。資料に、国連憲章・国際人権規約・女性差別撤廃条約・子どもの権利条約などを多数所収。大学・短大の教科書に最適。

本書は、大学等で憲法をはじめ学ぶ人たちのために書かれた入門書である。抽象的な議論に終わることなく、具体的事例に即して憲法を考えようとする観点から、最高裁や下級審の判例等を取りあげ、検討しており、初学者にとっても読みやすい内容となっている。

この国の政治のあり方が改めて問われ、私たちの生活も大きな変化に直面している今、日本の政治の基本ルールを定めた日本国憲法への理解は非常に重要である。近年の動向も盛り込みつつ、初学者にも分かりやすいようまとめた憲法学習入門書。

明治初年(明治元年から一四年末までの時期)における裁判制度、とりわけ訴訟手続の歴史の変遷を≪垂直の手続構造から水平の手続構造への移行過程≫として法制史的に把握することを試みる。裁判資料を多数収録し、歴史資料としても価値ある1冊。

平野 武著

明治憲法制定とその周辺

1531-7 A5判・290頁・3,800円(本体価格)

明治憲法制定に関して、その研究史を含めて概観し、近代日本の政教関係の特色、宗教団体での憲法論等を検討する。また、明治憲法制定に大きな影響を与えたシュタインの政教関係論や日本の国制史観を検討することによって明治憲法制定に新しい光を与えている。

春日 修著

当事者訴訟の機能と展開 —その歴史と行訴法改正以降の利用場面—

2916-3 A5判・240頁・3,800円(本体価格)

当事者訴訟の歴史を概観すると共に、2004年行政事件訴訟法改正以後の裁判例の整理と検討を通じて、現在、当事者訴訟がどのような場面で利用されているか、確認訴訟(当事者訴訟)において確認の利益が認められるのはどのような場合かといった問題に答える。

海野敦史著

行政法綱領 —行政法学への憲法学的接近—

2280-5 A5判・946頁・8,800円(本体価格)

行政法を学びたいと考える読者を対象に、その「綱領」ないし「要点」について解説を施すとともに、主要な論点に関する学説・判例を整理しつつ独自の見解を付加した体系書。誰が読んでも行政法の大要が理解できるよう、行政実務の経験に基づく知見も適宜加味され、わかりやすい記述となっている。

乙部哲郎著

行政行為の取消と撤回

1834-1 A5判・514頁・6,500円(本体価格)

行政行為の取消と撤回は、行政法総論の教科書等では常に扱われる重要問題である。本書は、行政行為の取消と撤回について、ドイツ連邦行政手続法・租税通則法・社会法典等における取消・撤回規定の分析をふまえて、わが国の凡例・学説等を批判的に検討する。

北川秀樹編著

中国の環境法政策とガバナンス

2310-9 菊判・274頁・3,800円(本体価格)

中国では、急速な経済発展の一方で環境汚染・破壊が進行している。本書は、環境法体系は整っているものの執行面の問題があるとの視点から、日本と中国の研究者がその現状と課題をそれぞれ専門の立場から分析し、環境ガバナンスの改善について学際的に考察したものである。

川阪宏子著

遺留分制度の研究 —共同相続人間の公平性確保の視点から—

2757-2 A5判・204頁・3,200円(本体価格)

遺留分制度について判例・学説を整理・検討し、その意義を考察。共同相続人間の公平を実現する最後の砦としての必要性を説く。新しい問題として、中小企業の経営承継の円滑化・信託の利用における課題、法制審議会民法部会における遺留分制度の見直し審議についても紹介・検討する。

田中裕明著

要説 独占禁止法 —経済法入門—

2830-2 A5判・206頁・2,600円(本体価格)

独占禁止法の経済法としての位置付け、独占禁止法のねらい・基本構造を知る上で必要なポイントについて、経済法を学ぶ人の現場の声を反映しながらコンパクトに解説し、重要判例・審決を多数掲載。

瀬々敦子著

中国民商法の比較法的考察 —契約法、会社法、信託法、投資関係法の国際的地位—

2130-3 A5判・208頁・3,000円(本体価格)

中国ビジネスに不可欠な中国の契約法、会社法、信託法、投資関連法を、日本法、英国法、米国法、ドイツ法、フランス法、アジア諸国の法、ウィーン動産売買条約、ユニドロワ国際商事原則、ヨーロッパ契約法原則等と比較・分析し、契約書作成上の実務的な解説を行った。

瀬々敦子著

民法改正とアメリカ契約法

2336-9 A5判・202頁・2,800円(本体価格)

アメリカ契約法を英米法の沿革から説き起こし、基本的な内容について、現在我が国で進行している「国際的潮流」に沿った民法(債権法)改正作業に与えている影響をふまえ、ウィーン動産売買条約等との比較や実務的観点も入れて解説。焦眉の問題となっている震災対応についても言及。

瀬々敦子著

金融取引法の現代的課題

2428-1 A5判・194頁・2,800円(本体価格)

金融業界は外圧の影響を受け、財務省・金融庁の主導の下、この20年で大改革を遂げてきた。銀行による証券投資信託の販売、銀行のリスク商品販売における説明義務と適合性の原則など、銀行での実務経験を有する著者が理論を踏まえつつ実践的に考察する。

池島真策・橋谷聡一 編著

はじめてのビジネス法

2824-1 A5判・144頁・1,700円(本体価格)

河合正二著

基礎から学ぶ会社法 —80のステップで学ぶ会社のしくみ—

2787-9 A5判・274頁・2,800円(本体価格)

國友順市編著

会社法

2104-4 A5判・236頁・2,700円(本体価格)

霞田英人著

増補改訂版

創業と会社変更のための会社法

—中小会社・合同会社・特例有限会社—

2141-9 A5判・200頁・2,500円(本体価格)

村田毅之著

労働法の再構築

—働き方改革の時代を迎えて—

松山大学研究叢書 第98巻

3136-4 A5判・294頁・3,200円(本体価格)

村田毅之著

入門 個別的労使紛争処理制度

—社労士法第8次改正を踏まえて—

松山大学研究叢書 第89巻

2803-6 A5判・204頁・2,600円(本体価格)

村田毅之著

労使関係法

—集团的労使関係法と個別的労使紛争処理制度—

松山大学研究叢書 第85巻

2649-0 A5判・226頁・2,800円(本体価格)

村田毅之著

労働法の現在

—流動化する労働法規制の諸様相—

松山大学研究叢書 第79巻

2559-2 A5判・240頁・3,200円(本体価格)

村田毅之著

日本の労使関係法

—集团的労使関係法と個別的労使紛争処理制度—

松山大学研究叢書 第74巻

2381-9 A5判・218頁・2,500円(本体価格)

村田毅之著

労働法の原点

—今こそ求められる労使関係法理—

松山大学研究叢書 第72巻

2314-7 A5判・238頁・2,800円(本体価格)

経営や法律を学ぶ一年生に、ビジネス法の中心的な法律(民法、商法・会社法、知的財産法、税法、労働法)のエッセンスを提供するとともに新社会人にも必備の一冊。

膨大で難しいとされる会社法を、「平易な文章」「豊富な具体例と理由づけ」「理解促進のための独自のレイアウト」で、とにかく「わかりやすく」短期間でスムーズに理解できるように工夫。学生だけではなく、会社法を初めて学ぶあらゆる人に最適の入門書。

会社法は、制度そのものが複雑になり、条文も2倍に増えている。本書は、会社法の全体の骨組みを理解できるように、通説をベースに平易に解説し、論点にも目がいくように記述した。初めて会社法を学ぶ人のためのコンパクトで分かりやすいテキスト。

中小会社、特例有限会社、持分会社、有限責任事業組合の法を解説し、比較検討する。さらに、中小企業のさまざまな法についても解説し、現代に即応した最新の理論的水準の内容を盛り込みながら、現在問題となっている事項及び通説を中心とした平易で簡潔な解説書。

働き方改革の時代を迎え、長時間労働の是正や正規・非正規労働者間の不合理な格差解消等、対応しなければならぬ問題に向けて再構築が求められている労働法について、これまでの判例理論や学説をも踏まえて、労働基準法を中心とする個別的労使関係法に働き方改革関連法を盛り込み概説した。

都道府県労働局の新組織である労働環境・均等部(室)も含め、裁判所における補佐人制度を導入した社労士法8次改正後の個別的労使紛争処理制度を概観するとともに、労使紛争の典型的な流れを、集团的労使紛争に変容した場面をも想定して平易に明らかにした。

労働組合法を中心とする集团的労使関係法の諸問題に関する判例や学説を検討し、その現在の姿を明らかにするとともに、社労士法8次改正により新たな段階を迎えた個別的労使紛争処理制度の全体像を示し、労使コミュニケーションに関する基礎法理を確認する。

今日の日本の法政策は、政治の不安定さを反映して、その方向性が定まらない状態が続いている。労働基準法を中心とする個別的労使関係法の判例や学説を検討することにより、揺れ動く現在の労働法の姿を確認するとともに、これからのますます増大するであろう個別的労働紛争処理制度の現状を明らかにする。

労働の現場が危機的状況にある日本において、労働組合や労使のコミュニケーションの重要性を再認識し、労使のコミュニケーションや使用者、労働組合を規制する集团的労使関係法と、個別的労使コミュニケーションを実現する個別的労使紛争処理制度の概要を示す。

米の金融危機に端を発する不況や東日本大震災により、日本におけるセーフティネットはその脆さを露呈し、労働者の弱さが再確認されることとなった。本書は、労働法の原点に立ちかえり、直接雇用を大前提として労働基準法を中心とする個別的労使関係に関する法律や、これまでの判例理論、学説などを再検討する。

村田毅之著

労働法の新展開—労働契約法施行後の労使関係法理—
松山大学研究叢書 第57巻

1991-1 A5判・252頁・2,900円(本体価格)

† 雇用機会均等法やパートタイム労働法の改正法とともに、待望の労働契約法も施行され、新たな展開を見せる個別的労使関係法を中心に、個別的労使紛争処理制度や集团的労使関係法の現在の姿を、多くの裁判例や行政解釈、学説を踏まえて、明快に論じている。

村田毅之著

**日本における
労使紛争処理制度の現状**

松山大学研究叢書 第54巻

1941-6 A5判・230頁・2,900円(本体価格)

† 労働審判運用後の日本の労使紛争処理制度の現状を、労働裁判から、司法型ADRの労働審判や民事調停、行政型ADRの労働委員会や労政主管事務所、労働局の諸制度、私的機関の兵庫労使相談センターや社労士会総合労働相談所などに到るまで詳細に描いている。

金子由芳著

ミャンマーの法と開発

3097-8 A5判・2,800円(本体価格)

発展途上国がめざすべき「法」と「開発」は、外資導入を自己目的化するワシントン・コンセンサス路線とは限らない。ミャンマー社会の内側から、生きた規範と人々のニーズを見つめていくとき、社会経済の自立に資する「法の独立」の道を探り当てることができる。揺れ動くミャンマーの未来を考えようとする学生、研究者、投資家にとって必携の書。

石井 正著

歴史のなかの特許

—発明への報奨・所有権・賠償請求権—

2050-4 A5判・282頁・3,300円(本体価格)

近代特許制度について、15世紀ヴェネツィアから19世紀末のウィーン特許国際会議および明治日本の特許制度導入の経緯まで、その発展を俯瞰してみた書。発明が、報奨、所有権、賠償請求権の視点から保護されてきたこと、その制度設計の歴史を分析。

畑中綾子著

**医療事故の原因究明と責任追及を
めぐる医療と司法の対立**

2929-3 A5判・168頁・3,400円(本体価格)

日本の裁判所は消極的なのか？日本の医療訴訟を紐解けば、被害者救済に向け「積極的」に活動した司法の姿が見える。医療事故の法的責任追及に対する医療界の反発にどう応えるのか。2015年10月に開始された医療事故調査制度への期待と将来の司法の姿を考える。

和田謙一郎著

戦後らい法制の検証

2825-8 A5判・200頁・3,600円(本体価格)

ハンセン病療養所で、穏やかに、そして精力的に生き抜いてこられた方々がいる。これらの方々を排除し続けたハンセン病問題は、時には裁判闘争となり、また風化される。わが国は、なぜ「らい予防法」を放置し続けたのか、その検証を社会保障法制から試みる。

李 庸吉著

**医療紛争の法的分析と
解決システム**

2681-0 A5判・326頁・4,800円(本体価格)

第15回 非営利法人研究会賞受賞

昨今、注目を集めている医療紛争。本書では、韓国での議論と医療被害救済制度の特徴と取り組みを紹介し、紛争の「予防」と「解決」を主眼に韓国と日本の比較を試みる。医療関係者にとっても示唆的な内容を盛り込んだ韓国医事法研究に関する本邦初の書。

鈴木龍也編著

宗教法と民法の交錯

龍谷大学社会科学研究所叢書

2009-2 A5判・338頁・4,800円(本体価格)

† 宗教は、一つの組織として社会に存在し、習俗や慣行を通じて人々の行動を方向付ける。本書は、このような社会的存在としての宗教と市民的秩序としての民法との関係について、宗教法人の組織、宗教地の所有、祭祀財産の相続など、幅広い問題を取り上げ、検討する。

平野 武・本多深諦 著

本願寺法と憲法

—本願寺派の寺院・宗制・宗法の歴史と展開—

2199-0 A5判・334頁・4,500円(本体価格)

本書は、明治10年代から戦後の民主化までの時期を中心に浄土真宗本願寺派の基本法である寺法、宗制、宗法等が近代日本の国家の基本法である憲法あるいは宗教法制とどのような関係をもちながら成立・発展してきたかを原資料に依拠しながら検討するものである。

平野 武・齊藤 稔 著

宗教法人の法律と会計

1269-5 A5判・196頁・2,300円(本体価格)

本書は、宗教法人が直面する法律、税金、会計の問題について幅広い角度から解説する。また、具体的な事件や裁判をとりあげ、判例の流れを検討するとともに、会計基準の問題を指摘して、宗教法人の会計のひな型を提示し、この問題への対応策を論じる。

朱 涛著

中国都市商品建物 予約販売制度の研究

2268-3 A5判・200頁・3,300円（本体価格）

中国の不動産市場で重要な部分を占める商品建物予約販売制度は、近年、広範で多様な社会問題を生じさせている。本書では、商品建物予約販売において発達してき按揭（アンジェ）という担保方式の法的性格や建設請負代金債権担保の方策を中心に分析・検討する。

李 永燃著

中国農村の土地公有制 及びその法的分析

2270-6 A5判・160頁・3,000円（本体価格）

本書は、中国農村の土地公有制の形成、現在の土地政策・法をふまえ「農民集団所有制」の問題点を日中の総有論を比較対照しながら明らかにし、法的分析を行う。改革・自由化のなかで、土地所有権が私的権利として認められるようになってきた中国の変容を考察する注目すべき書である。

畑中和夫・王家福・肖賢富・孫 新 編

中日・日中法律用語辞典 国際比較法シリーズ別冊

0870-1 四六判・256頁・2,700円（本体価格）

中国が改革開放政策により市場経済を進め、驚異の経済成長を続け市場としても注目されるなか、その特色ある法律についての理解や実務作業も必要となっている。本書は法律の実務家・研究者・学生のために、法律用語を厳選し、簡明コンパクトに編纂。

経 済

松浦一悦著

改訂版

現代の国際通貨制度

3274-3 A5判・228頁・2,600円(本体価格)

坂下 晃監修

鳴滝善計・外島健嗣・田村香月子 著

証券投資の基礎知識

3255-2 A5判・226頁・2,600円(本体価格)

佐伯靖雄編著

中国地方の自動車産業

—人口減少社会におけるグローバル企業と地域経済の共生を図る—

3237-8 A5判・348頁・3,800円(本体価格)

本田 豊著

食関連産業の経済分析

3214-9 A5判・222頁・2,800円(本体価格)

馬場 哲・高嶋修一・森 宜人 編著

二〇世紀の都市ガバナンス

—イギリス・ドイツ・日本—

3189-0 A5判・272頁・4,900円(本体価格)

山本 隆著

貧困ガバナンス論

—日本と英国—

3209-5 A5判・276頁・2,800円(本体価格)

南保 勝著

地域経営分析

—地域の持続的発展に向けて—

3183-8 A5判・222頁・2,800円(本体価格)

山下隆之編著

人口移動の経済学

—人口流出の深層—

3197-5 A5判・156頁・2,100円(本体価格)

日野真紀子著

シルクとイタリアン・

ファッションの経済史

—色で高付加価値化を目指した两大戦間期—

3204-0 A5判・242頁・5,700円(本体価格)

肥大化した資本がグローバルに動き回ることによる資産や為替の急激な変動は、人々の不安な心理を生み出し、市場の不安定性・不確実性を高めている。本書は、現代の市場経済が歴史的な変化の積み重ねから、段階を経て生まれてきたことを辿り、金融リテラシーの必要性と国際通貨制度の問題点を明らかにしようと試みる。

資産形成の必要性が注目されているが、証券投資はどのように行えばよいのだろうか。投資信託・株式・債券の基礎から、それらを組み合わせるポートフォリオの知識まで、証券投資の基礎知識を分かりやすく解説。

中国地方の自動車産業を中核企業と部品産業、支援機関の各視点から詳細に分析。人口減少という深刻な制約のもと、地方の自動車産業が直面するグローバル化と地域経済との共生について、地域のための実践的な議論を試みる。

現在、インバウンド向け飲食サービスの充実や、日本食文化の海外展開が華やかに取り上げられている。しかし、実はそれだけで食関連産業を活性化することはできない。食関連産業が抱える諸問題の解明や将来展望の構想ができる経済分析力を磨く。同時に、長期的視点に立った食関連産業のあり方について、筆者独自の政策も提言。

現代都市はいかに秩序づけられたのか、二〇世紀都市の多様な問題にガバナンスの観点から比較史的に取り組み、都市史研究が社会経済史研究に対して貢献しうる可能性を探る。

本書は貧困ガバナンス論という独創的概念を提示し、貧困対策に通底するのは統制・合理化・抵抗の3要素であることを日英の文脈から実証的にフォローする。さらに、統制を乗り越えて、格差なき公正な社会に近づくためには、市民が貧困ガバナンスの構造を理解し、政治的な参加を実践することが求められ、不利な立場にある人々との連帯を強めることが何よりも必要であることを明らかにし、これからの新たな貧困対策のあり方を指し示す。

今まさに地方圏の時代。そのための「地域経営」とはいったいどうあるべきか。今後求められる「地域経営」のあるべき姿を、著者がフィールドとする福井地域をモデルに、「地域固有の資源の活用」、「文明」の「文化」化、「連携」という3つの視点から考える。

静岡県が人口流出県へ転落！若者はどこへ向かうのだろうか。地方経済における少子化の原因を探る。独身女性が故郷を離れ、東京圏へ集中する理由を明らかにし、その将来を予想する。

戦後のイタリアン・ファッション繁栄の背景には、ファシズム期における繊維・化学工業の発展があった。「シルク」の普及と「色」の開発により、衣類のファッション性が高まり、「シルク」製品が輸出拡大のための基幹産業となる、その過程をたどる。

関谷次博著

物流発展と生産性

—戦後日本トラック輸送の発展から—

3167-8 A5判・248頁・4,000円(本体価格)

戦後の日本において、トラック輸送がなぜ鉄道という確立された輸送網にとって代わって発展したのか。戦後の道路整備の進展といった要因にとどまらず、利用者側の輸送手段選別の過程やトラック運輸業者の活動といったミクロの分析からアプローチする。

田中恒行著

日経連の賃金政策

—定期昇給の系譜—

3157-9 A5判・224頁・3,000円(本体価格)

本書は、日経連・日本経団連に代表される経営側が定期昇給を維持・展開してきた歴史を、戦後から現代まで様々な観点から分析する。「働き方改革」が推進されるなか、定期昇給が今後いかなる変容を遂げるのかは、これからの日本の賃金体系の方向性を検討する上で、注視すべき論点である。

田中 宏編著

協働する地域

3280-4 A5判

近刊

グローバル化のもとで、地域づくりを従来の地域ガバナンス論や地域的政治経済システム論で論じることから一歩前進し、チームやネットワークから境界を越えて結び合い変化し続ける地域のノット(結び目)ワーキングとして協働する地域を捉える取り組みを、日本・中国・欧州の事例から議論する。

青木 亮・溝口清隆 著

路面電車からトラムへ

—フランスの都市交通政策の挑戦—

3236-1 A5判

近刊

1985年のナントでのトラム復活は、その後のフランス各都市でのトラム整備につながり、さらにはBHNSなど新たな交通モードを生み出した。一度はフランスのほとんどの都市から姿を消したトラムが各地で斬新なデザインの車両と共に復活し、スポットライトを浴びていくその変遷を1冊の書籍としてその全体をまとめて紹介。

馬場 哲・山本 通
廣田 功・須藤 功 著**エレメンタル欧米経済史**

2340-6 A5判・294頁・2,800円(本体価格)

金子邦彦編著

近代資本主義がいち早く、もっとも典型的に発展した、ヨーロッパ諸国とアメリカ合衆国の経済史を、最新の研究成果を踏まえて中世から現代までバランスよくコンパクトに集約。近代資本主義が経済社会を世界規模で支配するに至った過程を辿る。

エレメンタル 現代経済学

2740-4 A5判・204頁・2,200円(本体価格)

庭田文近編著

経済学の基礎はもちろん、いくつかの重要な応用分析もあわせて学習できるように構成し、最近注目の「行動経済学」にも言及。数式展開はなるべく避け、複雑な経済現象をやさしく理解するための1冊。

エレメンタル マクロ経済理論

2727-5 A5判・296頁・3,400円(本体価格)

尼寺義弘著

非経済学系学部の学生に向けた教養レベルの経済学テキスト、もしくは経済学系学部の初学者向け入門テキストとして最適な1冊。大学の半期15回の授業を想定して15章構成とし、マクロ経済学の3つの市場(財市場、資産市場、労働市場)を明確に構成。

経 済 学

0685-0 A5判・162頁・2,000円(本体価格)

朴 勝俊・飯田善郎・寺井 晃 著

経済理論の不毛性が叫ばれて久しいが、現実が躍動し、それを反映する理論は本来面白いもののはずである。本書は理論のもつ面白さが伝わるよう資本制的な経済システムの基本的な構造を生産・流通・分配という3つの側面から把握し体系づけて論ずる。

第2版

経済学のはじめの一步

2242-3 A5判・320頁・2,900円(本体価格)

内上 誠著

初学者のためにマクロ・ミクロ経済学のイロハを難解な数式を用いずに分りやすく解説。教育の一線に立つ若手研究者が、初学者が躓く点に注意して執筆したもので、需要と供給、国民所得と物価、財政政策と金融政策など重要な概念がみるみる身につく。

改訂版

景気循環論入門

2160-0 A5判・248頁・2,800円(本体価格)

ケインズ経済学の立場から書かれた景気循環論の入門テキストである。景気循環の基本的な考え方から、重要な景気指標の見方、基本的な景気循環モデルから簡単な非線形モデルまでを網羅し、初学者にも分かりやすく説明。

前田純一著

経済分析入門 I

—マイクロ経済学への誘い—

2260-7 A5判・202頁・2,500円(本体価格)

初めてマイクロ経済学を勉強しようとする人たちが、つまづいてしまいがちなグラフや数式を具体的な例を豊富に盛り込むことにより、できるだけ丁寧にわかりやすく解説し、本格的な経済学へと読者を誘う。

前田純一著

経済分析入門 II

—マクロ経済学への誘い—

2326-0 A5判・148頁・2,000円(本体価格)

I巻ではマイクロ経済学、本書ではマクロ経済学に焦点を当てる。「マクロ経済学の勉強は思っていたほど難しいものではない！」そう感じてもらえるよう、多くの図表と具体例を盛り込み、わかりやすく平易に書かれた、マクロ経済学入門の一幕。

中村 亨著

経済発展の計量分析

神戸学院大学経済学研究叢書 16

1944-7 A5判・242頁・3,300円(本体価格)

経済発展の要因に関する計量分析。FTA、通貨危機、集積化、対外債務、援助、経常収支の持続可能性等のトピックを中心に計量的手法を用いて、その経済発展への影響を計測・先行研究との比較を行った。グローバル経済下の政策立案・評価の為に欠かせない基礎研究である。

山下章夫著

Maximaによる経済分析

2587-5 A5判・324頁・4,500円(本体価格)

本書はフリーの数式処理システム Maxima を、経済分析に利用したものである。各章では、実装されている関数を利用して、行列計算、微積分、最適化、差分方程式、微分方程式などの計算を行っている。またグラフを多用して、経済理論の内容を理解しやすようにしている。

西山 茂著

日米経済の資金循環モデル

神戸学院大学経済学研究叢書 19

2691-9 A5判・314頁・4,800円(本体価格)

本書は、L. R. クラインの提案した投入産出形式の資金循環モデルに対して対称的な構造を持つ資金循環モデルの修正版を日米経済の分析に適用し、クライン・モデルの修正版を基礎とする日米経済の金融マクロ計量モデルを作成することを目的とするものである。

高橋信弘著

産業内貿易の理論

2382-6 A5判・168頁・1,800円(本体価格)

経済学の理論モデルを用いて産業内貿易を分析する本格的な研究書。貿易をすることでその国が不利益を被るモデルや、一国が産業政策をとることにより貿易相手国にも利益をもたらすモデルなど、従来の研究とは結論が大きく異なる新たな貿易モデルを提示する。

塩田真典著

市場・企業・企業者精神

2116-7 A5判・218頁・2,700円(本体価格)

本書は R. H. コースに論を発する取引コスト理論、F. A. ハイエクの市場論、J. A. シュンペーターの企業者論等の批判的継承の試みであり、それを通して、企業者活動が営まれる現場としての「市場」を把握できるような分析的枠組、市場経済学の構築を目指している。

中川栄治著

「アダム・スミス価値尺度論」 欧米文献の分析(上)

—基本的諸問題をめぐって—

2014-6 A5判・628頁・8,800円(本体価格)

「スミス価値尺度論」に関連する多様で錯綜した欧米文献を分析する。上巻では、時系列的に、19世紀末から1970年代末までの諸文献で扱われている基本的諸問題およびその諸問題に関する個々の見解の内容・特徴を明らかにする形で、研究の展開を跡付ける。

中川栄治著

「アダム・スミス価値尺度論」 欧米文献の分析(下)

2372-2 A5判・832頁・14,000円(本体価格)

「スミス価値尺度論」に関連する多様で錯綜した欧米文献を分析する。下巻では、各期間という枠を越え、横断的に、それら諸問題を巡って提示されてきた諸所論を相互に位置付け、そこに現出する論点の内実を明示し、さらに、その後の文献にも触れ、今後の研究に対し一展望を提示した。

和田聡子著

産業経済の発展と競争政策

2781-7 A5判・246頁・2,700円(本体価格)

本書は、日本の競争政策の歴史的展開を考察すると共に、とりわけ「競争」および「規制」との関連が深いと思われるビール産業、自動車産業、航空産業、医薬品産業、流通業の5業種を取り上げ、内容や特徴、さらに今後の課題についても詳細に論じる。

小西唯雄・和田聡子 著

増補版

競争政策と経済政策

1429-9 A5判・224頁・2,600円(本体価格)

小西唯雄編

産業組織論と競争政策

1205-9 A5判・328頁・3,500円(本体価格)

海野敦史著

公共経済学への招待

2153-2 A5判・268頁・2,900円(本体価格)

関下 稔著

国際政治経済学要論

—学際知の挑戦—

2184-6 A5判・352頁・3,000円(本体価格)

関下 稔著

国際政治経済学の新機軸

—スーパーキャピタリズムの世界—

2028-3 A5判・230頁・2,700円(本体価格)

若森章孝著

新自由主義・国家・
フレキシキュリティの最前線

—グローバル化時代の政治経済学—

2479-3 A5判・274頁・2,800円(本体価格)

櫻井公人・小野塚佳光 編

グローバル化の政治経済学

1024-2 A5判・180頁・2,100円(本体価格)

マーク・A・ルッツ 著
馬場真光 訳

共通善の経済学

—人間性重視の社会経済学・二百年の伝統—

2815-9 A5判・466頁・6,400円(本体価格)

サミュエル・フライシャッカー 著
中井大介訳

分配的正義の歴史

2773-2 四六判・286頁・3,500円(本体価格)

中井大介著

功利主義と経済学

2071-9 A5判・230頁・3,000円(本体価格)

競争政策、経済政策の基本問題を原理的に検討。また、日本、米国、EUの競争政策を考察し、現実産業のケース・スタディとしてビール、自動車、航空の諸産業を考察。さらに、「経済と人間」にかかわる10テーマについて論じる。

産業組織論の新しい諸学説と各国の競争政策について、それぞれの専攻者が簡明に整理・考察する。読者は、産業組織論の動向と現実政策の新展開を容易に理解できるであろう。「産業組織論の新潮流と競争政策」を改訂・増補した新しい体系書。

公共経済学の諸理論とその意義について、経済学の初心者でも理解できるように、わかりやすく丁寧に説明した入門書。公共財、外部性、費用減減産業などの理解の前提となるミクロ経済学の基本的枠組のポイントも解説しつつ、随所に公法学的視点も加味している。

現代世界を国際政治経済学から解明するもので、その基礎概念、理論と学説、貿易摩擦、国際通貨体制、国際競争力、多国籍企業、日米同盟、アメリカの覇権体制の行方などの諸章を通じて詳細に展開している。

急激に変動する世界の政治・経済・文化の波により、伝統的な規範や枠組みが有効性を失う時代。本書では、より有効な理論構築のために、従来にない視点や研究方法を取り入れ学問的越境を図ることにより、国際経済学の新機軸の提示を試みる。

今日の社会科学の最も重要な課題である国家論を、レギュレーション理論の観点から福祉国家の危機と新しい社会的リスクを見据えて考察し、金融資本主義による労働市場と福祉国家の再編を批判して、デンマークモデルや移動的労働市場論などの対抗的ビジョンを提起する。

制度論やネオ・グラムシアンなど従来等閑視されがちであった分野に光を当て、通貨危機・ユーロから地域統合まで、グローバル化の諸相と帰結を描く。グローバル化と国家を軸に、独自領域としてのIPE(国際政治経済学)構築を目指す、気鋭の研究者達による論文集。

人間にとっての共通善(コモングッド)の存在を認める社会経済学。シスモンディに遡るその伝統を紹介し、合理性重視の主流派経済学に代わる、「二重の自己」と倫理に根ざす人間的な経済学の要件を示す。法人制度、グローバル経済、将来世代の環境保全への示唆も含む意欲作。

すべての人間が、一定の財やサービスの分け前に値する。このような認識は、いつどのように誕生したのか。本書は、「分配的正義」を手掛かりとして道徳・政治哲学の歴史を再構成することで、貧者や貧困にたいする価値観の変化を鮮明に描き出した傑作である。

19世紀の功利主義者シジウィックは、生涯を通じて倫理学・経済学・政治学からなる哲学体系を構築しようとしていた。功利主義を鋭く批判したロールズによってさえ絶賛されているシジウィックの思想を通じて、功利主義と経済学の関係とは何かを明らかにする。

A. ウッツ著
島本美智男訳

経済社会の倫理

1327-6 A5判・306頁・3,600円(本体価格)

バーリ・ゴードン 著
村井明彦訳

古代・中世経済学史

3122-7 A5判・240頁・2,800円(本体価格)

マーガレット・G. オドーネル 著
関 劭訳

古典派政治経済学者の教育思想

0674-1 A5判・212頁・2,400円(本体価格)

塩田真典著

「見えざる手」の痕跡を求めて —市場と芸術をめぐる文化史—

3092-3 A5判・346頁・4,800円(本体価格)

大村照夫著

ウィリアム・ペイリー研究

0686-5 A5判・308頁・3,000円(本体価格)

大村照夫著

ウィリアム・ペイリーの 政治哲学

0901-1 A5判・284頁・3,300円(本体価格)

戸田信正著

経済社会学序説

2412-0 四六判・182頁・2,000円(本体価格)

野尻武敏著

経済社会思想史の地平

2189-1 A5判・256頁・2,600円(本体価格)

福田敏浩著

第三の道の経済思想 —危機の時代の羅針盤—

2230-0 A5判・232頁・2,600円(本体価格)

佐藤 光著

カール・ポランニーと金融 危機以後の世界

2384-0 A5判・200頁・2,200円(本体価格)

時代の転換期には既存の体制を支えた規範体系が崩れ、それを越えたところに新たな方向づけを求めざるをえなくなる。本書はカトリック社会論の碩学がこの時代的要請に応えるべく経済の根本規範を見定め、社会倫理的に正当化しうる経済社会秩序に論及した名著。

経済学は基本的に啓蒙期に生まれた学問で、それ以前のは古代のポリスや中世の封建社会の制約をこうむった萌芽的断片にすぎないと考えられていた。だが実はスミスより500年以上前から主観的価値論に根ざす経済学が発達していた。中世経済学は古典派よりも限界革命後の経済学に近かったのである。古代・中世で成熟していく経済学の物語を辿る。

18世紀末から19世紀末葉までのイギリス、フランス、ドイツの代表的な政治経済学者(スミス、J.S.ミル、セー、マルクスなど)を取り上げ、かれらの教育観、教育政策、教育制度の内容を明らかにするとともに、その今日的意義を問い直した先駆的著書の完訳。

たとえ古典芸術作品といえども当初社会に受容されるためには、何らかの手立てを講じ商品化を図らねばならない。本書は、古典作品中に潜む商業化の手立て、「見えざる手」の痕跡を求める様々な事例研究であり、ある意味、時空を超えた旅に準えられるものである。

ウィリアム・ペイリーの神学的功利主義思想は自然法思想から功利主義思想への転換期における間隙を埋める貴重な思想体系である。本書は、ペイリーの道徳哲学に焦点を絞り、彼の真意を伝えるために、ペイリーの翻訳文の紹介を中心に論を展開する。

ペイリーの政治哲学は、彼の道徳哲学と同様に神学的功利主義をベースに社会主義を批判し、資本主義の民主主義的運営を説く。本書はその検証のための途を開くために、主著『道徳および政治哲学の原理』の後半部分より、彼の政治哲学を忠実に整理・紹介する。

人間生活における経済過程を、社会、国家、福祉、教育、宗教等との関連において考察する。その際人間存在成立の基盤とは何かを問い尋ね、その基盤に応答して人間及び経済・社会の不可避的な諸問題に対処することの必要性・重要性を説く。

経済政策の分野で長年研究を続けてきた筆者が、トマス・アクィナスと経済学の関わりから説き起こし、文明史的な視点から西欧精神の光と陰を辿る。現代の諸問題群を解決するための新たな座標軸として人間の視座を提示し、近代文明を超えてゆくための方位を探る。

危機の時代に繰り返し論じられてきた「第三の道」論を5つの系譜に分類し、ドイツ語圏の学説を中心にその概要、特徴および今日的意義を論ずる。また、グッド・ソサエティ論系についても取り上げつつ、市場経済の暴走を抑止し、対抗力としての市民社会の構築を提案する。

ポランニーの「市場経済と社会の二重運動論」のエッセンスを要約した上で、アメリカ発金融危機以後の世界の現状を詳細に分析する。さらに世界資本主義、地球環境問題などの諸問題を解決するためのヒントをポランニー哲学に求め、独自の観点から考察する。

中村 進著

工業社会の史的展開

—エネルギー源の転換と産業革命—

0395-5 A5判・268頁・3,100円(本体価格)

羽鳥卓也・藤本建夫
坂本 正・玉井金五 編著**経済学の地下水脈**

2360-4 A5判・270頁・2,700円(本体価格)

木元 富夫著

産業化の歴史と景観

1577-5 A5判・222頁・2,600円(本体価格)

ピーター・マサイアス 著
関西大学経済史研究会 編訳**経済史講義録**

—人間・国家・統合—

1951-5 四六判・222頁・2,100円(本体価格)

林 妙音著

スコットランド近代繊維工業の展開

2875-3 A5判・246頁・3,000円(本体価格)

岡部 芳彦著

イギリス検認遺産目録研究

神戸学院大学経済学研究叢書 18

2583-7 A5判・318頁・5,400円(本体価格)

友松 憲彦著

近代イギリスの日用品流通

—19世紀ロンドンの労働者生活—

2678-0 A5判・292頁・4,500円(本体価格)

フーベルト・キーゼヴェーター 著
高橋秀行・桜井健吾 訳**ドイツ産業革命**

—成長原動力としての地域—

1702-6 菊判・376頁・3,700円(本体価格)

杉原 左右一著

増補第3版

統計学

2504-2 A5判・364頁・3,300円(本体価格)

D. B. スーツ 著
好田順治・二宮正司・北村研一郎 訳**スーツ統計学**

—数量経済分析のための入門—

0169-3 A5判・296頁・2,900円(本体価格)

産業革命の捉え方は非常に多面的であるが、本書では経済史における生物エネルギー源から無生物エネルギー源への転換という事実に焦点をあわせ、そうして生み出された産業革命観をととして、革命以前の農業社会とそれ以後の工業社会をあとづける。

現代は信ずべき理念なき時代である。我々はそれを求めて歴史に向かう。歴史は過去という地下に形成される豊かな水脈であり、新たなビジョンの源泉ともなるからである。著者それぞれの鋭利な歴史の現代的問題関心からこの水脈を照射し、問題点を抉り出す。

欧米と日本の産業化のプロセスを概観したあと各地に産業遺産を訪ね、その産業文化史的意義を歴史的景観の中で考える。さらに貴重な産業遺産の保存と活用まで考察を及ぼした、産業考古学入門の書でもある。本書によって産業界の景観の見方を深めることができる。

イギリス経済史の大家による選りすぐりの論考を収録。経済史学が対象とする人間像や隣接分野との関係から説き始め、ヨーロッパ人によるヨーロッパ観の形成、その内部で発展するイギリス過去300年の経済史をふりかえる。

スコットランドは長らくその地域的独自性を堅持してきた。本書はスコットランドの亜麻工業と綿工業の発展を自立的資本制経済社会の形成過程として捉え、経済地域の形成という視点からプロト工業化と産業革命の歴史の意味を再検討する。

検認遺産目録は、当時の生活実態を知る有力な手掛かりとされるが、その一方で信頼性に疑問を呈されるものもあり、実態は不明な点が多い。本書はこれまでの研究を整理し、有効な分析手法を探りながら、18世紀プリストル地域の史料を用いて数量的分析を試みた。初公開史料を多く含み、史料集としても貴重な1冊。

本書は、サービス産業の発展で急速な人口膨張と都市化を経験した19世紀ロンドンにおいて、新たに勃興したホワイトカラーと不熟練労働者の食品と衣料品の流通組織と消費を分析する。近代的流通の成立における重層性・複層性を描き出し、流通史や商業史に新たな視点を提供する。

従来の産業革命研究は国民経済単位を自明の前提とした。これとは対照的に本書はドイツ各地域独自の工業化過程をつぶさに比較検討し、一世紀にわたるタイムラグを伴った地域工業化の錯綜した集積のなかに総合的歴史現象としてのドイツ産業革命の本質を探る。

本書は、統計学の基礎概念や基礎理論について詳述すると共に、より高度な諸概念や理論との繋がりを明確にし、統計学の科学としての面白さや醍醐味を理解してもらえよう心掛けて執筆された。初学者のみならず統計学のより深い理解を目指している読者にとっても有益な学習の手引き書。

コンピュータによる莫大なデータ処理が可能になった今日、統計的方法の基本的論理を把握する必要性はますます大きくなっている。多変数関数の表による分析の方法を中心に、豊富な実際のデータを駆使した本書は、実践的応用力を身に付ける格好の手引き書である。

内山敏典 著

ベーシック統計解析技法

2001-6 A5判・310頁・2,900円(本体価格)

本書は経済・心理・医療・看護等の教育に必要な統計解析技法を網羅している。それらの技法の理論を学ぶために電卓を用いておこなえる計算手順を示している。それらの技法を用いて論文作成をプログラムによって計測がおこなえるようCD-ROMを付けている。

内山敏典 著

統計解析の基礎

—データ解析の基本と実践—

2592-9 A5判CD-ROM付・300頁・2,900円(本体価格)

本書は経済・経営・医療・看護・心理系等で統計学の基礎を学び、その理論を用いて実証分析を行う学生や社会人の方々のために刊行したものです。また、資格取得を目指している学生へは確率論を充実させ、例題を計算によって理解できるように工夫しています。

星野満博・西崎雅仁 著

数理統計の探求

—経営的問題解決能力の開発と論理的思考の展開—

1945-4 A5判・206頁・2,200円(本体価格)

現在、コンピュータ上の統計ツールにより簡単に統計分析の結果が得られるが、本書は、そのブラックボックス化された計算方法を、できるだけ詳細に示すことにより、その意味、考え方を基礎から学ぶことができるように解説された数理統計学の入門書である。

A. B. アトキンソン 著
丸谷冷史 訳**福祉国家論**

3033-6 A5判・414頁・6,000円(本体価格)

福祉国家批判の時は過ぎた。時は移り今日では福祉国家をどのように健全な姿に立て直すかが問われる時期である。福祉国家批判を経済学的観点から再検討し、新しい世紀の福祉国家像の基礎を展開。『アトキンソン教授の福祉国家論I』につづく後半部分を収録した、待望の全訳。

ダグラス・C. ノース 著
竹下公視 訳**制度・制度変化・経済成果**

0758-6 A5判・224頁・2,500円(本体価格)

1993年ノーベル経済学賞受賞者D. C. ノースの理論が凝縮された話題の最新作! 制度分析を経済学と経済史に統合する「制度変化の経済理論」により、歴史変化の新しい理解を提示する。ノース理論の基本的枠組みを理解するうえで最良の書である。

ロバート・ピトフスキー 編
石原敬子・宮田由紀夫 訳**アメリカ反トラスト政策論**

—シカゴ学派をめぐる論争—

2186-0 A5判・224頁・2,600円(本体価格)

自由放任な市場原理主義を唱え過去30年の主流派であるシカゴ学派を批判的に考察し、アメリカにおける反トラスト政策とさまざまな学派による論争のダイナミズムを明らかにするとともに、市場競争政策のあらたなアプローチを示唆する。

中村 徹 著

**制度としての
EU 共通航空政策の展開**

2303-1 A5判・246頁・3,900円(本体価格)

自由化と統合が進み競争が激化する航空業界。本書は、EUの共通航空政策について、EC条約の競争法規によるフランスでの判例を端緒にして航空政策にまで展開されることになったことを明らかにし、EU域内統合までの展開、さらに米国との対外航空政策への進展を詳細に検証する。

森 誠 著

**長期にわたる最適化と
ケインズ経済学**

2279-9 A5判・188頁・2,000円(本体価格)

学部レベルでのマクロ経済学は有効需要不足が失業の原因と考えるケインズ経済学が教えられている。しかしそこでは長期にわたつての最適化というミクロ経済学的基礎から経済主体の行動が分析されておらず、新古典派によって批判されている。本書では長期にわたる最適化のもとのケインズ経済学を検討する。

岡地勝二 著

相互依存の経済学

1753-0 四六判・248頁・2,300円(本体価格)

世界の経済状態は日々変化している。そんな変化しつつある世界の経済状態を平易に開き解したのが本書の内容である。とはいえ、国際経済学で学ぶ伝統的な理論をも本書では十分に論述されており、国際経済学の基礎知識を学ぶのに最適の書といえるだろう。

石塚哲也 著

経済外交マネジメント

1989-8 A5判・242頁・2,800円(本体価格)

グローバル社会における「経済外交」とは、多様なステークホルダーによる知的貢献を通じた知識創造プロセスである。本書は、文化・開発・安全保障・エネルギー・社会保障における諸課題が「経済外交」に与える質的变化と、そのマネジメントのあり方を提示する。

松島泰勝 編著

民 際 学 の 展 開

—方法論、人権、地域、環境からの視座—

2351-2 A5判・290頁・2,800円(本体価格)

山下隆之 編著

地域経済分析ハンドブック

—静岡モデルから学ぶ地方創生—

2733-6 A5判・216頁・2,400円(本体価格)

清野良榮 編著

海 事 産 業 の 現 状 と 未 来

—愛媛から世界へ—

2575-2 A5判・310頁・3,000円(本体価格)

塩見治人・梅原浩次郎 編著

トヨタショックと愛知経済

—トヨタ伝説と現実—

2250-8 A5判・258頁・2,600円(本体価格)

塩見治人・梅原浩次郎 編著

名古屋経済圏のグローバル化対応

—産業と雇用における問題性—

2485-4 A5判・318頁・3,500円(本体価格)

梅原 浩次郎 著

ものづくり産業集積の研究

—転換を迫られる名古屋経済圏と産業政策—

2537-0 A5判・174頁・2,700円(本体価格)

衣本 篁彦 著

産 業 集 積 と 地 域 産 業 政 策

—東大阪工業の史的展開と構造的特質—

1454-X A5判・174頁・2,100円(本体価格)

藤本 建夫 著

何が地方都市再生を阻むのか

—ポートピア'81、阪神淡路大震災、経済復興政策—

2118-1 A5判・186頁・2,100円(本体価格)

南保 勝著

地 方 圏 の 時 代

—産業・企業・地域づくりの課題を問う—

2443-4 A5判・276頁・2,800円(本体価格)

南保 勝著

福 井 地 域 学

—地方創生に向けて—

2697-1 四六判・268頁・1,800円(本体価格)

民際学は民衆による、民衆のための、民衆の学問である。本書は国境を越えた諸問題に対して、当事者性に根ざしたフィールドワーク、ケーススタディ相互間の比較検討という手法を用いて、問題の本質と構造を明らかにする。

地域経済を分析する時、データを収集・加工し、解釈するだけでは不十分です。現実の問題をモデル化して、観測されたデータの背後に潜む因果関係を解いていくことにこそ分析の意義と面白さがあります。本書では、静岡県経済を題材として選び、さまざまな課題について実際にどのようにモデル分析を進めるかを解き明かし、その過程を通じて経済理論と実証分析の手法が身につくように工夫しました。

大手海運企業の実務者が、原材料の輸入と完成品の輸出のプロセスを平易かつ鋭い切り口で解説し、国際貿易拡大の背景をサプライチェーンやバリューチェーンの視点や生産と物流の世界的ネットワーク形成の観点から考察し、世界的物流の現状と未来、実態解明を試みる。

世界の自動車市場は、中国をはじめとする新興国が急拡大している。トヨタは現地生産型グローバル企業に変化し、「トヨタ生産方式」は「伝説」となりつつある。愛知は、地域経済が空洞化し雇用が流出していったデトロイトのようになるのか? 「回復」へのあらたな視座を提供する。

本書は、全国有数のものづくり産業集積地である名古屋経済圏において、グローバリゼーションがもたらした影響を立体的に考察し、これまでに生じた産業構造の変化と雇用問題を検証することにより、これからのグローバルな時代における地域経済圏の可能性と問題性を見つめる。

世界経済危機と東日本大震災は、自動車産業依存構造と広域的産業活動の問題性を露呈。海外生産へいっそうカジを切った巨大企業トヨタ。名古屋経済圏における産業集積の過去と現在、戦後の地域産業政策を見つめる。

東大阪工業の発展過程とその構造的特質を考察し、人口50万都市の工業集積の問題点を抽出し、地域の個性や地域の創意と工夫が地域経済の再生にとって重要であることを指摘し、地域産業政策としての役割が国際化時代において一層必要となることを強調した。

衰退の地方経済に自然災害が襲う。この恐ろしいシナリオが現実。大震災で壊滅的被害を受けた阪神淡路地域に復興名目で巨額な資金が投入されたにも拘らず経済は沈み続ける。地域再生には経済活性化が不可欠である。これを阻む日本の政治経済的構造要因とは?

今、地域のあるべき姿が問われている。本書は、福井地域をモデルに、産業、企業、地域振興の3つの視点で、その方向性を提示するものである。特に、第8章では快進撃続ける地元企業24社の事例研究から、今後求められる中小企業像を明らかにしている。

福井にはなぜ働く女性が多いのか? 日本一多い人口千人あたり企業数、長寿企業や技術力トップ企業が多いわけとは……、地域の歴史、経済・産業特性、県民生活など多様な側面から分析・整理し、福井の誇り・プライドを解き明かす。

松原淳一著

福井の経済

—福井県はなぜ豊かなのか—

2358-1 四六判・144頁・1,300円(本体価格)

井上武史著

地方港湾からの都市再生

2070-2 A5判・244頁・2,800円(本体価格)

湯浅良雄・山本修平・崔英靖 編著

地域再生学

2214-0 A5判・256頁・3,200円(本体価格)

湯浅良雄・大西正志・崔英靖 編著

地域創生学

2501-1 A5判・244頁・3,200円(本体価格)

田中利彦著

ベンチャー支援と地域経済振興

1545-7 A5判・216頁・2,600円(本体価格)

新澤秀則・三保学 編著

都市と森林

2879-1 A5判・268頁・3,800円(本体価格)

三保学 編著

エコロジーとコモンズ

—環境ガバナンスと地域自立の思想—

日本図書館協会選定図書

2545-5 A5判・290頁・3,000円(本体価格)

松島泰勝 編著

島嶼経済とコモンズ

2608-7 A5判・272頁・3,500円(本体価格)

坂田裕輔 著

ごみ問題と循環型社会

1837-2 A5判・216頁・2,800円(本体価格)

坂田裕輔 著

改訂版

ごみの環境経済学

2107-5 A5判・212頁・2,000円(本体価格)

有効求人倍率が全国で最も高く、家計収入は多く、子どもは優秀で、高齢者は健康長寿の福井県。しかしながら、新幹線も飛行場も大きな港もなく、有名な大企業や先端企業は多くない。そのような福井県は、なぜ豊かなのか。その秘密を解き明かす。

日本における都市再生の軸となるのは地方港湾である。港湾政策もまた生活機能を重視し、あらゆる港湾機能を都市との関係で再構成することが必要である。都市主体の港湾政策として「港湾都市政策」を提起し、敦賀港をモデルとした政策の体系化を試みる。

構造改革がすすみ、中央から地方への経済波及効果が限られたものになりつつあるなか、地域の活性化のためには、各企業、地方公共団体、教育機関、コミュニティの連携と協力が必要である。地域の魅力や価値を重視した「地域再生」のための経済成長戦略を探る。

本書は、これまでの日本の経済発展に見られる一極集中・単一の価値を負い求めるような競争は、結局は疲弊を招き活力を奪うことになるとの認識から、地域活性化のための手法として、各地域に固有の新しい価値を発見し、あるいは、作り出し向上させることによる活性化の道を探る。

地域経済の病弊に苦しむ一方で地方分権化の流れの中、経済自立化に向け、ベンチャー企業の育成を目指して実施された、地方自治体によるベンチャー支援策および大学設置戦略、拠点形成戦略、情報産業振興策等を検討・評価し、ベンチャー支援のあり方を探った。

都市にとって森林はどのような存在か？ 関西の六甲山系の現場に即し、森林生態、それが生み出す価値や文化、都市住民による利用・管理・保全の実態を浮きぼりにするとともに、未来に向けた都市近郊林を活かし守るための財政、法制、政策について試論する。

グローバル化によるローカル(地域)の荒廃、エコロジーの形骸化に直面した現実に対して、制度・文化・思想などを背景とした日本独自のコモンズ論を展開。人々の生活やなりわいを見つめなおし、社会から離床した経済をふたたび地域へ埋め戻す思想と実践を探る。

琉球列島、太平洋諸島、大陸農村地域をフィールドとして、島嶼経済論とコモンズ論の比較研究を通じて、基地経済の実態、島嶼や農村における内発的發展やコモンズの可能性、平和創出のための理論や政策を展望する。

ごみ問題を解決するために、住民はどのような役割を果たすのか。住民を対象とした政策、住民の行動について、実証分析・フィールド調査・選択型実験などを用いてアプローチし、現状分析と政策提言を行っている。経済学を用いた問題解決型の研究手法を提案。

次々に新しい情報が入ってくる環境問題を考えるために必要とされるのは、おれない思考方法である。経済学を基礎から学び、環境問題をどう解決するのか、ごみ問題を通して紹介する。持続可能性の評価方法やCVMをはじめとする環境経済学の手法も紹介している。

坂上雅治・栗山浩一 編著

エコシステムサービスの環境価値 —経済評価の試み—

2045-0 A5判・180頁・2,200円(本体価格)

室田 武著

本書では、環境評価手法を用いて、エコシステムサービスの経済価値の評価を試みている。具体的には、マレーシアで大規模なコンジョイント分析アンケート調査を行って、熱帯林の持つエコシステムサービスに対する地域住民の価値意識を定量化する。

物質循環のエコロジー

1264-4 A5判・310頁・3,500円(本体価格)

木船久雄・西村 陽・野村宗訓 編著

「物質循環」をキーワードに「循環型社会」の在り方を問う話題の書。南半球から北半球と広範なフィールド調査を行い、環境問題を具体的に分析する。また、21世紀の新エネルギーと目されるメタンハイドレートに関する重要論文も収録。一般読者も研究者も必読。

エネルギー政策の新展開 —電力・ガス自由化に伴う課題の解明—

2854-8 A5判・184頁・2,600円(本体価格)

室田 武著

実務的な知見と産業の特性をわかりやすく記述し、総合的な視点での政策形成へ向けた重要な論点を提示する。大きな変革期を迎えているエネルギー政策への多面的アプローチ。

エネルギー経済とエコロジー

1734-4 四六判・248頁・2,600円(本体価格)

井上武史著

エネルギー問題は、新しくて古い。水、木炭、ガス、石炭、石油、原子力などの諸エネルギーを歴史や思想の視点から俯瞰する。そこで見出されるのは、生活、環境、循環が幾層にも重なり合う現実である。鶴見和子氏(社会学)、宇沢弘文氏(経済学)との対談も所収。

シリーズ原子力発電と地域 第1巻 原子力発電と地域政策

—「国策への協力」と「自治の実践」の展開—
2518-9 A5判・258頁・3,500円(本体価格)

井上武史著

原子力発電所の立地によって地域は「依存」ではなく「自治の実践」を進めていった。東日本大震災後の新たなエネルギー政策にも「自治の実践」の視点が重要である。本書では、これまで見過ごされてきた立地地域の本当の姿を明らかにする。

シリーズ原子力発電と地域 第2巻 原子力発電と地方財政

—「財政規律」と「制度改革」の展開—
2594-3 A5判・242頁・3,500円(本体価格)

竹歳一紀・藤田 香 編著

原子力発電所の立地によって地方財政が財政規律と制度改革の両面から持続性を備え自立した財政構造の確立を進めていったことを明らかにし、これまで見過ごされてきた立地地域の姿を示すとともに、東日本大震災後の新たなエネルギー政策に活かす方策を述べる。

貧困・環境と持続可能な発展 —中国貴州省の社会経済学的研究—

2204-1 A5判・314頁・3,800円(本体価格)

若森章孝編著

本書は、経済発展の立ち遅れている地域における貧困問題と環境問題との関係、およびそれらに配慮した持続可能な発展を進めていくために必要な政策やガバナンスのあり方について、中国貴州省を対象に行った日中共同研究の成果をまとめたものである。

食 と 環 境 —問われている日本のフードシステム—

1978-2 A5判・238頁・2,700円(本体価格)

藪下義文著

本書は、生態系サービス、フード・マイレージといった新しいコンセプトを用いて食と環境の現在の歪んだあり方を問い、豊かな食生活のための農業の役割や食品の本来の機能を明らかにするとともに、消費者や地球市民がつくる食と環境の新しいつながりを提唱する。

バイオマスが世界を変える

1923-4 A5判・164頁・2,000円(本体価格)

小林俊和著

循環型社会の枠組が日本においてなげうまく機能しないのか、日独政策の比較を通して、制度設計を見直すとともにバイオマスが循環型社会実現の推進力となる可能性を示し、バイオマスと農業の融合という新しい産業の誕生を示唆。

現代のエネルギー・環境政策 —分権型福祉社会の文化的開発と環境制御—

1975-1 A5判・218頁・2,600円(本体価格)

「エネルギー」と「環境」に注目した新しい福祉国家モデルを構想する。それは、人間の生活に豊かさや快適さをもたらすアメニティを福祉社会・環境制御システム・文化的な開発の視点にたつて具体的に考察し、現代的な地域公共政策の方向性を導き出すものである。

朴 勝俊 著

環境税制改革の「二重の配当」

2040-5 A5判・236頁・2,900円(本体価格)

木船久雄・西村 陽・野村宗訓 編著

税収中立型の環境税制改革は環境にも経済にもプラスになる。本書は欧米の研究者の間で議論が深められてきた「二重の配当論」の概念を、排出権取引制度との比較や定量分析の結果に基づき平易に解説。温暖化防止国際制度の展望についても独自の議論を展開。

低炭素社会のビジョンと課題

2178-5 A5判・258頁・3,000円(本体価格)

金 紅実・何彦旻 著

エネルギー・環境政策は今後、ますます経済活動や社会生活に大きな影響を及ぼすだろう。本書は、再生可能エネルギー、原子力政策、排出権取引、環境保護、交通政策、電気自動車、スマートグリッドの考察を通して、低炭素社会実現に向けた政策運用を解明する。

中国都市廃棄物と環境ガバナンス

3043-5 A5判・196頁・3,500円(本体価格)

横山勝彦・八木 匡・松野光範 編著

既に経済大国へと成長した中国。その中国は現在、自動車社会や生活廃棄物の大量発生による甚大な都市生活型公害問題といった課題に直面している。本書では、環境を含めた政治的課題を論じながら現在中国の在り方を問う。

スポーツの組織文化と産業

2400-7 A5判・216頁・2,300円(本体価格)

伊多波良雄・横山勝彦・八木 匡・伊吹勇亮 編著

従来の専門領域のみでは解き明かすことが困難なスポーツの組織文化と産業に、行動経済学等による学際的なアプローチを取り入れ、これまで提示されていない本質的理解の提示を試みる。

スポーツの経済と政策

2265-2 A5判・260頁・3,000円(本体価格)

松崎朱芳 著

本書は、スポーツの社会的意義のみならず、維持、発展させるための政策面や財政面、イベント、スポンサーシップ、ソーシャル・キャピタルなどの多角的な側面をより分析し、これまで明らかにされていなかったスポーツの経済的、政策的な側面を浮き彫りにする。同時に、スポーツに必要なものは何かという命題を、それぞれの専門家が探求する。

都市における 乗合旅客自動車輸送

2775-6 A5判・144頁・2,600円(本体価格)

水之拓夢・椋田 遼 著

ソフト経済小説で読む 超高齢化社会

—21世紀ネバーランド政策—
2985-9 A5判・240頁・2,200円(本体価格)

八田英二・廣江満郎 編著

政策的な転換点にある日本の乗合旅客輸送について、都市を事例とした分析によりその本質にせまる。都市を2つの地域区分に分け、各地域における諸問題を理論的、実証的な分析により明らかにすることで提言を行う。

高齢者は社会の中でお世話をさせていただきだけの存在であろうか。本書は大学の経済学の教授がこの問題に正面から取り組んだ力作である。本書により、これからは「欲」でなく「思いやり」を行動原理にすれば少子・高齢化社会を乗り越えれると確信した。高齢者ばかりでなく、若者にも是非一読を勧めたい。秋草学園短期大学 学長 北野 大

日本経済の軌跡と飛躍

2899-9 A5判・262頁・3,000円(本体価格)

八田英二・廣江満郎 編著

本体は、経済データから見る日本経済の解説書であり、戦後から現在までの日本経済の軌跡と将来を展望した啓蒙的な経済書となっている。第1章ではマクロ的視点から日本経済を捉え解説する。後章では各経済分野の視点から日本経済との関係を考察する構成となっている。

日本経済の新地平

2483-0 A5判・258頁・3,000円(本体価格)

八田英二・廣江満郎 編著

グローバル化が進展する中で、日本の経済構造とその変化・転換について、家計や産業・企業および金融・財政など各経済分野にわたって統計データを読み取ることから解明する解説書であり、これから「経済学」を本格的に勉強しようとする際の手引き書となる。

日本経済の探究

—変化から転換へ—
2143-3 A5判・242頁・2,800円(本体価格)

グローバル化が進展する中で、日本の経済構造とその変化・転換について、家計や産業・企業および金融・財政など各経済分野にわたって統計データを読み取ることから解明する解説書であり、これから「経済学」を本格的に勉強しようとする際の手引き書となる。

小山和伸著

不況を拡大するマイナス・バブル

—恐るべきチューリップ・バブルの血脈—

2386-4 四六判・196頁・1,900円(本体価格)

松原淳一著

マネー経済学

—マネーからみた日本経済論—

2468-7 四六判・172頁・1,500円(本体価格)

鈴木 泰著

日本の立ち位置を考える

—制度政治経済哲学へのステップ—

2390-1 四六判・180頁・1,600円(本体価格)

井上泰夫編著

日本とアジアの経済成長

2618-6 A5判・230頁・3,200円(本体価格)

矢ヶ崎紀子著

インバウンド観光入門—世界が訪れたい日本をつくるための
政策・ビジネス・地域の取組み—

2928-6 A5判・220頁・2,200円(本体価格)

近 勝彦・福田秀俊 編著

経験の社会経済

—事例から読み解く感動価値—

2169-3 A5判・230頁・2,400円(本体価格)

風呂 勉著

第二次大戦日米英流通史序説

2044-3 四六判・160頁・1,800円(本体価格)

井手豊也著

改訂版

ビギナーのための国際経済学

2593-6 A5判・202頁・2,300円(本体価格)

中津孝司編著

欧州新時代

—6億人のEUとビジネス—

2114-3 A5判・168頁・2,100円(本体価格)

岩崎俊夫著

ロシア統計論史序説—社会統計学・数理統計学・人口調査
[女性就業分析]—

2660-5 A5判・250頁・3,600円(本体価格)

悲観的予測と閉塞感の連鎖にはたらく、根拠の曖昧な不安と萎縮のシナジー効果。こうした経済を蝕むマイナス・バブルに接近し、かつてのバブルの構造と歴史を振り返ることで、実態以上に空騒ぎする日本の姿を、浮き彫りにする。

日本経済はマネー経済化しています。実物経済は停滞していますが、金融経済は拡大し、マネーが日本経済を主導するようになりました。本書は、バブル崩壊以降のマネーからみた日本経済論です。マネーという視点でみると、新たな日本が見えてきます。

日本が直面する財政・国際秩序維持・国際金融市場に係わる諸問題を、公平・正義の観点から分析し、日本が求めるべき立ち位置・処方箋を論ずる。高まる不確実性の中、社会生活の質を高めていくための社会科学の複眼的領域——制度政治経済哲学——の確立を提唱する。

制度と歴史の経済学の最新の研究動向にしたがって、現代のアジアと日本の経済を読み解く。名古屋市立大学経済学研究科クラスター研究の5年間の成果。レギュレーション、労使関係、産業競争力、グローバル-ヒストリー、資本主義の多様性、ビケティ。本書は、制度と歴史の経済学の最新の研究動向にしたがって、現代のアジアと日本の経済を読み解き、矛盾を抱え込んだままグローバル化が推し進む資本主義の危機を見定めようとする。名古屋市立大学経済学研究科クラスター研究の5年間の成果報告。

訪日外国人旅行者は、2020年に4,000万人の政府目標のもと、国、自治体、産業界・ビジネス、地域がそれぞれ対応に取り組んでいる。インバウンド市場の動向や特徴、それに対する政府や地域の取組みも紹介しつつ今後の課題を提示する。日本の「インバウンド観光」を体系的にとらえたはじめての入門書。

経験は、日常生活は勿論、生産活動や企業活動にとっても極めて重要な要因であり資産である。その経験からもたらされる価値を経験価値と呼ぶ。本書では、経験経済が、様々な社会経済領域でどのように創造・供給されているかを、日本の事例を通じて論じる。

昭和戦時は、わが国の流通政策研究にとって二度と経験できない学習過程であった。8年有余のこの期間に、日本は否応なく「非市場システムの流通」に追い込まれる。そこにどういふ問題と議論が発生したか。米英の場合とも比較し、戦時流通史の帰趨を論じる。

国際経済における日本のおかれている状況を知る指標である最新(2014年)の国際収支関連統計(第6版)に基づき、国際収支、為替レートの動向を説明。旧版に比べて、より理解度を深めるために、図の追加、詳述な解説、簡単な数式による貿易理論を展開。

ギリシャの財政赤字が露呈し、共通通貨ユーロの信認が揺らいで問題視されるようになった今日、欧州連合(EU)を含む大欧州世界が何処に向かおうとしているのか。欧州や米主の時代からアジアのそれへの移行は不可避なのか。欧州の近未来と日系企業の欧州ビジネスの行方を探る。

本書の内容は1970年代ソ連における統計学の学問的性格をめぐる論争の検討である。主要論点は、統計学体系の構成、社会統計学と数理統計学との関係である。ベレストロイカの最中の応用統計学に関する議論の紹介、国勢調査による女性就業者の実態分析を付す。

佐藤千景・島 敏夫・中津孝司 編著

エネルギー国際経済

1500-7 A5判・264頁・3,000円(本体価格)

川島 哲著

経済統合と通商秩序の構築

2826-5 A5判・194頁・3,000円(本体価格)

石本眞八著

国際技術移転の理論

神戸学院大学経済学研究叢書 20

2818-0 A5判・184頁・2,800円(本体価格)

八尾信光著

21世紀の世界経済と日本

—1950～2050年の長期展望と課題—

2327-7 A5判・212頁・2,500円(本体価格)

栗原 裕著

グローバル経済

2973-6 A5判・142頁・1,800円(本体価格)

宮田由紀夫・玉井敬人 著

第2版

アメリカ経済論入門

3034-3 A5判・208頁・2,400円(本体価格)

田中祐二・内山 昭 編著

TPPと日米関係

2363-5 A5判・210頁・2,000円(本体価格)

朴 一著

20世紀アジアの ポリティカルエコノミー

3196-8 A5判・238頁・2,500円(本体価格)

唱 新著

AIIBの発足と ASEAN経済共同体

2735-0 四六判・232頁・2,500円(本体価格)

坂田幹男・内山令和 著

アジア経済の変貌と グローバル化

2791-6 A5判・296頁・2,800円(本体価格)

エネルギー資源消費量の増加に供給国は十分に対応できるのか。OPECの価格調整能力はこのまま低下するのか。ロシアを筆頭とする非OPEC産油国の将来見通しは?複雑なエネルギー問題を読み解きながら、日本のエネルギー安保について察する。

FTAやEPA等の経済連携が活発化するアジア地域。その潮流は今や世界経済に大きな影響を及ぼすようになっている。今世界から注目を集めるアジア地域における経済統合や地域連携開発の現状と課題について考察し、今後の世界経済の行方を探る1冊。

技術移転が産業構造に及ぼす効果、資本体化型技術移転、適正技術移転、技術移転のパラドックス、途上国の動的キャッチアップ過程など、国際間の技術移転に関する静学的・動学的モデルの先行研究を分類・整理し、筆者独自の拡張を試みた理論的研究書。

世界経済の現状と将来を展望するには世界各国の人口動態と実質経済規模(PPPGDP)や実質平所得(PPPPI)の長期趨勢を知る必要がある。近年、そのための全世界的な統計が整備されつつある。それらを用いて21世紀の世界経済と日本の課題・展望を示した。

英国のEUからの離脱や米国のTPP離脱など国際経済情勢は絶えず変貌している。本書はこうした現象や問題を理解するための基礎理論の修得と、国際経済に関わる諸問題の理解を目標とし、図表による直観的理解、主体的に学ぶ力を備えられるよう配慮されている。

アメリカの産業・企業の構造、財政・金融システムの現状と政策の役割を、経済学の基礎知識がなくても理解できるように、ミクロ・マクロ経済学の概念から解説するとともに、所得格差、地域発展・都市化、グローバル化の諸問題など応用的トピックスまで網羅した入門書。

事実上、日米交渉といえる日本のTPP参加問題。経済の理論を指針とし、拙速な議論の意図、恣意的なデータ利用を看破することにより、TPP問題を冷静に分析。日本の成長・発展へと結びつける客観的・冷静な議論のための礎を提供する。

大きな変動を迎え、注目を集めているアジア。一見、あてやかに映るが、その背景にあるものは見えてこない。本書は、その根源を20世紀のアジアにあると捉え、これまで見過ごされてきた歴史的な流れに焦点を当て、通時的な分析からこんにちの在り方を明示する。

第4回「岡倉天心記念賞」最優秀賞受賞

本書は「アジア新興経済」の視点からASEAN共同体とAIIB発足の背景、実態を解明する。「新興アジア」に及ぼす影響、アジア新興消費・観光市場の実態、アジア新興経済秩序の現状及びその将来のあり方を展望。

NIESの成長を契機に、アジア経済は世界の成長センターへと見事な変貌を遂げた。「東アジアの奇跡」と称賛されたその変貌過程を検証し、「グローバル化のビッグウェーブ」の到来が叫ばれている今日の状況におけるアジア経済の現状と課題を分析する。

松野周治・今田 治・林 松国 編著

東アジアの地域経済発展と 中小企業

2739-8 A5判・260頁・2,900円(本体価格)

坂田幹男・唱 新 編著

東アジアの地域経済連携と日本

2348-2 A5判・284頁・2,800円(本体価格)

谷内 満著

グローバル不均衡とアジア経済

2017-7 A5判・230頁・2,800円(本体価格)

徐 勝・李 康国 編

韓米FTAと韓国経済の危機

—新自由主義経済下の日本への教訓—

2033-7 A5判・254頁・2,800円(本体価格)

西口清勝・西澤信善 編著

メコン地域開発とASEAN共同体

—域内格差の是正を目指して—

2526-4 菊判・418頁・4,800円(本体価格)

西澤信善・北原 淳 編著

東アジア経済の変容

—通貨危機後10年の回顧—

2015-3 A5判・252頁・2,800円(本体価格)

杉本 孝 編著

東アジア市場統合の探索

2274-4 A5判・414頁・4,200円(本体価格)

坂田幹男著

ベーシックアジア経済論

2470-0 A5判・232頁・2,300円(本体価格)

清野良榮・中嶋慎治 編著

東アジア経済の発展と 日・米・欧の諸相

1803-0 A5判・238頁・2,700円(本体価格)

川島 哲著

アジアの地域連携戦略

2225-6 A5判・228頁・2,600円(本体価格)

本書は、製造業を中心に、日本・韓国・中国の中小企業が東アジアの地域経済発展に貢献している現状と今後の可能性について、明らかにするものである。現地調査を通じて得られた具体的事例に基づき、経済学・経営学の両方の立場から検討する。

東アジアに打ち込まれた TPP という「クサビ」によって、ASEAN + 3 は確実に動揺を始めた。東アジアの地域連携は今重大な岐路にある。日本は、打ち込まれた TPP という「クサビ」に対処すると同時に、東アジア諸国との関係を再構築する必要がある。

アジア経済を支える過少貯蓄国アメリカ。このグローバル不均衡のメカニズムとリスク、そして、中国の元、外貨準備、金融改革の課題はなにかを、経済構造の病巣を鋭い切り口で分析し、「日本は1兆ドルにも及ぶ外貨準備の大半を売却すべき」と提言。

危機の再来か、チャンスの到来か？ IMF 危機から10年、奇跡的な再生を遂げた韓国経済は韓米 FTA 締結でどうなるのか？ FTA は経済成長の万能薬か？ IMF 危機後、グローバル化の中の韓国経済を徹底分析。

ADB の提唱で始まったメコン地域開発は ASEAN が ASEAN 共同体構想を打ち出したことにより格差是正という新たな重要性を帯びることになった。本書は格差是正に向けての各国の取組みや日本、中国のアプローチについて詳細な分析を加えている。アジア研究必読の書である。

アジア通貨危機後10年の節目に、東アジア経済はどのように変わり、そして各国は危機をどのように克服したかを回顧した。通貨危機を契機に貿易、投資、金融などの面で協力が一層進展し、これがやがて東アジアの地域統合につながっていくことを詳細に分析。

東アジア市場統合へ向けた日中韓の現状の諸問題と将来への展望を、日米中韓の政治、外交、経済、金融の各界識者が語る。その上で、日中韓市場統合への抵抗感の淵源と日中相互不信の危険な構造を明らかにし、日中の真の融和に向けた施策を提言する。

本書は、アジア経済を学ぶ人のために、出来るだけその全体像がつかめるよう工夫して執筆された入門書である。そのため、全体像を理解するためには欠かせない、開発の歴史・具体的な開発政策・それがもたらした経済の現状という三つの側面から分析が加えられている。

21世紀初頭の世界経済の中心軸である、東アジア経済とりわけ中国経済の実態に迫る。グローバル化の進展下での先進諸国は、「世界の工場」と称される現代中国とどのような経済的・政治的関係を構築しようとしているのか。また、今後の中国が「市民社会」として成長しえるのか、こうした焦眉の課題に迫る。

主に東アジアにおける経済連携を取り上げて論述。単に経済的側面のみならず、政治的側面、社会的側面をも視野に入れ「地域」としての概念の見直しを意図する。今後の日本経済にも大きな影響を及ぼす「地域」はどのような独自の色彩を放つことが出来るのか。

齊藤 日出治 編著

グローバル化するアジア

1871-6 A5判・216頁・2,500円(本体価格)

湊 邦生 著

遊牧の経済学

—モンゴル国遊牧地域に見るもうひとつの「農村部門」—

2862-3 A5判・194頁・5,200円(本体価格)

エイチャンブイン 著

現代ミャンマーの貧困研究

2572-1 A5判・184頁・5,000円(本体価格)

唱 新著

資本蓄積と産業発展のダイナミズム

—中国産業の雁行型発展に関する経済分析—

2252-2 A5判・260頁・3,000円(本体価格)

河村能夫 編著

経済成長のダイナミズムと地域格差

—内モンゴル自治区の産業構造の変化と社会変動—

2438-0 A5判・258頁・3,600円(本体価格)

堀口 正 著

周縁からの市場経済化

—中国農村企業の勃興とその展開過程—

2621-6 A5判・224頁・3,500円(本体価格)

坂田幹男・唱 新 編著

東アジア新興市場と地場産業

—地方中小企業と東アジアの経済共生—

2597-4 A5判・326頁・3,800円(本体価格)

佐々木 信彰 編著

転換期中国の企業群像

3007-7 A5判・220頁・2,800円(本体価格)

加藤辰夫 著

東アジアの産業発展と 水産食品企業

3038-1 A5判・154頁・2,200円(本体価格)

李 海峰 編著

中国の消費社会と消費者行動

2846-3 A5判・4,200円(本体価格)

アジアにおける資本移動・労働力移動・貿易取引の増大は地域経済圏の形成を促している。それらによるアジア共同体への発展の可能性とアジアのグローバル化による中国经济の変容、アジア文化の課題について論考する。

豊富な鉱物資源により経済発展が続くモンゴルだが、その「基層」にある経済の枠組みは遊牧と牧畜である。本書は、人類にとって農耕と並ぶ生産経済でありながらその理論的枠組みが皆無であった遊牧について、モンゴルでのフィールド・スタディの成果を中心に遊牧の生産経済メカニズムを分析・提示し、遊牧のための経済開発の枠組みを提示する。

本書は、ミャンマーを3つの時代(植民地体制時代、社会主義体制時代、市場志向型経済体制時代)に分け、貧困発生 of 構造分析を中心に、貧困の動態や政策の失敗、貧困緩和の要因に深く言及している。単なる経済的手法ではなく、人間開発といった社会的観点から貧困の構造分析、貧困の実態が詳細に描かれる。

本書は小島清の雁行型経済発展論を踏まえ、キャッチアップ型工業化は、「生産技術の高度化」、「産業構造の高度化」、「競争優位パターンの逆転」という3つのプロセスにおいて、「労働主導型成長」、「資本主導型成長」、「技術主導型成長」などの段階に沿って進展するという枠組みを構築し、それに基づいて、中国産業の雁行型発展を検証した。

成長著しい中国经济。本書は、内陸部の内モンゴル自治区でのフィールド調査に基づき、環境および持続性をも視野に入れて、成功した経済改革とそれに伴う地域間不均衡などの社会変動を分析。同時に、それらの歪みを統計分析の視点からも指摘し、今後の政策の課題を明らかにしている。

近年、中国经济のグローバル化や経済成長の要因について議論されているが、その鍵は都市周縁の農村に分布する企業やその活動にある。本書は、そのメカニズムを現地でのフィールドワークを通じて解明した力作である。

本書は3部15章から成り、東アジア新興市場の実態、貿易・直接投資の動向、「華越経済圏」、「メコン経済圏」の開発と生産立地の再編、中国とASEANとの経済交流、北陸三県企業の取組みなどを明らかにする。

「現代化強国」実現の担い手、鉄道車両・世界トップの中国中車、自動車の上海汽車、アリババを迫撃するテンセント、中国建築工程総公司、不動産の中国海外発展、電力の華能集団、家電の美的集団、繊維のヤンガー集団など各分野の注目企業8社の実力を総合分析。

東アジア諸国のグローバルな活動をしている水産食品企業がどのように発展しているのか、各国経済の発展とともに、どのような課題に直面し、どのような行動をとうろうとしているのかを問い、発展段階の異なるベトナム、ミャンマー、中国を取りあげて実証する。

高度経済成長とともにIT化とグローバル化が急速に進展するなかで、これまでにない特徴的な消費社会を生み出した中国。拡大を続ける「世界の消費市場」としての中国の姿を、実態調査に基づく分析により明らかにする。

佐々木 信彰 編著

現代中国の産業と企業

2760-2 A5判・232頁・2,800円(本体価格)

敵 善平 著

中国農民工の調査研究

—上海市・珠江デルタにおける
農民工の就業・賃金・暮らし—

2196-9 A5判・286頁・3,600円(本体価格)

古島 義雄 著

中国金融市場論

—21世紀初頭における地域的多様性を中心として—

2380-2 A5判・290頁・3,500円(本体価格)

陳 友駿 著

米中経済摩擦

2226-3 A5判・166頁・2,100円(本体価格)

高橋 信弘 編著

グローバル化の光と影

—日本の経済と働き方はどう変わったのか—

3120-3 A5判・264頁・2,600円(本体価格)

田中祐二・中本 悟 編著

地域共同体とグローバリゼーション

2193-8 A5判・314頁・2,900円(本体価格)

伴 ひかり 著

グローバル経済の応用一般均衡分析

神戸学院大学経済学研究叢書 17

2244-7 A5判・234頁・3,300円(本体価格)

田島 陽一 著

グローバリズムと リージョナリズムの相克

—メキシコの開発戦略—

1595-3 A5判・240頁・2,800円(本体価格)

中村 雅秀・奥田 宏司・田中 祐二 編著

グローバル戦略の 新世紀パラダイム

1564-3 A5判・278頁・2,900円(本体価格)

吉田 和男・藤本 茂 編著

グローバルな危機の構造と日本の戦略

—グローバル公共財学入門—

2484-7 A5判・334頁・3,000円(本体価格)

米国経済に肉薄する経済大国・中国 経済成長の6%台への減速・産業構造の転換を課題とする「新常态」下、「経済強国」化の至上命題に 대응するには「強い企業」の育成が欠かせない。各産業分野のプリリアントなトップ企業群像の現状と課題を解明!

近年の中国で、労働争議が多発し大幅な賃上げも繰り返されている。著者は自ら上海市と珠江デルタで行った就業調査のマイクロデータを駆使し、「世界の工場」を支える農民工の就業、賃金と暮らしの実態を描き、労働市場の構造変化を実証的に分析する。

上海などの先端地域を他の地域が追いつける形で経済発展パターンと、計画経済・国有経済からの移行パターンの2つを背景として、中国の金融市場は地理的な意味で、他国にはみられない多様性を有している。そのような中国金融市場の地域的多様性を実証分析する。

世界的な経済一体化が進むとともに、米中二カ国は国際的な経済活動を展開している。そのなかでは、貿易摩擦、経済問題、政治的対立などの軋轢が頻繁に生じている。本書は、米中間の経済面での具体的な貿易紛争を詳細に分析し、さらに今後の両国と多極化する世界経済を展望する。

グローバル化が、経済、産業、企業経営、働き方、そして生活にもたらした恩恵と悪影響を具体的に描き出す。グローバル化の影響とそこから得られる教訓を通じて、今後の日本はどうあるべきか、そして私たちはどのような働き方をすべきかを明らかにする。

地域共同体とグローバリゼーションが競演する現代世界経済を、各専門家が共同研究した成果。様々な地域共同体の歴史的背景と性格、地域共同体とグローバリゼーションの相互作用を検討し、地域共同体とグローバリゼーションの変革課題を提示する。

本書は、GTAP ユーザーである筆者が応用一般均衡モデルの理論と分析事例をまとめたものである。モデルの構造や解の規定要因を理論的に考察するとともに、貿易自由化の経済効果や環境負荷、炭素税や排出量取引といったグローバル経済の諸問題を分析する。

† グローバル化とNAFTAの締結によって、GDP世界第10位の国へと急速に発展したメキシコの開発戦略に関する本格的な研究。新自由主義、グローバリズム、リージョナリズムの下での途上国開発戦略のあり方を問う。

冷戦体制の崩壊、IT革命、9・11とイラク戦争、「世界の工場＝中国」の台頭など新世紀を彩るグローバリズム下の世界経済と多国籍企業戦略の展開、国際的リストラクチャリングと日米関係、国際的地域の変化を鋭く解明し、新世紀のパラダイムをひも解く!

先進国の停滞と新興諸国の著しい台頭は世界を不安定なものとしている。本書は、これまでにない経済、政治、サイバーからなる空間に複雑に横たわる危機の構造を読み解き、多様な利害を調整するため、シミュレーションなど新しい手法を用いたグローバル公共財学を掲げる。世界と日本の国際秩序形成の戦略を考えるための必読書。

絵所秀紀・山崎幸治 編著

アマルティア・センの世界

—経済学と開発研究の架橋—

1489-2 A5判・254頁・2,500円(本体価格)

後藤玲子・P.デュムシエル 編著
後藤玲子 監訳

正義への挑戦

—セン経済学の新地平—

2271-3 菊判・322頁・2,900円(本体価格)

栗田英幸 著

グローバルネットワーク

—資源開発のディレンマと
開発暴力からの脱却を目指して—

1688-7 A5判・282頁・3,200円(本体価格)

鈴木 泰 著

開発政策の合理性と脆弱性

—レント効果とレント・シーキングの研究—

1792-1 A5判・224頁・2,300円(本体価格)

梅津和郎・中津孝司 編著

北東アジアの危機と新成長戦略

1873-0 四六判・200頁・2,200円(本体価格)

徐 治文 著

現代会社法理論と「法と経済学」

1841-9 A5判・210頁・5,100円(本体価格)

木立 力 著

少子高齢化の経済動学

—重複世代モデルの理論と展開—

2031-3 A5判・256頁・2,800円(本体価格)

仲林真子 著

国と地方の公共政策

1923-2 A5判・192頁・2,600円(本体価格)

近藤隆則 先生

政府の銀行貸出への関与は 日本の中小企業を強くしたか

—円滑化法、信用保証制度、資本注入政策の効果についての実証研究—
3004-6 A5判・194頁・3,200円(本体価格)

南波浩史 著

金融変数と实体经济の因果関係

—VARモデルによる実証研究—

2904 A5判・150頁・2,500円(本体価格)

厚生経済学・社会選択論分野での理論的研究と発展途上国の貧困・開発問題の分析という、2つの異なった分野を成功裡に結びつけた点に、セン経済学の魅力がある。本書は、こうした広がりをもったアマルティア・センの世界へと読者を誘う試みである。

経済学も正義を扱ってきた。でもそれは新古典派経済学の壮大な自律的モデルに吸い込まれていく運命にあった。ノーベル経済学受賞者アマルティア・センは、この新古典派経済学の理論を現実の「不正義」に抗する道具として使う、ここに完全な発想の転換がある。

天然資源の開発を巡り激化する地域住民・NGOと多国籍企業間の摩擦。そして、「持続可能な開発」制度の導入は、火に油を注ぐ行為と化している。鉱物資源の開発を取り巻くネットワークの指摘展開から、摩擦の本質を明らかにし、克服の方向性を提示する。

レントを生み出す制度・権利構造の創設・変更を促す複雑な要因を分析。日本によるODAや日本の銀行・金融システムなどのケーススタディを通し、レント・シーキングにより生み出される権利構造あるいはその効果を注意深く監視する必要性を説く。

北東アジア情勢は今もって世界の不安定要因となっている。殊に、日本にとって核保有国・北朝鮮が最大の脅威であることは論を待たない。本書は北東アジア地域の危機の構図を明らかにし、その原因を分析している。21世紀の日本にとって最も重要な外交戦略とは何か。北東アジア情勢を展望することでその本質に迫っていく。

現代アメリカにおける「法と経済学」の会社法理論の全体像を明らかにし、会社法の基礎理論研究へのひとつの端緒を提示するとともに現代会社法のあるべき姿を探求することを試みにまとめた画期的入門書。

重複世代モデルを定常状態から移行過程まで本格的に解説。少子高齢化による高齢者の需要増加・労働供給低下の通説に対し、同モデルを活かし、老後貯蓄や遺産による豊かな資産を強調し、国際化の下で少子高齢化の供給サイドのプラス面を新たに説きあかす。

本書は、租税、エネルギー、地域間格差に焦点をあて、国と地方のそれぞれが行っている政策について分析。各章の前半で現状と問題点について図表を用いてわかりやすく解説し、後半で理論、計量、統計の各アプローチによるより詳しい分析を行い、現実の政策に役立つように構成。

金融危機時の政府のさまざまな介入は、銀行の貸出行動を活性化し、日本の中小企業を強くしたのか？ それとも、銀行の貸出姿勢を歪め、中小企業の力を削ぐ結果になったのか？ 円滑化法、信用保証制度、資本注入政策のもたらした効果をデータに基づいて検証する。

日本の金融政策を対象に、政策変数の短期金利やマネタリーベースといった金融変数が、経済政策の最終目標である物価や産出高といった実体経済変数と如何なる関係を持ちえたのかという政策効果の検証や、その政策効果の波及経路について実証研究を行う。

森田洋二・中島清貴・相馬利行・秦 劼 著

日本のデフレと金融

1867-9 A5判・232頁・3,400円(本体価格)

竹中正治著

米国の対外不均衡の真実

2302-4 A5判・172頁・2,400円(本体価格)

金子邦彦著

現代貨幣論

—電子マネーや仮想通貨は貨幣とよべるか—

2963-7 A5判・162頁・2,200円(本体価格)

安孫子勇一著

知っておきたい金融論

—バブル後日本の金融の大きな変化—

1763-8 A5判・262頁・2,600円(本体価格)

栗原 裕著

グローバル金融

2647-6 A5判・136頁・1,700円(本体価格)

藤原秀夫著

マクロ金融経済学の
転換と証券市場

—信用と貨幣の創造—

3067-1 A5判・334頁・3,800円(本体価格)

藤原秀夫著

マクロ金融経済の基礎理論

2482-3 A5判・254頁・3,000円(本体価格)

同志社大学人文科学研究所編

金融システム改革と現代経済

2136-5 A5判・232頁・2,700円(本体価格)

植田宏文著

金融不安定性の経済分析

1787-5 A5判・288頁・3,400円(本体価格)

丸茂俊彦著

金融取引と銀行組織の経済理論

2029-0 A5判・244頁・2,800円(本体価格)

現在の日本経済は、あの1930年代のアメリカ大恐慌を彷彿させるような異例の厳しい状況の中にある。では、今までにどのような金融政策が実施され、どのような効果がありか。また債権市場はどのような影響をうけた。銀行行動はどのように変化したのか、さらに資産バブルはどのようにして破裂するの、を分析。

米国の対外資産と負債の間にある投資リターンの格差、貿易・経常収支の赤字が持続しても米国の対外純負債はGDP比率で膨張しない構造など、最新の研究視点と豊富なデータを駆使して米国の対外不均衡と対外資産・負債の意外な実態を明らかにする。

古今東西の歴史においてさまざまな形態を取りながら流通してきた貨幣は、多くの学問的関心を掻き立てる謎を遺してきた。ケインズ『貨幣論』を彷彿させる本研究書においても、「貨幣論なき金融論」の現状を憂える著者が、現代における貨幣の謎に對峙し、理論的解明を試みる。竹田陽介(上智大学経済学部)氏書評より。(『経済セミナー』No.702)

日本の金融の仕組みや、その背後にある経済メカニズムを平易に説明した金融論の新しい教科書。とくに、バブル崩壊後の不良債権問題など苦い経験に基づいて大きく変えられた各種金融制度や、激動期の金融政策(ゼロ金利政策や量的緩和政策など)を丁寧に解説。

ダイナミックな変貌を続けるグローバル金融の世界。本書では、為替レート、国際収支、オープン経済下での金融・財政政策や介入政策など、伝統的な分野に加え、通貨危機、デリバティブ、日本の量的緩和策など、近年のトピックスや日本の経済・金融の動向にも焦点を当てながら平易に解説している。

信用と貨幣の創造は2つの部分モデルで定式化され、信用乗数と貨幣乗数が導出される。2つのモデルは、派生預金関数の貸出と証券に関する対称性、現金保有/預金保有・比率が一定、のいずれかを仮定すれば同値である。部分モデルを一般均衡マクロモデルと不均衡調整モデルに接合するために、貨幣市場の瞬時的均衡が仮定される。本書では、この標準モデルとそれに代わる代替モデルも定式化され、量的緩和政策と超過準備預金金利引き下げ政策の有効性が分析される。

現代の金融危機を分析するための理論的枠組みを目指し、これまでのマクロ金融経済論に見られる貨幣からの理論構築か、信用からの理論構築か、といった単一の視点ではなく、貨幣と銀行信用は深く結合しているとの視点から、独自のマクロ信用創造モデルを展開。

証券化に代表される金融システム変革が、いかなるプロセスを通じて金融危機を発生させたかを理論実証的に解明。ミクロ的な金融活動とマクロ経済活動の連関を金融不安定性の観点から分析し、金融制度と政策の有効性と限界を明らかにした研究。

金融的要因からマクロ経済への影響をミンスキーの金融不安定性理論を用いて展開。家計の資産選択行動、銀行の貸出行動、企業の投資行動がマクロ経済活動に与える影響に関する理論実証分析。金融市場の動向とマクロ経済活動を密接に関連させた研究。

情報の経済学や契約理論などのミクロ経済理論の分析道具を用いて、金融取引や銀行組織という経済制度をどのように設計すれば、限定合理的な経済主体が金融取引を行うことから生じる「情報の非対称性」や「契約の不完備性」などが原因となり生じる資金配分の非効率性や金融システムの不安定性の問題を解決できるのか、という問題を理論的に考察。

熊倉修一著

中央銀行と金融政策

2430-4 A5判・206頁・2,200円(本体価格)

神木良三編著

現代日本の金融取引入門

1663-1 A5判・254頁・2,700円(本体価格)

樋口 武編著

金融の経済学

1210-5 A5判・252頁・2,800円(本体価格)

伊東真一編著

消費者金融の新展開

—消費者金融市場のあるべき姿—

1878-5 A5判・164頁・2,200円(本体価格)

伊東真一著

消費者金融システム論

1169-9 A5判・218頁・2,650円(本体価格)

谷村賢治・小川直樹 編

新版

生涯消費者教育論

—地域消費者力を育むために—

1857-0 A5判・240頁・2,200円(本体価格)

岩本 諭・谷村賢治 編著

消費者市民社会の 構築と消費者教育

2448-9 A5判・252頁・2,600円(本体価格)

西村和志著

金融論

1629-1 A5判・322頁・3,000円(本体価格)

G. ディムスキー, R. ポーリン 編
藤井宏史・高屋定美・植田宏文 訳

現代マクロ金融論

—ポスト・ケインジアン視点から—

1539-2 A5判・242頁・2,800円(本体価格)

坂下 晃・外島健嗣・田村香月子 著

証券市場の基礎知識

2173-0 A5判・220頁・2,600円(本体価格)

金融政策は国民経済全般に大きな影響を及ぼします。しかし、その影響の大きさに比して、具体的な内容はほとんど知られていません。本書は、金融機関との関係を通じて中央銀行が如何にして政策を遂行しようとしているかを平易に解説します。

近年、日本の金融取引は、制度・環境・主体・市場機構等が著しく変貌している。かかる進化しつつある金融取引の把握は、基礎理論と取引実態を総合的に理解する必要がある。本書は社会人でも容易に理解できるように工夫された金融取引の入門書。

21世紀を目前にして、現代の金融の諸問題を「金融システム」、「経済理論と金融」、「国際金融」の観点から総括した待望の教科書。デリバティブ、アジア通貨危機、EUの通貨統合など最新のテーマを取り扱いながら、金融の理論と実際を体系的・総合的に論じている。

平成18年に行われた貸金業法改正の意味や過程を見つめ直し、新たな消費者金融市場を構築していくための金利規制のあり方、また消費者や業者に対する教育、及びファイナンシャルカウンセリングといった消費者金融インフラ構築のための提言を行う。

消費者金融を金融論の視点から捉えるとともに、わが国の消費者金融業界がこれまでに抱えてきた問題や将来性について考察し、今後わが国の消費者金融業が必要とするクレジット・カウンセリング制度について、欧米の諸制度をも含めて考察した。

財政難の折から地方消費者行政は縮小傾向。他方、消費者問題は拡大基調にある消費資本主義の下、いかに自らの消費生活の安全を図るか。この課題に学際的に取り組んだ本書は、多様化し、複雑化した消費者リスクに直面する現代人に必要な知恵を盛り込んだ必読書。

現代消費社会を賢く生きる為に——何を食べ、何を着て、どんな暮らしをするかの選択は、私たちの自由であるが、同時に自らの安全、そして私たちの生きる社会や環境を守っていく権利と責任がある。

金融システムおよび金融市場システムを、マクロ経済モデル、ミクロ経済モデルを用いて分析した金融論の入門書。初学者にも理解ができるように図表等を用いて、平易に記述。

現代経済が抱える金融不安定性現象に対する新たな分析フレームワークを提示し、理論と実証の両側面から経済活動の不安定性の本質および対処法を展開。ミンスキー理論の真髄を理解し、その現実的妥当性を検討。

リーマンショックに引き続く、ギリシャの財政問題等、大きく変化する世界の金融資本市場を理解するのに必要な証券市場に関する基礎的な知識・理論を網羅し、制度から課題まで最新のデータを駆使してわかりやすく解説している証券市場の入門書。

杉江雅彦 監修
坂下 晃 編著

証券論 15 講

1456-6 A5判・230頁・2,700円(本体価格)

地主敏樹・小巻泰之・奥山英司 著

世界金融危機と欧米主要中央銀行 —リアルタイム・データと公表文書による分析—

2370-3 A5判・268頁・3,600円(本体価格)

ジョン・ホング 著

ファイナンシャルリスク マネジメントの理論と実践

—アメリカコミュニティバンクを実例として—

1374-8 A5判・224頁・2,800円(本体価格)

三井 哲・二村和之 著

新 銀行 論

名古屋学院大学総合研究所研究叢書

1488-4 A5判・252頁・3,400円(本体価格)

美馬佑造 著

貨幣帝国主義 論

1582-1 四六判・236頁・2,600円(本体価格)

ミシエル・アグリエッタ、ボブ・ジェソップほか 著
若森章孝・斉藤日出治 訳

金融資本主義を超えて

2034-4 四六判・216頁・2,400円(本体価格)

津田直則 著

社会変革の協同組合と 連帯システム

2375-8 A5判・332頁・3,500円(本体価格)

伊多波良雄・塩津ゆりか 著

貧困と社会保障制度

2299-7 A5判・220頁・2,500円(本体価格)

伊多波良雄・川浦昭彦・原田禎夫 編著

基礎から学ぶ財政学

2721-3 A5判・240頁・2,800円(本体価格)

伊多波良雄・塩津ゆりか・原田禎夫 著

現代社会の財政学

2068-9 A5判・248頁・2,800円(本体価格)

証券市場全体を俯瞰して基礎を学ぶ入門書という位置付けに加え、証券市場の役割・機能が日本経済の再生に一層重要になる中でグローバル化や規制緩和さらに国民一人一人の資産運用という観点から必要な知識・問題点が把握できるよう編集されている。

サブプライム問題に端を発した世界金融危機。本書では、2007年から2009年までを、リアルタイム・データと公表文書を用いて、各国中央銀行がとった金融政策の妥当性を再検討する。その後もユーロ危機など不安定要素を孕む世界経済への一助となす。

金融資産の選択に与える市場条件と取引保障が存続する特定リスクマネジメントは本書の取扱いである。金融機関の経営戦略について金利リスク、信用リスク、流動リスクなどの計測、リスク・キャピタル応用、オペレーションと非財務要素のコントロール等の把握を目指す。

本書は、第I部で今後の銀行のあり方を具体的に、また銀行本来の機能に立ちもどって検討するとともに、第II部では銀行をとりまく諸問題を、包括的かつ詳細に論じているところに特徴がある。

社会科学を新視点から考察し人間が生出した貨幣が今や人間を滅ぼす役割を成していることをみる。強国は貨幣帝国主義化すると同時に世界中がフロード(詐欺)資本主義化している。最も先鋭的な米国に続く日本がむしろ特殊要因のため一層危機を深めている点を見る。

アグリエッタ、ジェソップ、ウォーラーステインなど現在の社会経済・政治学をリードする泰斗が集い、フォーディズムからグローバリゼーションによる相互依存体制と金融資本主義への移行を検証し、今後必要とされる現代資本主義の転換を経済成長と社会生活の調和に求め、新自由主義へのオルタナティブなパラダイムを提示する。

協同組合は、1人1票という民主主義の価値と、競争社会で生きぬく効率という価値の二兎を追う宿命を背負っている。本書は、協同組合論を経済体制論として展開した最初の試みである。世界の協同組合の分析を通じてこの2つの価値の実現が可能であることを示す。

独自のアンケート調査に基づき、生活保護世帯に代表される現代の貧困の現状を従来見られなかった観点から分析することによって課題を抽出し、給付条件の厳しい現在の社会保障制度を無条件給付のベーシック・インカムや負の所得税へ改革すべきことを提言。

市場の失敗、税、国債および地方財政など財政学のトピックスを網羅。さらに、幸福感分析を用いた年金、医療などの政府活動に関する最近の評価分析も紹介。これから財政学を学ぶ人のための入門テキスト。

財政問題を考える際に「道具」となる基本的な財政理論を平易に解説するとともに、実際の制度についても紹介する。その上で、市民や地域コミュニティの持つ力の重要性、社会保障制度のあり方及び政策評価といった今日的なテーマについても幅広く取り上げている。

林哲洙 著

21世紀型新民富論

—包容巨視経済社会と多様性に向けて—

3032-9 A5判・228頁・3,000円(本体価格)

岡崎 昭・萱沼美香 著

ライフ・サイクルと社会保障・福祉

—生・労・老・死の投資と収益—

1559-7 A5判・258頁・3,000円(本体価格)

磯山 淳 著

投資信託税制の理論と課題

1972-0 四六判・190頁・2,000円(本体価格)

柏原幾松 著

株式投資成功への道

—一五〇余年の株式投資実践から学んだ
株式投資論と投資術—

2653-7 A5判・130頁・1,600円(本体価格)

落合史生・樋口勝一 著

これならわかる!! 大学生のための統計学ドリル

1683-6 A5判・208頁・1,600円(本体価格)

樋口勝一 著

これならわかる!! 大学生のための計算ドリル

1396-9 A5判・162頁・1,000円(本体価格)

濱 道生 著

第2版 Excelで学ぶ社会科学系の基礎数学

2964-4 A5判・304頁・2,800円(本体価格)

20世紀の成長の末、市場と社会とは切り離されてしまった。本書は21世紀の新しい「民富」への道、経済活動額の多様性を模索する。市場と国家・政府の二分論に加え社会的領域を再発見し、政策・制度の観点から金融資本、産業資本、文化資本の現状を見つめる。

† 個人は、生・労・老・死を通じて多種多様な生活上の経済的リスクに出会うが、自助努力を積み重ね、租税・社会保険料負担によりそれに備えている。そこで、今後の少子・高齢社会における社会保障・福祉の制度や役割、そのサービス内容について検討している。

法人課税信託に該当せず課税が繰り延べられる証券投資信託及び国内公募投資信託に対する法人税導入について理論的検討を行なう。また様々な投資信託商品の選択に対して税負担等が中立的になるよう投資信託に係る所得を統一的に扱うことについても考察する。

株式投資で損をした人、必読書。50余年の株式投資実践と大阪証券取引所での学びからの株式投資論と投資術。株式投資入門から名人への道を具体的な投資術で案内しています。「勘定売買」の確実的実行によって株式投資道の名人に!

本書では、算数・数学があまり得意ではない学生でも、例題・類題へと進む中で手を動かして計算することにより、自然と統計についての理解力が身につく。さらに、表計算ソフトを使った例題・類題を収録し、実際の場面での統計処理の力も身につけることができる。

† 本書は、公務員・SPI対策用だけでなく「数学が苦手だ」という人の為のドリルである。基礎から応用までをこの1冊で網羅。「数学がこれ程簡単なのか」と思えるほどわかりやすく、かつ自然に実力がつくように構成。基礎を学ぶにも試験にも最適の1冊。

高校1年生でも、経済・経営系の必要な数学の知識を基礎から身につけられるテキスト。中学校からの復習も含み、同時に例題の多くを社会科学の問題によっており、就職試験への基礎造りにも最適。

経営・商業

坂本隆行 著

中小企業のコーポレート・ ブランド生成

3241-5 A5判・170頁・2,800円(本体価格)

長沢伸也 編著

ロジスティクス SCM 革命 —未来を拓く物流の進化—

3256-9 四六判・218頁・2,000円(本体価格)

丹治 隆著

どこに向かう日本の翼 —LCCが救世主となるのか—

3219-4 四六判・234頁・2,600円(本体価格)

大西正曹 著

中小企業再生の道 精選版 —歩いて見て聴いた40年 まいど教授の探訪記—

3177-7 A5判・250頁・2,800円(本体価格)

藤本武士・大竹敏次 編著

グローバル・ニッチトップ 企業の国際比較

3145-6 A5判・238頁・2,800円(本体価格)

宮坂純一 著

賃金と働き方 —日本型企業社会の内実—

3205-7 A5判・224頁・3,000円(本体価格)

宮島康暢 著

中小企業における経営計画 による経営理念の浸透

—経営の「見える化」実現に向けて—
3169-2 A5判・208頁・3,500円(本体価格)

大森 晋著

西陣室町繊維産業の信用システム —京都伝統産業の歴史から考察する—

3216-3 A5判・198頁・2,500円(本体価格)

京都産業学シリーズ テーマ別研究 第2巻 編集委員会 編集

京都産業学の可能性 —地域産業(学)への貢献を旨として—

3223-1 A5判・92頁・1,000円(本体価格)

中小企業の中には、マーケットから認知され、その企業名(コーポレート・ブランド)を海外市場にまでとどろかせる企業もある。経営資源の制約がありながら、なぜブランド中小企業はコーポレート・ブランドを生成し、市場から選ばれているのかを解明する。

Eコマースが急速に発展し、物流やSCMの戦略が企業の発展を大きく左右する現在、どのように最新技術を応用し、物流を最適化しているのだろうか、また、さらなる発展を目指し、これからどのように進化していくのだろうか、第一線で活躍する実務家5人がこれからの革命を語る。

FSCの生き残り戦略、LCCの世界的躍進、中東・アジアなどの新興国市場の急成長など急激に変化する世界の航空業界を俯瞰したうえで、日本の航空業界・市場の低迷原因につき客観的なデータに基づいて分析・政策提言を行う。さらに、長距離線LCCの発展可能性と課題についても論じる。

モノづくりの町・東大阪を中心に、全国各地の中小企業をおよそ40年間「まいど、まいど」と訪問してきた、まいど教授こと大西正曹氏(関西大学名誉教授)。その貴重な知見を一挙掲載した名著『中小企業再生の道』が、精選版として令和の世に蘇る。

小規模ながらもニッチの分野でグローバルに活躍しているGNT(グローバル・ニッチトップ)企業。彼らの成功の秘訣は何なのか、GNT企業を多く輩出しているドイツから何を学ぶことができるか、雇用や技術開発などで地域経済に不可欠なGNT企業をいかに輩出していくかを分析する。

共同態としての日本企業が生み出した独自の賃金制度の変遷を辿ることで、会社人間を生み出した年功賃金、職務給、職能給、成果主義賃金、役割給、同一労働同一賃金をめぐる言説を批判的に分析。新たな時代の職場・家族・地域社会に立脚した人間としての生活・働き方を提言する。

中小企業の持続的発展のためには、「経営理念の社内浸透・社外への発信」が不可欠であり、その効果的な方法とは経営計画の策定・実行である。この視点から、中小企業において経営理念に基づく経営計画が有効であることを、理論と実践の両面から考察する。

伝統産業の信用システム発展のために、中小企業者、金融機関、行政には今なが必要とされているか。京都の伝統産業の歴史的研究と最新の金融研究とを結びつけることによって、現代の中小企業に対する信用システムの課題と解決策を明らかにする。

地域産業が直面している課題は山積している。それには地域社会の変容、景気変動、人口変化などが挙げられよう。そこで本書では、社会の変化にさらされながらも、その中をたくましくも生き延びてきた「京都」の老舗企業などの経験を踏まえ、いかに「地域産業」に貢献できるかを問う。

川上 祐司 著

アメリカのスポーツ現場に 学ぶマーケティング戦略

—ファン・チーム・行政が生み出すスポーツ文化とビジネス—
3203-3 A5判・246頁・2,500円(本体価格)

MLB スプリングトレーニングキャンプに毎年参加し、スポーツが文化として地域に根付く現場に肌で触れ続けてきた著者が、最先端のスポーツビジネスの現状と仕組みをわかりやすく解説。豊富な図版を用いて、最新事例を交えながら書かれた、スポーツビジネスを学ぶための入門書。

片 淵 卓 志 著

トヨタ品質管理のメカニズム

3182-1 A5判・218頁・3,500円(本体価格)

長 沢 伸 也・坂 東 佑 治 著

ハイエンド破壊的イノベーションの理論と事例検証

—リシャール・ミル、トーキョーバイク、ホワイトマウンテンアリング、バルミュエダのブランド戦略—

3108-1 四六判・170頁・2,000円(本体価格)

トヨタ自動車の世界品質への飛躍の礎は、1960年代における経営管理の刷新によって築かれた。当時のトヨタ品質管理の運動メカニズムを、本社機構から工場・製造現場までを視野に入れつつ、一次史料と社員へのインタビューをもとに実証し、トヨタの競争力の源泉に迫る。

経営資源が乏しいにもかかわらず高価格帯の商品で成功を収める新興ブランドの秘密とは何か。これまでにない商品が提案する新たなライフスタイル、価値概念により消費者を取り込むハイエンド型破壊的イノベーションを実現する戦略を検証する。

十 名 直 喜 著

企業不祥事と日本的経営

—品質と働き方のダイナミズム—

3152-4 A5判・238頁・2,600円(本体価格)

李 澤 建 著

新興国企業の成長戦略

—中国自動車産業が語る
“持たざる者”の強み—

3222-4 A5判・266頁・4,400円(本体価格)

高品質と労使協調の象徴とされた日本の大企業に続発する品質不祥事、そして後を絶たない過労死やパワハラ、品質と働き方にみられたかつての「好循環」は、なぜ、どのように悪循環に転じたのか。両者の深い関係、その光と影を日本的経営論と企業不祥事論の視点から、さらに品質管理と能力主義管理論、労使関係論の視点から解きほぐし、システム変革のあり方を提示する。

すでに多くの資源を持ち競争優位にある多国籍企業が、新興国市場では思うように成功できないのに、後発の新興国企業は急成長と躍進を遂げている。本書では、中国自動車産業の経営進化と戦略的・組織的変化の実態を詳細に分析し、新興国市場で必要とされる新しい市場戦略を提起する。

青 木 高 夫 著

株主指向か 公益指向か

—日本型コーポレートガバナンスを求めて—

3270-5 A5判・166頁・2,400円(本体価格)

服 部 治 著

現代経営行動論

1666-6 A5判・262頁・2,900円(本体価格)

竹 内 毅 著

経営学批判序説

2560-8 A5判・220頁・2,800円(本体価格)

宮 脇 敏 哉 編 著

会社は誰のものか？ 誰のものであるべきなのか？ 欧米と日本におけるこれまでの議論を整理し、日本にあったコーポレートガバナンスのあり方を考える。研究者のみならず、企業経営者やビジネスマンにとっても有益なヒントが詰まった一冊。

日本企業の発展とその行動方向は、経営内部体制の確立と海外進出による企業競争力の強化にかかっている。経営行動についてのグローバル化への対応、人的資源、企業統治、地域企業などの問題を多面的に分析。海外日系企業の調査・取材により現状と課題を解説。

会社に限らず組織では、何かを計画・実行し目的を実現させるため、十人十色の意見をまとめる必要がある。そうした時、どうすればよいかを考え実行するのが「経営」である。しかし「経営学」はそれに答えていない。本書では、人間のあり方を忘れ、実践とかけ離れた「経営学」に警鐘を鳴らし、真の実践の学びとして「経営学」を問いなおす。

経営学新講義

2217-1 A5判・222頁・2,600円(本体価格)

O. E. ウィリアムソン 著
井上 薫・中田善啓 監訳

エコノミックオーガニゼーション

—取引コストパラダイムの展開—

0419-1 A5判・406頁・3,900円(本体価格)

リーマンショック後の世界経済と、中国をはじめとするアジア各国の急成長を前にして、日本企業はいかにイノベーションを行っていくか。経営学の基礎から、知的財産権、経営学に役立つ法律、会計学までを詳述し、経営学を学ぼうとする学生から社会人まで対応したテキスト。

取引コストを中心に市場と企業、中間組織を比較制度論的に問題把握し、企業理論をはじめ多くの学問領域に大きな影響を与えた新しい理論を集大成した。2009年度ノーベル経済学賞を受賞した今最も注目されている著者による論集を20年ぶりに復刊。

三浦一郎 編著

顧客の創造

3031-2 A5判・284頁・2,800円(本体価格)

三浦一郎 著

ドラッカーの周辺

2983-5 A5判・222頁・2,000円(本体価格)

宮内拓智・小沢道紀 編著

ドラッカー思想と現代経営

2115-0 A5判・216頁・2,500円(本体価格)

宮下篤志 著

進化デザイン戦略

—組織と個の持続的自律の戦略論—

2752-7 四六判・250頁・2,600円(本体価格)

重本直利・篠原三郎・中村共一 編著

社会共生学研究

—いかに資本主義をマネジメント(制御)していくか—

3029-9 A5判・460頁・6,500円(本体価格)

重本直利 著

大学経営学序説

—市民的公共性と大学経営—

2064-1 四六判・240頁・2,200円(本体価格)

重本直利 編著

社会経営学研究

—経済競争の経営から社会共生的経営へ—

2224-9 A5判・430頁・3,800円(本体価格)

重本直利 著

改訂版

社会経営学序説

—経済競争の経営手法から社会共生的経営手法へ—

2239-3 A5判・244頁・2,300円(本体価格)

重本直利 著

ディーセント・マネジメント

—マネジメントの貧困からいかに抜け出すか—

2539-4 A5判・148頁・1,200円(本体価格)

重本直利 編著

ディーセント・マネジメント研究

—労働統合・共生経営の方法—

2614-8 菊判・440頁・5,000円(本体価格)

「顧客の創造」という言葉は、ドラッカーの『現代の経営』に、「事業の目的」として初めて著された。以来、「顧客の創造」は、ドラッカーのマネジメント論を代表する概念と考えられている。本書は、「顧客の創造」を導きの糸として、各論者がそれぞれの研究を深める論文集となっている。

ドラッカーの「時代認識」と「人間」に対する関心に惹かれた著者が長年ドラッカーを読む中で、折に触れ発表してきたドラッカー学会の年報や講演、大学での講義などの諸論文を収録。ドラッカーの思想、経営学についての理解を深めることが出来る1冊。

本書は、ドラッカーという企業経営に多くの影響を与えてきた思想家の理論概念について、14人の執筆者が、それぞれの観点から論じたものである。ドラッカー思想を研究していく視点として、また、実践していく上での視点として、様々な役立つ研究書である。

戦略思考と哲学の結合による考察は、組織の真の目的を見出し持続的な進化を促す。組織の真の目的は持続的進化には不可欠な概念であり、短期および中長期双方の考察と実践に繋がる。そのためには、ものごとのパラドックスを超えて、深く文脈を捉える方法にある。

資本主義をマネジメント(制御)する可能性はあるのか、また経済競争の関係性(構造的)およびそのマネジメント手法(機能性)が具体的に機能する資本主義の現実から社会共生的関係性(構造的)およびそのマネジメント手法(機能性)への転換の可能性はあるのかを探る。

ユネスコ高等教育宣言、国際人権A規約「漸進的無償化」条項に依拠した市民的公共性の立場から大学経営と大学評価のあり方を論じ、競争経営から共生経営へ、国家的大学経営から市民的大学経営への方向性および大学評価のあり方を示した大学経営学のすすめの書。

「社会経営」の方法と実践があつてこそ「社会政策」の方法と実践が十全に機能する。企業は社会の一部である。資本(企業)の問題解決のために社会を変えるのではなく、社会の問題解決のために資本(企業)を変える。このパラダイム転換が求められている。

企業活動がもたらす社会的損失としての公害、交通事故、過労死、生活環境、自然環境の悪化などの犠牲・負担から今日の企業経営の質を捉えなければならない。また、経営概念は拡張され豊富化されなければならない。社会経営学はこうした21世紀的射程の中にある。

名ばかり管理職、パワハラなど、旧来の管理システムの歪が顕在化した現在、ディーセント・ワーク(働き甲斐のある人間らしい労働)を可能とする新たなマネジメント・システムが求められている。本書では、人間共生のマネジメントを探索する。

働きたいのある人間らしい労働(ディーセント・ワーク)の課題は、すぐれてマネジメントの課題である。具体的な労働統合・共生経営のあり方を論じ、市民のマネジメントとしてのディーセント・マネジメントを提唱する。

竹内貞雄 著

共生経営論序説

—共生経営からアソシエーションへの射程—

2513-4 四六判・196頁・2,300円(本体価格)

竹内貞雄・重本直利 編著

共生の現代的探求

—生あるものは共にある—

2613-1 A5判・216頁・2,500円(本体価格)

藤本義治 編著

経営理論とその周辺

1969-0 A5判・184頁・2,600円(本体価格)

牧野丹奈子 著

現場視点の経営学

—〈行為→意味→行為〉サイクルと身体性—

1983-6 A5判・218頁・2,400円(本体価格)

山崎その・宮嶋恒二・伊多波良雄 著

これからの大学経営

—ガバナンス、マネジメント、リーダーシップ—

2989-7 A5判・238頁・3,800円(本体価格)

山崎その 著

大学経営の評価システム

—手法の開発とマネジメントへの応用—

2331-4 A5判・236頁・2,800円(本体価格)

細川 孝 編著

「無償教育の漸進的導入」 と大学界改革

龍谷大学社会科学研究所叢書 第101号

2524-0 A5判・208頁・2,500円(本体価格)

長谷川健二・加瀬和俊・常 清秀 著

“なりわい”産業の危機と光

—ふくい漁村からのメッセージ—

福井県立大学県民双書 XIV

2531-8 四六判・218頁・1,500円(本体価格)

丹羽由一 著

アジアの経営・財務戦略30講

2185-3 四六判・210頁・2,200円(本体価格)

柏木理佳 著

中国のグローバル化と経営管理

2081-8 四六判・176頁・1,900円(本体価格)

本書では時代の閉塞性を開放性へと転換させる、新しい関係性の経営学的モデル論を展開する。「共同本質」という関係性概念を原点に、「共生経営」原理を提起し、アソシエーション化の今日的課題を問う意欲作。

人間の社会関係的な価値に着目し、現代の「社会共生」のあり方を説き明かす。生命のみならず、労働、経営、教育、研究など人間の生きた活動における「生あるものは共にある」ことへの実践及び理論的アプローチを提示。

経営学で、ふつう取り上げられるマネジメント理論を、マーケティング論、生産管理論、モチベーション・リーダーシップ論、意思決定論、経営戦略論、経営科学などに分けて論じると共に、立地論、経営集積論など、経営学の周辺分野について独自の視点を示した。

現場で働く個人の視点に立った「生きた経営学」の本である。なぜ現場は計画通りに進まないのか、どのように現場で知識は創発されるのか。数々の問いに対して、“身体性”をキーワードに、事例を交えながら、誰もが実感できるようにわかりやすく解いていく。

効率性や有効性の観点から就職支援や附属校のあり方および大学経営の実態を数量的に分析。さらに、大学経営でこれまで充分注目されてこなかったガバナンス、マネジメント、リーダーシップを考慮しながら、競争的環境下におかれている大学経営の改善策を示唆。

大学が抱える二つの課題、教育の質保証と効率的・効果的な経営を実現するには、計画と評価がリンクしたPDCAサイクルの確立が必要である。本書は、バランスド・スコアカード(BSC)や効率性の視点から相対評価を行う包絡分析法(DEA)を用いて、大学経営の改善方法を考察したもの。

2012年9月、日本政府は国際人権規約A規約13条2項の「留保」を撤回した。しかし、「無償教育の漸進的導入」に向けた政策転換はなされていない。本書は、日本における「無償教育の漸進的導入」と「大学界改革」に向けて、現状と展望を究明しようと試みる。

漁業とはどのような産業か。漁業の産業的特徴がどのように地域経済と就労機会の拡大と安定化に役立っているのか。そしてなぜ漁業は現在、危機に陥っているのか。福井県の沿岸漁村を対象に実証的に明らかにした。

世界金融危機やチャイナリスクなど、ますます不透明化するアジアのビジネス環境のなか、日本企業はどのような戦略をとるべきか。九州大学ビジネススクールの講義をベースに、拡大を続けるアジア市場の新たなビジネスチャンスとリスクをわかりやすく解説した最新ガイドブック。

急成長を遂げる中国経済の構造問題を、グローバル企業との比較における中国企業の経営管理の特徴、対外投資と鉄鋼産業の現状、女性のキャリア意識やリカレント教育の日中比較などを通して分析し、今後の国際的な人的資源活用のあり方について考察する。

楊 秋麗 著

中国大型国有企業の 経営システム改革

—中国石油天然ガス集団公司を中心として—
2429-8 A5判・216頁・3,400円(本体価格)

伊達浩憲・佐武弘章・松岡憲司 編著

自動車産業と生産システム

1748-4 A5判・212頁・2,500円(本体価格)

徳田昭雄・立本博文・小川紘一 編著

オープン・イノベーション・システム

—欧州における自動車組込みシステムの開発と標準化—

2287-4 A5判・302頁・3,200円(本体価格)

徳田昭雄 編著

自動車のエレクトロニクス化と 標準化

—転換期に立つ電子制御システム市場—
1956-0 A5判・258頁・2,700円(本体価格)

佐伯靖雄 著

自動車電動化時代の企業経営

3079-4 A5判・254頁・3,500円(本体価格)

佐伯靖雄 著

自動車の電動化・電子化と サプライヤー・システム

—製品開発視点からの企業間関係分析—
2323-9 A5判・348頁・3,900円(本体価格)

佐伯靖雄 著

企業間分業とイノベーション・システムの組織化

—日本自動車産業のサステナビリティ考察—
2590-5 A5判・254頁・3,000円(本体価格)

松平好人 著

日産モノづくりの知識創造経営

—知識創造を促進する行為とリーダーシップ—
日本図書館協会選定図書

2554-7 A5判・258頁・3,000円(本体価格)

藤田泰正 著

工作機械産業と企業経営

—なぜ日本のマシニングセンタは強いのか—

1992-8 A5判・234頁・2,800円(本体価格)

福田國彌 監修 石井徳章・森 幸治 編著

日本発モノづくり

—若い人たちに期待したいこと—
日本図書館協会選定図書

2514-1 四六判・316頁・1,800円(本体価格)

本書で取り上げる中国石油天然ガス集団公司は、政府機関と会社組織の改革を通じて国有化を維持しながら市場経済に適応する経営システムの改革を行ってきた大型国有企業の典型である。本書は、その改革の到達点を経営学の知見を用いて分析した最新の成果である。

トヨタ生産方式の本質、非正規雇用の役割、アメリカ自動車産業の雇用システム、中国自動車産業のゆくえ、イギリス自動車産業の衰退の歴史など、世界を牽引する自動車産業の生産システムのあり方を実証的に分析。

ものづくりはアナログからデジタルへと変化し、経営環境のパラダイムシフトが起こっている。製品開発における複雑性の解決と標準化による競争力獲得のため、オープン・イノベーションが先行して進展する欧州自動車産業を分析することにより、ビジネスモデルの新たな指針を示す。

日本の電子制御システム市場とサプライヤーの発展プロセスなど、その全体像(生産・流通・競争環境)を見渡し、欧州でいち早く進行する電子制御システムの「標準化」を推進する「コンソーシアム」の動向を分析、今後の自動車産業界の命運を左右する「エレクトロニクス化と標準化」についての課題を探るために必読の1冊。

自動車電動化時代に入った今日において、グローバル規模で展開される自動車の電動化、知能化、共有化をめぐる企業間のイノベーション競争を分析し、自動車産業及び関連産業に参入する様々なプレーヤーの経営上の問題性を明らかにする。

2014年度工業経営研究会賞受賞

世界規模での再編や新興市場の隆盛等、また、大きな技術的転換として電動化・電子化が進行し自動車産業を大きく変えようとしている。本書ではこれからの鍵となるカーエレクトロニクス分野における製品開発と企業間関係の実態を浮き彫りにし、競争力の維持・向上の方法を見据える。

グローバル競争が激化している今日、日本経済の柱である自動車産業の国際競争力の維持・向上は至上命題である。本書は、自動車企業及び産業におけるイノベーション・システムをいかに効率的に組織化し競争力に繋げていくか等、複雑化するグローバル競争に適応できる方策を検討するものである。

日産モノづくりの「真の強み」とは何なのか。これまで可視化できなかった知識創造経営のソフト面にスポットを当て、生産現場にて3年にわたる調査研究を敢行。日産モノづくりの知識創造の本質をえぐる決定版。21世紀の知識社会を生き抜く人に必読の書。

「機械の母」と称される工作機械に光をあて、世界最強を誇る日本工作機械産業の強さの秘密を浮き彫りにする。特に、世界市場を圧倒するマシニングセンタに注目してユーザー、メーカー双方の調査を基に、その実態と経営戦略を明らかにする。

企業の一線で活躍する責任者が、ブレイクスルーを生み出す原動力として技術開発現場、生産現場で繰り返される「モノづくり」への絶えざるチャレンジを語り、世界にまねのできない日本の「モノづくり」の本質とこれからの世界戦略への道筋を指し示す。

山内孝幸著

モンキー・D・ルフィは実在した!?—マンガ ONE PIECE と HONDA に
学ぶマネジメント—

2522-6 四六判・212頁・1,500円(本体価格)

超人気マンガ ONE PIECE には、経営とマネジメントの大きなヒントが詰まっていた!! マネジメントを「企業トップ」「環境」「組織」「発展」の4つの視点から考え、実際に発展を繰り返してきた企業 HONDA の事例と比較を試みながら、その本質とエッセンスをやさしく楽しく学ぶ。

田中健吾著

ソーシャルスキルと職業性ストレス

—企業従業員の臨床社会心理学的研究—

2088-7 A5判・192頁・2,800円(本体価格)

ソーシャルスキルと職業性ストレスとの関連性について、心理学的ストレス理論に立脚した実証的調査研究と理論的考察を行い、職場不適応への心理臨床的介入や職場のストレスマネジメントに対してソーシャルスキルに着眼したアプローチの有用性を説いている。

大西 謙 編著

老舗企業にみる100年の知恵

—革新のメカニズムを探る—

龍谷大学社会科学研究所叢書 第103号

2528-8 A5判・252頁・3,000円(本体価格)

本書は、経営品質向上プログラムアセスメント基準の観点から、老舗企業7社の革新のメカニズムを検討したものである。各企業の革新がどのようになされたのかを調査し、各社独自のメカニズムを探ると同時に、7社共通の革新のメカニズムに迫る。

トム・L. ビーチャム、ノーマン・E. ボウイ 編
加藤尚武監訳**企業倫理学 1**

—倫理的原理と企業の社会的責任—

1605-4 A5判・328頁・3,800円(本体価格)

応用倫理学の巨匠ビーチャムとカント主義の立場から根源的に企業と雇用の関係を見つめるボウイが協力して作った最高の「企業倫理学」の入門書。本書では詳細な説明、重要諸論文、裁判の判例、事例研究を所収し、企業倫理学を俯瞰する。

トム・L. ビーチャム、ノーマン・E. ボウイ 編
梅津光弘監訳**企業倫理学 2**

—リスクと職場における権利・義務—

1238-5 A5判・276頁・3,400円(本体価格)

本巻では、リスクと労使関係当事者の権利と義務を中心に扱う。前半では、政府、市民、環境や災害などあらゆるリスクへの技術的対応及び情報開示の問題を取り上げる。後半では、雇用者と従業員の関係を扱う。当該関係を中心に、人権、ドラッグ、内部告発などの諸問題を取り上げる。

トム・L. ビーチャム、ノーマン・E. ボウイ 編
中村瑞穂監訳**企業倫理学 3**

—雇用と差別/競争と情報—

1435-3 A5判・262頁・3,200円(本体価格)

企業倫理の重要事項への取り組みと厳しい論議の実態を紹介。前半では雇用差別撤廃、公正賃金の新基準導入、セクハラへの撲滅など、後半では販売競争の中での情報のあり方を中心に販売担当者倫理、広告倫理、ライバル情報の収集をめぐる倫理がとり上げられる。

トム・L. ビーチャム、ノーマン・E. ボウイ 編
小林俊治監訳**企業倫理学 4**

2902-6 A5判・248頁・3,800円(本体価格)

本巻は国際ビジネスの倫理を扱う。企業活動のあらゆる部門でのグローバル化が進む今日、ビジネスの倫理も国際的な基準や行動規範を必要としている。本巻には異文化経営を理解するために役立つ、著名な経営倫理学者たちが書いた必読の論文を収めている。

中谷常二編著

ビジネス倫理学

1853-2 A5判・266頁・3,200円(本体価格)

ステイクホルダー理論、従業員や消費者の権利、内部告発、環境問題などビジネス倫理学の問題を網羅した、リーディングス形式の入門書。ビジネス倫理学を学ぶのに必要な倫理理論の解説や、討議用のケースなども充実し、大学生、実務家、研究者などに最適。

中谷常二編

ビジネス倫理学読本

2330-7 A5判・216頁・2,600円(本体価格)

気鋭の倫理学者による本格的ビジネス倫理学研究書。応用倫理学者加藤尚武や、カント倫理学者ノーマン・ボウイなどバラエティに富む執筆陣による論文集。功利主義、カント倫理、ケアの倫理といった規範倫理学の視点から現代ビジネスの功罪を深く鋭く読み解く。

中村共一著

なぜ、共生倫理なのか?

—社会と市場経済—

2769-5 A5判・138頁・1,200円(本体価格)

「社会的責任」が叫ばれて久しい。だが、問題の改善はどれほど進んでいるのかは甚だ疑問である。その要因の一つに、「共生」概念を共有していないことにある。本書は、倫理や市民運動の視点からこの概念をとらえ、システム社会に横たわる問題点を可視化する。

宮坂純一著

ロシア経営学の新潮流

—CSR教育・研究の動向—

2571-4 A5判・238頁・3,800円(本体価格)

ソ連邦崩壊以後、欧米諸国の企業倫理やCSR(企業社会的責任)といったマネジメント概念や技法に「自由」に触れられるようになったロシアにおいて、それらはどうのように考えられ、そして実践されているのか。「未知の」概念が流入しているロシア経営学の最新の動向を解明する。

田中照純・劉 容菁・西村 剛 編著

企業倫理を歩む道

—その理論と実践—

2128-0 A5判・236頁・2,500円(本体価格)

本書は、企業活動に現れる倫理性の問題を科学的に究明するため、企業倫理を生産や販売そして労働など、企業活動の個別的な領域と結びつけて論じる。また、自動車メーカーや製薬企業、さらに不動産業界での事例もあけて企業倫理の現実と接近する。そして、グローバル時代に国際経営の下で発生する企業倫理、いま最も注目されているNPOや社会的企業での倫理問題も解明する。

原発史研究会編

日本における原子力発電の あゆみとフクシマ

3016-9 A5判・256頁・4,200円(本体価格)

福島第一原発事故は、いったんシビアアクシデントが起これば原子力は人間が取り扱うことが極めて困難であることを知らしめた。なぜ、我われはこれほど原子力に対して楽観的で無為でいることが出来たのか。日本の原子力政策と安全性・経済性、東京電力の経営を領域横断的・歴史的研究により総合的に描き出し、日本の原子力発電のあり方を考える。

数家鉄治著

コンフリクト・マネジメント

—紛争解決と調停—

1646-1 A5判・256頁・3,000円(本体価格)

日本のシステムの痛みによって、至る所で紛争が多発している。だが、日本では有効な紛争解決の理論や方法が未成熟で、先送りされているケースが多い。このコンフリクト・マネジメント研究によって、状況に適合した実践的、理論的な紛争解決論を開拓する。

井田 泰人 編著

鉄道と商業

3156-2 A5判・276頁・2,800円(本体価格)

鉄道と商業の関係について様々な視点を設定し、歴史的研究を目指す一冊。鉄道史研究と商業史研究の系譜、鉄道企業家のビジネスモデル、商業従事者と鉄道の関係、鉄道の商業地・空間に及ぼす影響など、資料から新しい事実を探り、研究を深化させていく。

稲本 恵子 編著

エアライン・ビジネス入門

2922-4 A5判・178頁・2,000円(本体価格)

エアライン・ビジネスの歴史的背景、航空会社の事業構造の成り立ちや関連事業などについて初学者に配慮した記述で解説し、さらに、躍進するLCCなど最新の航空業界研究も収録。航空業界をとりまく最新の情報やデータを取り入れ、エアライン・ビジネスの今を伝える。

谷口知司・福井弘幸 編著

これからの観光を考える

2863-0 A5判・202頁・2,500円(本体価格)

これからの日本の成長戦略を支える観光について、宿泊業、旅行業、交通機関などこれまでの産業としての観光に加え、インバウンド、観光資源の開発、観光情報など政策やソフトとしての観光の開発・展開がもたらす地域の活性化などについても目を向け、これからの観光について考える。

小林 弘二 著

旅行ビジネスの本質

—観光・旅行・航空の日英比較—

1843-3 A5判・246頁・2,600円(本体価格)

海外旅行ビジネスの上で先進的な立場にある英国を対象に、そのビジネスが構築されるにいたった背景を踏まえ、わが国との比較研究を行うことによって、需要喚起に向けた新たな日本の海外旅行ビジネスを構築する上での視座とした。

廣岡 裕一 著

旅行取引論

1875-4 A5判・226頁・2,400円(本体価格)

パッケージツアーをはじめとする旅行業者が取り扱う旅行商品全般を視野に入れ、ニーズの多様化によるサービス、旅行の変遷から生ずる様々な問題を論ずることにより、旅行者の役割と社会的意義を再検討し、いま必要とされる法整備の政策を提示する。

中村 真典 著

元CA訓練部長が書いた日本で一番やさしく、
ふかく、おもしろい ホスピタリティの本

3026-8 四六判・172頁・1,800円(本体価格)

まずはサービスの基本を学ぶ。そしてCS(顧客満足)から感動のサービスへと高めるホスピタリティとは何か?ホスピタリティがサービス業界において重要視されるようになった経緯に沿って、具体的なエピソードを中心に紹介。ホスピタリティの背景となる異文化交流にも触れながら、元CA訓練部長がホスピタリティ・マインドをやさしく、ふかく、おもしろく伝えます。

宮城博文著

沖縄観光とホスピタリティ産業

2427-4 A5判・204頁・2,800円(本体価格)

大西正曹編著

時代の車窓から見た中小企業

2393-2 A5判・208頁・2,400円(本体価格)

松井敏 著

増補版 中小企業論

2059-7 A5判・174頁・2,000円(本体価格)

中道 眞著

グローバル市場を志向する 国際中小企業

—革新的技術と国際企業家精神を併せ持つ中小企業の研究—
3017-6 A5判・208頁・5,200円(本体価格)

伊藤博志著

グローバル化と 中小企業経営

大阪経済大学研究叢書
2453-3 A5判・204頁・2,200円(本体価格)

長岡延孝編著

サステナビリティの政策と経営

—低炭素循環型社会をめぐる日本とスウェーデン—

2151-8 A5判・272頁・2,900円(本体価格)

金川幸司著

協働型ガバナンスとNPO

—イギリスのパートナーシップ政策を事例として—

1970-6 A5判・230頁・2,600円(本体価格)

吉田忠彦編著

地域とNPOのマネジメント

1644-5 A5判・230頁・2,600円(本体価格)

重本直利・藤原隆信編著

共生地域社会と公共経営

—市民が創る新たな公共性、地域密着型NPOの挑戦—

2155-6 A5判・250頁・2,300円(本体価格)

大西勝明・小阪隆秀・田村八十一編著

現代の産業・企業と地域経済

—持続可能な発展の追究—

2975-0 A5判・262頁・2,900円(本体価格)

これまでの政策論的な観光研究に対し、経営学の視点から時系列的、体系的にホスピタリティ産業のクラスター形成、および顧客へのサービス・コンセプトを分析。新しい視座を提示し、沖縄における観光の発展の過程を明らかにするだけでなく、これからの日本の観光政策や地域経済に示唆を与える。

中小企業によるモノづくりの未来を拓くために、今改めて時代の流れの中からその動きを見直してみると、今まで見えなかった中小企業の真の姿が見えてくる。歴史を概観し、生きた事例を紹介し、現場から新たなモノづくりによる産業創造の実践に向けて提案する。

中小企業論の見方や学習の方法、多様な中小企業の位置や役割についての歴史的展開、最近の構造変化、成長や経営革新を繰り返す発展型中小企業の現状など最近の問題までをわかりやすく講義。基礎的知識から最近の中小企業の構造変化まで理解が深まる入門書。

国際経営論における「国際中小企業」概念と特徴を論じた研究書。その概念と特徴は、最先端技術や模倣困難な革新的技術を保有する中小企業が、国境を超えて機会を発見・獲得・評価・利用することといった国際的な起業家精神によって経営されていることである。

グローバル化の下、中小企業はいかに対応していくのか。本書では、激しさを増す競争、取り巻く環境、企業間関係などのめまぐるしい変化に抗いながら、中小企業のすすむべき方向性を問い、日本社会の問題解決の糸口を探る。

資源・エネルギー制約のもとで気候変動の問題をどう克服するのか。この課題を、先進国スウェーデンの経験から学びつつ、環境政策・企業経営・技術・エネルギーなど多面的に検討する。比較的手法を通じて、日本の低炭素循環型社会のガバナンスを明らかにする。

行政とNPOの協働をガバナンス論、パートナーシップ理論を振り返りながら整理する。さらに、イギリスのパートナーシップ政策に関して、コンパクト、資金提供、地域再生、地域戦略パートナーシップ等を事例としながら、その現状と課題を明らかにし、我が国へのインプリケーションを探る。

若手研究者グループが、最先端の理論に日本やイギリスの注目事例を交えて、地域とNPOの豆地面とを多角的に検討。世界的な行政改革の流れの中で、激変が予測される日本における地域政策やNPOの経営戦略に、重要な示唆と新たな指針を示す。

これまでの公共経営は国家・行政がその主たる担い手であった。この公共経営にさまざまな歪みが生じている今日、企業経営、市民経営をも含む概念として、社会的合理性の視点と地域密着型NPOの実践から新たに捉え返した21世紀の公共経営論。

持続可能性をテーマに、22名の研究者がそれぞれの問題意識に即して、現代の資本主義社会が直面している課題と展望を析出。「世界の変革」に向けた、多様な分野・視角からのアプローチを試みた論文集。

西村勝志・榊原正幸 編著

社会共創学概論

2742-8 A5判・214頁・2,200円(本体価格)

樋口克次・伊藤和夫 編著

社会経営学のすすめ —甦るキャンパス—

1984-3 A5判・242頁・2,200円(本体価格)

崔 英靖・大西正志・折戸洋子 編著

ここから始める経営入門

2701-5 A5判・206頁・2,200円(本体価格)

岸田道彦 著

やさしい経営入門読本 —創業から経営革新まで—

2100-6 A5判・202頁・2,000円(本体価格)

宮坂純一 著

道徳的主体としての現代企業 —何故に、企業不祥事が繰り返されるのか—

2084-9 A5判・210頁・2,200円(本体価格)

大泉光一・大泉常長・企業危機管理研究会 著

日本人リーダーは、 なぜ危機管理に失敗するのか

—リーダーは悲観主義者、実働部隊は楽観主義者であれ!—

2659-9 A5判・166頁・2,200円(本体価格)

労務理論学会 編

経営労務事典

2285-0 A5判・302頁・2,500円(本体価格)

竹内貞雄 著

現代の技術と知識労働

—技術思想批判から管理論へ—

2383-3 A5判・216頁・2,500円(本体価格)

伊藤健市 著

「やりがいのある仕事」と「働きがいのある職場」

—ブラック企業を反面教師に—

2890-6 菊判・196頁・2,000円(本体価格)

谷田部光一 著

働きがいの人材マネジメント

2777-0 A5判・286頁・3,000円(本体価格)

社会共創学は、社会を地域の人々と共に創る学問を意味し、地域社会の持続可能な発展を究極の目的として誕生した。文系理系の専門分野における基礎科学の成果を統合する課題解決型実践科学である新学問(社会共創学)を概観した著書が、社会共創学概論である。

経営学はきわめて現実的な学問であり、広く組織体の運営を理論対象とする。経営学は社会の持続的な発展にとって重要な理論的役割を果たす。新しい世紀に、経営学は「起業」を理論的に支える役割を期待され、この役割は「社会経営学」と位置づけられたのである。

これから経営学を学ぶ初学者や社会人のために、従来のように学説や理論から説明するのではなく、企業経営の原理や仕組み、背景をわかりやすく記述することで、経営学全体の理解を深めることを心がけて記述されたテキスト。学説・理論や概念については、補論として掲載され、より深い理解のための工夫がなされている。

日本経済を支える中小企業。その重要性にも拘わらず、多くは「経営すること」の大切さの認識が低い。経営するとは「企業を存続発展させること」との考えに立ち、創業・経営管理・経営革新と段階を追って必要な基礎知識や考え方、手の打ち方を平易明快に示す。

現代企業は道徳的主体となり得るのであるか? ステイクホルダー・マネジメント、CSR等の現代企業を巡る幾つかの新しい重要な概念を経営倫理学の立場から大胆な切り口で整理し、企業不祥事が繰り返されるメカニズムを明快に解明した、問題提起の書。

近年企業による不祥事が相次ぎ、危機管理への関心が高まっている。なぜ日本人リーダーは危機管理に失敗してしまうのか。危機管理のバイオニアが日本の価値観では危機に対応できない理由を解明し、危機管理に必要な思想や対処法、リーダーの心構えを解説する。

人間らしい暮らしをするうえで、仕事が単なる労働であってはならない。ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の「これまで」のあり方を振り返り、「いま」を直視し、「これから」を展望する。現実に応え、現場に活かせるよう各テーマを平易にまとめ、当事者に語りかける読む事典。

「技術思想」の批判を通して、現代の「知識労働」の意義を説き、管理技術の意義を論究する。労働疎外・物象化視角から技術と知識の担い手=人間労働に光を当て、マルクス理論の限界を管理論によって乗り越えようとする。「原発技術」の本質にも迫る技術批判の書。

人生で最長の職業人生期の充実度は、やりがいのある仕事と働きがいのある職場に大きく依存している。本書は、ナレッジワーカーである現代人にとって死活問題となりがねない、そうした仕事と職場の必須要件を、ブラック企業を反面教師に解き明かしている。

組織で働く多くの人は働きがいを求めている。人材マネジメントの重要な役割は従業員に働きがいを与えることである。人材マネジメントの理念や使命、さらに賃金や労働時間管理をはじめとする諸制度・施策について働きがいの視点から多角的に論究する。

谷田部 光一 著

キャリア・マネジメント

—人材マネジメントの視点から—

2145-7 A5判・224頁・2,400円(本体価格)

服部 治・谷内篤博 編

人的資源管理要論

1218-0 A5判・238頁・3,000円(本体価格)

平野 実 著

国際合弁企業と知識創造

1847-1 A5判・162頁・2,000円(本体価格)

浪江 巖 著

労働管理の基本構造

2102-0 A5判・262頁・3,300円(本体価格)

野瀬正治 編著

個別的労使関係と人事労務管理

—個の欲求と組織充足の調整・繋ぎ—

2786-2 A5判・250頁・2,900円(本体価格)

野瀬正治 編著

変化する労働社会関係と統合プロセス

—社会化する企業・NPO・ソーシャル
キャピタル・情報通信技術—

2353-6 A5判・224頁・2,600円(本体価格)

野瀬正治 著

第2版

新時代の個別的労使関係論

—社会・企業・個人間の調整システム—

1770-0 A5判・220頁・2,500円(本体価格)

京都産業学研究シリーズ編集委員会

京都産業学研究シリーズ・ブックレットテーマ別研究 第1巻

京都企業の人事労務管理 の論理と実際

2548-6 A5判・106頁・1,000円(本体価格)

大西昭生・アンドレアス・メルケ・李遠明・
長谷川正・倉田致知・坂本信雄 著

東アジア諸国の企業経営と グローバル化

京都学園大学総合研究所叢書

1715-8 A5判・246頁・3,500円(本体価格)

岡本 隆・橘 恵昭 編著

改訂版

情報化社会のリテラシー

—情報と技術・経済・経営・倫理・法律・福祉—

2146-4 A5判・194頁・1,900円(本体価格)

日本の雇用システムが変化し、キャリア・マネジメントの必要性が増している。本書では、キャリア開発・形成の場を企業内から企業間、企業外に拡大し、労働者によるキャリア自律、企業の多様なキャリア支援制度、行政のキャリア政策に関して体系的に考察する。

人的資源管理論をめぐる論点を今日的な視点から考察・分析、わが国における人的資源管理についてケーススタディを織り込んで、わかりやすく解説した研究書。テキスト、入門書として学習効果を深めるうえで最適。気鋭の執筆者による21世紀の人的資源管理論。

本書は、国際合弁企業を対象とする実証研究によって、国際合弁企業のマネジメントに関する理論構築を目的としている。本書では、知識創造モデルを中核とする理論的枠組に則して分析が行われ、国際合弁企業の知識創造プロセスの規定因や知識創造の動態的な展開が明らかにされる。

従業員に関わる経営実践＝人事活動の総体を「労働管理」という概念枠で把握せんとする試み、マルクスの方法に依拠して、資本の一般理論を土台に4つの本源的な人事活動を論理的起点に「向上」して理論的構成を行い、最後に労働管理の改革にも論及する。

今日の労使関係や人事労務管理は個別化、高度化、人権尊重など社会の新たな潮流の中で大きな転換点を迎えている。本書は、この変化を明らかにするとともに企業・社員間の関係調整のあり方を心理的側面や折衝交渉モデル、そして日本型コーポレートオンブズマン機能から論じ、新時代の社員と企業の関係の在り方を指し示す。

協働・協力・相互理解の営みについて「社会関係」と「統合」をキーワードに、企業、NPO、ソーシャルキャピタル、情報通信技術を対象として「社会化が進むプロセス」と「組織・地域の人間の活動」を分析。「新たな社会編成原理の浸透」によって、従来と違う協働関係が生まれ社会が再構築されることを論じた今までにない一冊。

新時代の企業・個人間の調整のあり方を、産業社会の変化の延長線上に、企業内・外のトラブル調整実態の分析および同種の問題に対する英米の対応実態との比較を行い、社会システムとして、構造的に如何に個別的労使関係の調整を実践したらいかを論じている。

京都のものづくりの中心に位置する3企業(鳥津製作所、カシフジ、日本電気化学)、印刷業界のパイオニア(中西印刷)にスポットを当て、人事労務管理のあり方を考察する。同時に、企業、歴史、地域社会の関係性の視点から、京都企業の特徴を浮き彫りにする。

21世紀はアジアの時代と言われて久しい。このアジアの中でも戦後成長著しい韓国と近年急成長を遂げている中国とを中心に取り上げ、それぞれの企業経営とその変化を分析する。この際、欧米の企業経営が比較の基軸となり、またグローバル化の視点で欠かせない。

変化の激しい情報化社会の現状とその背景、新たに発生した課題とその解決に必要な知識をとりあげ、多様で重要なテーマを網羅しながらも、平易かつコンパクトにまとめられた本書は、情報化社会の基本を身につけられるように構成されており、類のない良書といえる。

加藤 敦著

ソフトウェア・ビジネス

—利用側と提供側の双方に立った複眼的研究—

2332-1 A5判・272頁・4,000円(本体価格)

M.ドジソン, D.ガン, A.ソルター 著
太田進一監訳企業政策研究会 訳

ニュー・イノベーション・プロセス

—技術・革新・組織—

1876-1 A5判・264頁・3,000円(本体価格)

安達 房子 著

ICTを活用した組織変革

—マネジメントの視点からのテレワークの分析—

2704-6 A5判・200頁・3,400円(本体価格)

九州 ICT 教育研究会 編

マネジメントのための ICT 基礎講座

2616-2 B5判・274頁・2,700円(本体価格)

太田進一 著

ネットワークと中小企業

2378-9 A5判・280頁・2,900円(本体価格)

関西中小企業研究所 編

小企業・自営業がつくる未来社会

—「いのち」と「くらし」のネットワーク—

2478-6 A5判・236頁・1,800円(本体価格)

中根雅夫 著

情報マネジメントが経営を変える

2729-9 A5判・232頁・2,400円(本体価格)

上山清二 著

Webで学ぶ情報処理概論

2073-3 B5判・262頁・2,400円(本体価格)

竹内貞雄 著

情報と自律性の管理

—IT化する現代管理の物象化論—

2227-0 A5判・256頁・3,000円(本体価格)

皆川芳輝 著

サプライチェーン管理会計

1995-9 A5判・210頁・2,500円(本体価格)

止まらぬ技術革新、顧客からのコスト切り下げ要請、首都圏と地方の格差、アジア諸国との競合と連携—ソフトウェア・ビジネスの現在と未来について、実務家出身の経営学者が、産業の歴史を踏まえ、人的資産、取引費用等の視座から切り込む。

「考え、試し、行う」(think, play, do) というイノベーションに関する新しいプロセスを提起している意欲的な研究書。数多くの実証的な研究や「聞き取り調査」(インタビュー)の中から新たな提起をし、その分、その提起に重みを持たせた。

テレワークとは、ICTを活用して空間と時間の制約を超えた働き方である。本書は、経営学の理論をベースに、企業へのアンケート調査や4社の事例研究をおこない、テレワークの実態を解き明かしている。テレワークを経営学の知見を用いて分析した成果である。

情報技術の技術的な側面のみならず、情報技術を体得し、仕事の役に立てるといふ視点から、企業や法務、経営戦略、システム戦略・開発といったテーマ内容まで踏み込み、ITバースポートや日商PC検定試験にも対応できる。

本書はかつて、1980年代に世界最強とまでいわれていた日本の企業の国際競争力が、1990年代、2000年代に長く低迷したのはなぜか、なぜ国際競争力が減退したのかという問題意識から出発した。その予想結論から二つの仮説を呈示。

“身の丈”の経営によって、小企業・自営業はその存在意義を寡黙に「発信」し続ける。それは持続可能な経済・社会の実現に向けての「いのち」と「くらし」の実践でもある。本書では、事例を挙げながら、その実態や本質、課題等について多角的に展開している。

本書は、企業経営におけるIT化の様相と経営上の意味合いを多角的に考察したものである。はじめにIT化に先進的な企業を4社取り上げてその実態を分析し、さらにIT化にとって重要なテーマを厳選し、データや実例を援用してIT化の実態を解き明かしている。

文化系学生のためのコンピュータの教科書である本書は、コンピュータのしくみ、特になぜ機械に計算ができるのかについて、その歴史をたどり記述している。ウェブページと連動してさらなる理解を助ける。URL <http://www.infonet.co.jp/ueyama/jp/>

情報技術(IT)が労働と企業管理に与える影響を批判的に究明。物象化の視点から、情報による差異化、オートポイエシス、過程としての技術という新しい概念を提示し、知識経済における自律的労働の意義を説き明かす。IT化に伴う監視/権力問題の謎にも迫る。

サプライチェーン間競争が激化する中、企業経営においては、サプライチェーン構築・参加がこれまで以上に重要になっている。本書は、サプライチェーン競争力の強化およびパートナー企業の業績向上につながる諸管理会計手法の機能と効果を明らかにする。

郡司 健 編著

簿記会計のエッセンス

2709-1 A5判・176頁・1,900円(本体価格)

西村勝志著

簿記原 理

—初心者のための簿記入門—

2041-2 A5判・210頁・2,800円(本体価格)

J. H. フラマン 著 山本紀生 著/編訳

簿記の生成と現代化

2046-7 A5判・228頁・3,000円(本体価格)

山本純子著

減価償却制度

—その歴史と新制度の提案—

2505-9 A5判・132頁・2,000円(本体価格)

柏木信一著

21世紀の商学原論講義

—経済、商、法の3極思考—

2677-3 A5判・192頁・2,100円(本体価格)

井田泰人著

商学の基本を学ぶ15講

2566-0 A5判・154頁・1,800円(本体価格)

関西中小企業研究所・小松史朗 編

社会的課題に挑戦する若き起業家たち

—ソーシャルイノベーションの胎動—

2925-5 A5判・276頁・1,800円(本体価格)

吉野忠男著

起業論 再 考

—調査事例からの示唆—

2635-3 A5判・292頁・3,800円(本体価格)

吉野忠男著

ベンチャー企業

—起業の認識と成長のプロセス—

2258-4 A5判・252頁・2,800円(本体価格)

岩谷昌樹著

コンカレント・カンパニー

—寄り添う企業が市場を制す—

3074-9 A5判・258頁・3,100円(本体価格)

簿記の初学者がまず簿記の基礎を理解し、さらに簿記会計の中級へ進もうとする人達が簿記会計のエッセンスを包括的に理解し、初級から中級レベルの簿記会計(会社会計)の理論と技術を身に付け、簿記のスキル向上に最適のテキストです。

はじめて簿記を学習する人が、まず簿記の全体像を把握し、次に日々の取引内容を整理し、そして集大成としての決算手続きまでを、段階的かつ体系的に理解できるように、数多くの【取引例】を活用しながらわかりやすく解説した日商簿記3級レベルの入門書である。

いまま人類および社会のさまざまな活動において大きな役割を果たす。優れた発明「簿記」。本書では、古代、中世、現代と、(複式)簿記の生成・発展の歴史をたどり、現代化された簿記の事象をめぐる最近の発展動向についても論じる。複式簿記をめぐる最も古い内容と最近の成果とをまとめた1冊。

近年、度重なる法改正でその関心が高まった減価償却制度。しかし、その起源から変遷および問題点をまとめた研究は数少ない。本書は、これら減価償却制度の歴史を辿りながら、今まで注目されなかった償却方法についても考察し、問題解決につながる新制度を提案。減価償却研究に必読の1冊となっている。

「各論あって原論がない」という商学の曖昧さを克服すべく、20世紀の商学が手薄だった「消費生活」の視点及び「法」の視点を盛り込み、そして商学界及び日本経済の創始者らの偉業を現世代に活かす「温故知新」という意味を込め「21世紀の商学原論」として提示。

経済活動における流通の重要性を再確認し、流通業者が果たしている役割を考える。日本の流通機構の特徴、大型店を規制する流通関係法規について図表を用いて分かりやすく解説。商業・流通の基礎的かつ必須の内容を収めた、初学者に最適な一冊。

現代日本の社会的課題を解決するための事業に取り組む若手起業家10名のプロフィールと事業に共通する要素を析出することを通して、社会的課題の解決に向けたベンチャー企業の役割、それらが経営の持続可能性を担保する上での要請を提示する。

本書では起業の具体的なポイントを改めて検証し、起業とそのプロセスの本質を明らかにする。破綻事例・起業実態の再検証、起業において不可欠な要件と新たな要件の分析を踏まえ、将来にわたる成長、存続の道筋を考える。

ベンチャー企業における起業機会の認識について事例を交えて解説。その上で現実的な成長プロセスにおいて従来の成長議論を再検討。さらに企業・組織調査をくわえビジネスモデルの転換や漸進的・不連続イノベーション等ベンチャー企業に特有な成長要因を分析検討。

現代ビジネス世界においては、これまでの戦い方では通用しなくなることが多くなった。マネジメントのあり方が激変する中で、しっかりと顧客に向き合うことで成功を収める企業に共通した行動は何であるのかについてアプローチすることで、新たな戦略を明らかにする。

武居 奈緒子 著

新版 消費行動

3141-8 A5判・228頁・2,800円(本体価格)

矢島邦昭・金森 剛 著

マーケティングの理論と実際

—基礎理論から参加型マーケティング構築まで—

2325-3 A5判・242頁・2,400円(本体価格)

光澤滋朗 著

マーケティング, 交換, 取引

2292-8 A5判・214頁・2,500円(本体価格)

馬場正実 著

ファッションビジネス 戦略的ブランドマネジメント

—キャズムを超えて—

2865-4 A5判・192頁・2,400円(本体価格)

大村邦年 著

ファッションビジネスの進化

—多様化する顧客ニーズに適応する、
生き抜くビジネスとは何か—

2840-1 A5判・260頁・3,400円(本体価格)

平山 弘 著

ブランド価値創造戦略に 求められるもの

—目に見えるものを通して目に見えない何かを捉える—

2725-1 A5判・304頁・3,500円(本体価格)

平山 弘 著

ブランド価値の創造

—情報価値と経験価値の観点から—

1848-8 A5判・242頁・3,000円(本体価格)

長沢伸也・榎 新二 著

ヒット商品連発にみる プロダクト・イノベーション

—キリン「ファイア」「生茶」「開茶」「アミノサブリ」
ブランドマネジャーの言葉に学ぶ—

1710-7 A5判・170頁・1,800円(本体価格)

長沢伸也・染谷高士 著

老舗ブランド 「虎屋」の伝統と革新

1909-6 四六判・176頁・1,900円(本体価格)

長沢伸也・西村 修 著

地場産業の高価格ブランド戦略

—朝日酒造・スノーピーク・ゼニス・
ウプロに見る感性価値創造—

2643-8 四六判・218頁・2,200円(本体価格)

マーケティング論の立場から見た消費行動を分析の主眼として論述。新版にあたり、三井越後屋のマーケティングを加筆し、その革新的な内容について詳述。三井越後屋では、すでに江戸時代に消費者を意識したブランドに基づくマーケティングが芽吹いていた。緻密な消費行動分析に基づくマーケティングを展開することが、商家の成長と存続に必要不可欠であることを認識していた。

経営環境の激変、周辺科学や分析手法の進展に対応した多様なマーケティング・コンセプトの出現。これらを位置づけマーケティング戦略構築の枠組みを理解し、情報革命によって新たに拓かれる「参加」「共創」のマーケティングの考え方を理解する理論と実践の書。

本書の目的はマーケティングに関する既存理論を批判的に検討し、本来的な意味でのマーケティング論のあり方を問う。第Ⅰ部ではマーケティング論の成立を明らかにし、第Ⅱ部は第二次大戦後の発展過程を追及。第Ⅲ部では、マーケティング論は取引の理論として構築されるべき、という提案を行った。

環境変化の激しいファッションビジネスで生き残るためには、企業全体としてキャズムを越えるブランドポートフォリオマネジメントが求められる。本書は、多くのファッション企業がキャズムの罅に陥る原因を探るとともに経営管理学の立場から解決策を提示する。

本書は、ファッションの進化を多様な顧客ニーズへの適応行動によるものと捉えている。「変えるもの」と「変えないもの」を峻別し、新たな価値創造を明らかにすることから、現代ビジネスの課題への処方箋を示唆する。

現代企業にとってその市場における持続的競争優位性を保持するためには消費者の「移ろいやすさと習慣性の果て」を意識したブランド価値創造戦略が求められ、そこにはマーケティング・経営的思考とファッション的なものの本質を組み合わせることが重要となる。

現代企業の直面する課題解決には情報価値に基づくブランド価値が重要な意味を持っており、また伝統的マーケティングの有効性が低下する中では経験価値の重要性が求められるため、こうしたアプローチを理論や経験的考察から明らかにすることを目的としている。

なぜキリンビバレッジは「ファイア」「生茶」「開茶」「アミノサブリ」と4年連続で革新的なヒット商品を連発できたのか。それを可能にする「仕組み」の本質をクリステンセンのイノベーション理論を中心に元社長、ブランド・マネジャーらへの直接インタビューに基づくナマの言葉で検証する迫力の書。

創業480年を誇る、誰もが知っている和菓子の老舗「虎屋」。「虎屋じゃなければだめなんだ」と思わず言わせる経験価値創造とダントツ技術を生み出す技術経営(MOT)という新たな視点で、このブランド化した老舗の伝統と革新を分析する。

日本のものづくりは高い技術、高品質を実現しながらも、価格競争と商品価値の差別化に苦しんでいる。本書では、従来とは異なる品質価値の形成と高価格のブランド戦略で優位性を実現するための価値創造を、朝日酒造の久保田、アウトドアのスノーピーク、時計のゼニス、ウプロのケーススタディを通して解き明かす。

長沢伸也・小宮理恵子 著

コミュニティ・デザインによる 賃貸住宅のブランディング

—人気シェアハウスの経験価値創造—
2630-8 四六判・202頁・2,000円(本体価格)

水野清文 著

PB商品戦略の変遷と展望

2695-7 A5判・202頁・2,900円(本体価格)

井田泰人 著

大手化粧品メーカーの 経営史的研究

2347-5 A5判・186頁・2,000円(本体価格)

「京都産業学を創る」編集委員会 編

京都産業学を創る

2240-9 A5判・223頁・2,000円(本体価格)

山内孝幸 著

すべてはゲストのために

—東京ディズニーリゾートに学ぶマーケティング—

2190-7 四六判・192頁・2,100円(本体価格)

足立勝彦・市川嘉彦 著

ブランド・インサイト

—ブランドの深層と潮流を読み解く30の講座—

1684-2 A5判・168頁・2,000円(本体価格)

川上祐司 著

メジャーリーグの現場に学ぶビジネス戦略

—マーケティング、スポンサーシップ、
ツーリズムへの展開—

2882-1 四六判・184頁・1,900円(本体価格)

大須賀明 著

増補版 環境とマーケティング

1185-0 A5判・222頁・2,500円(本体価格)

齋藤実男 著

グリーン⇔ゴールデン マーケティング

2297-3 A5判・244頁・2,300円(本体価格)

齋藤実男 編著

増補版

PUNの缶詰

—グリーン流通—

1842-6 A5判・146頁・1,300円(本体価格)

国内の賃貸住宅市場では近年、シェアハウスを中心とする新たな運営形態の住宅「コミュニティ型賃貸住宅」に熱視線が集まっている。人気の理由と独自のブランド力が生み出される要因を、7つの物件の事例を通して、経営者らへのインタビューと「経験価値」の理論から解き明かした一冊。

企業が再編や低価格戦略などで競争力向上を図るなか、PB商品戦略に注目が集まっている。本書では独自の調査を踏まえてPB商品戦略の在り方を製販両面から究明する。戦略実行に向けた企業文化の管理方法を提示し、製販連携によるPB商品戦略の課題を明示し展望する。

本書は、戦前の大手化粧品メーカーである平尾賛平商店、中山太陽堂、戦後に成長した資生堂、カネボウ、コーセー、ポーラ、花王の発展および衰退の過程を、企業者史的アプローチによって明らかにしたケース・スタディである。長期的視野に立って企業永続の条件を探る。

日本の古都として、またその独自性と企業家精神から革新的経営によるベンチャー企業と中堅企業のメッカとして語られる京都。本書では、単なるイメージに流されることなく、企業と京都との双方のかわりもの構造に注視しつつ京都産業学の構築に向け端緒を開く。

数あるテーマパークの中でも群を抜く人気と、高い評価を得る東京ディズニーリゾートを事例に、90%を超えるリピーター率を実現するための仕組みを解き明かしながら、「初めてマーケティングを学ぶ人」向けにマーケティングの基礎について解説した入門書。

ブランドの機能論、価値論、戦略論、経営論など様々な立場からブランド研究や提言がなされてきた。そして、次第にブランドが制度化されていく時代となってきた。そこで本書では、「ブランドは消費者のものである」ということに焦点を当て、ブランドを浮き彫りにする。

アメリカプロスポーツビジネスの現況を豊富な図版とともにわかりやすく解説し、リーグが大切にしている哲学や都市との協働、スポンサーシップについても紹介。アメリカンフットボールで頂点を極め、現場を熟知する元ビジネスマンだからこそ書けた、生きたスポーツビジネスを学ぶための一冊。

21世紀は自然環境を重視する循環型社会の実現を目指す世紀である。社会の構成員である企業も循環型活動の実践を求められている。本書ではエコ・システムと調査をめざすマーケティング戦略を開発することの必要性とその方法論とが述べられている。

Smoke → Fake → Markeの陰謀＝戦費調達・サブプライムローン・QEfor everによる米ドル不信による国際金融の混乱とハイパースタグフレーションを金本位制復帰が解決する。聖なるグリーンNPO・企業は、毒と俗の金を資金運用しつつこの動乱を乗り切れ。

「PUN 罐」持ったあ、携帯持ったあ?」本書を携帯のように持ち歩き、活用してみよう!」本書は、グリーン流通、グリーンマーケティング等に関わる用語、キーワード、重要な語彙をPUN(語呂)にして、暗記しやすくしてあります。一般のビジネス書は、論理的な説明は多いけれど、少し冗長です。それに比べて、本書は、コンパクトなので、皆さんが、流通ビジネスの要点を一気に捉え、覚え込むのに重宝ですヨ。きっと、覚えたPUNをもつれた現在のビジネスを紐解き、分析するためのメス＝視角として、活かれますヨ。

太田一樹著

現代のマーケティング・ マネジメント

—理論とケース分析—

1552-X A5判・258頁・2,850円(本体価格)

豊富な実例を交え、最新の戦略とマーケティングの理論を現場視点からわかりやすく紹介。ITやビジネスモデルで成功する企業も詳細にケース分析。ビジネススクールのテキストとして、戦略思考を養成したい経営者や起業家、ビジネスパーソンの研修用としても最適。

孫 飛舟著

自動車ディーラー・ システムの国際比較

—アメリカ、日本と中国を中心に—

1427-2 A5判・260頁・3,000円(本体価格)

本書は、アメリカ、日本と中国の自動車流通の歴史、現状及び国際比較を研究対象にした数少ない文献の一つである。筆者は日・米自動車流通の比較に際して、新しいフレームワークを用いて「フランチャイズ」と「系列」の問題について興味深い論点を提供した。

黒澤正一編著

環境 ISO 有効利用のエッセンス

1624-0 A5判・176頁・1,800円(本体価格)

「環境マネジメントシステムを導入したもののうまく機能していない」、[ISO14001認証登録をしただけになっている]といった悩みを抱えている企業や組織は多い。そのような企業や組織必携の環境マネジメントシステムを有効活用するヒント満載の一冊。

森 利博著

アメリカ住宅金融の仕組みと証券化

—サブプライム危機以降の課題と展望—

2480-9 A5判・326頁・4,500円(本体価格)

長年にわたり、アメリカのモーゲージ証券取引に従事した筆者が、複雑化する住宅ローンと証券化の実態、その問題点と対処法からあるべき将来像を考察する。サブプライム・ローン危機への流れとリーマンショック後のアメリカを検証し、日本の住宅金融市場の将来に見取図を与える。

長沢伸也編著

ロジスティクス・SCM の実際

—物流の進化とグローバル化—

3075-6 四六判・246頁・2,200円(本体価格)

保管、物流から在庫管理、無在庫販売や通販、インターネット販売など変化するロジスティクスとサプライチェーンマネジメントの実際について基礎からグローバル化までを第一線の実務家が迫力ある自らの言葉で叙述。これからの日本企業の喫緊の課題に応える。

森 隆行・石田信博・横見宗樹 著

コールドチェーン

2466-3 四六判・190頁・2,200円(本体価格)

食の安全が求められ、トレーサビリティに注目が集まる日本。一方、経済発展にとめない食生活の大きな変容がみられるアジアをはじめとした途上国。コールドチェーンは世界のさまざまな場面でそのニーズを高めている。まさに、21世紀はコールドチェーンの時代、あるいはコールドチェーン再構築の時代である。

男澤智治著

港湾ロジスティクス論

2953-8 A5判・238頁・2,700円(本体価格)

本書では、港湾を企業のロジスティクスやサプライ・チェーンのなかで捉えなおす。日本の主要・地方港湾の分析、さらに東アジア諸国(韓国・中国・台湾)のコンテナ港湾の実態をあわせて考察することで、日本が抱える港湾課題を浮き彫りにし、国際競争力を維持し課題を解決するための、ロジスティクス型コンテナ港湾のこれからのあり方を提案する。

森 隆行編著

内 航 海 運

日本図書館協会選定図書

2549-3 A5判・196頁・2,300円(本体価格)

内航海運は、国内貨物輸送の約四割を担い、鉄鋼、石油などの素材産業関連貨物では八割の輸送を担う重要産業である。カボタージュ、モーダルシフト、内航フィーダーなど、多角的な視点から内航海運の存在意義を問い、日本の物流産業へ警鐘を鳴らす。

芦屋大学経営教育学部

芦屋大学ビジネス研究センター編

芦屋大学卒の事業家たちの教え

2328-4 四六判・208頁・1,600円(本体価格)

芦屋大学では、多彩な分野で活躍する芦屋大学卒の事業家を招き「キャリアプログラム」の講義を行っている。本書は、この講義をもとにインタビューと資料などを加え編纂された。事業者の喜びと苦労など本音が詰まった一冊。

京都産業学研究シリーズ第一巻編集委員会編

京都産業学研究シリーズ・ブックレット 第一巻

島 津 製 作 所

2486-1 A5判・113頁・1,000円(本体価格)

京都の製造業を主とした「ものづくり」に関わる企業などを研究対象としたシリーズ第1巻。本書では、京都の老舗企業であり海外でも知られている島津製作所を取り上げ、その経営戦略や製品特性・技術、京都に果している役割、国際展開などについて詳述する。

京都産業学研究シリーズ企業研究第二巻編集委員会 編
 京都産業学研究シリーズ・ブックレット
 企業研究第二巻

イ シ ダ

2640-7 A5判・144頁・1,000円 (本体価格)

京都を代表する企業のなかで、日本を代表する企業も少なくない。本書では、計量機類メーカーであり、世界で八十数カ国で展開し、創業120年を超える「はかりのインダ」で有名な株式会社インダを取り上げ、その経営戦略や理念の特徴を明らかにする。

京都産業学研究シリーズ企業研究第三巻編集委員会 編
 京都産業学研究シリーズ・ブックレット
 企業研究第三巻

福田金属箔粉工業

2759-6 A5判・166頁・1,000円 (本体価格)

創業以来300年以上にわたって金属箔粉事業を継続しながら、時代と共に多様な産業分野の需要に合わせ、多彩な製品を開発し続ける福田金属箔粉工業。金属素材の先端技術を開発しつづける伝統と革新の経営を探る。

京都産業学研究シリーズ企業研究第四巻編集委員会 編
 京都産業学研究シリーズ・ブックレット第四巻

日 新 電 機

2920-0 A5判・130頁・1,000円 (本体価格)

京都企業「日新電機」は、明治43年創業の東証1部上場企業である。本書は、日新電機への丹念な取材をもとに、同社の経営理念と沿革、技術と経営戦略、情報システム、協力企業、人事制度、国際展開を深掘し解説した学生・ビジネスマン必読の歴史書・研究書である。

労務理論学会 編

労 務 理 論 学 会 誌

A5判・2219-5	第20号・225頁・3,000円 (本体価格)
A5判・2319-2	第21号・228頁・3,000円 (本体価格)
A5判・2454-0	第22号・201頁・3,000円 (本体価格)
A5判・2502-8	第23号・193頁・3,000円 (本体価格)
A5判・2624-7	第24号・191頁・3,000円 (本体価格)
A5判・2702-2	第25号・190頁・3,000円 (本体価格)
A5判・2816-6	第26号・202頁・3,000円 (本体価格)
A5判・2996-5	第27号・190頁・3,000円 (本体価格)
A5判・3178-4	第28号・264頁・3,000円 (本体価格)

SPORTS PERSPECTIVE SERIES

相原正道・林 恒宏・半田 裕・裕末ひとみ 著

SPORTS PERSPECTIVE SERIES 1

スポーツマーケティング論

3069-5 A5判・126頁・1,500円(本体価格)

相原正道・上田滋夢・武田丈太郎 著

SPORTS PERSPECTIVE SERIES 2

スポーツガバナンスと
マネジメント

3077-0 A5判・138頁・1,700円(本体価格)

相原正道・庄子博人・櫻井康夫 著

SPORTS PERSPECTIVE SERIES 3

スポーツ産業論

3098-5 A5判・120頁・1,600円(本体価格)

相原正道・谷塚 哲 著

SPORTS PERSPECTIVE SERIES 4

スポーツ文化論

3195-1 A5判・154頁・1,800円(本体価格)

相原正道・植田真司・高橋正紀・黒澤寛己・大西裕司 著

SPORTS PERSPECTIVE SERIES 5

スポーツマンシップ論

3232-3 A5判・174頁・2,200円(本体価格)

相原正道・工藤康宏・大野宏之・前田和範・若浅 巧 著

SPORTS PERSPECTIVE SERIES 6

スポーツマーケティング入門

3250-7 A5判・146頁・1,800円(本体価格)

近年、重要性がますます高まるスポーツマーケティングについて、事例に基づいてわかりやすく解説。海外ビッグクラブの経営戦略、盛り上がりを見せるスポーツツーリズムの事例と分析、グローバルに展開されるスポーツビジネス現場の実際、地域スポーツ政策の変遷など、国内外のスポーツマーケティングを理解する上で格好の入門書。

日本の大学スポーツのガバナンス、スポーツにおけるガバナンスの歴史的形成過程と多様なグローバル・ガバナンスの構造、スポーツによる地域活性化、生活に密着したスポーツ環境づくりの取組み・マネジメントの実際などをわかりやすく解説。今こそ論じられるべきスポーツにおけるガバナンスとマネジメントについて学ぶ最良の入門書。

AIやIoTという第4次産業革命がスポーツ産業に与える影響、スポーツ産業の経済規模とスポーツ企業の特徴、そしてフィットネス業界を例としてスポーツ産業のマーケティング、サービス、経営などについてわかりやすく解説。急激な変化を続けるスポーツ産業界の今後の行方を占う上でも必読の入門書。

オリンピックにおける文化プログラム、スポーツ振興、企業スポーツ、プロスポーツ、総合型地域スポーツクラブ、学校クラブスポーツ、スポーツ団体の不祥事、最新のスポーツビジネスの動向と問われるスポーツの意味などについて解説。

本書では、いじめ、体罰、暴力、パワハラなどの問題が多発する今こそ求められるスポーツマンシップの意味や可能性、教育方法などについて多角的に解説。スポーツだけではなく、人間的にも成長するために必読の1冊。

本書では、スポーツマーケティングの誕生と歴史を紐解き、現在のスポーツにおけるプロダクト(商品)開発、地域密着型プロスポーツ組織、スポーツ市場の広がりとその可能性などについて解説。進化を続けるスポーツマーケティングを基礎から学べる1冊。

社 会

高岡弘幸・島村恭則・川村清志・松村薫子 編著

民俗学読本

—フィールドへのいざない—

執筆者それぞれの人生とフィールドでの体験を押し出し、それぞれの民俗学を語る。臨場感あふれる文章で民俗学の魅力へといざなう。

3266-8 A5判・248頁・2,400円(本体価格)

田島良輝・神野賢治 編著

スポーツの「あたりまえ」を疑え!

—スポーツへの多面的アプローチ—

ジェンダーとスポーツ、メディアとスポーツ、部活動とスポーツ、地域とスポーツ…

様々なスポーツを取り巻く環境を社会的視点から考える。今ある環境を「あたりまえ」ととらえるのではなく、「もっと良くできないか」と疑うことでスポーツの未来を切りひらく。

3264-4 A5判・232頁・2,600円(本体価格)

菊地夏野・堀江有里・飯野由里子 編著

クィア・スタディーズをひらく 1

—アイデンティティ、コミュニティ、スペース—

クィア・スタディーズの現在地を知るためのシリーズ創刊。(全3巻)「クィア」という視点で世界を眺めたときに、私たちは何に気づき、誰と出会うのか。「LGBT」「セクシュアル・マイノリティ」という言葉が日本の文脈で広まっていった過程でとりこぼされてきた問題を掘り起こす。

3220-2 四六判・276頁・2,300円(本体価格)

日本セーフティープロモーション学会 編

セーフティープロモーション

—安全・安心を創る科学と実践—

少子高齢化がすすむ社会で求められる、安全で安心できるための科学とその実践について解説した日本初の本。教科書や研修テキストに最適。

3258-3 B5判・214頁・2,800円(本体価格)

前田益尚 著

脱アルコールの哲学

—理屈でデザインする酒のない人生—

アルコール依存症に完治はない。一生をかけて向き合いながら、人生はつづく。ではどうやって、酒を飲まない人生をデザインしていけばいいのか。断酒5年をむかえた著者自身の経験と分析をもとに、そのヒントを凝縮した最新エッセイ。

3229-3 四六判・148頁・1,500円(本体価格)

武田尚子 著

戦争と福祉

—第一次大戦期のイギリス軍需工場と女性労働—

戦時の矛盾だらけのなかで、福祉の礎が築かれた。本書はこの事実を掘り起こし、本来は平和な時に進捗させるべきものを、切羽詰まってからでなければ始まらなかった哀しい歴史を見つめ直す糧にしたい。平時に自分に何ができるか、何をすべきかを考える糧にしたい。その思いで本書を刊行するものである。(「あとがき」より)

3218-7 A5判・192頁・2,700円(本体価格)

大塚健司 著

中国水環境問題の協働解決論

—ガバナンスのダイナミズムへの視座—

中国の水環境問題の解決の鍵は多様な関係主体間による「協働」にある。太湖・淮河地域での長年のフィールドワークを基に水資源・環境管理、中国環境政策、公共政策論を横断するガバナンスのダイナミズムの新たな枠組みを提示し、協働解決の実態と課題に迫る。

3225-5 A5判・230頁・3,800円(本体価格)

大峰光博 著

スポーツにおける逸脱とは何か

—スポーツ倫理と日常倫理のジレンマ—

「より速く、より高く、より強く」競技をするために日常倫理から逸脱した練習や戦術を要求されるアスリートたち。彼らのスポーツ界におけるスポーツ倫理とはいかなるものなのか? スポーツ倫理と日常倫理はどのように異なるのだろうか? 今、スポーツをとりまく倫理の問題を具体的な事例を交えて考える。

3235-4 A5判・122頁・1,700円(本体価格)

千 相哲・宗像 優・末松 剛 編著

九州地域学

地域文化、地域環境、地域産業、地域政策、地域観光の観点から、九州地域の発展に必要な視点と考え方、地域研究の新しい糸口を示す。九州地域の自然、歴史、文化、社会、観光への関心から、地域の魅力を再発見し、未来を共創することをめざして。

3238-5 A5判・212頁・2,500円(本体価格)

松崎行代著

地域社会からみた人形劇

—飯田市民2500人が参加する背景を探る—

3230-9 A5判・238頁・2,600円(本体価格)

大西正書 監修 森原英壽著

創造・再生のまち おおだて

—大館市・民の連携が拓く未来航路—

3243-9 四六判・152頁・1,600円(本体価格)

坂井めぐみ著

「患者」の生成と変容

—日本における脊髄損傷医療の歴史的研究—

3148-7 A5判・312頁・5,200円(本体価格)

安達智子著

自分と社会からキャリアを考える

—現代青年のキャリア形成と支援—

3226-2 A5判・202頁・2,600円(本体価格)

岡井崇之編著

アーバンカルチャーズ

—誘惑する都市文化、記憶する都市文化—

3185-2 A5判・246頁・2,600円(本体価格)

赤池慎吾・大崎 優・岡村健志・梶 英樹 編著

地域コーディネーションの実践

—高知大学流地方創生への挑戦—

3210-1 A5判・204頁・2,800円(本体価格)

水野正己・堀口 正 編著

世界に広がる農村生活改善

—日本から中国・アフリカ・中南米へ—

3208-8 A5判・212頁・2,600円(本体価格)

杉村和彦・山崎重雄・増田頼道 編著

図説 神と紙の里の未来学

—世界性・工芸観光・創造知の集積—

3221-7 A5判・176頁・1,800円(本体価格)

野村 実著

クルマ社会の地域公共交通

—多様なアクターの参画によるモビリティ確保の方策—

3198-2 A5判・210頁・3,200円(本体価格)

杉村和彦著

三世代近居の健康長寿学

—福井・北陸・日本・世界—

3212-5 A5判・224頁・2,500円(本体価格)

40年続く人形劇フェスタは、家族や区(集落)を入り口とし、徐々にまち全体を見つめ、「自分たちの住むまち」を考えさせ始めたのだ。著者は地道な調査によってこの過程を、住民の視点から明らかにした。祭りという非日常の中での住民と外来者との接触が、この変容に大きく関わっていることを思い、感謝したい。(高松 和子いいだ人形劇センター理事長)

市民一人ひとり行政が知恵を出し合い、手を取りあって、創造と再生を繰り返して発展を続ける秋田県大館市。地域に眠る財産(地財)を活かして再生を果たした産業、〈オールおおだて〉で守り抜く伝統文化、SDGsを先取りした取り組みと環境ツーリズムの提言まで、全国の地方都市が目指すべき理想のモデルがここにある。

第二次世界大戦による脊髄損傷者は、国策によって「生きられる」ようになった。これまで見過ごされてきた脊髄損傷医療の形成・展開を、社会情勢、医療制度、法律、患者の生活と関連づけながら、幕末期から現在にわたって検討し、患者像の変容を示した医療史研究。

目まぐるしく変化する現代社会において、私たちはどのように「自分らしい」キャリアを形成していけばよいのだろうか。本書は、その問いに答えるべく、現代の就職活動や若者の実情、キャリアとジェンダーのかかわりを明らかにしたうえで、変化の時代のキャリア選択で指針となる最新の理論を紹介する。

本書は、これまで「都市とは何か」といった問いを扱ってきた都市社会学や文化社会学だけではなく、観光社会学、文化人類学、民俗学、メディア論、現代アート、ポピュラー音楽研究など、多様な視点から現代の都市に迫り、「人は都市をどう生きているのか」、「人は都市をどう記憶しているのか」を刺激的な論考によって浮かび上がらせる。

大学に対する地域貢献を求める声が高まるなか、大学が地域社会と連携し、地域課題の解決を目指し、地域振興を共同実施する地域創生の動きが始まっている。本書は、井戸端会議からクラウドファンディングまで、人と人をつなぎ地域活性化の最前線に挑む高知大学のコーディネーターの活動を伝える。

日本、中国、アフリカ、中南米の国々での農村での調査を踏まえ、多様な視点から分析。特に日本において取り組まれた生活改善事業やその役割を検証し、その農村生活改善の経験から導かれた生活改善アプローチが、世界各地でどのように導入され、普及しているか否かを検討する。

なぜ神宿の紙の里に世界が注目するのか。神宿の紙の里にも、新しい時代の胎動がある。地域に刻まれた和紙の歴史、その中に生きる新しい時代を切り開く職人アーティスト達の挑戦。本書は、Washiの世界性、観光を軸に変貌する世界を描き出し、紙の里の未来を展望する。

人口減少や高齢化の進む地域では、バスやタクシーという従来の交通事業が成り立ちにくくなっており、自治体や交通事業者以外のアクター(主体)の参画によって地域公共交通が運営される事例が増えている。本書は、多様なアクターを対象とした複数地域での実地調査から、実践のヒントと政策的示唆の導出を試みる。

比較の視座から、健康長寿にかかわる、新興長寿県、伝統長寿県、伝統短命県、転落短命県の地域特性を「こころ・からだ・しゃかい」から検討する。「しゃかい」の視点を深化させ、「三世代近居」に支えられた、福井をはじめとする北陸の新興長寿県の秘密を明らかにする。

岩満賢次著

若年生活困難者支援とガバナンス

3179-1 A5判・162頁・2,800円(本体価格)

石川正子/中川 理/マーク・カプリオ・
奥野克己 編著

移動する人々

—多様性から考える—

3150-0 四六判・292頁・2,600円(本体価格)

入江恵子著

介入と逸脱

—インターセックスと薬害 HIV の医療社会学—

3176-0 四六判・244頁・2,800円(本体価格)

北出真紀恵著

「声」とメディアの社会学

—ラジオにおける女性アナウンサーの
「声」をめぐる—

3186-9 A5判・232頁・2,800円(本体価格)

井上慧真著

若者支援の日英比較

—社会関係資本の観点から—

3159-3 A5判・236頁・3,800円(本体価格)

徳田 剛・二階堂裕子・魁生由美子 編著

地方発

外国人住民との地域づくり

—多文化共生の現場から—

3149-4 A5判・234頁・2,400円(本体価格)

保岡啓子著

脳死・臓器移植と向き合う ための医療人類学

—医療者・レシピエント・ドナー家族への聞き取り調査から—

3105-0 A5判・240頁・4,700円(本体価格)

紀司かおり著

Psychosocial Factors Associated with Recidivism among Male Japanese Criminals of Offender Rehabilitation Facilities

3095-4 A5判・130頁・4,100円(本体価格)

武谷嘉之著

「非」常用労働者の20年

近刊

3086-2 A5判

姜 美香著

外国人介護労働者の受入れと課題

3261-3 A5判・216頁・3,600円(本体価格)

21世紀に入り若年生活困窮者の支援には、行政のみならず様々な民間の組織が取り組んでいる。地域の中でのこれらのアクターのバランスはどのようにあるべきであろうか。本書では、日英韓の比較を踏まえ、公私関係を軸としたガバナンスの視点から検討する。

空間的にきわめて多様な、自由さの程度や自発/強制の度合いにおいて異なる移動の事例を見ることを通じて、移動の概念を再考する。移動経験の多様なあり方を提示し、移動や旅という言葉がはらむ意味をより豊かにする比較研究。

インターセックス(性分化疾患)当事者は、男・女の解剖学的状態に「近づける」ために、「不要」な器官を取り除く形成手術や処置を施されることがある。そうした医療行為を医療の「介入」と捉え、当事者が「逸脱」とされる身体をどのように受け入れ、生きてきたのかに迫る。

メディアのなかで、「声」はどのように変化し、どのような役割を担ってきたのか。アナウンサーを生きる、彼女(彼)らのライフストーリーやインタビュー調査を通じて、更には、元フリーアナウンサーである著者が長年アシスタントをつとめたラジオ番組の事例から考える。

大人になるまでの道のり(「成人期への移行」)は、一様ではない。その道のりをサポートする日本の公的支援のうち地域若者サポートステーション事業に着目し、日本のモデルとなったイギリスとの比較をつうじて、支援現場での人と人とのかかわりのあり方を描きだす。

外国人人口が増えつつける地方の現場では、どのような問題を抱え、何が求められているのか。限られた活動資源のもとに日々奮闘する人びとの姿・活動を、各地の現地調査から丁寧に描き出し、「地域社会の貴重な担い手」として外国人住民とともに暮らす地域社会のあり方にむけた課題と展望を示す。

本書は2002年～現在まで、脳死・臓器移植の当事者のインタビューを基に、医療人類学的手法で、日本初の心臓移植から50年の節目に研究成果をまとめた書であり、日本文化も絡めて、徹頭徹尾移植医療の当事者の語りに耳を澄ますという姿勢を貫いた挑戦的著書である。

本書は更生保護施設で生活する元受刑者を対象に、再犯との関連を初めて実証検討した研究をまとめたものである。刑務所出所後の元受刑者の社会生活をサポートすることは、社会の安全を確保することに繋がる。そのサポートのための具体的支援策を提示する。

「非」常用労働者が日本で置かれてきた歴史、経緯を近世と近代・現代に分けて詳細に分析。近世編では職人集団の組織原理から紐解き、雇用主の労働管理・時間、賃金まで。近代・現代編では労働者組織の変化から労働組合までを詳説する。

年々加速化していく高齢化に伴い、介護労働者の人手不足は深刻化していく。本書は介護分野への外国人受入れ問題を韓国と比較し考察する。外国人介護労働者問題に関心のある人には必読の書。

社会文化学会 編集

学生と市民のための 社会文化研究ハンドブック

3279-8 A5判・144頁・1,500円(本体価格)

大沼義彦 編著

サッカーのある風景

— 一場と開発, 人と移動の社会学 —

3259-0 四六判・216頁・2,500円(本体価格)

池田 潔・前田啓一・文能照之・和田聡子 編著

地域活性化の デザインとマネジメント

— ヒトの想い・行動の描写と専門分析 —

3263-7 A5判・238頁・2,700円(本体価格)

小山弘美 著

自治と協働からみた現代コミュニティ論

— 世田谷区まちづくり活動の軌跡 —

2977-4 A5判・270頁・2,900円(本体価格)

藤井ひろみ 著

同性パートナーの尊重から見えること

2841-8 四六判

近刊

アンソニー・ギデンズ 著
今枝法之・干川剛史 訳

第三の道とその批判

1471-8 四六判・272頁・2,600円(本体価格)

スコット・ラッシュ/ジョン・アーリ 著
安達智史 監訳

フローと再帰性の社会学

— 記号と空間の経済 —

2958-3 菊判・364頁・4,500円(本体価格)

土居充夫 著

「第三の道」序説

— 自律と共生の社会をめざして —

2133-4 A5判・210頁・2,500円(本体価格)

ブノワ・リウー／チャールズC.レイガン 編著
石田 淳・齋藤圭介 監訳

質的比較分析(QCA)と関連手法入門

2779-4 A5判・256頁・3,000円(本体価格)

高橋 弦・竹内章郎 編著

なぜ、市場に違和感をいだくのか？

— 市場の「内」と「外」とのせめぎ合い —

2496-0 A5判・208頁・2,400円(本体価格)

「社会文化」とは、一言でいえば、社会をつくる文化のことである。私たち一人ひとりが社会を「つくる」担い手として、どのようにして日本社会が抱えている諸問題に取り組んでいけばよいのか、その具体的な活動や運動について考える。

サッカー・スタジアムの開発は、「サッカーにたずさわる人びと」を生み出していくことを意味していた。新潟のスタジアム建設、プロチームの設立と地域社会、サッカー専門学校を通じた学び、活躍の場をシンガポールへと広げるサッカー選手などを取り上げ、サッカーを通じた人びとの生活の軌跡を考察する。

さまざまな課題を抱える地域で、それに向き合うヒトや組織がいる。本書では、地域活性化の当事者の想いを、専門的分析を織り交ぜながら描写する。地域活性化に関心をもつすべての人に読んでもらいたい一冊。

世田谷区のコミュニティ政策と住民活動の事例(プレーパーク活動、太子堂地区まちづくり、世田谷まちづくりセンター・まちづくりファンドなど)をとおして、自治と協働の内実や課題を検討し、それらが社会にとってどのような意味をもっているのかを示しつつ、地域コミュニティの今後を展望する。

病院という命を扱う現場でレズビアン・バイセクシュアル達はどういう状況下に置かれているか、本書の使命はレズビアン・バイセクシュアル女性である患者と医療者の相互作用の過程からその中にあるシンボリックな構成要素を明らかにし、健康維持のためのモデルを提示することである。

第三の道はすぐに消えてなくなるような一連の理念ではない。寄せられた批判に応えるギデンズは確かな決意を示す。グローバリゼーションと知識経済学という双子の革命に対応するため、社会民主主義の再構築を目指す第三の道は、未来への確かな指針を示している。

情報、コミュニケーション、文化産業(映画、TV、出版、レコード、広告)、ゲッター、移民、時間、旅行、自然、時間など、広範なテーマから、多様な経済・社会現象を解明する。今日のグローバル化社会においてますます強化されるフローと再帰性をめぐる記号と空間の社会理論を提唱。

A.ギデンズの「第三の道」を参考に、人々が自律し共生できる社会をめざして、その諸条件を探究しようとした意欲作。新自由主義的な自己責任論に疑問をもち、人とつながりながら自分の人生を形成していく自由を大切にしたいすべての人にお勧めの一冊。

社会科学の分野において、方法論的に発展し応用領域を拡大してきた「質的比較分析(QCA)」。QCAの方法論(csQCA, mvQCA, fsQCA, MSDO/MDSO)を1つの視座で統一的・体系的に学ぶことができ、QCAの全体像を理解するために最適な1冊!

本書は、現代の資本主義社会とその市場の在り様に関わる中心的な問題を、国家[権力]と労働者・庶民の諸相も視野に入れて考究・分析し、併せて、新たな時代を展望しうる契機を資本主義市場の「内部」と「外部」との関連に即して提示しようとするものである。

宮本孝二著

吉本隆明の社会理論

2295-9 A5判・266頁・2,800円(本体価格)

今枝法之著

現代化する社会

松山大学研究叢書 第80巻

2556-1 A5判・240頁・2,900円(本体価格)

加茂直樹著

現代社会論ノート

—社会哲学の射程—

1620-8 A5判・262頁・3,000円(本体価格)

篠原清夫・栗田真樹 編著

大学生のための社会学入門

—日本学術会議参照基準対応—

2717-6 A5判・226頁・2,200円(本体価格)

恩田守雄著

医学生のための社会学入門

2762-6 菊判・354頁・3,800円(本体価格)

大関雅弘 編著

現代社会への多様な眼差し

—社会学の第一歩—

2844-9 A5判・264頁・2,800円(本体価格)

嘉本伊都子・霜田 求・手塚洋輔・
中田兼介・中山貴夫・西尾久美子 編著

現代社会を読み解く

2601-8 A5判・294頁・3,000円(本体価格)

加茂直樹・南野佳代・初瀬龍平・西尾久美子 編著

現代社会研究入門

2127-3 A5判・326頁・3,000円(本体価格)

杉村昌昭・境 毅・村澤真保呂 編著

既成概念をぶち壊せ!

2758-9 四六判・218頁・1,800円(本体価格)

河野憲一著

自明性と社会

—社会的なるものはいかにして可能か—

2722-0 A5判・294頁・3,400円(本体価格)

吉本隆明から継承すべき社会理論の全貌を明示。第一に、吉本の主要な理論的著作に対象化の社会理論を、第二に、その資本主義論、国家論、運動論に現代社会論の画期的な視点を、そして第三に、原初の社会の形成論という独自の理論的課題への取り組みを見出す。

近代が推し進められ立ち現れるグローバリゼーション、脱伝統化、個人化、リスク社会化、IT化といった「現代化」の様相を、あらゆるものが再整理、再定義される「高度近代化」「再帰的近代化」として捉え、現代の行く末を問う。

1970年半ばに法と道德の関係をめぐって巻き起こった欧米での論争、その論争をたちいて検討したことに始まる著者の社会哲学の研究をさまざまな角度から考察しなおした。

私たちは「社会学」をどのように学び理解すればよいのか、その指針のひとつとして提示された日本学術会議〈参照基準[社会学分野]〉をヒントにした章構成とし、わかりやすさを重視して豊富な具体例とともに解説。社会学の基本的な知識と考え方を身につける。

医学生として、現代社会がかかえる「人間と社会」の問題を考えるために、社会学の基本的な知識を身につけ、その解決策を探る。各章には〈学習目標〉〈キーワード〉〈医学生への問い〉を設け、医学生だけでなく社会学に興味のある一般学生も視野に入れている。社会的な見方・考え方を学ぶ一冊。

本書は、社会学の15の領域から現代社会にアプローチしている。現代社会に向けられた多様な「眼差し」を知ることが社会学のまず第一歩。そこから、社会的なものの見方・考え方を身につけられるように、やさしい言葉で読者に語りかけた入門書である。

人間、文化、産業、地域、国際、自然、環境、情報といった問題枠組みのなかで、現代社会の様々な課題に取り組む専門家たちが、最新のデータや知見をもとに、現代社会の「なぜ?」を分析し、学問に変えるための方法を伝授する。

大学1回生向け演習のための現代社会研究テキスト。哲学から、心理学・精神医学・社会学・経済学・政治学・文化人類学・情報学・環境学まで、幅広い分野から現代社会で問題となっているテーマについて解説し、学生に考える素地を与え、学びへ誘う入門書。

制度化された社会、それはまさに社会秩序である。同時に、社会が固定化され、多様性を喪失した状態と言えよう。これを維持しているのは、「既成概念」にはかならない。本書では、このような現状に警鐘を鳴らすべく、100の既成概念の解体と再構築を試みる。

本書は、現象学的社会学を正統に継承する立場から日常生活の「自明性」が成立するロジックを解明し、「社会」という「現象」を根源的に問い直す。社会学の初学者と専門家の両者を真の社会学へ誘おうとする画期的かつ野心的著作である。

ニール・J. スメルサー 編
伊藤武夫 ほか 訳

グローバル化時代の社会学

1208-3 A5判・436頁・4,900円(本体価格)

同志社大学グローバル地域文化学部 編

地域研究への扉

—グローバルな視点から考える—

2424-3 B5判・188頁・2,200円(本体価格)

落合彦彦 編著

アフリカ・ドラッグ考

—交錯する生産・取引・乱用・文化・統制—

龍谷大学国際社会学文化研究所叢書 16

日本図書館協会選定図書

2506-6 A5判・256頁・3,000円(本体価格)

松原仁美 著

排除と包摂のフランス

—支援つき雇用の意義と課題—

2998-9 A5判・234頁・5,800円(本体価格)

小川賢治 著

勲章の社会学

2039-9 A5判・188頁・3,200円(本体価格)

小笠原 眞著

集団の社会学

—理論と実証—

1309-4 A5判・238頁・2,700円(本体価格)

加茂直樹 著

平和的秩序の確立を求めて

—ホップズから現代まで—

2671-1 A5判・206頁・2,500円(本体価格)

野崎敏郎 著

大学人ヴェーバーの軌跡

—闘う社会学者—

2203-4 A5判・424頁・6,700円(本体価格)

野崎敏郎 著

ヴェーバー

『職業としての学問』の研究(完全版)

2655-1 菊判・496頁・8,000円(本体価格)

マックス・ヴェーバー 著

野崎敏郎 訳

職業としての学問(圧縮版)

2673-5 A5判・220頁・2,600円(本体価格)

ニール・J. スメルサーが国連教育科学文化機関(ユネスコ)の企画のもとに、世界五大陸19人のトップクラスの学者とともにまとめた本書は、今日急速に進行するグローバル化に対し、社会科学の確かな視点を提供するものとなっている。

地域は、世界のなかに位置づけられて意味を持ち、世界は地域との交流・交渉のなかに存在する。それぞれの地域が独自の文化と社会を形成する一方、互いに影響を及ぼしあいながら世界は発展してきたのである。両者の重層的な重なりを理解し、グローバル社会に対応できる幅広い視野と教養を身に付ける。

アフリカには日常的にドラッグが存在する場所がある。アフリカ社会に根付き蝕むドラッグは、さまざまな問題を引き起こしている。それらの諸問題を、多角的な視点から見つめなおし、カンナビス(大麻)、コカイン、ヘロイン、カート(別名：チャット、ミラー)の存在意義に迫る。

フランスにおける排除と包摂をめぐる論争が支援付き雇用の政策展開に及ぼす影響を考察。複雑多岐にわたる支援付き雇用の制度変遷を、1970年代から欧州経済危機を対象に、支援対象者、支援内容、契約終了後の状況から整理し、その意義と課題を提示する。

勲章はそれをもたらす人にとっては大きな荣誉になり、与えた政治家には権力を発揮できた実感を持たせ、また君主国では君主の権威を再確認させる。そのような勲章について日本と一部の外国の栄典制度についての分析を施した。

本書は、社会学者にとって最も重要なテーマである集団を、新たな視座から理論的・実証的に捉え直している。その際、理論面では集団をして集団たらしめる本質的要素の究明と共に、実証面では家族、都市、企業、国家等にみられる今日の問題にもメスを入れる。

社会哲学研究者としての筆者は、現代社会の諸課題に取り組んできたが、50年間の研究生活の総括となるこの論集においては、「平和的秩序の確立」という主題のもとに、ジェンダー、人づくり、グローバリゼーション、社会保障、信頼社会論などを取り上げる。

ドイツの大学制度の問題とその内部腐敗をきびしく批判し、その変革を希求した《闘う大学人》ヴェーバーの28年間の苦闘をいきいきと綴る。ドイツ各地に眠っていた史料に依拠して多くの新事実を提示するとともに、彼の大学教員としての歩みと思想と学説との統一的理解を果たした世界初の業績。『職業としての学問』の理解のために不可欠な姉妹編。

従来、謎に満ちた不可解な著作とみなされてきた著名な講演録の全容をくまなく解説・解明した画期的な業績。徹底的な史料調査と周到な時代考証によって、この講演の意図と真意をはじめ読み解き、ドイツで刊行された『ヴェーバー全集』版をも凌駕した労作。

これまで誤読されてきた著名な講演録の全容をくまなく解説・解明した新訳。既刊『ヴェーバー『職業としての学問』の研究』中に掲載した訳文に、懇切な注・解説を付し、学修版とした。巻末に「日本語で読むことのできる参考文献」を付し、学修者の便を図った。

野尻洋平著

監視社会とライアンの社会学

—プライバシーと自由の擁護を超えて—

2817-3 A5判・196頁・2,500円(本体価格)

水嶋英治・谷口知司・逸村 裕 編著

**デジタルアーカイブの
資料基盤と開発技法**

—記録遺産学への視点—

2742-8 A5判・216頁・2,500円(本体価格)

干川剛史著

デジタル・ネットワーキングの展開

2567-7 A5判・230頁・2,700円(本体価格)

干川剛史著

**情報化とデジタル・
ネットワーキングの展開**

2083-2 A5判・220頁・2,400円(本体価格)

干川剛史著

**デジタル・ネットワーキングの
社会学**

1774-3 A5判・224頁・2,400円(本体価格)

小山和伸著(実証研究 村木里志)

ウソだろ!? バリアフリー

—切りひらけ! 不要介護時代への道—

2167-9 四六判・216頁・2,000円(本体価格)

松谷邦英著

技術社会を〈超えて〉

2110-5 A5判・240頁・3,200円(本体価格)

竹内貞雄著

技術における倫理

—原発技術の不能性と共生のマネジメント—

2664-3 A5判・144頁・1,200円(本体価格)

前田益尚著

**マス・コミュニケーション
単純化の論理**

—テレビを見る時は、直観リテラシーで—

3083-1 四六判・138頁・1,500円(本体価格)

シュテファン・シュツツェ/グスタフ・フライターグ 著
細川裕史訳**舞台のうへのジャーナリストたち**

—ドイツ近代喜劇二篇—

3140-1 四六判・216頁・1,900円(本体価格)

デイヴィッド・ライアンの監視社会論の検討をとおして、監視技術によって生じた情報環境の変容が人びとの意見や行動にいかなる影響をあたえるかについて探求することを目的とした。監視をめぐって生じる諸問題をいかにして捉えうるか理論的なてがかりを得ること、これが本書のめざす地点である。

あらゆるものがデジタルデータで保存できるようになった今日、文化的・歴史的資料をデジタルアーカイブとして記録に残すことの意義は大きく、その作業には専門的な技能が要求される。本書では、実際の記録作業における信頼性確保のための知識や技術、その運用の仕方など現場の第一線で活躍する研究者・実務者が解説する。

阪神・淡路大震災から東日本大震災までの大規模災害の事例研究を中心に、デジタル・ネットワーキング(インターネット等のデジタル・メディアを活用した市民活動)による地域再生を現場での実践を踏まえ検証し、公共圏および「復元力に富んだ社会」構築の可能性と課題を解明する。

インターネットなど双方向的なグループコミュニケーションを可能にするメディアの浸透によって、社会ははどのように変容し、再構築されていくのか、その可能性と課題について、情報化、ボランティア、デジタル・ネットワーキング、災害救援・支援活動といった観点から考察していく。

本書は、情報社会論とボランティア論、公共圏論の知見に依拠して、災害情報ボランティアの事例研究に基づき「デジタル・ネットワーキング」(インターネット等のデジタル・メディアを活用した市民運動)による公共圏構築と社会変革の可能性と課題を考察する。

なぜ人間は寝たきりになるのか、「バリアフリー」一本槍の最近の風潮に対して、実証研究に基づいて異議を唱え、新たに「リスクフリー」「生涯現役思想」「未来型生活」といった生活環境を提案する。

現代技術社会の先駆的批判者として知られるフランスの思想家ジャック・エリュール、「技術決定論」の典型として論議的となってきたその技術社会論の基底にある社会哲学を、戦間期フランスの思想史的背景を踏まえつつ鋭く探求した、本邦初の研究書。

福島原発大事故(放射能被害)は、技術の信頼性を失墜せしめ、「技術における倫理」を喫緊に必要とした。本書では、現代の技術構造を捉え、原発技術管理の不能性を解き明かす。そして、その対置にある、技術者を含む市民の倫理的関係のための「共生」のマネジメントを提示する。

マス・コミュニケーション理論を「送り手」「メディア」「内容」「受け手」の4つに単純化し、テレビを切り口に、それぞれをわかりやすく解説。虚実入り乱れる情報社会で、惑わされず、したたかに生き抜くために、本質を見抜く眼(直観)を鍛え、実践的なりテラシーを体得する。

「中傷」、「捏造」、「印象操作」……匿名の陰で密かに世論を操作するずる賢い連中、というジャーナリスト像を提示する19世紀のドイツ喜劇二篇。時代を越える負のイメージ。2010年代以降メディア不信が広まるドイツだが、2世紀も前にこんな作品があったとは。

関沢英彦 著

女と夜と死の広告学

2680-3 四六判・154頁・2,000円(本体価格)

吉田慎吾 訳

ジャーナリズムの使命

—エミール・ドヴィファト著『新聞学』—

2248-5 A5判・312頁・2,900円(本体価格)

小黑 純・李 相哲・西村敏雄・松浦哲郎 著

超入門ジャーナリズム

—101の扉—

2161-7 A5判・222頁・2,100円(本体価格)

林 怡蓉 著

台湾社会における放送制度

—デリベラティヴ・デモクラシーと
マスメディアの規範理論の新たな地平—

2422-9 A5判・222頁・4,300円(本体価格)

楊 韜 著

メディアというプリズム

—映し出す中国・日本・台湾の歴史と社会—

2915-6 A5判・196頁・2,800円(本体価格)

松浦 さと子 編著

日本のコミュニティ放送

—理想と現実の間で—

2884-5 A5判・302頁・2,900円(本体価格)

松浦 さと子・川島 隆 編著

コミュニティメディアの未来

—新しい声を伝える経路—

2150-1 A5判・314頁・2,900円(本体価格)

野田正彰・浅野健一 著

対論・日本の

マスメディアと私たち

日本図書館協会選定図書

1677-1 四六判・206頁・1,800円(本体価格)

春日雅司 著

女性地方議員と地域社会の変貌

—女性の政治参画を進めるために—

2734-3 A5判・232頁・2,800円(本体価格)

内藤和美・山谷清志 編著

男女共同参画政策

—行政評価と施設評価—

2627-8 A5判・258頁・2,800円(本体価格)

「広告を」語る本であるとともに、「広告で」考える本である。広告を素材にして、「女性のアイデンティティ」の変容、「夜」という情報空間」の形成、商品化・個人化・情報化の進む「死の現況」を分析する。広告を素材にして、社会の変化を考える意欲的な試み。

本書はジャーナリズムの公共的使命、情報とその収集・伝播、マスコミ事業の考察に必要な理論的基礎、背景にある歴史的知識を提供する。情報技術の進んだ21世紀にも現実性と普遍性を持つ、特にメディアの世界で働く人、新聞に関心を持つ人々必読の書である。

マスコミ、ジャーナリズムについて101の項目ごとに分りやすく解説。新聞、テレビなどメディア関係に就職を希望する学生にとってはジャーナリズム入門書として必読の書。社会人にとっても、メディア業界の実態を知る手がかりにもなる。

本書は、台湾社会における放送制度の考察を通して、これまでの伝統的なマスメディアの規範理論に対して視角の転換を求め、「デリベラティヴ・デモクラシー／コミュニケーション／放送」の視角による新たな規範理論の地平を切り開き、現代市民社会における放送のあり方を提言する。

アメリカ人記者が見た近代中国と日本、戦時下における中国話劇プロパガンダ、テレビドラマから見える戦後台湾社会、3・11大震災後の国際関係報道言説……。「メディア」というプリズムを通して、近現代の中国・日本・台湾における歴史と社会の諸相を読み解く。

コミュニティ放送が制度化され25年。全国調査からその厳しい現実が見えてきた。スポンサーも受信料もなく、地方再生に挑む小さなラジオがどのような役割を果たし、地域をどう変えるのか、多様な視点と事例研究から研究者たちが新しい公共放送への提言を送る。

各国でインターネット時代の情報通信制度づくりが進むなか、見過ごされてはならない草の根のメディア活動がある。それが、生きるために必要なインフラとしてのメディア、コミュニティメディアだ。その活動を持続可能にするために何が必要かを問いかける一冊。

日本を代表する精神科医とジャーナリストが対談を通じて、現代日本のマスメディアに苦言を呈し、正面から斬り込む。本物のジャーナリズム確立の為の書。

戦後、女性地方議員割合は着実に増大してきているがその伸びは低迷している。平成の大合併により地域社会が大きく変貌した現在、様々な調査・データを分析、さらにスコットランドの地方議会との比較から女性の政治参画を進めるために何が必要かを考える。

地方自治体の男女共同参画政策と拠点施設の評価に関する実証研究を共にしてきた研究者と実務家のチームが、その成果をふまえて執筆した、行政とNPOの協働による男女共同参画政策推進の展望。

金 美珍 著

韓国「周辺部」労働者の利害代表

—女性の「独自組織」と社会的連携を中心に—

2944-6 A5判・282頁・5,400円(本体価格)

吉井奈々 著 鈴木健之 解説

**相手も自分も大切に
コミュニケーション+社会学**

3047-3 A5判・174頁・1,700円(本体価格)

ジョン・シャリー 著
袴田俊一・三田英二 監訳**解決志向グループワーク**

—臨床心理学の応用とその展開—

2036-8 A5判・270頁・2,800円(本体価格)

奥井 亜紗子 著

**農村—都市移動と
家族変動の歴史社会学**

—近現代日本における「近代家族の大衆化」再考—

2215-7 A5判・408頁・6,000円(本体価格)

橋木俊 詔 編著

共生社会を生きる

2588-2 A5判・210頁・2,500円(本体価格)

宝月 誠 監修

共生社会論の展開

2872-2 A5判・332頁・4,600円(本体価格)

藤稿 亜矢子 著

サステナブルツーリズム

—地球の持続可能性の視点から—

3063-3 A5判・186頁・2,200円(本体価格)

牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子 編著

琵琶湖水域の可能性

—里山学からの展望—

3056-5 A5判・336頁・3,500円(本体価格)

廣重剛史 著

意味としての自然

—防潮林づくりから考える社会哲学—

2981-1 四六判・208頁・2,400円(本体価格)

大倉季久 著

森のサステナブル・エコノミー

—現代日本の森林問題と経済社会学—

2938-5 A5判・218頁・3,200円(本体価格)

韓国において、正規職中心の労働組合の流れとは一線を画し独自に「周辺部」労働者の権利を擁護してきた女性の「独自組織」に焦点をあて、その取り組みを組織化の側面と、これらの組織が参加した労働組合と社会運動との社会的連携関係の側面から解明する。

高野登氏(元リッツ・カールトン日本支社長)推薦!! 数多くのメディアで大人気のコミュニケーション講師がおくる、教科書ではなくリアルな現場から学んだコミュニケーションノウハウ、伝え方のマインドをあますことなくまとめた一冊。

原因を考えず、目標に向かって進んで行くという解決志向アプローチの発想は、臨床場面だけではなく、日常の人間関係や子どもの養育など、多方面に応用できる。本書は、この解決志向アプローチの発想をグループに適用した、大変ユニークな本であると言えるだろう。

2011年日本村落研究学会奨励賞受賞

産業化、資本主義化によって、都市と農村が不可避免的に相互規定を迫られる歴史段階において初めて登場した近代家族。近現代における日本の家族を農村-都市関係に着目して再考した。

自立の精神を基調としながらも、お互いに助け合いの心を持つことによって、全ての人が安全・安心の生活を送れるようにできる社会をつくるのが共生社会である。少子高齢化とグローバル化の波の大きな変革期にある現代に本書は有用な資料となるだろう。

『共生社会を生きる』に続く共生社会研究の論考集第2弾。社会学・心理学・政治学・経済学・歴史学・地域政策学の専門家が織りなす、挑戦的学際研究『共生社会論』。本書は、その知的格闘を通して、異なる立場のひとつひとつが共に生きるための手掛かりを提供する。

世界で急速に拡大化する観光産業に、今何が求められているか。「地球環境の持続可能性」について考えることは、現在および将来の観光のために避けて通れない課題である。必要不可欠なグリーン施策や多くの実例も紹介しつつ、有限な地球で求められるサステナブルツーリズムの本質を学ぶ。

琵琶湖を中心として、表流水、地下水位域や氾濫域、人間活動による利水域や排水域、またそこに存在する生き物の生態系といった水域圏全体に焦点を当て、都市部と農村部が行政や地域住民などと協働し、新たな Satoyama モデルを構築するための端緒をひらく。

人と自然のつながり(共生)を目指す前浜地区の防潮林づくりの活動実践をきっかけに、現象学の視点からわたしたちにとって「自然」とは何かをあらためて問いなおし、社会哲学的な解明を試みる。

日本の森林はいかにして危機に陥ったのか、森林経営の現場を舞台に、林業の苦境を当事者として経験してきた人びとの試行錯誤を経済社会学の視点からたどりながら、今、日本の森が直面する危機の内実と迫る。環境と経済の関係を問う新たな視点を切り開く一冊。

田中 滋 編著

都市の憧れ、山村の戸惑い

—京都府美山町という「夢」—

2888-3 A5判・322頁・3,000円(本体価格)

田中きよむ・水谷利亮・玉里恵美子・霜田博史 著

限界集落の生活と地域づくり

2446-5 A5判・210頁・2,100円(本体価格)

牛尾洋也・鈴木龍也 編著

里山のガバナンス

—里山学のひろく地平—

2362-8 A5判・336頁・3,000円(本体価格)

村澤真保呂・牛尾洋也・宮浦富保 編著

里山学講義

2633-9 A5判・300頁・2,500円(本体価格)

北原 淳 著

タイ近代土地・森林政策史研究

2320-8 A5判・544頁・8,000円(本体価格)

曉 剛 著

**近現代東部内モンゴルにおける
土地利用方式の転換と農法移転**

2970-5 A5判・176頁・3,000円(本体価格)

三好皓一 編著

地域力

—地方開発をデザインする—

2123-5 A5判・232頁・2,300円(本体価格)

東 自由里・進藤修一 著

移民都市の苦悩と挑戦

—ニューヨークとフランクフルト—

2622-3 四六判・214頁・3,200円(本体価格)

金 善美 著

隅田川・向島のエスノグラフィー

—「下町らしさ」のパラドックスを生きる—

2912-5 A5判・250頁・4,400円(本体価格)

広原盛明・川島龍一・高田富三・出口俊一 著

神戸百年の大計と未来

2914-9 A5判・364頁・2,800円(本体価格)

家族、親族、地域社会、神や仏、そして自然など、さまざまな「存在」への多様な形の畏敬や親しみ、本書が取り上げる芦生や美山町の人びとの生き方は、空虚な貨幣に頼ることのない「本当の豊かさとは何か」という問いに対する答えを私たちに教えてくれる。

「限界集落」は、本当に限界なのか？ 地域住民は「限界」と捉えているわけでもなく、飛躍的な発展を期待しているわけでもなく、今ある生活を大事にしたいと願っている。そのような住民と等身大の視点に立ちつつ、実態調査をふまえた地域づくりの方向を提起する。

里山は人の手が入ることにより豊かな自然をはぐくんできたが、近年は荒廃が進んでいる。本書は二次的自然としての里山を保全する意義や理念、里山ガバナンスの諸課題について検討するとともに、自然共生社会の実現に向け、里山の視点から人と自然の関係を考える。

少子高齢化・過疎・エネルギー危機・自然環境破壊など、現代社会のさまざまな課題を身近な里山から考え・行動していく。そのための実践的な学際研究「里山学」の基本的な視座を学ぶガイドブック。

タイにおける無主地の一時的占拠(チャップ・チョーン)とその制限のための森林保護に関して、タイの国家がどのような土地・森林政策をとり行ったのか、その歴史的経緯をたどる。著者のこれまでの研究成果を、土地政策と森林政策との関係について考察した歴史研究書である。

東部内モンゴルのモンゴル族は、伝統的に遊牧を中心とする牧畜業を行っていたが、現在では定住放牧による牧畜業と耕種農業の半農半牧畜業を営んでいる。モンゴル族はいかにして遊牧から半農半牧畜業に転換したのか、土地利用方式の転換という視点からその農業変遷を読み解く。

地方に住む人々がよりよい生活の確保のために形作る地方コミュニティのキャパシティ、地域力に焦点を当て、操作可能で代替的な地方開発モデルを大分県の開発事例とともに紹介し、概念と実践を結び付けた地方開発のためのコミュニティ・デザインを提示する。

ヒト、モノ、カネが集中し、様々な人種や民族、宗教、文化が交錯するグローバル都市のニューヨークとフランクフルト。都市の移民統合政策は、時には衝突しながら国家の政策そのものを変えていくほどの影響力をもっている。

「ものづくりの町」から「東京スカイツリーの麓」へ。衰退と再開発が進む墨田区向島で、「下町らしさ」の再生を夢見る人々の実践は何をもたらしたのか。意図せざる結果が繰り返されてきた40年を追い、現代におけるまちづくり運動の可能性と限界を描く。

神戸開港150年を記念する神戸市政総括の書。直面する医療産業都市、神戸空港、長田南再開発の3大プロジェクトに関する現状分析と課題提起、及び大正以降の神戸市都市計画の特質を解明し、人口縮小時代の新たな計画コンセプトを提起する。

諸熊建次著

地域のトップリーダーを育む スカウト教育の復権

2827-2 A5判・188頁・1,800円(本体価格)

三好皓一編

スカウト教育は、その教育法の基本は全てが「アクティブ・ラーニング」であり「協同学習」である。野外活動や社会奉仕の「学び合いの場」を通して、運動に携わる成人指導者や保護者や地域の老若男女全てが、地域の青少年達の「生きる力」を育むための支援者なのである。

地域資源とコミュニティ・デザイン

2836-4 A5判・258頁・2,600円(本体価格)

広原盛明著

地域格差の是正、地方創生の促進は現在の大きな問題である。それぞれの地方が蓄積した経験や保有する資源を、それぞれの地方の開発のための基準によって認識し、評価し、コミュニティをデザインして、地方のための開発を再構築することが必要である。

日本型コミュニティ政策

2293-5 A5判・518頁・4,800円(本体価格)

広原盛明・高田光雄・角野幸博・成田孝三編著

第6回 地域社会学会賞受賞

コミュニティは、住民生活の中に形成される地域社会の動的な姿である。コミュニティを国家の意思に基づいて管理しようとするのがコミュニティ政策であり、日本では高度成長政策にともなう地域管理(統治)システムとして制度化された。本書は政策の意図と軌跡を探る。

都心・まちなか・郊外の共生

—京阪神大都市圏の将来—

2152-5 A5判・430頁・3,800円(本体価格)

吉田友彦著

2011年 都市住宅学会賞受賞

都市成長時代の20世紀が去って、人口減少時代の京阪神大都市圏の将来はどうなるのか。本書は巷間いわれるような都市衰退論を退け、都心・まちなか・郊外の共生を通して都市成熟時代の京阪神大都市圏の将来を展望する。

郊外の衰退と再生

—シュリンキング・シティを展望する—

2194-5 A5判・160頁・2,300円(本体価格)

竹内裕二著

2012年 都市住宅学会賞受賞

近代化の過程で起こる都市化、郊外空間の広がりをめぐって生じる高齢化や空き家化などの問題に対して、具体的かつ豊富な実証データから解決方法を提案し、まちづくり活動を展開する人々に対して、接続可能な郊外住宅地像のあり方を明示する。

地域メンテナンス論

—不確実な時代のコミュニティ現場からの動き—

2961-3 A5判・238頁・2,400円(本体価格)

田中きよむ編著

九州まちづくり賞

少子高齢化に伴う縮小社会は、既存の地域活性化の考え方やあり方さえも変えようとしている。現状の都市機能の質を保持し続けるためには、産官民協働活動を基盤に市民主体で地域をメンテナンスする行動求められる。本書は、その考え方を体系的に明らかにする。

小さな拠点を軸とする 共生型地域づくり

—地方消滅論を超えて—

2955-2 A5判・264頁・2,800円(本体価格)

三宅正伸著

「地方消滅」という表現で地方の持続性を悲観する論調に対し、本書は、地域の課題解決に向けた住民主体の相互の垣根を超えた共生型拠点を軸とする地域づくりの可能性を探る。小さいからこそ、多機能性、独自性、主体性を発揮しやすい地域づくりが可能となる。

「新書」から考える公務員の地域創生力

—公共の仕事の視点を変える力—

2905-7 A5判・92頁・1,000円(本体価格)

加藤博史・小沢 亘編著

地域創生と称する「まちづくり、ひとづくり、ことおこし」では、まずは公務員としての見識や考え方を自覚する必要がある。そのような公務員力を洗練するのに必要な新書25編を紹介。地域の人々が主役で公務員は脇役に徹すること、そこが重要であると提言する。

地域福祉のエンパワメント

—協働がつむぐ共生と暮らしの思想—

2889-0 A5判・264頁・3,500円(本体価格)

堀田 力・藤本武司・森本清美・佐藤卓利 著、
立命館大学社会システム研究所 編

日本初の本格的な民生委員悉皆調査は、超高齢社会の課題に応え、共生の地域創造のためにいま何が求められているかを明らかにした。10年におよぶアクション・リサーチ、外国人福祉委員、地理情報システムの活用、JOY トークなど、斬新なチャレンジを紹介する。

生き方は自分で決める、そして遊き方も

—医療・介護・地域を見直す—

3115-9 四六判・122頁・1,800円(本体価格)

高齢者の尊厳ある本人らしい生き方を実現するために、体の健康と精神的な充実を支える医療や介護をめぐって、地域住民・介護当事者の経験を交えながら、介護保険利用者の生き方からアプローチして具体的に地域づくり・多職種協働のあり方を提案する。

濱田恵三・伊藤浩平・神戸一生 編著

地域創生の戦略と実践

3057-2 A5判・160頁・1,900円(本体価格)

石田光規 編著

郊外社会の分断と再編

—つくられたまち・多摩ニュータウンのその後—

3002-2 A5判・232頁・2,600円(本体価格)

小長谷一之・福山直寿
五嶋俊彦・本松豊太 著

地域活性化戦略

2329-1 A5判・304頁・2,700円(本体価格)

塩沢由典・小長谷一之 編著

創造都市への戦略

1882-2 A5判・404頁・3,900円(本体価格)

塩沢由典・間藤芳樹 編

創造村をつくろう！

—大阪・キタからの挑戦—

1760-3 四六判・226頁・1,800円(本体価格)

塩沢由典・小長谷一之 編著

まちづくりと創造都市

—基礎と応用—

1974-4 A5判・236頁・1,900円(本体価格)

塩沢由典・小長谷一之 編著

まちづくりと創造都市2

—地域再生編—

2074-0 A5判・298頁・2,300円(本体価格)

大阪市立大学大学院創造都市研究科 編

創造の場と都市再生

2159-4 A5判・232頁・1,900円(本体価格)

塩沢由典 監修
関西活性化研究会 編著

関西のポテンシャル

—伝統文化と成長エンジン—

シリーズ関西の創造 第1巻

2091-7 A5判・270頁・2,800円(本体価格)

塩沢由典 監修
関西活性化研究会 編著

自立する関西へ

—発想の転換と未来戦略—

シリーズ関西の創造 第2巻

2092-4 A5判・264頁・2,800円(本体価格)

地域ごとに最適なまちづくりとは何か、避けられない人口減少に歯止めをかけ、まちへの来訪者を増やし交流人口を促進させるにはどうすればよいのか、先進事例をまじえつつ、地域マーケティング、地域ブランディング、地域居住学、観光振興やツーリズムなど多角的な視点から、地域創生戦略の鍵を探る。

郊外社会において、なぜ、住民たちのつながりは薄くなりがちなのか、豊富な社会調査データから、郊外という「街並み」が生み出す住民達の分断を明らかにし、各事例にみられた、それを修復する試みから地域の持続可能性を模索する。地域の持続可能性の鍵は、住民、民間企業、行政の連携と、地域を越えたつながりに見出される。

「直販所をつくると魚価が安定する?」「蔵があれば飲む見返る買うの3要素で観光振興できる?」「生き残るテーマパークの条件はファミリー型癒しと時間?」地域活性化の事例のみならずその法則性を追求し応用できる、現場の実務家から研究者まで役立つ考え方。

地域活性化の新しい考え方「創造都市」、世界数十都市でおこなわれている新しい波「創造都市戦略」。本書では、これらの考え方と具体的手法を、事例をもとに解説。「地域の活性化」や「地域ビジネスの起こし方」についても詳述。

「創造村」とは、商業として創造活動を行う人のネットワークである。すでにイタリアのボローニャ、スペインのバルセロナなど先駆都市は存在する。本書では、大阪市北区を発信地とし、日本の「創造村づくり」を試みる。

地域を活性化したい、地域ビジネスを起こしたいと思っているすべてのみなさんへ、都市本来の力をひきだす21世紀型まちづくりの基礎と応用をわかりやすく説明。メディア・アート・エコ・IT活用、商店街、歴史的資源活用、観光、NPO、交通など事例満載。

地域を活性化したい、地域ビジネスを起こしたい人へのガイドブックとして最適。都市本来の力をひきだす21世紀型まちづくりの理論と地域再生法をわかりやすく解説。音楽・メディア・コンテンツ活用、歴史・観光まちづくり、都市開発、商店街など事例多数満載。

地域活性化や地域ビジネス創造のため世界的に注目され「都市再生」の21世紀型モデルとして期待される「創造都市」を、その基盤的メカニズムである「創造の場」から理論的に分析。政策・地域再生・産業・共生・情報にわたる大阪市立大学のプロジェクト成果。

関西経済の地盤沈下が叫ばれて久しい、浮揚させる方策はないのだろうか、持続的発展の可能性はないのだろうか。歴史と現状を踏まえ、本書は、関西が持つ経済、文化、歴史などの多様な側面に光をあて、研究者、実務家はその可能性を検討する。

「中央に翻弄される地方」という構図から脱却し、関西が自立した地域として発展するための方策を構想する。歴史と現況を踏まえ、関西の地域力・潜在力を分析し、関西が発展するための戦略的アクションを多様な角度から提案する。

塩沢由典著

関西経済論

—原理と議題—

シリーズ「関西の創造」第3巻

2119-8 A5判・604頁・5,800円(本体価格)

中谷常二・渡辺広之 編著

まちづくりの創造—ソーシャル・コミュニケーションと
公益ビジネスの視点から—
公益ビジネス研究叢書

2038-2 四六判・220頁・2,600円(本体価格)

高島 博著

文化による地域づくり

—一つの文化経済学的アプローチ—

2099-3 A5判・168頁・1,900円(本体価格)

加藤辰夫 編著

ふくいブランドとフードシステム

福井県立大学県民双書 XI

2233-1 四六判・206頁・1,400円(本体価格)

青海忠久 編著

改訂版

若狭のおさかな福井県立大学県民双書 X
日本図書館協会選定図書

2237-9 四六判・210頁・1,400円(本体価格)

稲本隆壽・鈴木 茂 編著

内子町のまちづくり—住民と行政による協働のまちづくりの
実践—

2605-6 A5判・208頁・2,200円(本体価格)

出家健治 著

商店街活性化と環境ネットワーク論

—環境問題と流通(リサイクル)の視点から考える—

2004-7 A5判・220頁・2,400円(本体価格)

増田啓子・北川秀樹 編著

町家と暮らし—伝統、快適性、低炭素社会の実現を目指して—
龍谷大学社会科学研究所叢書 第102号

2499-1 A5判・256頁・3,000円(本体価格)

徳江順一郎・二村祐輔・廣重 紫著

セレモニー・イベント学へのご招待

—儀礼・儀式とまつり・イベントなど—

3139-5 A5判・228頁・2,300円(本体価格)

諸井克美・古性摩里乃 著

動物園の社会心理学

—動物園が果たす役割と地方動物園が抱える問題—

3088-6 四六判・172頁・2,000円(本体価格)

関西経済に関する事例研究と政策提言は枚挙にいとまがない。しかし、経済発展の原理から体系的に議論したものはいまだない。本書は、地域経済の発展過程を原理的に考察した最初の理論書であるとともに、自立的に発展する地域経済をもつための教科書でもある。

まちづくりに必要な地域ブランド、地域経営、文化政策などの手法を、電通プロデューサーや大学教員がわかりやすく解説。地域を活性化させるための様々なアイデアを具体的な事例とともに紹介。まちおこしに興味があるNPO、企業人、行政担当者にも最適。

「地域づくりの文化経済学的研究会」が1998年イギリス・コッツウォルドの「シェイクスピア・カントリー」等を調査研究して提唱した「一つの文化経済学的アプローチ」を、新しい文化経済学的思考を基に、芸術文化活動による「地域づくり」「まちづくり」を学び、検証する。

知っていますか? おいしさいっぱい「ふくいブランド」。ふくい産ブランド食品の消費者による評価を行い、その背景にある生産・流通・消費の結びつきを分析します。そして地域の中で、ものづくりにかかわる組織や人々の活動の現場を紹介しします。

福井県立大学海洋生物資源学部の6人の教員が多様な視点から執筆した若狭のおさかな。日本海のどまんなか若狭湾のおさかなについて、海の特徴、漁法、魚の体の仕組みと食べ方のコツ、おいしさの秘密、サバの伝統食品や食文化史など、これ1冊ですべてがわかる。

先進的試みとして40年前にスタートした内子町のまちづくり。歴史的町並み保存や産直市をはじめとしながら、これからの10年を見据え雇用創出・人口減少への取り組みが続けられている。住民主体のまちづくりと行政との協働による成功事例と、これからの地域活性化のための施策を考える。

商店街活性化の議論は、近年、「まちづくり」の問題と重ね合わせる形で論じられているが、本書は環境問題の視点から、環境・リサイクル流通・ネットワークと商店街の活性化を関連づけて論じているところに、従来のものとは違った特徴がある。

日本の風土に適した木造住宅。生活の知恵をふんだんに盛り込んだ町家は、結果として環境にも配慮されている。本書では、伝統、快適性(安全性)、低炭素をキーワードに、暮らしの視点から町家を見つめ直し、日本人の住まいと暮らしのあり方を再考する。

プライダグやフューネラルなどのセレモニーと、関連する様々なイベントについて、歴史的経緯も踏まえ、文化人類学や民族学、宗教学なども取り入れつつ全体的に概観する。世界や日本の事例紹介や、これからのセレモニー産業が持ちうる戦略オプションについても考察。業界への就職をめざす方、必須の1冊。

生涯に3度訪れると言われる動物園。最初は親と、2度目は子どもと、3度目は孫と。いやいや、動物園はもっと魅力溢れる神秘空間。文化系「動物園学」の始まり。さあ、日常では遭遇できない動物たちが待つ動物園へ。

端 信行・中谷武雄 編

文化によるまちづくりと文化経済

京都橋大学文化政策ライブラリー 04

1738-7 四六判・206頁・1,600円(本体価格)

千地万造・木下達文 著

ひろがる日本のミュージアム

—みんなで育て楽しむ文化の時代—

1822-8 四六判・192頁・2,000円(本体価格)

徳永高志 著

公共文化施設の歴史と展望

2180-8 A5判・200頁・2,800円(本体価格)

織田直文・鈴木好美・廣川桃子 著

京都・山科まちづくり物語

—産公民学際連携型まちづくりへの挑戦—

日本図書館協会選定図書

2080-1 四六判・230頁・2,200円(本体価格)

葉柳和則 編著

長崎—記憶の風景とその表象

2732-9 A5判・336頁・4,400円(本体価格)

谷村賢治・杉山和一・渡辺貴史 著

もうひとつの長崎さるく

—豊かな景観と育んだ歴史的個性—

2405-2 四六判・230頁・1,900円(本体価格)

中村忠司・王 静 編著

新・観光学入門

3137-1 A5判・170頁・2,000円(本体価格)

千 相哲 編著

九州観光学

—九州の観光を読み解く—

3058-9 A5判・206頁・2,400円(本体価格)

中尾 清・浦 達雄 編著

**第3版
観光学入門**

2858-6 A5判・168頁・2,000円(本体価格)

中尾 清 著

**地方観光政策と
観光まちづくりの展開**

2410-6 A5判・206頁・2,200円(本体価格)

文化によるまちづくりは、一方で文化施設や文化資源の固有価値を再発見し、その情報発信を通じて地域の活性化を目指し、他方で新たな文化的な価値を創造し、社会に伝達、普及し、教育機会を媒介として社会の文化に対する関心、享受能力の向上を目指す。

日本は本当に豊かになったのであろうか。経済的には満たされているけれども、いじめや自殺など心の問題を抱える子どもは増加している。美術作品から動植物に至るまで、豊富な本物資源を集積するミュージアムこそが、人びとの心を育て、まちを元気にする潜在力をもつ。

明治維新以降の劇場や市民会館・文化会館、公民館や博物館などといった日本の文化施設の歴史を辿り、その運営実態と果たしてきた多様な社会的役割、機能を明らかにし、さらにまちづくりとの関連のなかで捉えなおすことにより、文化施設の可能性を展望する。

筆者が提唱する「臨地まちづくり」研究の実践として、京都・山科地域を舞台として学生と共に取り組んだ活動をドキュメンタリータッチで書き下ろした意欲的な書。可能な限り現場とコミットし、議論を交わし共に実践する。熱く「一所懸命」に生きる人々のドラマが伝わる。

長崎に生きるとは、重層する記憶の風景の中に在ることである。近世以降の出来事の重層性と海域における交流の越境性の交叉する時空間の中で、「長崎」の類例のない歴史経験を明らかにする。従来の長崎研究の空所に光を当てる学際的探求の試み。

これから長崎をさるこうと思っている方、あるいは現在、まちをさるいている方への知的ガイドブック！ 本書を通じてあなたの知っている長崎とは少し違った「もうひとつの長崎」が見えてくるはずです。さあ、一緒に長崎をさるきませんか。

「観光」が21世紀のリーディング産業と言われて既に久しい。観光学をはじめて学ぶ人にも体系的に理解できるように、「観光の基礎」「観光と経営」「観光と社会」の3部構成で、観光の全体像をわかりやすく解説した最新のテキスト、観光業界を目指す学生や業界で働き始めた社会人必読。

本書は、九州観光の理解に必要な最新の観光事情をわかりやすく解説している。学際的な視点、最新のデータから九州観光の今を紐解く。観光学をはじめ、観光地理、観光交通、観光ビジネス、観光心理、宿泊業・旅行業などを分野別に分け、大変読みやすくなっている。

観光学を総合的・学際的アプローチとして捉え、様々な切り口で「理論・政策・歴史」と「実践・実務・実際」を提示した旧版に、観光を巡る社会現象が大きく変化してきている時代の最新データをフォロー。新たに航空概論や観光文化論などを扱った章を加えて一層の充実を図った第3版。

わが国の経済において、観光振興が喫緊の課題であると捉え、国と地方が知恵を絞った「地方観光政策」の必要性を提唱し、「官・民・地・学」の協働による「観光まちづくりの展開」を鍵とする、これからの観光力にその示唆を与える。

遠藤英樹・堀野正人 編著

観光社会学のアクチュアリティ

2187-7 A5判・232頁・2,400円(本体価格)

立命館大学現代社会研究会 編

21世紀の日本を見つめる

—家族から地球まで—

1592-0 A5判・244頁・1,900円(本体価格)

寺沢正晴 著

日本人の精神構造

—伝統と現在—

1385-3 A5判・328頁・3,500円(本体価格)

木下太志・浜野 潔 編著

人類史のなかの人口と家族

1440-X A5判・226頁・2,400円(本体価格)

松田吉郎 著

台湾原住民の社会的教化事業

2289-8 A5判・226頁・2,700円(本体価格)

飯山千夜子 著

母なる大地の器

—アメリカ合衆国南西部プエブロ・インディアン「モノ」の文化史—

2837-1 A5判・456頁・7,400円(本体価格)

植村 亘 著

卍・卍の博物誌

—第一部日本編—

2008-5 A5判・218頁・2,500円(本体価格)

植村 亘 著

卍・卍の博物誌

—第二部海外編—

2097-9 A5判・236頁・2,600円(本体価格)

今井信治 著

オタク文化と宗教の臨界

—情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究—

2986-6 A5判・268頁・3,800円(本体価格)

丹羽宣子 著

〈僧侶らしさ〉と〈女性らしさ〉の宗教社会学

—一日蓮宗女性僧侶の事例から—

3114-2 A5判・222頁・4,200円(本体価格)

現代社会は、観光や旅を含めた移動をぬきに考えられない社会である。われわれが現在、社会的な研究を展開していくうえで、観光を無視することは決してできない。本書は「社会学」という学のあり方でも問い直そうとする観光社会学のアクチュアルな課題を追求する試みである。

現代社会ではグローバル化や情報化が複雑に絡み合いながら進行し、様々な問題が生起している。これらの問題がなぜ、どのようにして生起し、変化しているかとしているのか？「知る」ことからはじめ、問題解決のための知力と技能を身に付けるための最良のテキスト。

「お笑い」やJリーグ、おじさん論、はたまた伝統やナショナリズムなど、日本人の思考を鋭く分析。現在に残る伝統、変化する伝統、そしてその根底に流れるエトスが読者の眼前に現れる。

人口と家族の問題に興味を持つ人びとを対象とした「人口学」の新しい入門書。文化人類学、考古学、教育学、経済学、社会学など異なる分野で共通するテーマや手法を紹介しつつ、近年発達した歴史人口学、家族史、環境史など学際領域の成果も取り入れる。

日本統治時代、台湾原住民に対しての社会的教化事業を歴史的に考察。仏教布教師による教化事業、授産政策、農業講習所、高砂族国語講習所、高砂族国語演習会、高砂族青年団、高砂族自助会に分類し、阿里山ツォウ族の聞き取り調査内容を紹介しながら考える。

アメリカ先住民プエブロ・インディアンは古来農耕の民であり、儀礼の民であり、交易の民である。本書は彼らに焦点を合わせ、プエブロの人びとが作る土器をたどることで、土器製作の伝統の変容を考察することを主題にした。

「卍・卍」は共に「まんじ」と読むのになぜその形態は異なるのか。これは謎である。日本文化の根底に「卍・卍」が存在する。意識的に見ないかぎり、それほどこか恥ずかしそうに身を隠している。日光東照宮の「眠りの猫」の下に「卍繋ぎ文」がある。なぜ？

日本における「卍・卍」の探訪『第一部』から、本書は世界にはばたく。シンボル「卍・卍」は、太陽、水、火、風など、聖なるものとしての自然に対する人間の畏敬・畏怖の念をシンボル化したものである。そして究極的には「生と死」のシンボルである。

聖地・祝祭としてのイベント、そしてアニメ「聖地巡礼」——誰もがオタクに宗教的熱狂を感じ取りながら、宗教研究はそこへ踏み込まずにいた。情報技術と宗教の融合から、オタク・コミュニティの緩やかな連帯と救済まで、宗教研究者による初めてのオタク論。

近現代の日本仏教では、男性僧侶は世俗的生活を送っている一方で、伝統的な尼僧たちは出家の姿を忠実に守り続けてきたといわれてきた。しかし今日では、多様な背景をもつ女性の僧侶たちが活躍の場を広めつつある。この発生と展開の現代的意味を探る。

鈴木紀子・林久美子・野村幸一郎 編著

女の怪異学

1827-3 四六判・222頁・2,100円(本体価格)

高岡尚子著

摩擦する「母」と「女」の物語

2488-5 A5判・284頁・3,500円(本体価格)

ジョン・ヒューバー著
古牧徳生訳

ジェンダー不平等起源論

—母乳育が女性の地位に与えた影響—

2183-9 A5判・240頁・2,600円(本体価格)

池内靖子・二宮周平・姫岡とし子 編著

改訂版

21世紀のジェンダー論

1565-1 A5判・248頁・2,400円(本体価格)

マーゴ・デメッロ著
田中洋美監訳

ボディ・スタディーズ

—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待—

2797-8 A5判・264頁・2,700円(本体価格)

黒岩裕市著

ゲイの可視化を読む

—現代文学に描かれる〈性の多様性〉?—

2763-3 四六判・184頁・1,800円(本体価格)

三成美保編著

LGBTIの雇用と労働

—当事者の困難とその解決方法を考える—

3027-5 四六判・224頁・2,200円(本体価格)

ブリーモ・レーヴィ著
竹山博英訳

リ リ ス

—アウシュヴィッツで見た幻想—

2672-8 四六判・288頁・2,900円(本体価格)

徐 京植著

新版

ブリーモ・レーヴィへの旅

—アウシュヴィッツは終わるのか?—

2552-3 四六判・296頁・3,000円(本体価格)

森山花鈴著

自殺対策の政治学

2990-3 A5判・232頁・2,900円(本体価格)

女性、怪異をキーワードとして〈他者〉の構造を透視する。怨念を抱えたまま漂う女性の幽霊たちは、性の非対称性だけを告発しているのではない。貧民、異人種などなど、さまざまな〈疎外された者〉のまなざしと融合して、女性霊は表象化されている。

なぜ小説でなければならないのか。小説に描かれた「女」たちや「男」たちの振舞や言動を丁寧にくみあげ、整理していくことで配置された人物の間に生じる軌跡や、そこにかかる圧力の性質を考え、19世紀フランスの「男」と「女」の問題を問う。

妊娠と授乳・育児がいかにして女性を政治から閉め出したのか。ジェンダー・ヒエラルキーが形成されるに至った背景を生理学・人類学・進化心理学など生物学的な様々なデータから解き明かし、女性の広い社会参加のための方法を模索する。

日常生活の中にジェンダーがどのように組み込まれているかを発見し、日常生活をジェンダーの視点から読み解く。男性、女性の視点をのり越え、さらに第3世界を視野に収める。節ごとに、具体的なケースと考えるポイント、文献ガイドを設けており入門書に最適。

肥満・痩身、身体加工、身体の商品化といった明らかに身体に関わる事柄はもとより、健康と病、老い、生殖、人種・植民地主義、ジェンダー、セクシュアリティ、階級、美に関わる様々な問題について、身体を切り口に具体例を多数あげながら幅広く展開する。

村上春樹、川上弘美、よしもとばなの作品に登場する、「ゲイの親友」、「おネエキャラ」、都会的でクリエイティブな〈彼ら〉のセクシュアリティはいかに描かれているのかを読み解き、そこから〈いま・ここ〉にあるジェンダー／セクシュアリティ秩序を問い直す。

本書では「LGBTIの人権保障と労働法」を総論に、先進的な企業やILOの取組の紹介に加え、当事者が直面する困難とその法的解決法の分析や、若い当事者のエンパワメントにつながる就職支援の取組を紹介。全ての人がSOGI(性的指向／性自認)ゆえに偏見や抑圧を受けることがないような権利保障の方向性を示す。

本書は1975年から81年に書かれたブリーモ・レーヴィの3番目の短編小説集である。極限状態で人はいかにグロテスクに、あるいは高潔に振る舞うか。レーヴィが30年の時間を経て新たにアウシュヴィッツを思い返した時、心に浮かんだものは何だったのかを探る、豊かな記録文学である。

アウシュヴィッツを生き延びたユダヤ人と在日朝鮮人。現代世界の惨禍をくぐり抜けた二人の作家の真摯な対話のなかに未来への手がかりがある(高橋哲哉)。マルコポーロ賞を受賞し、その後絶版となった名著を時代の要請に応じ、新たな書き下ろしを加え新装刊行!

どのように自殺対策は実施されてきたのか? 自殺の多い日本。私的領域分野の問題だと思われていた自殺の問題が、なぜ国家が担うべき「政策」となったのか。そして、どのように実施されてきたのか。詳細な文献・議事録研究およびインタビュー調査をもとにここに明らかにする。

船橋 新太郎 編

依存学ことはじめ

—はまる人生、はまり過ぎない人生、
人生の楽しみ—

2213-3 四六判・200頁・1,700円(本体価格)

細川裕史 編著

ドイツで暮らそう

2876-0 A5判・166頁・1,500円(本体価格)

石田易司・竹内靖子・野口和行 著

自閉症と豊かな暮らし

—キャンプ・ロイヤルから学ぶ—

2555-4 A5判・208頁・2,000円(本体価格)

藤澤三佳 著

生きづらさの自己表現

—アートによってよみがえる「生」—
日本図書館協会選定図書

2547-9 A5判・238頁・2,200円(本体価格)

中村このゆ 編著

まっ、いっか！ 摂食障害

—当事者のまなざしから—

2500-4 四六判・182頁・1,800円(本体価格)

金 泰 泳 著

在日コリアンと精神障害

—ライフヒストリーと社会環境的要因—

2857-9 四六判・204頁・2,100円(本体価格)

秋田 巖 著

うつの人 風呂の入り方

—精神科医からの「自分で治すための」46提案—

2874-6 四六判・174頁・1,500円(本体価格)

岡本茂樹 著

無期懲役囚の更正は可能か

—本当に人は変わることはないのだろうか—
日本図書館協会選定図書

2414-4 四六判・276頁・2,700円(本体価格)

前田益尚 著

楽天的 闘病 論

—がんとアルコール依存症、
転んでもタダでは起きぬ社会学—

2728-2 四六判・208頁・2,200円(本体価格)

佐藤泰子 編著

患者の力

—がんに向き合う、生に向き合う—

2394-9 四六判・246頁・2,400円(本体価格)

社会的に大きな問題でありながら、未解明な事柄の多い「依存」という現象を、医療に限局することなく総合的にとらえ、その実態と問題点、その解決への道筋をわかりやすく解説し、多くの人にその問題点を理解してもらうために企画。

ドイツで暮らしてみたいけど、あと一歩が踏み出せない……そんな人に、留学やワーキングホリデーでの体験談を通して、ドイツ暮らしの魅力やコツを伝授。ビザのとり方や住居選びといった実用的なものから、パーティを楽しむためのものまで幅広く紹介。

自閉症のある人たちを対象としたサマーキャンプとしては世界で最も大きく歴史のあるキャンプ・ロイヤルでのサマーキャンププログラムを紹介。ノーマライゼーションの主張のもとに、キャンプに参加する障がいのある人たちの姿をいきいきと伝え、豊かな暮らしの可能性を追求する。

生きづらさを抱えた人々は、その苦しみを絵や映像のなかに自己表現することによって、自らの「生」をよみがえらせていく。そのためには、共感をもって鑑賞する他者の存在が不可欠であり、他者とのかわりによって「社会のなかに生きている意識」を取り戻すのである。本書はそのプロセスの一端を明らかにする。

かつて摂食障害に苦しんだ当事者の語りや、聞き取りをもとに、当事者たちが何に苦しみそれをどのように克服していったか、それぞれの回復のストーリーを紹介する。また、摂食障害とは何か、専門家による解説も収録。人は何を食べ物に託しているのか。

その人生は、「精神障害」というスティグマをも背負い、日本社会のみならず、在日社会でも周縁化されてゆく。4つのライフヒストリーや、アンケート調査等にあられた「在日コリアンの声」から、可視化されにくい在日コリアンにおける精神障害の発症原因やその様相を浮き彫りにする。

5本指靴下からヒートテックまで、歯の磨き方から眠りにつくまでの方法まで。長年、うつ病治療に携わってきた著者だからこそ書きた「うつ病治療奥義——人知れず治す方法——」

大学教員と懲役囚との往復書簡。懲役囚の実態を私たちはどれだけ知っているのか。死刑制度などを議論する前に、まず本書を読み、実態を把握した上で現代の刑務所問題を考えたい！

2007年、下咽頭がんの診断を受け、奇跡の手術を受け声帯を残したまま現場へ復帰。その後、これまで目を背けていた、アルコール依存症の症状が悪化し、2013年に緊急入院。断酒に向け、大学を休職し、本格的な治療を開始。そして2016年、断酒2年を迎え教育の現場に戻った現役大学教員が、病と、医療と、上手に付き合い楽しく乗り超える術を伝授します。

白血病、結腸・大腸がん、下咽頭がん、舌がん・もやもや病、子宮がん。京大病院で治療・入院した6人ががんに向き合った赤裸々な告白。彼らは与えられた場所をどのように受け入れ、生き抜いたのか。苦悩と生きる力を読み取る書。

荒木晃子著

A子と不妊治療

—日本初の不妊治療医療過誤訴訟を経て—

2365-9 四六判・252頁・2,300円(本体価格)

ともに歩む会編

A子と依存症

—絶望と回復の軌跡—

1874-7 四六判・238頁・2,300円(本体価格)

前田尚子著

地域産業の盛衰と家族変動の社会学

—産業時間・世代・家族戦略—

2984-2 A5判・238頁・3,500円(本体価格)

本多真隆著

家族情緒の歴史社会学

—「家」と「近代家族」のはざまを読む—

3010-7 A5判・294頁・5,700円(本体価格)

桑原桃音著

大正期の結婚相談

—家と恋愛にゆらぐ人びと—

2866-1 A5判・226頁・3,000円(本体価格)

藤間公太著

代替養育の社会学

—施設養護から〈脱家族化〉を問う—

2843-2 菊判・188頁・4,000円(本体価格)

大川聡子著

10代の母というライフスタイル

—出産を選択した社会的経験に着目して—

2714-5 A5判・196頁・4,200円(本体価格)

井上眞理子著

リスク・ファミリー

—家事調停の現場から見た現代家族—

1890-7 四六判・194頁・1,900円(本体価格)

井上眞理子著

ファミリー・バイオレンス

—子ども虐待発生のメカニズム—

1667-5 A5判・212頁・2,300円(本体価格)

巽眞理子著

イクメンじゃない「父親の子育て」—現代日本における父親の男らしさと
〈ケアとしての子育て〉—

3035-0 四六判・210頁・2,400円(本体価格)

「血の継承問題」「親のエゴ」「家長制度の負の遺産」「女性の性役割」、ステープンス・ジョンソン症候群の病がもたらしたものは何だったのか? ある一人の女性の「不妊と家族の物語」を通して、未来へ築く家族の在り方を問う。

酒、薬、パチンコにはまり込む女性、食べる事(吐き出す事)に溺れる女性がどのように自分の人生と健康を取り戻すかに焦点を当てた。配偶者の飲酒に振り回され傷ついていた家族、夫や恋人からの暴力に痛めつけられた女性の絶望と回復の軌跡。

地域産業の発展と縮小が、女性の働き方や家族のあり方にもたらした影響とは? 戦後、既製服産地として復興を遂げた岐阜市を事例に、在来的な家内生産システムの盛衰が地域の家族にもたらした影響を女性の視点から、家族戦略概念にもとづき分析する。

日本の伝統的家族である「家」にまつわる情緒の関係を痕跡を採集しなおすことで、「家」と「近代家族」の両者を踏まえた包括的な歴史社会学研究を展開する。「情緒」をテーマに過去から現在の「家族」をめぐる諸問題を新たな視点から照射する。

大正期の『讀賣新聞』「身の上相談」を分析。人びとは、結婚相手(配偶者)の選択にあたって、誰に配慮し、どのような条件をもとめていたのか。その葛藤の様相をあきらかにした配偶者選択の歴史社会学。

施設養護での質的調査に真正面から取り組んだ初の家族社会学研究。施設養護をめぐる議論に潜む家族主義を批判するとともに、施設における集団性の下での養育をヒントに、子育ての脱家族化のあり方を論じる。結論部では、多元的なケア空間のモデルが示される。

10代で子どもを産むことは、短い修学年数や不安定就労などを招き社会的に不利な要因となることが多い。若年母親と住民ボランティアのインタビューを通してその生活実態を捉え、母親になることを選択が意味あるものと思える、母親が子どもと共に成長していけるライフスタイルを目指したエコロジカルな社会的支援方法を考える。

大学教員であるとともに、家庭裁判所の家事調停委員を務めている著者が、夫婦が同意したAID子の親権をめぐる争ったケース、など現場でしか得られない豊富な事例をもとに家族のあり方、夫婦・親子関係を再検証した。

ファミリー・バイオレンスはいまや深刻な社会問題となっている。本書はその中でも「子ども虐待」に焦点をしぼり、子ども虐待問題を加害者のパーソナリティやトラウマに還元せず、家族機能、組織、法、制度、政策等の社会学的観点から解決の展望を持って考える。

イクメンがもてはやされる現代日本において、父親が子育てに関わりづらいのは、長時間労働だけが原因なのだろうか? 本書では「男らしさ」と「ケアとしての子育て」という観点から、父親の子育てをメディア(育児雑誌、厚生労働省ホームページ)や父親へのインタビュー調査より分析し、イクメンとは異なる、父親の子育てへの新しいまなざしを示す。

伊藤智樹編著

ピア・サポートの社会学

2481-6 A5判・194頁・2,300円(本体価格)

竹中 健著

ボランティアへのまなざし

—病院ボランティア組織の展開可能性—

2445-8 四六判・206頁・1,800円(本体価格)

山中 恵利子著

7人の看護師さんの体験談から

すくいあげられた

7つの「看護の知」

3112-8 四六判・1,400円(本体価格)

李 永淑著

小児がん病棟と学生ボランティア

—関わり合いの人間科学—

2661-2 A5判・238頁・2,400円(本体価格)

飯田 奈美子著

対人援助における通訳者の倫理

—公正なコミュニケーションに向けて—

3046-6 A5判・188頁・3,200円(本体価格)

藤崎和彦監修

榎田美雄・岡田光弘・中塚朋子 編著

医療者教育のビデオ・エスノグラフィー

—若い学生・スタッフのコミュニケーション能力を育む—

2957-6 A5判・232頁・2,800円(本体価格)

横村 久子著

お墓の社会学

—社会が変わるとお墓も変わる—

日本図書館協会選定図書

2472-4 四六判・246頁・3,500円(本体価格)

芝田 正夫著

新聞の社会史

—イギリス初期新聞史研究—

1162-1 A5判・240頁・2,500円(本体価格)

田上博司著

デジタルコミュニケーション

—ICTの基礎知識—

1888-4 A5判・192頁・2,300円(本体価格)

田上博司著

デジタルアニメーション

—Flashの基礎技法—

阪南大学叢書 96

2396-3 A5判・190頁・2,000円(本体価格)

「物語」という観点から得られる収穫は何か? 「仲間」と会うことに意味を見出す5人の社会学者が研究データと丁寧に向き合い、8年がかりの議論をふまえた成果をここに提言する。欠かせないのは、自分の物語の聞き手となってくれる「誰か」である。

ボランティアという語は、そもそも「自発的であること」を意味する用語であるが、実はそこに大きな矛盾が存在する。本書では病院ボランティアの実践事例をとりあげながら、その矛盾と動員の戦略を解明し、情報化社会のなかでメディアに操作される「ボランティア」像の真実に迫る。

個々の看護師の後悔や喜び、共感の看護体験を理解する為に、アルフレッド・シュッツのレリヴァンス概念を用いて当事者の〈主観的な意味の世界〉に焦点をあてた。看護の方向性を類型化して7つの「看護の知」をすくいあげることにより、現職の看護師、看護学生にとって看護実践の有益な指針となると共に、社会現象学の看護理論への可能性を示す。

小児がん病棟で「共に楽しさを追及する活動」を続けてきた学生たちの軌跡を、学生、患者とその家族、医療者、病院職員、行政といった多様なアクターを等しく同じ地平において実践した調査結果から明らかにし、新たなボランティア論の射程を示す。

医療、教育、福祉などの場面での通訳者は単に会話を訳すだけでなく、双方のコミュニケーションを援助することが求められる。これまで通訳者のカンと経験に支えられてきた介入行為の基準を、事例の分析によってはじめて規定し、通訳技術の一つとして確立する。

ビデオを用いた共同での観察と検討から、医学、心理学、社会学、教育学のそれぞれの立場で現代的課題をえぐり出し、今後の展望を示唆する。ふり返りをする専門家を育てる医療者教育を目指すためのビデオ・エスノグラフィーを用いた「現場支援本」

人生最期の問題にどう向き合うのか? 深刻な無縁化社会、少子高齢化社会へと進む日本、社会の変化にお墓はどのように対応、変化していくのだろうか。欧州、東アジアの事例も紹介し、日本のお墓の現状と課題、新しい方向性を模索する。

「近代新聞の母国」といわれるイギリスの初期新聞史を、社会や法制度との関連のなかで明らかにしようとした。17世紀初頭から18世紀初期という、新聞がようやく定期刊行となり時事的な報道を中心にすえはじめた時代を対象としている。

ITからICTへ、デジタルコミュニケーションはこれからの社会の最重要インフラとなりつつある。本書は、これからの日本を支えるビジネスマンや学生が知っておくべきICTの基礎知識を、技術的側面・社会的側面から事例とともにわかりやすく解説。

コンピュータを用いたアニメーションの基礎的な技法を、Flash CS 6を中心に、考え方、描画法、表現テクニックなどの観点から解説。本書前半はすべてのデジタルアニメーションに共通の技法、後半ではFlashに特化した技法を実際の作例を用いて紹介する。

谷口知司編著

デジタルアーカイブの
構築と技法

日本図書館協会選定図書

2534-9 A5判・222頁・2,400円(本体価格)

リンダ・ハッチオン著
片瀬悦久・鴨川啓信・武田雅史 訳

アダプテーションの理論

2267-6 A5判・298頁・3,000円(本体価格)

韓 燕麗著

ナショナル・シネマの彼方にて

—中国系移民の映画と
ナショナル・アイデンティティー—

日本図書館協会選定図書

2523-3 A5判・176頁・2,300円(本体価格)

養老孟司・牧野圭一 著

マンガをもっと読みなさい

—日本人の脳はすばらしい—

1533-3 四六判・194頁・1,500円(本体価格)

竹内オサム 著

手塚マンガの不思議

2706-0 四六判・246頁・2,300円(本体価格)

竹内オサム 著

本流！ マンガ学

—マンガ研究ハンドブッカー—

2026-9 四六判・256頁・2,300円(本体価格)

片上平二郎 著

「ポピュラーカルチャー論」講義

—時代意識の社会学—

2898-2 四六判・288頁・2,300円(本体価格)

影山貴彦 著

百 恵 讃

—学生たちと先生の山口百恵—

1686-0 四六判・152頁・1,500円(本体価格)

諸井克英 著

ハイロウズの掟

—青年のかたち—

1682-8 四六判・182頁・2,000円(本体価格)

泉 文明 著

京ことばとその周辺

2345-1 四六判・236頁・1,800円(本体価格)

図書館、美術館、博物館などの展示物をデジタルデータで保存・アーカイブ化し有効利用するための方法が模索されている。本書は、実際にデジタル化して保存する場合に必要な手続き、技術、知識を現場の第一線で活躍する実務者が執筆。デジタルアーカイブのプロを目指す人には必携の一冊。

「わたしたちはアダプテーションの時代に生きているのか？」さまざまなメディアやジャンルを横断し作り変えられる物語は、時代や文化を越え、どのように生き延びていくのか、物語研究の新たな展開の可能性を探るアダプテーション研究が今ここに理論化される。

本書は、中国本土以外の場所に居住する中国系移民が製作した中国語映画を研究対象とする。映画の前に国名を冠するいかなるナショナル・シネマの枠組みにも取まらない映画に焦点を当て、いわば〈中国映画〉とは呼ばれない〈中国語映画〉についての研究である。

漫画家の京都精華大学教授と『バカの壁』で知られる解剖学者が、日本が世界に誇るマンガ・アニメについて熱く語った。「ドラえもん」などの実際の作品を基に議論を深め80編のマンガ作品が対談を盛り上げる。

なぜ手塚マンガは時代を越えて人々を魅了してきたのか、そのナゾを解くべくさまざまなマンガをとりあげて検討。作品に表現されたさまざまなイメージをたどりながら、優れた創作家が共通して持つ格闘の跡を浮きぼりにした。

マンガへの知的アプローチが盛んになっている状況下において必要とされる詳細な文献目録、マンガ家個人の著作文献目録をここに初めて整理してまとめた。マンガにとって批評とは何か、今まで何が問題とされてきたのか、日本初の本格的マンガ研究論。

現在、「みんな」の文化としてのポピュラーカルチャーは存在するのだろうか？ そのような問いの下に、ポピュラーカルチャーの歴史について考える社会学。ネット、Jポップ、トレンドドラマ、少年ジャンプ、キャラクターグッズ、オカルト、フォークが映し出す時代意識を描き出す。

大学教員と学生たちが、山口百恵に関して縦横に語りあった時間を1冊の本に纏め上げた。

ブルーハーツやハイロウズの歌詞が作り出す独特の世界、「反転図形」のように、多くの主題が重なり合う。彼らが吐き出す歌詞を分析することによって、現代青年の「かたち」を読み解く。

京ことばには、美しさ・あでやかさ・丁寧さ・気配りのひびきがあるとともに、曖昧・難解のイメージもつきまとう。京ことばを表層的に捉えるだけでなく、その深層部分に迫るべく京都人の思考方法や京都のならわし・諸行事についてもあわせて解き明かした。

田中美佐著

喫茶文化史研究序説

2344-4 四六判・168頁・1,800円(本体価格)

藤井康生著

神戸を読む

2037-5 四六判・218頁・2,300円(本体価格)

尾鼻 崇著

映画音楽からゲームオーディオへ

—映像音響研究の地平—

2736-7 四六判・200頁・3,000円(本体価格)

小松正史著

音ってすごいね。

—もう一つのサウンドスケープ—

1557-0 四六判・238頁・2,300円(本体価格)

樹仙齋著

イ・ヒョンナン 訳

動物からの死のメッセージ

2315-4 四六判・184頁・1,800円(本体価格)

関 めぐみ著

<女子マネ>のエスノグラフィー

—大学運動部における男同士の絆と性差別—

3001-5 A5判・236頁・4,600円(本体価格)

渡部 瑞希著

友情と詐欺の社会学

—ネパールの観光市場タメルの宝飾商人の民族誌—

3006-0 A5判・202頁・4,000円(本体価格)

三浦 耕吉郎 編著

屠場みる・きく・たべる・かく

—食肉センターで働く人びと—

1968-3 四六判・252頁・1,900円(本体価格)

三浦 耕吉郎 著

エッジを歩く

—手紙からの差別論—

2936-1 四六判・230頁・2,400円(本体価格)

森 隆行著

水先案内人

—瀬戸内海の船を守るものたち—

2864-7 四六判・166頁・2,000円(本体価格)

喫茶の発生から我が国への伝播を扱う。その内容は、照葉樹林文化・陸羽『茶経』・宋代の茶や湯(とう)・栄西『喫茶養生記』を緩やかながら一連の流れの中に置くものである。陸羽の人物像・『毀茶論』・茶神化、栄西『喫茶養生記』の特徴・意義などの考察も含む。

都市は一つの作品である。それは読まれて意味を持つ。著者は独自の観点から神戸を読み解いた。そこで浮かび出たのは〈幻想都市〉と〈皇国都市〉が同居し、〈華やかさ〉と〈はかなさ〉が表裏一体をなす〈災害都市〉の二面性であった。魅惑的な新しい都市論の試み。

テクノロジーの高度化によって大きく変容した音楽分野の一つに、映像音響がある。本書では「映画音楽からゲームオーディオ」へと接続しうる歴史的・理論的要点を可能な範囲で整理することによって、映像音響という領域が示す射程を明確化することを試みた。

† 葉擦れの音と自動車騒音の周波数が近いことを利用し、葉擦れ音が大きいポプラなどを沿道に植樹して音を相殺させる騒音融和策を指摘する。地下鉄入り口で盲人を誘導する装置が雑踏で聞こえないことを指摘するなど、暮らしの中で音と人間の新しい関係を探る。

この世の中に偶然は存在しない！ 現在、地球上で毎年のようにおこる津波、地震、猛暑、豪雪で多くの人命と財産が失われている。たびたび発生する口蹄疫・鳥インフルエンザのために動物たちが虐殺されている。動物たちが死を賭して人間に呼びかける警鐘のダイニングメッセージ。

現在の日本の〈女子マネ〉制度は性差別問題を抱えている。しかし、女子マネージャーたちの主体的な実践によって、活躍の場として作り変えられるのではないが、本書では大学アメフト部へのフィールドワークから、彼女らの経験を参考に、制度の根底にある「異性愛男性中心社会」を問いなす。

「友人だから、良いものを安く売ってあげるよ」。そう言われれば、私達は素直に喜べるだろうか。観光場における友情概念をひもとき、信頼と懐疑が織りなすタメルの宝石商売の世界観を読み取る。美徳の友情で結ばれた「本当の友人」を探す旅がはじまる。

屠場(食肉センター)とはどんな場所なのか？ 牛や豚は食するために屠られ肉へとかわる。「いのちと食」について考えるすべての人のために、そこで働く人びとの息づかいや仕事に込められた熱い思いを生きいきと描き出す。

フィールド発の差別論：主体論から構造論へ／啓発から倫理へ。その気もないのに差別させられる、現代社会における構造的差別に準照し、「差別する者であると同時にされる者」としての生の倫理のありか(=「エッジの歩き方」)を、平易な手紙文体で描きだす！

海に精通し、船舶が行き交う港や海峡、内海で、船舶を安全に導くという重要な役割を担うスペシャリストたち。彼らの生の声を紹介し、未来のパイロットたちに、知られざる水先案内人という魅力的な仕事を紹介。Q&A、コラム、関連用語集もあわせて掲載。

寺田良一著

環境リスク社会の到来と環境運動

—環境的公正に向けた回復構造—

2700-8 A5判・240頁・3,400円(本体価格)

齋藤富雄編著

映画に学ぶ危機管理

3101-2 A5判・232頁・2,400円(本体価格)

村山 徹著

災害と安全の情報

3041-1 A5判・2014頁・2,500円(本体価格)

神戸学院大学
学際教育機構防災・社会貢献ユニット 編**東日本大震災ノート
災害ボランティアを考える**

2337-6 B5判・110頁・1,800円(本体価格)

神戸学院大学
東日本大震災災害支援対策本部 編**東日本大震災
復旧・復興に向けて**

—神戸学院大学からの提言—

2338-3 A5判・258頁・2,300円(本体価格)

矢守克也・諏訪清二・船木伸江 著

夢みる防災教育

1863-1 A5判・264頁・2,800円(本体価格)

金芳外城雄著

ローマに学ぶ防災先進都市の条件

1894-5 四六判・264頁・2,000円(本体価格)

金芳外城雄著

減災の知恵

2311-6 四六判・258頁・2,000円(本体価格)

中山久憲著

苦闘元の街に住みたいんや!

—神戸市湊川町・住民主体の震災復興まちづくり—

1954-6 四六判・222頁・2,300円(本体価格)

三枝博行・藪田正弘・安富 信・
川西 勝・森川暁子・船木伸江 著**災害報道**

—阪神・淡路大震災の教訓から—

1987-4 A5判・164頁・1,600円(本体価格)

ポスト3.11時代を生きる我々にとって、まだ科学的に未解明な部分の多い、環境ホルモン、放射能、遺伝子組換え作物などの、目には見えないが「近きにある」環境リスクを、可視化し、予防原則で減らしていかざるをえない時代の到来という認識が不可欠である。

映画の中に登場する「シン・ゴジラ」の襲撃や彗星衝突は単なるフィクションではなく、現実の世界で起こりうる地震や津波といった災害のメタファーである。その中では日本の防災・危機管理上の大きな課題が浮き彫りになる。現在想定されている首都直下型地震や南海トラフ巨大地震が「想定外」にならぬよう政府の対応体制を考えなおさなければならない。

東日本大震災以降の「公助の限界」の認識による減災のための地域防災力の強化の政策課題に対しては、行政が提供する災害「防災」情報による「見える化」から、人々が利用する災害「減災」情報の「見る化」へと質的転換する必要がある。本書では、災害情報の新たな利用の工夫を示唆する。

東日本大震災に大学がなすべきこと、ボランティアの意義と課題、震災報道とボランティア、被災地外活動、広域ネットワークの活用や研修プログラム、学生の考えるボランティア論など学部横断的組織としての神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」からの報告集。

阪神・淡路大震災を経験した神戸学院大学が、積み重ねたその経験と知識を東日本大震災の被災地復興に活用し、大学の教職員と学生が支援活動に取り組むなか、これからの継続的な支援の必要性を提言する。

防災教育のための新しい視点の誕生。防災知識や技術の習得を越え、子どもが抱く夢、社会のあるべき姿をかたちにする防災教育を目指す。教育推進のベースとなるコンセプトや、全国で展開中のユニークな試み、筆者オリジナルの防災教育のアイデアも満載。

ローマから綿々と続いてきた防災体制は、あの阪神大震災で大きく転換を迫られた。その一つが防災から減災に向けた取り組みの変化である。そして、この減災の主役は市民であり、企業にとっても事業継続計画の策定などが問われている。これらの条件を学ぶ。

東日本大震災からの再生・復興には日本の命運がかかっているといえる。阪神大震災からの復旧・復興過程で学んだその歩みを減災の知恵とし、被災地に伝えるとともに、近未来に想定される東海・東南海・南海地震に備えるための生きる力を156訓としてまとめた。

本書は、阪神・淡路大震災で大規模被災した老朽住宅密集市街地での住民主体のまちづくりの完成までの過程を通して、事業に関わった人々の役割をまとめたものです。また、行政主導型事業との比較を通して復興まちづくりの進め方の課題についてまとめています。

未曾有の震災をどう発信するか。阪神・淡路大震災を経験した現場のスタッフが話す苦悩とは。大学の講義録をまとめた本書では、阪神・淡路大震災当時、新聞、テレビ、ラジオから発信された情報の背景についてわかりやすく説明する。

前林清和著

Win-Winの社会をめざして

—社会貢献の多面的考察—

2072-6 A5判・214頁・2,200円(本体価格)

星野 智著

市民社会の系譜学

2098-6 四六判・208頁・2,000円(本体価格)

青水 司著

原発と倫理問題

—反原発運動前進のために—

2589-9 A5判・92頁・1,000円(本体価格)

立野了嗣著

「経験代謝」による キャリアカウンセリング

2909-5 A5判・224頁・1,500円(本体価格)

中山一郎著

エピソードの就活

—キャリアカウンセラーが教える7つのステップ—

2829-6 四六判・200頁・1,900円(本体価格)

龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科編

コミュニティリーダーを育てる

2542-4 A5判・280頁・2,000円(本体価格)

藤田昌志著

日本の中国観Ⅱ

—比較文化学的考察—

2636-0 A5判・210頁・2,600円(本体価格)

藤井 勝・高井康弘・小林和美 編著

東アジア「地方的世界」の社会学

2451-9 A5判・440頁・5,900円(本体価格)

吉國恒雄著

燃えるジンバブウェ

—南部アフリカにおける「コロニアル」・
「ポストコロニアル」経験—

1999-7 四六判・148頁・1,400円(本体価格)

三宅正伸著

「新書」から学ぶ公務員の教養力

—公共の仕事の流儀を変える力—

2508-0 A5判・132頁・1,000円(本体価格)

市民による社会貢献活動こそが、持続可能な社会を実現させる唯一の方法である。本書は、社会貢献を「人間論」「ボランティア論」「心理論」「ライフデザイン論」「市民論」「教育論」「企業論」「日本人論」「国際論」「地球環境論」の10の視点から論じている。

本書は、社会科学の領域における市民社会の再評価という大きな流れのなかで、市民社会論の思想史的な系譜を辿りながら、近代市民社会論から新しい市民社会論への転回を視野に収め、同時に、新しい市民社会論やグローバル市民社会論の現代的な意義を探るものである。

東日本大震災による原発事故。その危険性は、人類の存続と背中合わせである。にもかかわらず、経済性を優先する価値観に対して、本書は倫理的観点から論難する。瓦解した「安全神話」を、再度構築を試みる勢力に対して、人類としての責めを問う一冊。

キャリアカウンセリングは悩みや問題を扱うだけではない。人には日常の経験を取り入れてありたい方向に成長する力がある。同分野のバイオニアである著者が、個人の発達成長を通して社会の成熟を実現していく道筋を提唱する。

これまであまたの学生と一緒に就職活動にとりくみ、泣いて笑ってきた著者が、キャリアカウンセラーとしての本音を実際にあったエピソードとともに紹介。理論でもない、マニュアルでもハウツーでもない、新たな就職活動対策本が登場。

「地域社会を元気にする人材を育てたい」のコピーのもと、コミュニティリーダーを育てることで「まちおこしによる人おこし」を目指して設立した大学の10年の取り組みを、実践的な講義やゼミナール、また「限界集落のムラおこし」、「フクシマイわき物産復興」「ラジオカフェ」などの実習プロジェクトを通して紹介。

世界の中で比重を増す中国。遙か昔から続く交流の中、日本は中国をどのように見てきたのか、また、どのように向き合うべきか。本書独自の「通時的考察」と「共時的考察」を行うことにより、日本の中国観のキーワードである「脅威」「尊崇」「小中華主義」を浮き彫りにする。

日中韓と東南アジア。その地方社会では何が起きているのか? 「地方的世界」という独自の視座から、21世紀的変貌の特質に迫る。東アジア研究の蓄積を踏まえつつ、新しい地平を切り拓く社会学的フィールドワークの意欲作。

ジンバブウェおよびアフリカの近現代史、とりわけ土地問題に関わる歴史に照らしながら、近年のジンバブウェ問題に検討を加える。コロニアル・ポストコロニアルな経験に翻弄されてきたジンバブウェの研究に取り組んできた著者の遺稿集。

「教養力」。それこそが社会人に求められている基本的なことである。殊、公務員ともなれば、その力の深度により、処理能力、対応能力が左右される。本書では、公務員経験者が自らの経験を踏まえ、キーワードとともに、「新書」が内包する「教養力」を紹介する。

矢戸邦章著

高齢期のクオリティ・オブ・ライフ

—幸福感・社会的ネットワーク・市民活動—

3030-5 A5判・274頁・3,800円(本体価格)

ラーシュ・トーンスタム 著
富澤公子 監訳・タカハシマサル 訳

老年的超越

—歳を重ねる幸福感の世界—

2807-4 A5判・222頁・2,800円(本体価格)

野尻武敏著

長寿社会を生きる

—美しく老いるために—

長寿社会双書 1

0536-5 四六判・190頁・1,000円(本体価格)

外園一人著

新・現代養生訓

—百歳百人の証言—

長寿社会双書 3

1762-7 四六判・184頁・1,500円(本体価格)

佐久間清美著

地域保健とマーケティング

2012-2・A5判・222頁・2,600円(本体価格)

社会文化学会編

社会文化研究

「個人化」する社会において、いかに高齢期の生活の質を維持するのか。団塊の世代が後期高齢期を迎える今、日本社会に生きる人々の「老い方」が抱える課題について、主観的な幸福感、社会的ネットワーク、市民活動に焦点を当てた「生活の質」という視点から考える。

これまで老いはネガティブに捉えられてきたが、加齢に伴う精神的・肉体的変化、また価値観の変容や成熟した世界観の形成に注目し、生活満足感を伴うポジティブな現象であることを論じる。「老いの成熟」の多様な側面を理論的・科学的にも明らかにする。

人生は放物線ではなくどこまでも上昇曲線を描きうる。二度とない人生、いのちの限りを生きて美しく老いるには何が必要か。世界一の長寿国となった我が国の長寿社会化への実態の分析と豊かな人生体験を通し、定年後のもう一つの長い人生の生き方を考える。

世界有数の長寿社会である日本。百歳を超える高齢者も少なくないが、年齢を重ねるにつれて病気や怪我の比率増加、医療費増加などの問題も発生する。本書は「ナンバーワンよりオンリーワン」をテーマに、全国の元気なご長寿の皆さんがその秘訣を伝授した一冊。

健康政策分野の地域保健は個人と社会の変化に対応した健康生活の実現を図るもので、その拠点である「保健所」誕生以降の地域保健や健康づくりの展開について、健康づくりは健康という財産形成という視点で、本来、相容れなかったマーケティングの活用を論じる。

A5判・2516-5	第16号・232頁・1,800円(本体価格)
A5判・2606-3	第17号・180頁・1,800円(本体価格)
A5判・2768-8	第18号・152頁・1,800円(本体価格)
A5判・2839-5	第19号・154頁・1,800円(本体価格)
A5判・3014-5	第20号・170頁・1,800円(本体価格)
A5判・3165-4	第21号・122頁・1,800円(本体価格)

情報問題研究会編

情報問題研究

A5判・1580-5	第16号・144頁・1,500円(本体価格)†
A5判・1655-0	第17号・202頁・1,800円(本体価格)†
A5判・1773-5	第18号・166頁・1,500円(本体価格)†
A5判・1893-8	第19号・83頁・1,000円(本体価格)†
A5判・1990-4	第20号・122頁・1,500円(本体価格)†

『市民の科学』編集委員会編

市民の科学

A5判・2290-4	第3号・196頁・1,500円(本体価格)
A5判・2339-0	第4号・184頁・1,500円(本体価格)
A5判・2387-1	第5号・200頁・1,500円(本体価格)
A5判・2476-2	第6号・116頁・1,000円(本体価格)
A5判・2576-9	第7号・150頁・1,200円(本体価格)
A5判・2657-5	第8号・148頁・1,200円(本体価格)
A5判・2783-1	第9号・126頁・1,200円(本体価格)
A5判・3081-7	第10号・156頁・1,400円(本体価格)

教 育

畠田靖久著

「子どもから学ぶ」58のエピソード —校長室の窓から—

3175-3 四六判・168頁・1,200円(本体価格)

丹松美代志・丹松美恵子 著

教員生活の中で子どもや保護者とのかわりを通して学んだことを58のエピソードにのせてお届け。ほっと心があたたまる話、クスッと笑える話……。読んだ後、もっと子どもを愛おしく感じるはず。

教えるから学ぶへ

3199-9 A5判・240頁・2,700円(本体価格)

渡辺哲男・山名 淳・勢力尚雅・柴山英樹 編著

子どもたちが困難を乗り越え、自分らしく生き抜くために、いま必要な「協同的学び」。それは、生徒同士、先生と生徒が対話的なコミュニケーションをとりながら主体的で深い学びをめざすもの。この「協同的学び」を実践した著者の具体的な事例を多数収録した一冊。

言葉とアートをつなぐ教育思想

3162-3 A5判・198頁・1,900円(本体価格)

伊藤良高・大津尚志・香崎智郁代・橋本一雄 編

「教育」の新たな世界を切り開くトリガーの役割をここに果たし得た! 「教育」あるいは「実践」というレヴェルで私たちがどのような行動を起こす必要があるのかを具体的に論じなければならない私たちは、とても「苦しい」。(中略)けれども、その「苦しみ」が本書における多様な言葉とアートの「つなぎ」に表れているといえる。(序論より)

保育者・教師のフロンティア

3194-4 A5判・132頁・1,400円(本体価格)

伊藤良高・富江英俊・大津尚志・永野典詞・富田晴生 編

今、保育者・教師に求められるものは何か。保育・幼児教育から中等教育までの段階における新たな保育・教育理論や実践動向を踏まえながら、保育者・教師(保育士、幼稚園教諭、保育教諭、小・中学校等教諭等)のあるべき姿や取り巻く状況、課題について鋭く考察する。

改訂版

道徳教育のフロンティア

3192-0 A5判・156頁・1,700円(本体価格)

小林和雄著

近年、日本の道徳教育をめぐる新たな動きが見られる。一人一人の子ども・若者の「人格の完成」をめざす道徳教育とはいかなるものか。こうした問いに対し、道徳及び道徳教育について様々な観点からアプローチし、取り巻く状況や課題、展望をリアルに描き出す。

真正の深い学びへの誘い

—「対話指導」と「振り返り指導」から始める授業づくり—

3184-5 A5判・118頁・1,600円(本体価格)

相馬伸一著

教科の本質を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」を全ての学習者に保障する「真正の深い学び」はいかにして可能となるのか。その鍵は「対話指導」と「振り返り指導」の実践にある。教科の本質を踏まえた「究極の授業づくり」へのヒントを凝縮した一冊。

しょうせつ 教育原論202X

3172-2 A5判・364頁・2,600円(本体価格)

近藤 敦・豊田祐輔・吉永 潤・宮脇 昇 編著

教育学部に通う学生。開は、初めての授業で教授から厳しく叱責されてしまう。そこから教育について深く考え始め……。1人の学生の視点を通じて教育の理念・歴史・思想を学ぶ、新しい発想の教育学テキスト。教職新課程コア・カリキュラムに完全対応。

大学の学びを変えるゲーミング

3245-3 A5判・228頁・2,800円(本体価格)

河野洋子著

アクティブ・ラーニングの時代を迎える中、ゲームによるシミュレーションやロールプレイングといった疑似体験を通じて学ぶゲーミングに注目が集まっている。本書では、ゲーミングの実践例を交えて、理論や学び方、そしてゲーミングの効率的な作成方法を解説。魅力的なゲーミングの世界を余すことなく伝える1冊。

「考える葦」を育てた [近代学校] 教育

2871-5 A5判

近刊

パスカルがキリスト教弁証論として執筆を意図した断章集『パンセ』に登場する「考える葦」をはじめとした比喩言説をテキストとして、それらをレトリック論的方法によって解釈。宗教言説の構造的な特性を明らかにすることで、臨床教育学的立場から「宗教教育」の可能性を探求した。

伊藤良高 編集代表

2019年版

ポケット教育小六法

3191-3 新書判・342頁・1,300円(本体価格)

天野正輝 著

教育的かかわりの探求

3053-4 A5判・148頁・1,900円(本体価格)

川村覚昭 編著

教育の根源

2191-4 A5判・270頁・2,900円(本体価格)

川村覚昭 著

教育の根源的論理の探究

—教育学研究序説—

1329-2 四六判・236頁・2,500円(本体価格)

石村卓也・伊藤朋子・浅田昇平 著

社会に開かれたカリキュラム

—新学習指導要領に対応した教育課程論—

3050-3 A5判・264頁・2,900円(本体価格)

石村卓也・伊藤朋子 著

教職のしくみと教育のしくみ

—教育制度論—

3015-2 A5判・248頁・2,800円(本体価格)

石村卓也・伊藤朋子 著

チーム学校に求められる教師の
役割・職務とは何か

2942-2 A5判・240頁・2,800円(本体価格)

石村卓也・伊藤朋子 著

教育の見方・考え方

—教育の思想・歴史—

2948-4 A5判・222頁・2,700円(本体価格)

百瀬和夫 著

笑育ドリル

—“育てる”をもっと楽しく・おもしろく—

3020-6 四六判・178頁・1,800円(本体価格)

サラ・コナリー、マージット・ミサンギ、ワッツ 著
山田一隆・井上泰夫 訳

関係性の学び方

—「学び」のコミュニティーとサービラーニング—

2108-2 A5判・188頁・2,000円(本体価格)

大学・短大等で教育学関連科目を学ぶ学生や現職の教育・保育・社会福祉関係職にある人がポケットブルに利用できる教育法令集の定番。教員・保育士等の採用試験には、教育法規・教育制度に関する出題が多いが、それへの対応も考慮して編集しており、高い人気を誇る。

看護の対象である人間理解を深めるために、また患者やどの家族への教育的指導、後輩ナースや実習生への指導という役割のために、さらに看護専門職業人として自己教育力を身につける学び方の習得など、教育的知見を教育学から学びとるために書き下ろした1冊。

本書は、特に人間形成において見失ってはならないもの、考えなければならないものを明らかにすることで、現代教育が直面している根本問題に挑戦。現代の教育学と心理学の最新の理論を前提としながら、教育が成立する根源を考察する。

本書は、教育学研究の視点、問題構制、根本課題の論究に於て、近代教育学が依拠してきた近代的思惟の根本矛盾への注目から、それを脱構築する根源的論理を探究する。生の背理性、教育の出会い、仏教的無、臨床教育人間学、良心、多文化主義などがキーワード。

平成29年と平成30年の小・中・高学習指導要領改訂では、「基本的な考え方」の1点目として、「社会に開かれた教育課程」の重視があげられている。本書は、このキーワードを深く理解するため、カリキュラム開発力、カリキュラム・マネジメント力を高めるためのコンテンツで構成されている。教育課程論の基本を身につける一冊。

教育関係法規をはじめとして、教職にかかわる制度、学校組織と学校経営も含んだ教育制度をあつかい、コミュニティ・スクール、ソーシャルキャピタル、地域との協働、安全マネジメントなど最新の重要項目を取り入れた教育制度論。補章では新学習指導要領の主要な変更点である「道徳教育」を収録。2016年刊行『教職の原理 第2巻 教職とは何か』の改訂新版。

これまでの中央教育審議会答申、平成29年の学習指導要領改訂を踏まえて、「これから求められる教職の在り方」を追究した新しい教師論のテキスト。後半部分では、学習指導要領改訂のポイントに沿って各教科等指導に関するコンテンツを用意し、新学習指導要領で何が重視されているかを学ぶことができる。

「人間にとってなぜ教育が必要か」、教育の思想と歴史を思考し、これからの教育のポイントを学ぶ現役教員必携の書。2016年刊行『教職の原理 第1巻 教育とは何か』の改訂新版。

“人育て”に関わる人が教育現場の様々な場面で臨機応変に対応できるよう、具体的な事例や現場の先生からの質問を多数取り上げる。指導・支援の方法について実際の事例を一緒に考えながら、人の成長に関わる私たち自身が笑顔で楽しく生きていく『笑育』を実践してみませんか？

ユニバーサル化が進むわが国高等教育において、学生の主体的学びを引き出すための取り組みが広がっている。学生をとりまく「関係性」に焦点を当てた米国大学の事例を紹介。「学びのコミュニティー」とサービラーニングを、わが国高等教育改革の方法として提案。

秋山 弥・作田良三 編著

子どもの現在

—10の視点からのアプローチ—

2148-8 A5判・174頁・1,900円(本体価格)

中南 勲 著

荒れる子と向き合う

—虐待と愛着障害—

3103-6 四六判・226頁・2,400円(本体価格)

林 治郎・岡田三津子 編著

新版 言語表現技術ハンドブック

2632-2 A5判・194頁・2,000円(本体価格)

林 治郎・岡田三津子 編著

言語思考技術ハンドブック

3084-8 A5判・174頁・2,200円(本体価格)

稲本恵子・白井弘子・吉浦昌子 著

社会人基礎力

—大学生の社会人準備講座—

3023-7 B5判・106頁・1,500円(本体価格)

西川真理子・橋本信子・山下 香・石黒 太・藤田里実 著

アカデミック・ライティングの基礎

—資料を活用して論理的な文章を書く—

2886-9 B5判・140頁・1,700円(本体価格)

クレア・コズニック、クライヴ・ベック 著
山根耕平 監訳

教員養成の新視点

—カナダからの提言—

2656-8 A5判・290頁・3,100円(本体価格)

神林信之 著

教材構成の力を鍛える

2309-3 A5判・270頁・2,800円(本体価格)

中谷 彪 著

ガンバレ！ 先生・教育委員会

—国民に直接責任を負う教育のために—

2259-1 A5判・110頁・1,100円(本体価格)

中谷 彪 著

信頼と合意の教育的リーダーシップ

—『日暮硯』に学ぶ学校経営の真髄—

1927-0 A5判・170頁・1,700円(本体価格)

おとなの関心を絶えず集める子どもたち。そうした子どもの現在について、学校教育・人間関係・キャリア形成に関する10の視点からアプローチした書。現代の子ども向けられたおとなの視点や意識の内省をうながし、多角的な子ども理解力の形成をはかる。

増え続ける児童虐待、学級を荒らす子、子どもの貧困と連鎖。その背景には家庭の崩壊があった。教育や子育ての諸問題を、児童相談所内一時保護所の子どもとの関わりから捉え、現代の子育てや教育に警鐘を鳴らす。荒れた子どもから学ぶべきものとは何か。

言語表現技術とは開かれた人間関係の中で第三者に説明するためのものである。文学的な香りのする文節にたよって事実を説明するのは間違っている。わかりやすい文章を書くためには、事実を調べ事実に基づいて事柄を平明に説明する技術が必要である。

本書は、『言語表現技術ハンドブック』を踏まえたのち、より言語表現技術を習得し世界を捉えるために、言語思考技術をさらに活用できるように構成。

グローバル社会の中で求められる人材となることを目指し、学生時代に身に付けておきたいマナーや社会の常識をただ「知っている」のではなく、ワークシートを使って「実践できる」ことを目標にしたテキスト。重要部分に英語での説明を併記し、留学生にも理解できるように配慮した。

大学生、社会人には、「論理的な文章を書く」ことが求められます。この本では、資料をうまく活用しながら、その中で自分の興味を発見し、「問い」を立て、自分の「主張」を読み手にきちんと伝える論理的な文章を書くことを目指したアカデミック・ライティングの基礎づくりができます。

これからの教師はどうあるべきか、これからの教師をどう育てるか、生徒の学びの過程、双方向的な授業の探求、生徒との関係の構築など、困難な課題の解決をめざし、現場で成長するカナダの教師たちの提案からまとめられた、教員養成の7つの優先事項を問う。

本書は、数学的リテラシーを育成する原理および子どもの学びにおける理解を助けるための教材構成などの具体的方策を示したものである。SCANS 報告書や Bishop の論考などまだわが国では未消化の研究についても分析、紹介し、授業実践とその考察を展開する。

公立学校において、国民に直接責任を負う教育のために努力する先生たちと教育委員会とに力強い支援のエールを贈る珠玉の教育論文集。教育と学校を考える、教育委員会活性化への提言、雨森芳洲の国際理解教育と国際交流の思想の3部構成。

江戸時代中期、信州松代藩の家老恩田木工の政治改革の顛末を書き留めた『日暮硯』に学びながら、信頼と合意に基づく教育経営学を提唱。人間尊重主義の教育経営や企業経営を目指すリーダー（校長・教頭・指導主事・教育関係者・企業家）の必読著。

福井逸子・山森 泉 著

エピソードから始まる 保育の描き方・学び方

3003-9 A5判・132頁・1,800円(本体価格)

中谷 彪 著

子どもの教育と親・教師

2005-4 四六判・116頁・1,000円(本体価格)

伊藤良高・伊藤美佳子 著

新版

子どもの幸せと親の幸せ

2939-2 A5判・172頁・1,800円(本体価格)

伊藤良高 著

新時代の幼児教育と幼稚園

—理念・戦略・実践—

2053-5 A5判・106頁・1,200円(本体価格)

吉弘 淳一 著

子育てにおける子どもとの上手な関わり方

—現在を楽しく子どもと親の笑顔に出会うために—
福井県立大学県民双書 XV

2595-0 四六判・180頁・1,400円(本体価格)

岡本 泰弘 著

脳科学・心理学からの 生徒指導・教育相談

2883-8 A5判・160頁・1,900円(本体価格)

谷口 弘一 著

児童・生徒のサポートの 互恵性と精神的健康

2413-7 A5判・162頁・2,400円(本体価格)

楊 川 著

女性教員のキャリア形成

—女性学校管理職はどうすれば増えるのか?—

3011-4 A5判・184頁・5,500円(本体価格)

布川 あゆみ 著

現代ドイツにおける 学校制度改革と学力問題

—進む学校の終日化と問い直される役割分担のあり方—

2965-1 A5判・376頁・7,200円(本体価格)

吉田 浩之 著

学級における生徒指導論

—日課の場面からのアプローチ—

2423-6 A5判・220頁・3,200円(本体価格)

保育者の専門性向上のためにエピソードを用いることの重要性を説き、エピソードの具体的な活用法、描き方などを説明・紹介する。保育現場と保育者養成の両面で活用できる内容とし、看護等の視点も取り入れた保育記録の描き方、長期的なエピソードの展開案を示す。

子どもの教育を円滑に進めていくために親と教師と校長の果たすべき役割を論じ、同時に、日本の教育が当面している教育課題(いじめ、教育基本法改正など)を批判的に分析し、日本における「本当の教育」の在り方とその実現への指針を提示する意欲作。

子どもの幸せと親の幸せを実現する保育・子育てとは、保育園を経営する保育の研究者・実践者が、子どもと保護者、住民とともに生き、学びながら創造してきた保育・子育て論のエッセンスをわかりやすく紹介する。混迷する保育・子育ての未来を紡ぐ好著。

新時代の幼児教育と幼稚園をめざして、その基本的な理念、経営戦略、保育実践、子育て支援のあり方を考察。「教育マネジメント」という側面から、幼児教育と幼稚園の明日を読み解き、これからの幼児教育と幼稚園のグランドデザイン・改革課題を提示する注目の書。

子どもを育むことは、上手・下手で単純に計ることはできない。どれだけ子どもと向きあい、悩み、怒り、笑い、楽しみを一緒に経験してきた足跡が大切だ。「あなたの子育てはまちがっていない。ただそこにちょっとした工夫と気持ちを変えることで、親自身も子どもも前向きになれる方法を一緒に考えていきましょう。答えは一つではないことを前提に、皆さんそれぞれの環境で見つけていきましょう。」

学校教育現場における、いじめや不登校、インクルーシブ教育支援、メンタルヘルスの問題、キャリア教育などの、教育課題が多数ある。児童生徒を多面的かつ柔軟に理解するために最新の脳科学や心理学の知見を生かした生徒指導・教育相談を提示する書である。

児童や生徒を対象にしたピア・サポートが日本の学校で実践されるようになって以来、全国の小・中学校で様々な試みがなされている。学校現場におけるこうした取り組みに対して本書は理論的基盤を付与し、効果的な実践的介入をここに提案する。

全国調査、複数の自治体への調査・分析を通じて、「管理職任用制度」と「教員個人のキャリア形成への契機」という2つの視点から、日本の教員・学校管理職をめぐる人事制度の真実に迫り、女性教員の管理職へのキャリア形成の実態を明らかにする。

「学力向上」が叫ばれたにもかかわらず、ゆとりをつくりだすという学校制度改革になぜドイツは取り組むことになったのか、戦後史・社会変動・教育を構成する枠組みから実証的に検討し、「PISA ショック」を受けてのドイツにおける教育のあり方の変容を論じる。

学校には朝の会、授業、休み時間、昼食、清掃などの日課の場面が存在する。本書では、20年間中学校教員として教職に携わった著者と多数の教師が協力し実証的に検討した知見を基に、学級全体を対象に日課の場面からアプローチする生徒指導の方法を論じている。

秦 由美子 編著

女性へ贈る7つのメッセージ

—輝く女性たちから、あなたが羽ばたくために—

2346-8 四六判・222頁・1,900円(本体価格)

朴 シネ著

死の力

—死と向き合う教育—

2629-2 A5判・204頁・2,600円(本体価格)

赤尾勝己 編著

学習社会学の構想

2860-9 A5判・228頁・2,600円(本体価格)

中谷 彪・小林靖子・野口祐子 著

西洋教育思想小史

1741-2 四六判・98頁・1,000円(本体価格)

レイモンド・E. キャラハン 著
中谷 彪・中谷 愛 訳

アメリカの教育委員会と教育長

1902-7 A5判・136頁・1,300円(本体価格)

レイモンド・D. ボイスヴァート 著
藤井千春 訳

ジョン・デューイ

—現代を問い直す—

2569-1 A5判・252頁・3,000円(本体価格)

梅澤啓一 著

感性と造形表現

—その発達のメカニズム—

1476-0 A5判・282頁・3,200円(本体価格)

寺田盛紀 著

日本の職業教育

—比較と移行の視点に基づく職業教育学—

2079-5 A5判・214頁・2,700円(本体価格)

中里弘穂 編著

若者のキャリア形成を考える

福井県立大学県民双書

2425-0 四六判・220頁・1,500円(本体価格)

北垣宗治 著

複眼の思想

—新島襄・英学史とリベラル・アーツ論—

2956-9 A5判・272頁・3,400円(本体価格)

「自然体でえらぶらず、かっこつけない、自分に正直でまっしぐらに望むものに突き進む」。そんな第一線を生きる女性たちの対話をとおして、ありのままの姿で現代を生き抜く術を学ぶ、日々奮闘するすべての女性たちへ贈る勇気と希望の指針。

弟の突然の死が教育者であった著者の死生観をゆさぶり、新しい「死の教育」の研究へ誘った。なぜ死は我々に与えられたのか、「死へとかかわる存在としての人間」をあつかう教育とはどのようなものであるべきか、その答えを探すための書。

後期近代社会における生涯学習研究は、教育学にとどまらず学際的な研究分野になりつつある。新しい試みとして本書では、主として社会学を切り口に学習社会学理論を試行・展開、さらに具体的なケーススタディを取り上げて学習社会学研究の一端を提示する。

子どもの「教育を受ける権利」に焦点を当てて、西洋の教育思想の流れを、多数の思想家たちや教育事象のイラストや写真などを取り入れて、わかりやすく簡潔に記述。絵で見る教育史テキストとしてユニーク。巻末資料に西洋と日本の教育思想年表を付す。

アメリカ教育史の大家が、教育委員会発祥の地アメリカにおける教育委員会と教育長の歴史と、両者の権限をめぐる闘争を考察し、公教育の統制の在るべき姿を提言。併せて、名著『教育と能率の崇拜』執筆と出版の秘話や恩師 G.S. カウンツの評伝を通して、アメリカ教育史の特質を示唆する論文集。

国家の枠組みを超えて解決が模索されなければならない問題、又逆に異文化との共生が追求されなければならない事態が出現している。本書がアメリカで刊行されて20年、デューイの哲学の多時代的な性質を明らかにし現代の問題に我々が取り組むべき導きとする。

感性は、造形表現活動を媒介として、いかなるメカニズムで発達するのであろうか。乳幼児期、学童期、青年期、成人期にわたる人間の感性が、発生・発達し、美的感性にまで高次化する過程や、人格発達に寄与する全過程のメカニズムを探る。

国際比較と学校から仕事への移行という視点に基づき、日本の職業教育、主に高等学校段階の職業教育と短期高等教育における職業教育に視点を絞って、可能なかぎりそれらの全体像と特質を描き、職業教育理解の方法論を提示した。

就職難の時代に、現代の若者はどのようにしてこの難局を乗り越えていけばよいのだろうか。さらには、企業内外での若者のキャリア形成を論じることにより、今後の就職とキャリア形成のありかたを提言する。

——知識をどのように活かすか、どのように物を考えるか、圧力を伴わない教育は教育の名に値しない——同志社大学名誉教授の著者がアーモスト大学で学び、ハーヴァード大学で在外研究を行った経験から熟成された新島襄研究、英学史研究、リベラル・アーツ教育に対する20年間にわたる思いを1冊にまとめた集大成。

伊藤彌彦 著

明治思想史の一断面

—新島襄・徳富蘆花そして蘇峰—

2132-7 A5判・232頁・2,300円(本体価格)

窮屈な徳川社会から密出国した青年新島襄がアメリカで発見した市民社会、それを新日本に生かそうと学校事業に命をかける人生。新島に協力する徳富蘇峰。維新の混乱期に5歳で性的トラウマを刻印され、「うじうじした恋」しかできない徳富蘆花の痛々しい文学人生。

伊藤彌彦 著

**のびやかにかたる
新島襄と明治の書生**

1087-0 四六判・170頁・2,000円(本体価格)

名文で定評のある著者が新島襄の幼少年期・異文化体験・育英事業について等身大の視点から迫るとともに、襄の弟子、徳富蘇峰の修学履歴・心の傷・転向について新資料を用いてかたる。新島襄と徳富蘇峰を介して明治という時代を瑞々しい筆致で描いた好著。

同志社大学人文科学研究所 編

**アーモスト大学と
同志社大学の関係史**

同志社大学人文科学研究所研究叢書 XLV

2432-8 A5判・250頁・3,400円(本体価格)

同志社大学人文科学研究所において12年間にわたって継続された共同研究の成果。校租新島襄が学んだアーモスト大学と同志社大学との関係を記述し、リベラル・アーツカレッジ思想、新島襄の同志社設立理念、大学構想を理解するために必読の書。

宇治郷毅 著

石坂荘作の教育事業

—日本統治期台湾における地方私学教育の精華—

2418-2 A5判・164頁・2,200円(本体価格)

1896年に台湾に渡って以来、1940年に台湾で逝去するまでの約45年間、その主たる活躍の場を台湾北部に定めて度量衡器など販売の一人商して生涯を全うした日本人、石坂荘作の教育事業についての戦後初の本格的論考。

滝内大三 著

未完の教育学者

—谷本富の伝記的研究—

龍谷叢書 XXXIII

2509-7 A5判・466頁・5,800円(本体価格)

谷本富(とめり)はこれまで言われてきた「敗北の教育学者」ではなく、その思想が未完であったがゆえに、「未完の教育学者」と呼ぶにふさわしい。平等性と「いのち」の尊さを、宗派を超えた「宗教教育」に求めた谷本の、その等身大の姿をいきいきと描く。

雀誠姫 著

近代朝鮮の中等教育

—1920～30年代の高等普通学校・女子高等普通学校を中心に—

3129-6 A5判・370頁・8,900円(本体価格)

本書は1920～30年代、近代朝鮮における中等教育を、朝鮮総督府の政策、朝鮮人社会、生徒の三者について、一次資料を用い多角的な視点で論じたものである。朝鮮教育史研究において、中等教育の分野を補完する労作。

大谷照裕 著

人間学読本

1691-0 四六判・160頁・1,600円(本体価格)

暴走し続ける「いのち」をとりまく環境(科学)。私たちはこの暴走に歯止めをかける英知と勇気を持ち合わせているのだろうか。「できること」と「してよいこと」のボーダーはどこにあるのか。古くて新しくもある「人間学」という学際分野から、21世紀の「いのち」のあり方を改めて問う。

小島律子・澤田篤子 編

音楽による表現の教育

—継承から創造へ—

0994-5 A5判・350頁・3,400円(本体価格)

すでに出来上がったものを継承する教育から何かを創造する教育への転換を、音による表現活動から考察。継承されてきた文化を背景として、人のうちなるものと表現媒体との対話の中で行われる営みの中で、子どもの育ちと作品の創造との関わりを明らかにする。

ジョン・P. ミラー 著

中川吉晴 監訳

魂にみちた教育

—子どもと教師のスピリチュアリティを育む—

2082-5 A5判・256頁・2,900円(本体価格)

エマソンの「魂の哲学」を根底に置き、トマス・ムーア等の「魂の心理学」に触発されながら、「魂の教育」を描きだした。教育に魂をとりもどす必要性や、魂の意味を説明したあと、魂の教育を具体的に描出。魂にみちた学校と教師のありかたをここに再度問う!

ネル・ノディングス 著

立山善康・林 泰成・清水重樹・宮崎宏志・新 茂之 訳

ケアリング

—倫理と道徳の教育—女性の観点から—

0948-6 A5判・338頁・4,000円(本体価格)

「そもそもわたしたちは、なぜ道徳的でなければならないのか」。ケアの倫理は道徳の起源を問い直す。本書は、女性倫理としてのケアリングをはじめて包括的に分析して、新たな人間理解を追求するとともに、教育の根本改革を中心に、将来の社会像を展望する。

中野啓明・伊藤博美・立山善康 編

ケアリングの現在

—倫理・教育・看護・福祉の境界を越えて—

1721-4 A5判・240頁・2,700円(本体価格)

佐野安仁・荒木紀幸 編著

第4版 道徳教育の視点

3045-9 A5判・264頁・2,500円(本体価格)

沢田誠二 著

アヘンさよなら、学校こんにちは

—世界で最も多量にクラスター爆弾が残る国・ラオス—

2456-4 四六判・128頁・1,400円(本体価格)

久保田賢一 編著

高等教育におけるつながり・ 協働する学習環境デザイン

—大学生の能動的な学びを支援する
ソーシャルメディアの活用—

2452-6 A5判・254頁・2,500円(本体価格)

高嶋哲夫 監修・近藤隆己 編

ネクスト私学

—教育新時代に挑む19の変革物語—

2820-3 A5判・331頁・1,500円(本体価格)

高嶋哲夫 監修・近藤隆己 編

ネクスト私学Ⅱ

—未来型グローバル教育へ変革する20校の挑戦—

2952-1 A5判・1,500円(本体価格)

早田幸政・望月太郎 編著

大学のグローバル化と内部質保証

—単位の実質化、授業改善、アウトカム評価—

2359-8 A5判・132頁・1,500円(本体価格)

細川 孝 編著

日本の大学評価

—歴史・現状・評価文化—

龍谷大学国際社会文化研究所叢書 12

2376-5 A5判・222頁・2,400円(本体価格)

京都経済短期大学・職員研究会 編著

大学教育と地域社会

2111-2 A5判・242頁・2,000円(本体価格)

日本保育ソーシャルワーク学会 編著

改訂版 保育ソーシャルワークの世界

—理論と実践—

3085-5 A5判・202頁・2,000円(本体価格)

「21世紀はケアの時代である」と言われる。本書はさまざまな分野の専門家が、ケアする行為をテーマに一同に会した、学際的な論文集であり、ケアの倫理を手がかりにして、現代の動向を眺望し、また、これからの社会が進むべき方向性を展望した見取り図である。

現代の道徳的状况を分析しつつ道徳教育のあり方を多様な視点から問い直し、複雑な道徳問題の解明を試みている。前半では「道徳的不一致」の原因を追求し、道徳教育の新しい方法を、後半では多様な道徳論の視点から問題の解明を取り上げている。

今でも不発弾のせいで手首、目を失う人がいる。しかし、学校が地域を変える。「爆弾ではなく学校を、地雷ではなく教科書を」を合言葉に、図書館、学校校舎のボランティアに携わってきた一教育者の実践記録！学校の力を問う！

教育においてインターネットを活用した多様な人とのつながり、協働によるコミュニケーションや問題解決能力の獲得は、大きな可能性を秘めている。本書では、ソーシャルメディアを高等教育でどのように活用しているか、その効果はどのようなものか、事例を挙げ新しい学習のあり方を紹介。

日本各地で大胆な変革を遂げ、多数の志願者を集めている学校がある。そのなかの19校をピックアップし、それぞれの試行錯誤の歴史をたどり、さらなる高みを目指すこれからの学校運営の姿を描きだす。

グローバル時代に対応する教育を創るため、改革による劇的な進化・成長を遂げた20校をピックアップ。「学校は変わることができる」をテーマに未来を見据えた学校運営の発展を描きだす。『ネクスト私学』に続く第二弾。

今日、大学教育の国際的通用性が求められる中、学位に見合った知識・能力・スキルを学生が培うことができる教育を効果的に行うことが求められている。本書は、大学教育の実質化と質保証のあり方を探り、そうした課題にグローバルな視点からアプローチする。

日本における大学評価は認証評価と国立大学法人制度の発足によって、2004年以降に新たな展開を見せている。本書は、日本における大学評価の歴史と現状を批判的に考察する。そして、「評価文化」を視野に、「もう一つの大学評価」をめざした大学評価論を試みる。

これからの大学のあり方を考える上で重要となる「大学教育」と「地域社会」に焦点を当て、大学職員の視点からその方策について検討する。「第Ⅰ部大学による地域連携活動の現代的意義」「第Ⅱ部地域社会の活性化と市民活動」「第Ⅲ部京都経済短期大学洛西・地域研究センターの取り組み」

保育所・幼稚園等保育施設や地域社会においてますます注目されてきている保育ソーシャルワークの世界について、理論と実践の両面から、その現状と問題点、課題を鋭く解明。大変好評を博した旧版発行以来の新たな動向や理論、実践をできる限り反映させた改訂版。

日本保育ソーシャルワーク学会 監修
鶴 宏史・三好明夫・山本佳代子・柴田賢一 責任編集

保育ソーシャルワーク学研究叢書 1 保育ソーシャルワークの思想と理論

3091-6 A5判・202頁・2,200円(本体価格)

保育ソーシャルワークについて考究する日本保育ソーシャルワーク学会の監修による日本初の「保育ソーシャルワーク学講座」の第1巻。保育ソーシャルワークの理論と思想の領域から、保育ソーシャルワーク学の現段階と課題を徹底的に解明。学会創立5周年記念出版。

日本保育ソーシャルワーク学会 監修
永野典詞・伊藤美佳子・北野幸子・小口将典 責任編集

保育ソーシャルワーク学研究叢書 2 保育ソーシャルワークの内容と方法

3093-0 A5判・218頁・2,200円(本体価格)

保育ソーシャルワークについて考究する日本保育ソーシャルワーク学会の監修による日本初の「保育ソーシャルワーク学講座」の第2巻。保育ソーシャルワークの内容と方法の領域から、保育ソーシャルワーク学の現段階と課題を徹底的に解明。学会創立5周年記念出版。

日本保育ソーシャルワーク学会 監修
伊藤良高・櫻井慶一・立花直樹・橋本一雄 責任編集

保育ソーシャルワーク学研究叢書 3 保育ソーシャルワークの制度と政策

3094-7 A5判・208頁・2,200円(本体価格)

保育ソーシャルワークについて考究する日本保育ソーシャルワーク学会の監修による日本初の「保育ソーシャルワーク学講座」の第3巻。保育ソーシャルワークの制度と政策の領域から、保育ソーシャルワーク学の現段階と課題を徹底的に解明。学会創立5周年記念出版。

伊藤良高 編著

第2版 教育と福祉の課題

2855-5 A5判・246頁・2,600円(本体価格)

すべての人間の「幸福」を実現する教育と福祉とは、「教育と福祉の統一」をめざして、現代日本を代表する教育と福祉の研究者がそれぞれの課題をリアルに解明し、今後の展望を提示する。教育と福祉を取り巻く環境の変化を踏まえ、内容を大幅にリメイクした最新版。

伊藤良高 著

教育と福祉の基本問題

—人間と社会の明日を展望する—

3099-2 A5判・292頁・3,000円(本体価格)

全ての人間の幸福の実現に向けて、1人1人の生涯にわたる人間形成を豊かにする教育、福祉とはいかなるものか、その理論と実践についてトータルに考察する。国内外の教育と福祉における最先端の諸問題を解き明かすことで、人間と社会の明日を展望する意欲的な書。

伊藤良高 編著

増補版 幼児教育行政学

3104-3 A5判・162頁・1,700円(本体価格)

幼児教育・保育の無償化など、国家教育戦略としての幼児教育論が盛んに展開される中において、幼児教育の振興に係る幼児教育行政が果たすべき役割とは一体何か。好評を博した日本初の「幼児教育行政学」と銘打った旧著の増補版。全ての幼児教育関係者必携・必読の書。

伊藤良高・冨江英俊 編

教育の理念と思想のフロンティア

2873-9 A5判・118頁・1,300円(本体価格)

教育の目指す方向性やあるべき姿を指し示す教育(とりわけ学校教育)の理念と思想について、その歴史、現状、課題を理論的かつ実践的に考察。「教育とは何か」という古くて新しい根源的な問いに、教育学及び関連分野の第一線で活躍する研究者・実践者が鋭く迫る。

伊藤良高・下坂 剛 編

人間の形成と心理のフロンティア

2712-1 A5判・128頁・1,300円(本体価格)

人間形成の過程において心はどのように育つのか。また、そこにおける課題は何か。乳幼児期から高齢期までの「心身の健やかな発達」という観点から、理論的かつ実践的に鋭く考察する。心理学のみならず、関連する人間諸科学の最新の成果を織りまぜながら論述。

伊藤良高・永野典詞・三好明夫・下坂 剛 編著

新版 子ども家庭福祉のフロンティア

2611-7 A5判・116頁・1,300円(本体価格)

子どもの幸福と保護者の幸福の実現という視点から、現代の子ども家庭福祉をめぐる論点と課題について鋭く考究。好評を博した『子ども家庭福祉のフロンティア』の全面リメイク版。子ども家庭福祉を学ぶ学生や現任保育者・教師、子ども家庭福祉関係者必読・必携の書。

伊藤良高・冨江英俊・大津尚志・永野典詞・冨田晴生 編

道徳教育のフロンティア

2570-7 A5判・150頁・1,500円(本体価格)

今、改めて、道徳教育のあり方が問われている。1人1人の子ども・若者の「人格の完成」をめざす道徳教育はどうあるべきか。乳幼児期から高等教育期まで、家庭から園・学校、地域社会まで、そして国際的動向を視野に入れながら、多面的かつ総合的に解明する。

中谷 彪・伊藤良高 編

学校教育のフロンティア

1844-0 A5判・134頁・1,300円(本体価格)

今、わが国では教育再生に向けて、政府主導で様々な教育改革が進められている。しかし、それらは、教育新時代を切り開くことができるであろうか。子どもの幸福を実現する教育と教育環境はどうあるべきかという視点から、学校教育の現状と問題点、改善点を探る。

中谷 彪・伊藤良高 編

現代教育のフロンティア

1687-9 A5判・114頁・1,300円(本体価格)

教育改革の連続で、教育は荒廃状況下にある。本書は、子どもの健全な成長と発達を願う真摯な親と教師を支援し、子どもの幸福を実現する教育と教育環境を実現しようとする執筆者たちが現代の教育と学校と家庭の在り方を論じた教育原理論である。

伊藤良高・中谷 彪 編

教育と教師のフロンティア

2433-5 A5判・158頁・1,700円(本体価格)

子ども・若者を取り巻く環境の変化のなかで、子ども・若者の幸福(心身ともに健やかな育ち)を保障する教育のあり方について原理的、実践的に考察。特に保育者・教師をめぐる状況に焦点を当て、今何が必要か、課題となっているかを探究する教育関係者必読の書。

伊藤良高・大津尚志・中谷 彪・永野典詞・富田晴生 編

新版

生徒指導のフロンティア

2436-6 A5判・176頁・1,800円(本体価格)

文部科学省『生徒指導提要』を踏まえながら、生徒指導の新たな理論を切り拓こうとする意欲作。学校のみならず家庭や地域を視野に入れるとともに、乳幼児期から青年期までを対象とした具体的な実践論を展開する。好評だった『生徒指導のフロンティア』の新版。

伊藤良高・永野典詞・大津尚志・中谷 彪 編

子ども・若者政策のフロンティア

2335-2 A5判・126頁・1,300円(本体価格)

子ども・若者をめぐる問題が多様化・複雑化するなかで、ようやく注目され始めた「子ども・若者政策」または「子ども・若者育成支援」について、保育、教育、社会福祉、保健医療、矯正、更生保護、雇用などの諸分野から、その現状と課題、展望に鋭くせまる。

伊藤良高・大津尚志・中谷 彪 編

新教育基本法のフロンティア

2117-4 A5判・122頁・1,300円(本体価格)

新教育基本法とそれに続く一連の教育改革は、子どもの幸福を実現する教育と教育環境をはたして実現できるのだろうか。新教育基本法の解説を通して、現代教育をめぐる論点と課題を鋭く提示し、これからの教育に求められるグランドデザインを構想する注目の書。

伊藤良高・大津尚志・永野典詞・荒井英治郎 編著

教育と法のフロンティア

2612-4 A5判・140頁・1,400円(本体価格)

基本的人権としての教育という観点から、教育と法をめぐる諸問題にアプローチし、その現状と課題について構造的かつ総合的に考察。好評を博した『新教育基本法のフロンティア』の改題新版、『ポケット教育小六法(各年版)』と併せ読むことで、さらなる学習効果が期待できる。

伊藤良高・伊藤美佳子 著

乳児保育のフロンティア

3025-1 A5判・118頁・1,300円(本体価格)

乳児・3歳未満児と子育て家庭をめぐる現状、論点、課題を明らかにし、乳児保育の新たな理論と実践を提起する保育界注目の書。保育所、認定こども園、乳児院等における保育実習をはじめ、保育現場で役に立つ知識・技術を満載している。指針の改定内容に対応。

伊藤良高・宮崎由紀子・香崎智郁代・橋本一雄 編

保育・幼児教育のフロンティア

3021-3 A5判・174頁・1,800円(本体価格)

就学前におけるすべての子どもの健やかな育ちの実現をめざし、保育・幼児教育及び保護者に対する子育て支援に求められるものは何か、その最新の理論と実践について検討した保育・幼児教育関係必携の書。指針、要領、教育・保育要領の改定(訂)内容に対応。

中谷 彪 著

子育て文化のフロンティア

—伝えておきたい子育ての智恵—

1793-1 A5判・126頁・1,300円(本体価格)

日本と世界の「子育て文化」の歴史的考察と日本の庶民の「子育ての知恵」の遺産の考察を通して、その遺産の継承の重要性と、その遺産の組織化こそ公教育の在り方であると主張し、現代の「子育て」の在り方の示唆と、新しい学としての「教育民俗学」を提唱する。

伊藤良高・永野典詞・中谷 彪 編

保育ソーシャルワークの フロンティア

2234-8 A5判・128頁・1,300円(本体価格)

近年、大きな脚光を浴びつつある保育ソーシャルワークについて、保育実践、保護者支援・子育て支援をめぐる諸問題を取りあげながら、その現状と課題、展望について考究。保育ソーシャルワークの理論と実践の最前線を明らかにし、多角的にそのあり方を提言する。

伊藤良高・中谷 彪・北野幸子 編

幼児教育のフロンティア

2051-1 A5判・134頁・1,300円(本体価格)

小学校就学前のすべての子どもの生活と発達の保障をめざす「幼児教育」について、今、何が求められているか、課題となっているか、その理論と実践の最前線をわかりやすく解き明かしたテキスト。幼稚園教育要領・保育所保育指針改定などの新動向をすべて網羅。

中谷 彪・臼井英治・大津尚志 編

特別活動のフロンティア

1949-2 A5判・152頁・1,500円(本体価格)

大学・短大で教員免許状の取得を希望する学生にとって、「特別活動」の学習に活用できる最適のテキスト。「特別活動の理論」「小学校・中学校・高校の特別活動の各領域の指導」「諸外国の特別活動」の構成で、教員採用試験対策にも配慮。

大津尚志・伊藤良高 編著

新版

教育課程論のフロンティア

3090-9 A5判・130頁・1,400円(本体価格)

教育課程論について法令、歴史、政策動向、実践、評価、経営、外国との比較などの観点から多角的な検討を企図している。大学の教職課程での学習にも使用することができる。新版学習指導要領及び最近の政策動向にも対応。

中谷 彪・伊藤一雄・大津尚志・伊藤良高 編

教育課程論のフロンティア

2177-8 A5判・126頁・1,300円(本体価格)

教育課程、カリキュラムを定義、歴史、法制、内容、経営、校種間・学社連携、外国との比較など多角的観点から論じている書。各校種別の最新版教育要領・学習指導要領に対応。大学の教職課程における学習や教員試験対策にも利用可能。

大学評価学会年報編集委員会 編

大学評価学会年報『現代社会と大学評価』

A5判・2540-0	第8号・190頁・1,800円(本体価格)†
A5判・2577-6	第9号・10合併号・292頁・2,200円(本体価格)†
A5判・2658-2	第11号・266頁・1,800円(本体価格)†
A5判・2798-5	第12号・120頁・1,800円(本体価格)
A5判・2941-5	第13号・136頁・1,800円(本体価格)
A5判・3171-5	第14号・172頁・1,800円(本体価格)
A5判・3254-5	第15号・108頁・1,800円(本体価格)

シリーズ「大学評価を考える」編集委員会

シリーズ「大学評価を考える」

A5判・2291-1	第4巻・108頁・1,000円(本体価格)†
A5判・2246-1	第5巻・218頁・1,900円(本体価格)†
A5判・2457-1	第6巻・160頁・1,400円(本体価格)†
A5判・2765-7	第7巻・110頁・1,400円(本体価格)
A5判・3128-9	第8巻・182頁・2,000円(本体価格)

福 祉

関根 薫著

高齢期の幸福な老いとエイジズム

3272-9 A5判・188頁・2,800円(本体価格)

スーザン・シーハン 著
西尾祐吾 監訳・上田純子 訳

じゃあ、どうしろっていうのさ!

—ウエルフェア・マザーの素顔—

3161-6 四六判・168頁・1,800円(本体価格)

立花直樹・安田誠人・波田埜英治 編著

保育者の協働性を高める 子ども家庭支援・子育て支援

—「子ども家庭支援論」「子ども家庭支援の心理学」「子育て支援」を学ぶ—
3181-4 A5判・312頁・3,000円(本体価格)

小池清廉著

ケアの技術と倫理

3262-0 A5判・102頁・1,300円(本体価格)

塚 恵著

児童扶養手当制度の形成と展開

—制度の推移と支給金額の決定過程—

3253-8 A5判・368頁・6,600円(本体価格)

西尾祐吾 監修
小崎恭弘・藤井 薫 編著

第3版

子ども家庭福祉論

2850-0 A5判・204頁・2,200円(本体価格)

望月 昭・中村 正・サトウタツヤ 編著

「対人援助学」キーワード集

2065-8 A5判・254頁・2,200円(本体価格)

皇學館大学社会福祉学部 編

社会福祉 Q&A 100選

1668-2 四六判・200頁・1,300円(本体価格)

関西人間学会 編

改訂版

解説社会福祉六法・関係法事典

1785-6 四六判・280頁・1,900円(本体価格)

高齢期における幸福な老いとエイジズム(高齢者差別)に關するこれまでの理論を整理し、社会調査による量的データ分析から主観的幸福感、自己実現傾向、加齢肯定意識ならびにエイジズムの規定・関連要因について実証的な検討を行う。これからの時代の新たな高齢者像による社会を目指すための一冊。

公的扶助を受けつつ、複数の相手との間に9人の子どもをもうけ、「ウエルフェア・マザー」として生きていく主人公。虐待、賭博、薬物、非行など様々な問題が発生する日常。貧困がもたらす社会的排除・不平等と世代間の連鎖がどのような様相を帯びているのか、より深く考えるきっかけとなる一冊。

「子ども家庭支援論」「子育て支援」「子ども家庭支援の心理学」の3科目に再編された保育養成カリキュラムの改正に伴い、本書ではこれら関連分野を網羅しつつ系統的に1冊に工夫してまとめた。実践例とワーク(演習)も収録され、学生にわかりやすい内容としたテキストとして最適の1冊。

福祉の現場で起きるさまざまな問題の解決糸口をケアの技術向上に見出し、ケアに携わる職員がチームとして日常的に取り組むべき方法とその意義についてまとめた、福祉に関心がある方のための一冊。

近年、ひとり親世帯の子どもの貧困対策の一つとして、児童扶養手当制度が注目されている。本書は、受給者にとって切実な問題である支給金額に着目し、その推移と決定が「児童の福祉の増進」といった視点からなされているのかを問直すものである。

「社会の中で子どもを守り、育てる」という児童福祉の普遍的な原点を学ぶためのテキスト。好評の第2版をもとに、法改正・制度改革を踏まえて掲載データ・記述を up to date な内容とし、新たに「子どもの貧困」の章を追加。よりわかりやすく平易な記述に改めた第3版。

他者を「教える」でも「治す」でもない、「助ける」とはいかなる行為か。本書では、「他者を助ける」「対人援助」という行為の固有な意味と方法論を問直すためのキーワード373語をまとめた。共生のための社会的関係を考えるヒントが満載の1冊。

本書は、Q&A方式により社会福祉言論・理念、社会福祉法制・政策、高齢者福祉、児童・家族福祉、障害者福祉、女性福祉、医療福祉、企業・産業福祉、国際福祉、福祉国家、人権理解など読者の最も関心の高い100の福祉テーマをわかりやすく詳細に解説。

本事典は、大学・短大・専門学校・高校で社会福祉を学ぶ人たちの学習と理解を深めるために、また国家試験の受験生や福祉実践現場の職員が社会福祉法および関係法の確認のために欠くことが出来ない法令を丁寧に解説したものである。

道中 隆著

第2版

貧困の世代間継承

—社会的不利益の連鎖を断つ—

2776-3 A5判・232頁・2,800円(本体価格)

大阪ソーシャルワーカー協会 編

大阪の誇り

福祉の先駆者たち

—挑戦の軌跡—

2459-5 A5判・156頁・1,800円(本体価格)

大阪ソーシャルワーカー協会 編著

大阪の誇り2

米騒動と社会福祉

—時代を超えた実践—

3106-7 A5判・124頁・1,600円(本体価格)

ミシェル・ドレフュス 著
深澤 敦・小西洋平 訳

フランスの共済組合

—今や接近可能な歴史—

2867-8 A5判・210頁・2,400円(本体価格)

鶴 宏史 編著

障害児保育

3036-7 B5判・278頁・3,000円(本体価格)

木曾陽子 著

発達障害の可能性がある

子どもの保護者支援

—保育士による気づきからの支援—

2703-9 A5判・156頁・2,400円(本体価格)

近藤達郎ほか 編

ダウン症者・家族が

幸せに暮らすために

2284-3 四六判・276頁・2,200円(本体価格)

李 義昭 著

日本の近代化と障害者

2416-8 A5判・246頁・5,100円(本体価格)

加藤博史 著

共生原論

2188-4 A5判・300頁・3,400円(本体価格)

徳永哲也 著

たてなおしの福祉哲学

日本図書館協会選定図書

1908-9 四六判・208頁・1,900円(本体価格)

「子どもの貧困」から「大人の貧困」へ連鎖する負のスパイラル。自助努力の限界と、一旦貧困に陥ると自力で這い上がることができず格差が固定化する「漏斗社会」、生活困難層を対象とした実態調査から貧困の姿を明らかにし、喫緊の政策課題を提言する。

明治以来、福祉の先進地域として全国に先駆けて発達してきた大阪の社会福祉の歴史を、時代別に58の項目として読み易くまとめた。第一線の現場で社会福祉に従事してきた執筆者たちが、福祉の先人たちの辛苦とそれを乗り越えた先駆性を解説する。

米騒動が日本に与えた大きな衝撃。それは、さまざまな社会福祉事業が生み出される契機となりました。米騒動の教訓を本書で振り返り、どのような人々がその役割を担い、どのような社会福祉事業が生み出されたのか、本書は、これからの社会福祉をとともに考え、将来を展望するための一助となることを想い編纂された。

フランスは公的医療保険への加入とともに、医療費の自己負担部分を対象とする「補足的医療保険」として民間医療保険の団体契約への加入が強制されている。この制度の成立に深くかわり医療のみならず社会保護でも必要不可欠な役割を果たす「共済組合」の形成について解明。

障害児保育に求められる理念・価値、知識、方法・技術に関する最新知見と、平成30年度から実施される保育所保育指針などを盛り込み、障害児保育についてしっかりと学ぶことができるテキスト。現任の保育者の振り返りや研修にも最適。

保育現場では、未診断の発達障害の可能性のある子どもたちに出会う。子どもの障害の早期発見と支援を望みながらも、障害を受け入れられない保護者のために保護者の気づきを待つ保育士の苦悩・葛藤を分析。保育士と保護者それぞれを対象とした調査の結果から、保育士の役割、保護者支援の具体的方法と課題を提示する。

ダウン症関係者24人の手記と、専門医からの提言を併載。手記ではダウン症当事者を年齢別に記載し、その最高年齢は58歳となっている。出生前診断の是非、普通学級か、支援学級か? いじめ、そして学校の対応、現在のダウン症をとりまく問題をえぐり出し、そして人が生きる意味を問う。

「近代化」という標語のもとに突き進んできた時代は、障害者に何をもちらしたのか? 「福祉社会」や「共生社会」が次なる標語となりつつあるいま、過去の様々な政策を再度問い直し、障害者との「共生」のかたちを模索する。

本書では、共生を相互の自己実現を目的とするものであると定義し、自立的・普遍的・互恵的共生を実現する価値観を問うた。死にゆく人、罪を犯した人との共生、内なる死と罪との共生を探求し、共生を担保する基本的人権の保障、生活世界の再生の意味を考察した。

福祉という最も「人間味が問われる」分野にいながら、じっくり人間を考える余裕がない現状、この現状を「哲学の欠如」と捉え、福祉の学びにも実践にも哲学的思考力を基盤に捉えるのが本書の目的。乱高下する福祉をたてなおすための福祉哲学入門書。

村本邦子・土田宣明・徳田完二・春日井敏之・望月 昭 編

対人援助学を拓く

2460-1 菊判・370頁・3,000円(本体価格)

望月 昭・村本邦子・土田宣明・徳田完二・春日井敏之 編著

対人援助学の到達点

2461-8 菊判・224頁・3,000円(本体価格)

村本邦子・中村 正・荒木穂積 編著

臨地の対人援助学

—東日本大震災と復興の物語—

2648-3 菊判・214頁・2,000円(本体価格)

中井良育 著

介護人材の確保と職場定着策

—施設介護職員のキャリアと人材育成の視点から—

3087-9 A5判・256頁・3,500円(本体価格)

岩崎久志 著

看護・チーム支援に活かす カウンセリング

—対人援助、多職種連携に必要なコミュニケーション技術—

2580-6 A5判・206頁・2,400円(本体価格)

三宅正伸 著

自治体経営の人的資源管理

—福祉専門職における拙速な民営化への警鐘—

2738-1 A5判・156頁・1,700円(本体価格)

小林明子 著

グローバルな地域福祉実践への視座

—福井県とマレーシアと CBR
(地域住民参加型リハビリテーション)—

福井県立大学県民叢書Ⅻ

2355-0 四六判・230頁・1,500円(本体価格)

公益社団法人日本医療社会福祉協会 編著

改訂版

交通事故被害者の生活支援

—医療ソーシャルワーカーのための基礎知識—

2831-9 B5判・164頁・2,000円(本体価格)

杉本敏夫 監修 家高将明 編著

現代ソーシャルワーク論

—社会福祉の理論と実践をつなぐ—

2536-3 A5判・174頁・2,000円(本体価格)

遠塚谷富美子・豊田志保・野村恭代 編著

キーワードと22の事例で学ぶ ソーシャルワーカーの仕事

2415-1 A5判・176頁・2,200円(本体価格)

人を「教える」「なおす」「計る」でなく「助ける」という社会行為に特化した「対人援助学」。これをで学び、現場で実践した成果はいかなるものとなったか。「家族・コミュニティ・社会」「人間発達」「臨床心理学」「人間形成」「行動成立」の各領域から27の実践報告を収録し「対人援助学」のさらなる発展を目指す。

諸学・諸職制の連携と融合、そしてアドボカシー・オリエンテッドを標榜する新しい学問領域「対人援助学」を世に問い、どのように実践展開できるのか。「家族機能・社会臨床」「発達・福祉臨床」「臨床心理」「人間形成・臨床教育」「障害・行動分析」の各領域15人の研究・教育者からの提唱。

本著は、東日本大震災に対して、被災地と遠隔地の対人援助者たちが出会い、連帯しながら、人々、家族、コミュニティに寄り添いながら、当事者と対人援助者たちが共に復興の物語をつくっていかうとする記録である。

本書は、「介護サービスの質に与える影響」「仕事と職場の継続意欲に与える影響」「事業主が取り組む職場定着や人材育成の効果」という3つの問題意識から、職業キャリアに着目し人材育成の視点を中心に介護人材の確保と定着策のあり方を検討したものである。

本書は、カウンセリング理論をベースに、有効なチーム支援を行うための知識と技法をやさしく解説。対人援助職の基本姿勢としての傾聴やコミュニケーションの技法、自己理解についても述べ、精神的負担が大きく感情コントロールが求められる援助者自身のメンタルヘルスについても考察する。チームによる看護・支援をより有効にするための方法とヒントが満載の一冊。

経営学研究者にとっては空白地帯であった自治体経営における人的資源管理を、著者自身による聞き取り調査やアンケート調査、自らの経験によって、稚拙な民営化より現有人的資源の底上げが重要と仮説し、実証・論証する。

本著は、青年海外協力隊の福祉隊員としてマレーシアでの活動経験をもつ筆者が、地域における障がいのある人の生活の質を高める実践活動の視座としてきたCBR(コミュニティ・ベースド・リハビリテーション)について、国内外の実践事例を踏まえて紹介している。

本書は、交通事故被害者の生活支援にあたる全ての人にとって必携の書。自動車損害保険の仕組みや各種保険、生活保護制度などとの関連性、医学的知識、被害者の心理的ケア、経済的支援などについてわかりやすく解説し、支援事例を通して、実践に活かせる方法も紹介する。

ソーシャルワークの実践や援助過程について、基礎的理論の解説をした上で、キーワード解説やそれらの活用方法について、医療や学校、高齢者施設など様々な場でのソーシャルワークを具体的な事例で紹介した。社会福祉を学びはじめた人に最適の入門書。

実践経験7年から10年の14人のソーシャルワーカーが、日々の支援の中で何を感じ、悩み、それをどうやって克服していったのか、何を目指し、何を喜びとして仕事をしているのかを紹介。福祉の仕事につきたい人に必ず読んで欲しい生きた教材である。

熊谷忠和ほか 編著

多面的視点からの ソーシャルワークを考える

—研究と実践をつなぐ新たな整理—

2731-2 A5判・234頁・2,800円(本体価格)

ジョナサン・パーカー 著
村上 信・熊谷忠和 監訳

これからのソーシャルワーク実習

—リフレクティブ・ラーニングのまなざしから—

2350-5 A5判・234頁・2,600円(本体価格)

西尾祐吾・橋高通泰・熊谷忠和 編著

ソーシャルワークの固有性を問う

—その日本の展開をめざして—

1653-4 A5判・198頁・2,300円(本体価格)

アン・マクドナルド 著
杉本敏夫 監訳

高齢者福祉とソーシャルワーク

—現代的な課題—

2352-9 A5判・260頁・2,700円(本体価格)

J. フィリップス, M. ライ, M. マーシャル 著
杉本敏夫 訳

高齢者ソーシャルワーク

1931-7 A5判・234頁・2,500円(本体価格)

ジェリー・L. ジョンソン, ジョージ・グラント・Jr. 編
村上 信・熊谷忠和 訳

医療ソーシャルワーク

—理論と事例検討—

1958-4 A5判・208頁・2,300円(本体価格)

番匠谷光晴 著

医療保障の課題と政策

—医療保障訴訟の事例を通して—

2819-7 A5判・304頁・3,800円(本体価格)

山上賢一 著

現代の社会病理と福祉

—より良い社会を目指して—

2047-4 A5判・218頁・2,500円(本体価格)

遠塚谷富美子・吉池毅志・竹端 寛・河野和永・三品桂子 著

精神病院時代の終焉

—当事者主体の支援に向かって—

2683-4 A5判・196頁・2,400円(本体価格)

西尾祐吾 監修
上續宏道・安田誠人・立花直樹 編著

福祉と教育の接点

2519-6 菊判・200頁・2,800円(本体価格)

近年社会的支援の必要な人々や状況が顕在化する中、対人援助としてのソーシャルワークの必要性が政策的にも注目されている。わが国のソーシャルワーク研究の現状を踏まえつつ、マルチシステム Multi-Systemic な視点からソーシャルワーク研究や実践を捉えなおす。

福祉の問題が複雑化するわが国において、効果的な生活支援をはかる実践力のあるソーシャルワーカー養成は緊急の課題と言える。本書は英米の専門援助職育成方法による事例研究をつうじて、学び手が実際のソーシャルワーク実習での体験を「ふり返し」、今後に関与する実践的知識に変える能力を養うものである。

本書は、ソーシャルワークの本質的かつ理論的整理を踏まえ、実践現場における関連領域・方法すなわち教育、保育、医療、精神医療、看護、介護、ホームヘルプ、ケアマネジメント、カウンセリングなどの際立たせを検証することで、その固有性を追究するものである。

高齢者ソーシャルワークの背景や脈絡に関して調査研究をベースに掘り下げた本書は、高齢者ソーシャルワークの枠組みを利用して、高齢者に関する問題や課題を歴史的な発展過程の理解も利用しながら包括的に研究した翻訳書である。

高齢者とその家族の援助活動に関して理解したいと考えるソーシャルワーカーやそれらを学ぶ学生を主な対象に、高齢者ソーシャルワークを取り巻く脈絡、実践的な課題についてまとめた。

さまざまな保健医療現場におけるソーシャルワーク実践の過程に焦点をあてた事例集。特に、今、アメリカで注目されているソーシャルワークの理論アプローチ「マルチ・システム・アプローチ (AMS)」と、その理論をもとに展開されている典型的な医療領域の4事例を紹介する。AMSは、わが国の医療ソーシャルワークの展開にも活用が可能である。

医療保障は全ての国民に社会階層の切れ目なく医療を受ける機会を与える普遍的な受療制度である。本書では医療保障の判例をとおり、受療者、医療供給体制、行政の3方向の立場から将来の課題を明らかにし、その具体的な政策に言及している。

本書では、社会病理の理論を概説したうえで、雇用問題、貧困問題、犯罪など個別の現象についてマクロとミクロの視点から考察を進め、これら社会病理現象の克服のための方策を提示する。未来に希望を持って生活できるような福祉社会の実現を願って、社会の目指すべき方向を探る。

精神科医療は変えられるか？ その答えはYESである。これまで「隔離」や「拘束」が当たり前のように行われてきた歴史を振り返りながら、いまだ改革の進まない日本の精神科医療の現実を指摘する。その上で入院中心主義から脱却するための課題や、コミュニティケアにむけた新たな実践的取り組みを紹介する。

本書は教育と福祉について、研究者と福祉現場の実務経験者たちが、その関わりを歴史的に検証した上で、学校不適応や障害児などをめぐる福祉と教育の今日的課題や専門的福祉教育の現状と課題を論じ、福祉の視点から現代の教育のあり方に一石を投じる。

西尾祐吾・末廣貴生子 編

社会福祉援助技術

—保育・介護を学ぶ人々のために—

1963-8 A5判・210頁・2,000円（本体価格）

西尾祐吾 監修

立花直樹・安田誠人・波田埜英治 編著

保育実践を深める

相談援助・相談支援

2849-4 B5判・282頁・2,800円（本体価格）

磯邊厚子 著

スリランカの農園地域における 母子保健

—潜在能力アプローチの視点—

2741-1 A5判・182頁・2,800円（本体価格）

† ソーシャルワーカーは実際の福祉現場で働く際、被援助者への深い人間的理解を必要とされる。援助に性要な知識・実践力・応用力が身につけられるよう工夫され、ソーシャルワークをはじめて学ぶ人にも「わかりやすい手引書」となるよう、議義と実践で使える工夫がなされた教科書。

「相談援助」「保育相談支援」の2科目を厚生労働省のモデルシラバスに基づきながら1冊のテキストとしてまとめた本書は、多くの実践事例とワーク（演習）を収録。子ども・子育て支援新制度の施行に対応し、ソーシャルワークの基礎から「いま保育者に求められるもの」を多彩な視点で学ぶことができる。

スリランカの農園地域で低賃金の重労働を担う女性と子供の生活状況を調査。経済的に困窮する国々の保険問題の改善を具体的に提示する。「健康」を身体能力に限らず、生活の質や生き方の選択性といった、人々の潜在能力を向上させることで問題の解決を図る。

物理・化学・その他

日本材料学会腐食防食部門委員会 編

腐食防食用語事典

2591-2 A5判・294頁・5,500円(本体価格)

大塚尚武著

本書は腐食防食分野の理論と技術を成書や文献により修得を目指す技術者や学生向けに著されたもので、腐食防食に係る基礎用語(材料力学や電気化学など)、また各種の材料、試験、防食や機器分析、さらに腐食ケーススタディなどの重要用語を初心者向けに平易に解説している。

WindowsPCによる材料力学

1967-6 B5判・334頁・3,500円(本体価格)

橋本孝明著

材料力学を基礎から中級までやさしく解説。さらに、実用的な多くの図表や、実際の例題と全ての詳細な解答、パソコンによる解析プログラムフローと数式も掲載。このWindows版計算ソフトは、分りやすく図示された「BeAM」として別売され、設計や自習に便利。

身のまわりから学ぶ流体力学

1665-8 A5判・160頁・2,100円(本体価格)

橋本孝明著

本書では、誰でも関心を持ってもらえるように、身のまわりにある事象を例に取り上げた。たとえば、「タンポポの種が飛ぶわけ」「たなびく煙」、「表面張力」「風」「河川の合流」などを取り上げる。具体的に、かつわかりやすく構成され、気軽に読める流体力学の入門書。

わかりやすい航空工学入門

1512-0 A5判・170頁・2,100円(本体価格)

橋本孝明著

飛行機はなぜ浮かぶのか、なぜ飛べるのかを、空気、翼、エンジンという3つの要素から、できるだけ難しい数学を避け、わかりやすく説明することを主眼として記述されている。流体力学に関する記述は基礎的な内容のみに留めた航空工学入門書。

初歩の熱力学

1835-8 A5判・136頁・1,800円(本体価格)

小波秀雄著

理工科学科の基礎的専門科目のひとつである熱力学の初歩を、難しい数学をできる限り使わずに理解できるようにした入門書。状態変化の関係式、気体のする仕事、エンジンなどの式は細かく記述し、機械系学生諸君が本格的熱力学取得へと無理なく進める入門書。

三訂版

きめめる情報リテラシー

—基本から活用まで—

1758-1 B5判・254頁・2,200円(本体価格)

樋口勝一著

これならわかる!!

教員採用試験・SPI・就職試験対策用 大学生のための数学・理科基礎計算ドリル

2392-5 A5判・190頁・1,300円(本体価格)

現代の読み書き算盤は、ワード、エクセルを軸にした文書、データ処理が中心である。その点をも重視しつつ、軽視されがちなWindowsというOSの仕組みや合理的な使い方、現実の問題に即した情報倫理の問題を、ていねいな解説と豊富な例題で学ぶ。

本書は、教員採用試験、SPI、就職試験に出題される数学や物理の基本問題対策用教材である。特に、数学や物理が苦手な文系学生にとってちょうどよいレベルとなっている。例題とポイントを学習した後に、ドリルとして練習問題を解くことで段階的に実力がつくような構成になっている。

樋口勝一・瀬波大士 著

数学からやり直す!!

大学生のための リメディアル力学入門

1820-0 A5判・196頁・1,500円(本体価格)

樋口勝一・瀬波大士 著

数学からやりなおす!!

大学生のための リメディアル電磁気学入門

1957-7 A5判・162頁・1,300円(本体価格)

本書は、数学が苦手な大学生のために、数学を中学レベルからやり直して、その数学を可能な限り使用して、一から力学を学習するための入門書である。中学レベルの数学から大学初級レベルの数学をドリルで学習してから、力学を単純なケースを用いて学習する形式となっている。

本書は、数学が苦手な大学生を対象に、数学を中学レベルからやり直し、数学を可能な限り利用して、一から電磁気学を学習するための入門書である。中学数学から大学初級レベルの数学、特にベクトル解析をドリルで学習してから、電磁気学を単純なケースを用いて学習する形式となっている。

伊原千晶 編著

薬剤師のこれから

—医療人養成のための教育とは—

2746-6 B5判・170頁・3,200円（本体価格）

横田陽子 著

技術からみた日本衛生行政史

2229-4 A5判・244頁・3,400円（本体価格）

薬剤師業務の中心は対物業務から対人業務へと転換し、薬剤師の職能は劇的な変容を遂げようとしている。人を助けることを生業とする「対人援助職」として機能することが、医師・看護師・臨床心理士・社会福祉士などと共に、薬剤師にも求められるようになった。

明治期以降、感染症・食品・水・大気を検査しデータを生産する部門はいかに誕生し、地方衛生行政として制度化されたか。創設に関わった専門家の動向に注目し、衛生行政と細菌学、医学、栄養学の関係や専門職の成立に触れつつ、日本の衛生行政史を跡付ける。

体育・スポーツ

近畿地区高等専門学校保健体育研究会 編

改訂新版

保健体育概論

3166-1 A5判・264頁・2,700円(本体価格)

菊本智之 編著
前林清和・上谷聡子 著

「運動編」と「保健編」から成り、「からだ」についての認識を現代の健康問題と関係付けて幅広くとらえ、わかりやすく解説した最新版。巻末には保健体育に関する国内外の動きをまとめた年表も収録。生涯スポーツや健康増進のための座右の書としても活用いただきたい1冊。

スポーツの思想

3042-8 A5判・168頁・2,200円(本体価格)

相原正道 著

現在のスポーツが抱えている様々な事象、直面している課題などを、これまでに蓄積されてきた成果も踏まえつつ、様々な視点から多角的に考えていく試み。これから進むべきスポーツのあり方や道筋を示す羅針盤ともなろう。

現代スポーツのエッセンス

2754-1 四六判・220頁・2,500円(本体価格)

谷釜尋徳 編著

オリンピック・パラリンピックを哲学する

—オリンピック育成の実際から社会的課題まで—

3142-5 A5判・246頁・2,500円(本体価格)

相原正道 著

2020年の東京オリンピック・パラリンピック招致活動に参加した著者が、現代スポーツの諸問題をわかりやすく論じる。一見、華やかなスポーツ界の光と影の部分に焦点を当て、その対処法や捉え方についてまでも言及し、これまで気付かなかった点を浮き彫りにする。

競技面での華やかな部分やアスリートに対するサポートの愛情と、その裏側に潜む社会的課題(ドーピング・政治利用・差別・経済格差など)、更には「スポーツ科学」の領域を越えた「物理学」「栄養学」「平和学」「観光学」などを通じて、オリンピック・パラリンピックを多角的に学び、深く「哲学する」。東洋大学の人気授業の書籍化。

多角化視点で学ぶ オリンピック・パラリンピック

2880-7 A5判・216頁・2,500円(本体価格)

一般社団法人アリーナスポーツ協議会 監修
大学スポーツコンソーシアム KANSAI 編

ASC 叢書 1

大学スポーツの新展開

—日本版 NCAA 創設と関西からの挑戦—

3051-0 A5判・214頁・2,400円(本体価格)

後藤幸弘・上原禎弘 編著

2016年と2020年の東京オリンピック・パラリンピック招致活動を経験した日本唯一の研究者が、政治・経済・文化・教育・都市政策・環境・映画だけでなく、テロ・スポーツ賭博・贈収賄・反グローバリズム・ガバナンス等も幅広く包括

日本版 NCAA への議論が活性化するなか、日本の大学スポーツは大きな転換期をむかえようとしている。学生、教職員だけでなく、卒業生や地域住民など多くの人びとを巻き込み、人びとと「大学スポーツ」と結びつける挑戦。「大学スポーツコンソーシアム KANSAI」の取り組みは、新たな「大学スポーツ」を創造する試みである。

内容学と架橋する保健体育科教育論

2366-6 B5判・330頁・3,000円(本体価格)

吉中康子 著

健康スポーツとヘルスマネジメント

—リーダーのための健康理論—

3070-1 A5判・260頁・2,600円(本体価格)

吉中康子・佐藤 仁・斎山美津子 編著

本書は、主に教科成立基盤である「身体運動文化」から教育内容を措定し、それを教育に生かせる。また、方法を目標・内容と学習者の交点において考え「よい体育授業」のできる教員になるためのテキストとしてまとめられたものである。

健康は目標でなく資源であり、運動が必要とは理解しても実践できないのが現実である。スポーツの意義と意味、その効果と介護予防のアクティビティの多様な知識の中から、リーダーのために選んだ「健康スポーツ理論」を紹介。健康スポーツとヘルスプロモーションは健康寿命延伸のシステムづくりに必須である。

新・スポーツと健康の科学

1852-5 A5判・210頁・2,100円(本体価格)

スポーツや運動、レクリエーションは教育、健康、開発、平和を促進する上で価値ある手段であり、重要な役割がある。本書はこれらの個人・社会との関わりや国際交流など、この1冊でスポーツと健康の現代における周辺領域を理解するための入門書である。

五島 祐治郎 著

大学サッカーの断想

—関東・関西の大学サッカー文化を中心に—

2035-1 A5判・276頁・2,800円(本体価格)

高橋 和子 著

からだ気づき教育研究会 監修

からだ

—気づき学びの人間学—

1530-2 A5判・340頁・3,200円(本体価格)

積山 敬経 著

健康とからだ

—よりよい身体作り—

1669-2 A5判・210頁・2,200円(本体価格)

伊藤 央二 著

Meanings of Leisure in Japan

3100-5 A5判・134頁・3,800円(本体価格)

溝畑 寛治 著

ノースイドの精神に学ぶ人間学

—真のラグーマン・真のスポーツマンを目指して—
日本図書館協会選定図書

1910-2 四六判・192頁・1,900円(本体価格)

二杉 茂 著

コーチのミッション

3039-8 四六判・214頁・1,900円(本体価格)

二杉 茂 著

米国NCAAバスケットボールに学ぶコーチングイノベーション

2447-2 四六判・178頁・2,000円(本体価格)

二杉 茂 著

ワンハンドショットの メッセンジャーたち

—バスケットボールにおける社会史的研究—

2057-3 A5判・200頁・2,400円(本体価格)

ハリー・L・ハーキンス/ジェリー・クラウス 著
二杉 茂・山下新樹・伊藤 淳 訳

賢者の戦術

—すべてのバスケットボールコーチのために—

2966-8 B5判・136頁・1,800円(本体価格)

ビート・キャリル, ダン・ホワイト 著
二杉 茂・津田真一郎・木村 準・伊藤 淳 訳

賢者は強者に優る

—ビート・キャリルのコーチング哲学—

2269-0 A5判・200頁・2,300円(本体価格)

大学のサッカーは、関東・関西を中心に発展してきたが、技術的、戦術的課題をどのように克服し、大学のサッカー文化を形成してきたのであろうか。伝播してきたサッカーの源流を溯り、象徴的存在のW杯やサッカー文化に学び、今後の大学サッカーの方向性を探る。

子供の生活に「感じる・動く・ひらく・かかわる・表す」生身の経験が潤沢であった時代、人間の生の問題を問う「からだ気づき」教育も必要なかった。だが現在ではどうなのか。本書は人間と生活世界「ひと・もの・こと」とのかかわりの原点を問う教育改革の書。

人生をよりよく生きていくには、健全なからだが必要条件となる。しかし、現代社会では必ずしも、期待するような条件が揃っているわけではない。本書は、より健全なからだを形成できるように運動、食事、習慣などの視点から論じた、まさに現代人のための一冊。

これまで余暇・レジャー学が蓄積してきた知見は、西洋に偏ったものが多く、特に日本文化の文脈を考慮して行われた研究はきわめて少ない。そこで本書では、日本とカナダの文化比較研究や文化心理学の理論に基づき、現代の日本における余暇・レジャーの意味を再検討していく。

近年頻発する青少年の殺傷事件等の遠因ともいわれる家庭での躾の機会の減少、道徳教育の不徹底、生活スタイルの急激な変化にどう対応すればよいか? 本書は「ラグビー精神」の再認識を主張し、スポーツ文化による人間形成教育によって子どもたちを心身の歪みから救うことを訴える。

「コーチ」のあるべき姿とは何か。どうすれば、自分で考え、判断して行動できる一流の選手を育成できるのか。50年近い筆者自身の指導経験をもとに、コーチングで大切にすべき哲学とノウハウを凝縮した一冊。

米国NCAAバスケットボールの文化やノウハウを紹介。そこには絶えず革新を目指す、勝利への独自の哲学があった。勝利を目指して努力し、夢をかなえようとしている日本のコーチたちへ、合理的なコーチングと良い結果を勝ち取るためのヒントを提供する。

戦後間もない1950年、ハワイから来日した日系2世バスケットボールチームは、日本チームとの親善試合を通して華々しい文化交流を行っていた。優れたスキルだけでなく、友情・公正・チームワークといった高い精神性を伝え、日米友好に寄与した彼らの姿を描く。

バスケットボールにおける、9種類のオフェンスシステム(戦術)を、プレーヤーの動きを示した豊富な図とともに紹介。初心者から上級者まで、あらゆるレベルのコーチングで活用できる戦術を身につけ、プレーヤーを活かすコーチングを目指す。

アメリカの大学バスケットボール界において、アイビーリーグ歴代最多勝をほこるコーチ、ビート・キャリル。彼の考案した戦術「プリンストンオフェンス」は、いかにして築きあげられたのか? スポーツのみならずマネジメントに携わる指導者へ数々のヒントを提示する。

二杉 茂・藤井一成・田端 太・秋田和彦・伊藤 淳・上谷聡子 著

地域スポーツクラブ 指導者ハンドブック

2061-0 A5判・152頁・1,800円(本体価格)

上谷聡子 著

チャンピオンスポーツの人間学 —女子駅伝における人間形成と競技力向上—

2147-1 A5判・190頁・2,200円(本体価格)

総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などでスポーツを指導するために必要な基礎知識をはじめ、多くの市民にスポーツを愛好してもらい、スポーツ文化のよき理解者となっ
てもらうことを目的とするためのノウハウを盛り込んだ今ま
でにないハンドブック。

スポーツによる人間形成とは何か、また、競技力向上と人間
形成にはどのような関係が存在するのか。本書では、大学女
子駅伝チームを対象にした7年間の調査から、身体的・心理
的な側面を中心にして、人間形成と競技力向上との関係につ
いて明らかにした。

中国語・その他語学

河原清志著

翻訳等価再考

—翻訳の言語・社会・思想—

2851-7 菊判・306頁・4,500円(本体価格)

久保進著

調整と調整行為

3018-3 A5判・180頁・3,200円(本体価格)

久保進・久保裕愛・久保雅博 共著

ことばとフィールドワーク

2950-7 A5判・292頁・2,800円(本体価格)

宮部真由美著

現代日本語の条件を表わす複文の研究

—ト条件節とタラ条件節を中心に—

2792-3 A5判・292頁・5,900円(本体価格)

今泉喜一著

日本語態構造の研究

—日本語構造伝達文法発展B—

2093-1 A5判・226頁・2,700円(本体価格)

吉田妙子著

日本語動詞テ形のアスペクト

2313-0 A5判・254頁・2,700円(本体価格)

文 楚雄・陳 敏 著

チャイニーズセンテンスの 理解と実践

2120-4 B5判・122頁・2,800円(本体価格)

邵 展眉・卞 惟行 著

中国語を話そう

2170-9 B5判・110頁・2,000円(本体価格)

魯 啓華・卞 惟行 著

中国語基礎

1566-X B5判・82頁・1,600円(本体価格)

「翻訳とは何か」の徹底解明と、古今東西の翻訳理論の社会文化史的総括を通して、言葉の意味への根源的問いかけを行う翻訳研究と意味研究の金字塔。言語・心理・社会・文化・政治・哲学・歴史・宗教など多様な視点を横断する、翻訳大國日本にとって重要な書。

人と人が言葉を交わすやり取りを会話分析や談話分析として観察すると、さまざまな調整行為を遂行していることがわかる。本書では、本音と建前による目的達成、会話の流れを統制する仕組み、嘘をつくといった言語行為などを調整理論の枠組みで論じ検証する。

本書は、文芸作品からの実例を用いてことばとその背景となる文化や民俗についての基礎知識を得た上で、それらについての調査方法とフィールドワークの実例の学習を通して、ことばと民俗や地域の実態をどのように調べるかを学ぶことばと民俗の研究への入門書。

ト条件節の従属複文について分析し、この複文がどのような特徴をもつ複文であるかということ进行分析し、この複文がどのような特徴をもつ複文であるかをあきらかにした。その上でタラ条件節の従属複文について分析し、この複文がどのような特徴をもつ複文であるかをあきらかにした。

態は-as-, -ar-, -ur-, -e-等の形式で自他動詞、使役態、受動態、許容態の中に存在する。本書は「構造伝達文法」の立体モデルを用いて考察し、態の本質を初めて史的体系としてとらえた。理論的で分かりやすく、現代日本語・日本語史理解の必読書となっている。

日常の言語現象に疑問を感じることから言語学は始まる。中でもテ形は日本人の口に最もよく馴染む接続法であるが、正誤判定の内省が最も及ばないものである。本書はテ形の共時的な用法を記述し、生成文法の方法を取り入れることによりテ形の謎に迫るものである。

初級の学習が終わり、中級レベルの力を身につける為にはセンテンスの構造や構文への理解が必要となる。そのために本書ではセンテンスの構成成分ごとに課に分け、豊富な例文やトレーニングの問題を立てて、センテンスの構造への理解や応用を行っていく。

本テキストは、日本の大学の第二外国語のために書き下ろした。各課ごとに本文、新出単語、文法、置き換え練習、総合練習から成り、日本、中国、韓国の3人の学生の学園生活を題材にしたスキットを中心に、実用的な内容で構成している。

大学入学後の中国語初習者用テキスト。学生が大学内外で使う頻度の高い語を選んで、会話にも応用できるような本文を構成している。本文のあとに基本的な文法説明と、習得した知識をさらに深めてもらうために練習問題を加えた。

植田 均編著

中国語最重要単語2000

1090-0 B5判・308頁・2,000円(本体価格)

櫻庭和典・服部元彦 著

音で学ぶ中国語

1176-1 B5判・74頁・1,700円(本体価格)

植田 均編著

CD付テキスト

当代中国語会話 [初級編]

0946-5 B5判・82頁・2,600円(本体価格)

植田 均編著

CD付テキスト

中国滞在実践会話 [初級編]

1015-3 B5判・94頁・2,800円(本体価格)

植田 均編著

CD付テキスト

実際の中国語会話 [初級編]

1353-5 B5判・80頁・2,500円(本体価格)

李 青・文楚雄・周 宝玲 著

CD付テキスト

楽しい中国語会話

—初級—

1750-6 B5判・76頁・2,200円(本体価格)

李 青・文楚雄・周 宝玲 著

CD付テキスト

楽しい中国語会話

改訂版 —中級—

0927-9 B5判・70頁・2,450円(本体価格)

陳 月吾・卞 惟行 著

スタートしよう! 中国語!

1749-2 B5判・132頁・2,300円(本体価格)

竹山相哲・張 健同・中みき子・李 愛華・坂井多穂子 著

超中国語入門

2171-6 B5判・140頁・2,400円(本体価格)

坂井多穂子・竹山相哲・張 健同・中みき子・李 愛華 著

基礎コース 中国語

1754-9 B5判・114頁・1,800円(本体価格)

中国語検定試験準4級・4級合格を保証する最重要単語2000語を厳選。すべてにピンインを入れ、同義語・反義語・類義語・関連語、異読音等を掲げ連鎖式に覚えられるよう工夫。日常生活で使われる例文を多く収録し、訪中時のポケット辞典として利用できる。

中国語会話を修得するための工夫をしたテキスト。日本人の一般の特徴である、漢字にたよる傾向を考慮し、ピンインを中心に中国語会話を学習することを重視した。語彙は日常生活でよく用いられるものを多用し、練習問題で反復ができるようになっている。

「サバイバル語学研修」用の教材を基礎にして、各課を「実際に使える中国語」の観点から「自己紹介、食事時の対応」等の最重要テーマ14を厳選。初級でも現代中国の息吹を感じとれるよう「関連語彙、中国文化知識」を各課の後にキー・ワードとして掲載する。

居ながらにして中国滞在をシミュレーション体験できる初学者向けテキスト。食事や交通・買物などにおける日常的な場面での会話を多く取上げ、また解説・練習やクイズなどで今日の中国での日常生活の息吹を、初級段階でも感じられるように工夫。

日本人学習者用であるが、なるべく実際の中国語会話に沿った文を配列する。文法は詳しく、且つ、簡潔に、必要に応じて「病句」も載せる。これにより学習者は一層理解が深まるであろう。新出単語はやや多いがほとんど注釈してある。「教授用資料」付。

本書は実用性の高い会話の教材である。12課の本文から構成され、08年北京オリンピック観戦時の話題など生き生きとした12の話題を取り入れている。課毎に言葉から見た中国の社会や文化のエッセイ欄も設けている。発音はまとめて本文の前に配置した。

中国語の基礎を終えた学習者を対象に本文全てを会話形式で構成。内容は電話のかけ方(ホテルや汽車の切符の予約)など中国旅行で実際に起こる場面を想定している。練習問題は中国語検定試験3、4級レベル対応でCD付きの会話力養成のための実用的なテキスト。

はじめて中国語の勉強をはじめの人を対象として、母音、子音の発音、日常の挨拶、数の数え方から出発し、簡単な身の回りの会話、少し複雑な会話へと進む間に、文法の知識及び中国に関するさまざまな知識を収録した。隣国中国を理解する一助となることを願う。

初めて中国語を学ぶ人が、中国の標準的なことばである「普通話」を基礎から習得できるよう構成された入門テキスト。日本語との違いや類似点にも目を向けながら中国語への理解を深める。「ゆっくり/ネイティブ」のスピードで会話の聞き取り学習ができるCD付き。

中国語を初めて学習する学生、一般人を対象に編纂したテキスト。週90分、年間26回の学習を想定し、約500語の単語、150あまりの標準文型(会話、例文)を「知らず知らずのうちに覚えられるよう」に構成されている。これだけマスターすれば中国語会話に期待が持てよう。

黄 當時・植田 均 著

中国語課本[†]

本篇を20課に分け、各課ごとに日常場面を設定し口語文で構文。巻末には「中国語常用語辞」の選定にとりくむ著者が、日本の中国語学習者のためにまとめた詞彙索引を付し、語の入れかえにより多様な応用文の作成を可能にするなど、中・上級へのステップとする。

0327-0 A5判・152頁・1,553円(本体価格)

徐 林 著

ビジネスマナー中国語

臨機応変に中国語を使いこなし、中国ビジネスの第一線での活躍を目指す人のためのテキスト。決まったパターンの中国語から、自分の意志を伝える道具としての中国語に進化していけるように構成されている他、中国文化の背景や日本との違いを知ることのできるエピソードや知識も盛り込まれたコラムを掲載。

1955-3 A5判・100頁・1,400円(本体価格)

黄 當時・奥田 寛・呼 美蘭 著

CD付テキスト
中文課本 翔 龍

中国語学習の入門者が学びやすいよう、発音をくわしく説明。課文は、学習意欲が高まるよう身近なものに題材をとり、基礎的な構文や表現を精選。語法は、課文の中から基本的な事項だけをとりあげて要点をおさえたい平易な説明を心がけ、独学者にも配慮した。

1182-3 A5判・178頁・2,500円(本体価格)

黄 當時 他 著

CD付テキスト
中文課本 蘭 風

発音に多くのページを割くとともに、課本では、身近なものを例にとり基礎的な構文・表現を精選し対話形式として学習意欲が高まるよう工夫。要点をおさえたい平易な語法解説と練習問題・詞彙索引により、基礎から中国語を勉強する読者に最適の1冊。

2276-8 A5判・174頁・2,500円(本体価格)

橋本高勝 監修／黄 當時 編著

中文課本 甲

現在、中国の小学校で使用されている国語の教科書から平易な物語体の文章を選択し、その中の重要構文・文法事項(語法)として、例文を豊富に掲載。また、後半の各課には漢詩を一篇ずつ載せ、中国音で漢詩を読むことの楽しさが味わえるよう工夫されている。

0426-9 A5判・148頁・1,505円(本体価格)

黄 當時・植田 均 編著

中文課本 緑 風[†]

現在、中国の小学校で用いられている国語の教科書から23篇を抜粋。基本500語の拼音を省略する。常用構文・重要句型については例句・練習を設ける。練習は漢字よりも拼音を多く使用する。など基本的事項を習得した学習者が一歩進んで学べるよう配慮した。

0406-4 A5判・166頁・1,600円(本体価格)

黄 當時 著

中文課本 碧水

本書は、中国語の発音・文法等の基礎的な事項を修得した学習者の読解力を養成するために、長短9篇の小説を選んで編集したものである。実践を重んじる方針から多くの例を掲げ、練習問題も豊富に出されている。

0599-0 A5判・164頁・1,748円(本体価格)

黄 當時・黄 名時・村上幸造 編著

中国語読本[†]

中国民衆の実生活をかきまみることのできる風俗・習慣・人情を折りこんだ400字程度の興味あるゴシップ記事を34編にまとめ、各編の本文から重要な句型・構文を抽出。さらにその具体的用例と練習問題を挙げ、文法の習得に配慮した中級程度の中国語学習書。

0294-0 A5判・142頁・1,359円(本体価格)

杏林大学外国語学部中国語教育研究室 編

中国語レッスン70

発音編4課、語法編70課より成る。各課は見開き2ページで、語法編は課ごとの新出単語が平均10、文法項目も平均2つに絞られている。練習問題が各課に30題あり、豊富な練習問題をこなす中で厳選された文法事項を無理なく修得できる。

*(上) 巻にはCDを収録

2263-8 (上) A4判・106頁・2,000円(本体価格)

2264-5 (下) A4判・90頁・1,200円(本体価格)

A. カベサス・A. フェレー・J. ロドリゲス・藪中 暁 著

20カ国のスペイン語①[†]

スペイン人を中心とする経験豊かな教授陣によって、会話を重点に〈わかるスペイン語〉として著作されたのが本書である。スペイン文化圏の文化に少しずつ馴染めるよう、十分に配慮されている。スペイン語入門の初級・中級向き教材として最適な書。

0095-6 A5判・238頁・2,450円(本体価格)

住田育法・晴谷憲洋 著

旅の気分でポルトガル語

—ことばでめぐるブラジルとポルトガル—

2149-5 四六判・202頁・1,800円(本体価格)

瀧由紀子 著

The Effects of Explicit Reading Strategy Instruction on Student Strategy Use and Metacognitive Awareness Development

2711-4 A5判・228頁・4,400円(本体価格)

森 延江 著

A Syntactic Structure of Lexical Verbs

2628-5 A5判・230頁・3,500円(本体価格)

菅沼 惇 著

英語の語源と由来

1399-3 A5判・220頁・2,000円(本体価格)

久保 進・鈴木光代 著

POLITENESS AND REGULATION

1899-0 A5判・184頁・2,400円(本体価格)

藤田 榮一 著

ビジネス英語のすべて

1866-2 A5判・724頁・2,800円(本体価格)

千野 万里子 著

現代中国語に見られる近世中国語の影響

—「紅樓夢」と「儒林外史」を資料として—

2805-0 A5判・218頁・4,000円(本体価格)

松井一美 著

**「一ている」の意味と
ロシア語のアスペクト**

2615-5 A5判・172頁・3,000円(本体価格)

ニコラ・カン 著

青木 敬 訳

**カーボ・ヴェルデ・
クレオール語への誘い**

2980-4 A5判・234頁・3,500円(本体価格)

文化や歴史を切り口に、ポルトガル語の基礎をおもしろく学ぶ入門書。ブラジルに留学していた架空の日本女性、赤井エリカがブラジルを再訪し、友人とポルトガルを旅する14篇。麗しのリオから始めて大西洋の真珠マデイラ島で終わるさまざまな会話を楽しめる。

本書は、日本人大学生を対象に、読解の授業において、効果的な読解ストラテジーを明示的に指導し、参加した学習者の読解ストラテジーの使用頻度と意識の変化、読解力の変化、教えた各ストラテジーの定着度を調べ、その指導効果を調査した実証研究である。

語彙動詞の内部統語構造における狭義の統語理論の有効性を、統語項-付加部、VP 削除や Wh 移動等の標準的な統語テストで論証する。英日間の語形成は後者を PF とし各起動-使役語彙動詞形態素の統語構造を提案する。

旧来の文化史趣味のと違い、奥深く長大な伝統と、外風で生え出す、創造の新芽や枝の由来を語史的に探る啓蒙書兼研究書。OE 入門を現代英語との関係で興味深く案内しつつ、新言語学の言語習得論 (A-S 老人と現代幼児の握手) や生成文法入門をも兼ねつつ、の大河ドラマ。

本書は、「ポライトネス」の部では、ポライトネス理論の詳説に加え、その応用として医療ディスコースの分析を紹介、また「調整」の部では、言語行為論の分析対象を相互行為の言語機能に拡張し、「調査」の概念を用いて対話分析の新たな枠組みを提案している。

社会人が外国人と接触する上で必要な社交の手紙、会話、書類、貿易取引の遂行、会議の英語、交渉や説得、スピーチ、報告書、論文などビジネスのための全ての英語の使い方を詳しく、エッセンスをまとめている。数千頁分の内容を七百二十頁に簡潔にまとめ直した。

本書は、《紅樓夢》《儒林外史》《駱駝祥子》《稻草人》を資料として、各作品の言語、特に文法・語彙に見られる特徴を調査し、作品間の違いを比較することで、近世中国語が現代中国語にどのように継承されているのかについて明らかにしようとしたものである。

「一ている」の意味についてロシア語アスペクト論の視点を踏まえ考察するとともに、ロシア語母語話者の「一ている」習得に関し「一ている」表現とロシア語表現の対照をもとにいくつかの調査を行い習得困難要因を明らかにする。

西アフリカに浮かぶ島国、カーボ・ヴェルデを知るための一冊。初めてのフィールド・ワークに役立つ情報一文法、会話表現、文化、生活の基礎、小辞典一が満載。ブラジル、ポルトガル、西アフリカ、そして日本…多文化混合が生んだ新しい世界へ招待します。

日本文学・外国文学

大石 沙都子 著

堀辰雄がつなぐ文学の東西 —不条理と反語的精神を追求する知性—

3174-6 A5判・298頁・6,200円(本体価格)

呉京煥・劉建輝 編著

日本浪漫派とアジア —保田與重郎を中心に—

3147-0 菊判・192頁・4,500円(本体価格)

田中 有美 著

生きてゆくドン・キホーテ —日米現代小説における非ロマン主義的受容—

3153-1 A5判・256頁・3,200円(本体価格)

大山 英樹 著

夏目漱石と帝国大学 —「漱石神話」の生成と発展のメカニズム—

3260-6 A5判・284頁

近刊

ジョン・F・リネン 著 藤本雅樹 訳

ロバート・フロストの 牧歌の技法

3220-0 A5判・284頁・3,800円(本体価格)

林 信弘 著

信じ愛すること

2553-0 A5判・188頁・2,400円(本体価格)

甲田 純生 著

多崎つくるはいかにして決断したのか —村上春樹『色彩を持たない多崎つくと、彼の巡礼の年』を読む—

2515-8 四六判・142頁・1,300円(本体価格)

上田 博・國末泰平・田邊 匡・瀧本和成 編

大正文学史

1303-9 四六判・270頁・2,600円(本体価格)

小鹿原 敏夫 著

漱石に英文学を読む

2935-4 四六判・194頁・2,600円(本体価格)

堀辰雄は西洋文学の素養を活かしつつも古典文学への関心を深め、死や悲劇を作品の中に描いた。だがその内実は、復古主義や死の美化と一線を画す。当時の文献や蔵書を検証し、戦時下と文学者における倫理の所在を追う。

「日本浪漫派」と保田與重郎の文学は、日本による侵略戦争という状況に自らをさらした。それは突鋭な意識を要求したはずである。「日本浪漫派」の文学が、その意識を通していかにその難問に答えていったのか、この本は、各々の論者がその過程について考えたものである。

セルバンテスのドン・キホーテは自らの行いを悔いながら死んでいった。この結末の呪縛を乗り越えようとする現代版ドン・キホーテたちを日本とアメリカの小説から選りすぐり、彼らの「生き続ける」という前向きな選択の背景とメカニズムを比較考察する。

漱石の作品はなぜこれほど多くの者に受け入れられたか。本書では漱石の作品研究に終始するのではなく、漱石の置かれた創作環境及び当時の「文壇」や社会の状況に目を向け、他の作家と較べて、漱石の何が特異であったか、また卓越的存在と成り得た要因を明示する。

本書は米国詩人ロバート・フロスト研究のマイルストーンとして半世紀以上の時を経てなおその輝きを放ち続けている。現代という時代の文脈の中で牧歌という古い形式の可能性を探ろうとしたフロストの意図の一端がリネン氏の深い洞察によってここに明かされる。

他者のなかに自己が生き、自己のなかに他者が生きる。何を感じ考え為していてもその自己をつねに意識している自己意識的存在である。だからこそ他者を信じ愛する、信じ愛さずにはおられないのである。前書『いかに生きるか』に続き、人間の生の証を探求する。

なぜ、村上春樹文学はかくも多くの読者を獲得するのか、かの巡礼の旅の意味は何だったのか。気鋭の哲学教員がハイデガーを引用しつつもわかりやく死のトークンを中心に物語を再構成した。あの「多崎つくる」をもう一度読んでみたくなるハルキスト待望の書。

大正文学の歩みを振り返りながら「自由と民主主義、(社会)の形成に向けて成熟してゆく」作家たちの〈個性〉をあらゆるジャンルから究明。巻末には文学記念館や雑誌案内及び年表を収録。『明治文学史』に続く第2弾

漱石の中期までの作品を対象に、漱石の英文学の受容と、居心地の悪かったロンドン留学で吸収したと思われる「英国嫌い」の視点を丹念に読み解く。ヴィクトリア女王の大葬を目撃したことが漱石にとっての転換点ではなかったかと著者は想像している。

鷺崎秀一著

近代文学における 〈笑い〉の小説の生成

3019-0 四六判・3.1頁・4,000円(本体価格)

日本近代文学において〈笑い〉の小説はいかに生成したのか。江戸期の滑稽からユーモアへの変遷を軸に、その足跡をたどる。明治期からは国木田独歩の作品を、大正期からは岩野泡鳴・芥川龍之介・宇野浩二の関連作品を分析し、そこにある〈笑い〉の実態に迫る。

伊藤 博著

貧 困 の 逆 説

—葛西善蔵の文学—

2201-0 A5判・370頁・3,800円(本体価格)

葛西善蔵は大正文学史において、単なる私小説作家として位置づけられ、破滅型作家と考えられてきた。しかし、葛西の文学は逆説の論理によって支えられ、方法的、戦略的である。そのことを本書は明らかにしている。葛西文学の全体を論じきった初めての研究書。

石川 肇著

舟橋聖一の大東亜文学共栄圏

—「抵抗の文学」を問い直す—

2971-2 A5判・202頁・4,900円(本体価格)

昭和の花形作家として活躍した舟橋聖一。彼はなぜ戦争に抵抗した小説「悉皆屋康吉」を終戦3ヶ月前に刊行できたのか。遺族が40年間守り続けた貴重かつ膨大な「新資料」を用いながら、その謎を解いていく。戦時期文学の「常識」を切り崩す一冊。

後藤隆基著

高 安 月 郊 研 究

—明治期京阪演劇の革新者—

2991-0 A5判・240頁・4,200円(本体価格)

高安月郊研究とは誰か、時代の先を見ていた劇作家の文業を紐解く。かつて坪内逍遙、森鷗外と並び称された、高安月郊。今では歴史に埋もれてしまったその文業を実証的・多角的に究明し、明治30年代京阪演劇の革新的な運動の歴史をたぐる。

菅原 潤著

旅する木下空太郎／太田正雄

—グローバル時代の二足の草鞋—

2674-2 A5判・160頁・1,800円(本体価格)

森鷗外への私淑、和辻哲郎との交友、ハンセン病研究への取り組み、そして弟子の加藤周一への影響などを論じながら、医学と文学の二足の草鞋を履きつつ生涯を旅に過ごした木下空太郎／太田正雄の足跡を辿ることで、今後のグローバル教育の将来を考察する。

野尻武敏著

蟬 し ぐ れ

—大正生まれの一つの軌跡—

2317-8 四六判・310頁・1,800円(本体価格)

本書は、関東大震災の翌年に生まれた著者が、米寿を迎えるにあたり纏められた自分史である。著者の恩師・友人とのエピソードなどを交えながら、満州の建国大学への入学、神戸大学への転入学、その後の経済学者としての歩みから現在までを温かく綴る。

野島正興著

百 濟 観 音 半 身 像 を 見 た

1047-1 四六判・236頁・1,500円(本体価格)

「上半身だけの百済観音がどこにある」、この情報を得た著者が探し歩くこと4年、ついに名古屋でその所在を確認。これを元に法隆寺百済観音の「微笑みの秘密」を解明。併せて、国宝修理の黎明期に、仏象修理に生涯を捧げた新納忠之介に光を当てる。

林 珠榮著

落 涙 成 珠

—ある華僑の詩—

2288-1 四六判・196頁・1,300円(本体価格)

姫路の魚町で家庭料理店「珠の家」を営む筆者が、華僑である母の生きざまや自身の歴史をひもとくことを決意。父の死、戦争、名家への嫁入り、数億円もの財産喪失、震災、夫の失踪、家族、ひとりの華僑の人生を描き出すことにより、現代の日中関係を再考するきっかけとなる一冊。

森脇善明著

詩 集 寄 港 地

2690-2 A5判・174頁・2,000円(本体価格)

フランス文学・哲学、思想史、近代文学が専門の著者が、日常や旅先などで綴った詩50編を収録。表題はフランス近代の作曲家イベールの作「寄港地 三つの交響的絵画」による。

縄田 榮次郎 著

仮 名 も じ 人 生 手 帳

2373-4 四六判・134頁・1,600円(本体価格)

人の生き方は〈3つの子の信仰〉に拠る。第1の〈血の信仰〉は〈天皇と天皇制国家〉であり、第2の〈知の信仰〉は〈原爆と原発〉である。そして第3の〈痴の信仰〉は〈爆弾3勇士〉と〈特攻隊機〉である。2度の大震災を経た齢90歳を迎える著者が語る、〈にんげん〉が〈生きる〉核心とは？

福田國彌著

日本覚醒変革論

2357-4 四六判・150頁・1,300円(本体価格)

現在の日本には国家としての理想も目標も見えていない有りようを憂えて、92歳の著者が、日本再生への思いを、法制、外交、天皇家と文化省設置、経済金融、エネルギー、教育と各分野について大胆かつ詳細な具体的政策で提唱した、夢と希望を感じさせる著作である。

福田國彌著

遍歴

—実験物理研究者の辿った道と夢—

2399-4 四六判・164頁・1,500円(本体価格)

焼夷弾で焼け焦げた神戸の町を彷徨し、運命に翻弄されながらも生き抜く篤学者が、ゴマ化しただけの日本の社会・組織を看破し変革していく波乱万丈の人生。研究生活から大学経営へと活躍の場を移し、危機に瀕した大学を再生し改革を推し進める。その不断の努力と温かい人柄の魅力を生き様に見る。

加戸谷 将平著

将門之末裔

—変革の書—

2464-9 四六判・162頁・1,200円(本体価格)

戦前には逆臣とまでいわれた平将門。その末裔にあたるという伝説をもつ人物との対話から、21世紀の日本のあるべきすがたを模索する。自由で平等な「永久平和独立国」を創るために、この物語を夢物語で終わらせてはならない。

福田國彌著

教育百年の計

2477-9 四六判・128頁・1,300円(本体価格)

永遠平和を宣言し、日本を平和先進国にするために、この国の教育はどのように変わっていくべきだろうか? 齢93歳にしていまも現役で大学理事長を務める著者が、自身の経験をもとに、これからの見据えた教育のすすめを説く。

福田國彌著

京あふみの芭蕉とわたしの京都

2568-4 四六判・122頁・1,300円(本体価格)

世間から見向きもされずとも俳句に打ち込み諸国を漂泊した芭蕉の生き様に、著者は自身の遍歴の人生を重ねて共感する。京都・近江の芭蕉の足跡をたどりながら、生まれ育ったなつかしい街並みと四季折々の祭り、美食、菓子など、今も変わらぬ京都の姿を綴る。

小山三郎著

中国近現代作家の政治

—批判と粛清の文学史—

2782-4 A5判・314頁・5,000円(本体価格)

中華人民共和国の成立以後、政治潮流に巻き込まれ粛清されていった魯迅の弟子たちと魯迅の文学精神を受け継ぐ作家が織りなす「批判と粛清の文学史」。本書は、批判と粛清を繰り返した近現代文学史の潮流の原点に魯迅がいることを明らかにしている。

許菁娟著

台湾現代文学の研究

—統戦工作と文学：1970年代後半を中心として—

1965-2 四六判・226頁・2,300円(本体価格)

1977年は台湾の文壇で郷土文学論争が発生し、投獄されていた「反共」作家柏楊が釈放された年でもある。また同じ頃、陳若曦の作品が国民党政府によって高く評価されていた。本書は、こうした一連の文学現象の発生を台湾と中国大陸との政治的対立に求め、台湾現代文学の底流につねに存在する政治と文学の関係を分析している。

小山三郎・山下未奈・山下紘嗣 編著

台湾現代文学・映画史年表

2715-2 A5判・274頁・3,100円(本体価格)

台湾社会の変遷を文学現象と映画史で再現した年表。収録範囲を1949年から2000年とし、「反共」を国是とした時代から政治、社会の民主化の過程を概観している。また各時代に流行した人々の嗜好を取り入れることで社会を立体的に描く試みをおこなっている。

小山三郎・許菁娟 編著

中国現代文学

—台湾からみる中国大陸の文学現象—

2122-8 A5判・214頁・2,500円(本体価格)

台湾と中国の政治的対立の背景に中華文化の正統性をめぐる衝突が観察できる。この衝突には中国現代文学に対して、重要な問題提起がされている。この問題をテーマとした本書は、第一部では台湾文学と中国文学を比較し、第二部では各時代を代表する論者の見解を紹介した。

ジェフ・バーリンゲーム 著

古川哲史・三浦蒼史加・井上摩記 訳

走ることは、生きること

—五輪金メダリストジェシー・オーエンスの物語—

2692-6 A5判・116頁・1,600円(本体価格)

アメリカ南部の貧しいアフリカ系アメリカ人の家庭に生まれ、幼いころは病気がちであったジェシー・オーエンス。しかし、彼は走ることに目覚め、走ることに生きる喜びと、「自由」を見つけていく。ヒトラーを怒らせた最強の陸上選手オーエンス伝記の本邦初訳。

ピーター・J. スタンリス 著
藤本雅樹ほか 訳

ロバート・フロスト哲学者詩人

2283-6 菊判・498頁・4,800円(本体価格)

サンドラ・L. キャッツ 著
藤本雅樹 訳

エリノア・フロスト

—ある詩人の妻—

2784-8 A5判・240頁・3,500円(本体価格)

岡山勇一 著

E. M. フォースターの謎

—小説放棄に至る苦悩と葛藤—

松山大学研究叢書 第70巻

2324-6 A5判・200頁・3,000円(本体価格)

藤江啓子 著

空間と時間のなかのメルヴィル

2301-7 A5判・346頁・4,400円(本体価格)

木村茂雄 編著

ポストコロニアル文学の現在

1556-2 A5判・250頁・2,600円(本体価格)

吉田美津 著

「場所」のアジア系アメリカ文学

—太平洋を往還する想像力—

2828-9 四六判・280頁・2,900円(本体価格)

町田哲司・江尻雅一・片淵悦久 編

アイデンティティとアメリカ小説

—1950年代を中心に—

1250-4 A5判・206頁・2,500円(本体価格)

町田哲司・片淵悦久 編

自己実現とアメリカ文学

0995-3 A5判・218頁・2,400円(本体価格)

長谷川弘子 著

〈本の町〉ライブツィヒとゲーテ

—ドイツ市民文学の揺籃期を探る—

2682-7 A5判・242頁・2,800円(本体価格)

ジャン=ミシェル・ヴィスマール
川島 隆 訳

ハイジ 神話

—世界を征服した「アルプスの少女」—

2602-5 A5判・238頁・2,300円(本体価格)

芸術革命の一大潮流モダニズムを横目に、ロバート・フロストは人文・社会・自然科学などの伝統的学問体系の歴史的経緯を念頭に置き、詩を通じて己の信じる芸術の完成を目指していった。本書は、こうした詩人フロストの究極の哲学思想である二元論に迫る革命的研究。

伝記作者たちによって不当に無視され続けてきた、詩人ロバート・フロストの妻エリノアの真実の姿と二人の不即不離の関係が、キャッツ氏によってここに見事に再現されている。エリノアの生涯はまさに詩人の才能に捧げられた殉教者のそれでもあったのだ。

20世紀初頭の英国で最も注目される作品を書いた作家、E. M. フォースターは、その代表作『インドへの道』を出版した1924年以降、小説家を断念。本書は、各作品の分析を通じて彼の人間性を探り、小説放棄に至る彼の内面の苦悩と葛藤の内実を明らかにする。

メルヴィルの諸作品を、空間(地理・場所)と時間(歴史)のなかに置き、彼が描くアメリカ社会とプラネタリなヴィジョンを反帝国主義的、あるいはポストコロニアルな視座から解明する。メルヴィル作品の全体像を文化・社会・歴史的背景のもとに把握する。

多彩な作品と刺激に満ちた世界を紹介するはじめての総合的ガイドブック。特殊性を縦糸に、普遍性を横糸に、これらの文学が提起する問題の全体像を浮かび上がらせ、植民地独立のダイナミズムから現在のグローバリゼーションにおける理論的な可能性までを探る。

「場所」とは具体的な場所であり変容するアイデンティティを位置づける空間的でメタフォリカルな場所でもある。本書は、アジア系アメリカ文学がアメリカの軍事的経済的な「アジア・パフィック」の場所に抵抗し、解放の場所・空間を構築していることを論証する。

1950年代アメリカを代表する8作家へミングウェイ、ペロー、エリソン、カポーティ、オルセン、ケラック、サリンジャー、メイラーのアーファーマティブなアイデンティティ・クエスト小説と、クエストを可能にした当時のアメリカ社会を考察。

入植以来、アメリカの歴史は自己実現の歴史とも言えるが、本書は「自己実現」「自己疎外」といった古くて新しいテーマで、フランクリン、ポーからピンチン、デ・リーロまでの米文学史上の重要な10作家とその作品を論じたユニークな文学史のテキストである。

ゲーテが学んだライブツィヒは、大学教授は文学改革、書籍業者は文学マーケット構築、商人は市民劇場建設を進める、ドイツでは先端的な文化都市だった。恐れることなく人と芸術を愛し熱狂のあまり病に落ちた若き日のゲーテの戯曲、英国熱、ウエルテルを語る。

美しい国スイスの理想像を守る「神話」として世界中で愛されながら、アカデミックな場では低俗なものとして軽視されてきたアルプスの少女の物語を、「子どもの心と大人の目で」読みなおす。初めての本格的『ハイジ』論。

小林 順・吉田秀生 編

筆記用具のイギリス文学†

1099-4 四六判・180頁・2,000円(本体価格)

ウィリアム・シェイクスピア 著
吉田秀生 訳マ ク ベ ス
日本図書館協会選定図書

2467-0 四六判・202頁・1,600円(本体価格)

溝井高志 著

ゲーテ, その愛†

—「野ばら」から『ファウスト』の
「グレートヒェン悲劇」まで—

1583-X A5判・234頁・2,200円(本体価格)

丹下和彦 著

ラ イ ン 河

—流域の文学と文化—

1719-0 A5判・154頁・1,900円(本体価格)

丹下和彦・松村國隆 編著

ド ナ ウ 河

—流域の文学と文化—

日本図書館協会選定図書

2228-7 A5判・232頁・2,500円(本体価格)

花方寿行 著

我 ら が 大 地

—19世紀イスパノアメリカ文学におけるナショナル・
アイデンティティのシンボルとしての自然描写—

2999-6 A5判・324頁・4,800円(本体価格)

シェイクスピア、ボズウェル、ジョイス……文豪たちの執筆現場を再現する試み。羽ペン、万年筆、タイプライターなどの筆記用具と数々の傑作を生み出した作家との関係に肉迫し、文字情報誕生の瞬間を切り取る。モノのある光景が生み出したイギリス文学の世界。

『マクベス』を全面的に見直し新訳とした。また、注目すべきは巻末収録の解説で、歴史研究に依拠しながら実在するスコットランド王マクベス(在位1040-1057年)と物語世界のマクベスを比較検証することで、シェイクスピアの『マクベス』の虚構と実像を見定め創作過程を解明した。

ゲーテにとって愛することは生きることであり、恋を通して彼は生の喜びと悲しみを知悉していった。青年期から成熟期にかけての彼の愛の軌跡をたどりながら、その愛の諸相と情熱の悲劇性の本質と構造を分析しつつ、その克服の過程を明らかにする。

アルプス以北のヨーロッパを南北に貫くライン河は、古来物流はもちろん、人の流れもまた激しい大河である。本書はギリシア・ローマの古典や近現代のドイツ・フランス文学・文化を水先案内人に、この河を下る試みである。さあ、諸君もともに旅に出ないか!

ヨーロッパを東西に流れる国際河川ドナウ河。源流から河口まで、古代から現代まで、時空を超えた旅を通じて流域のさまざまな文学・文化の魅力に迫る。知られること少ない中・東欧を貫く「ドナウ文化圏」とは? 知的好奇心を掻き立てるドナウの船旅、いま就航。

19世紀イスパノアメリカ諸国において、欧米の新古典主義・ロマン主義の影響を受けつつ、いかに文学と政治が結びついて国家形成のために機能したか。現代まで続く問題をナショナリズムやオリエンタリズム、自然描写などをキーワードに明らかにしてゆく。

新しい短歌鑑賞

安森敏隆・上田博 監修

本シリーズは、代表的な歌人を取り上げながら、現代的なセンスと問題意識によって新しい短歌の鑑賞を試みる。歌人の作家論、代表的な作品をはじめ歌人自身による歌論、年表・記念館などを収録し、その全体像と短歌の楽しさ、面白さを伝える。

木股知史・外村 彰 著

新しい短歌鑑賞

与謝野晶子 岡本かの子

日本図書館協会選定図書

1631-3 四六判・248頁・2,700円（本体価格）

内藤 明・安森敏隆 著

新しい短歌鑑賞

正岡子規 斎藤茂吉

1926-3 四六判・250頁・2,700円（本体価格）

和田周三・上田 博 著

新しい短歌鑑賞

尾上柴舟 石川啄木

1355-1 四六判・268頁・2,900円（本体価格）

安森敏隆・上田 博 編

新しい短歌鑑賞

ポトナムの歌人

1994-2 四六判・238頁・2,400円（本体価格）

長城万里図シリーズ

周而復著
竹内実監修 日中21世紀翻訳会 訳

長城万里図 1

南京陥落・平和への祈り

1140-0 (上) A5判・340頁・2,300円 (本体価格) †

1145-1 (下) A5判・334頁・2,300円 (本体価格) †

作品は「現代の戦争と平和」との評価を受ける375万字の長編政治歴史小説。1937年から45年までの日中戦争を軸とした反ファシズムの戦いを描く「上海の朝」で名を馳せた周而復は、元文化省次官・書道家協会副主席。85歳の躍る青年正義派。

周而復著
竹内実監修 日中21世紀翻訳会 訳

長城万里図 2

長江正義と勇気的大海へ

1316-0 (上) A5判・350頁・2,300円 (本体価格) †

1387-X (下) A5判・330頁・2,300円 (本体価格) †

本巻は、南京陥落から台兒庄大戦ほか武漢陥落までの歴史的時期の真実を描写。蒋介石の抗戦と和平交渉、地方勢力抹殺や王兆銘の動揺を描き、周恩来の蔣を叱り危機を救った勇気を描写。比較的高い文献的価値と認識価値を有する現代の「戦争と平和」。

周而復著
竹内実監修 日中21世紀翻訳会 訳

長城万里図 3

逆流と暗流

1480-9 (上) A5判・422頁・2,850円 (本体価格) †

1516-3 (下) A5判・400頁・2,850円 (本体価格) †

1938年10月から39年、日中戦争の時期。抗日を叫び、陰で交渉し、中共黨員・愛国者を虐殺、国民党内の暗殺を命ずる蔣かいらいの臨時政府と維新政府の如く和平交渉を実行する汪の売国行為。近衛は3回声明を發表。中共は遊撃戦争を展開。虚々実々の興味尽きぬ戦争史。

電子書籍一覧

こちらの電子書籍は、巻末の電子書籍取扱店でお求めになれます。
(ご購入可能な電子書店は、随時、追加してまいります)。
購入方法につきましては、ご購入元の電子書店の案内をごらんください。

諸岡建次著

地域のトップリーダーを育む
スカウト教育の復権
1,300円 (本体価格)

佐々木 掌子著

トランスジェンダーの心理学
—多様な性同一性の発達メカニズムと形成—
2,500円 (本体価格)

吉井奈々著 鈴木健之解説

相手も自分も大切に
コミュニケーション+社会学
1,700円 (本体価格)

水地宗明著

アリストテレス『デ・アニマ』注解
5,800円 (本体価格)

水地宗明著

アリストテレスの神論
2,800円 (本体価格)

尼寺義弘著

イエーナ精神哲学
2,250円 (本体価格)

千代島 雅著

エントロピーの常識が崩壊した！
2,100円 (本体価格)

太田直道著

カントの人間哲学
6,000円 (本体価格)

中島義道著

空間と身体
3,300円 (本体価格)

甲田純生著

スリリングな哲学
1,900円 (本体価格)

伊集院 令子著

像と平面構成 I
3,200円 (本体価格)

池田善昭著

「哲学」のゆくえ
2,400円 (本体価格)

野口 隆著

人間実存の研究
1,500円 (本体価格)

甲田純生著

美と崇高の彼方へ
2,200円 (本体価格)

平田俊博著

柔らかなカント哲学 (増補改訂版)
3,800円 (本体価格)

林 克樹著

興行の生と世界
2,900円 (本体価格)

須藤義人著

久高オデッセイ

2,800円 (本体価格)

荒井正雄著

現代日本の深層国家論

2,800円 (本体価格)

山口和子著

後期シェリングと神話

4,800円 (本体価格)

加國尚志著

自然の現象学

3,200円 (本体価格)

総田純次著

精神病理学の認識論的基礎

3,300円 (本体価格)

渡辺雄三著

精神分裂病者に対する
心理療法の臨床心理学的研究

7,600円 (本体価格)

宮原 勇著

ディアロゴスの現象学

2,500円 (本体価格)

倉本 香著

道徳性の逆説

2,800円 (本体価格)

荒井正雄著

西田哲学読解

3,200円 (本体価格)

市川 功著

ピアジェ思想入門

2,200円 (本体価格)

中川明才著

フィヒテ知識学の根本構造

2,600円 (本体価格)

千代島 雅著

双子のパラドックスの論理

2,300円 (本体価格)

堀 栄造著

フッサールの脱現実化的現実化

3,800円 (本体価格)

工藤和男著

フッサール現象学の理路

3,800円 (本体価格)

古林勝也著

現代人の自分探し

1,800円 (本体価格)

加藤尚武著

応用倫理学入門

2,200円 (本体価格)

加藤 茂著

造形の構造

2,700円 (本体価格)

高梨友宏著

美的経験の現象学を超えて

2,500円 (本体価格)

竹中 亨著

近代ドイツにおける復古と改革

3,107円 (本体価格)

松本英紀著

宋教仁の研究

3,400円 (本体価格)

比佐 篤著 「帝国」としての中期共和政ローマ 3,600円 (本体価格)	大野 徹著 アジアの農地制度と食糧 2,600円 (本体価格)
藤田宏郎著 戦後日本の国際関係 3,200円 (本体価格)	平田雅博著 イギリス帝国と世界システム 3,300円 (本体価格)
平田雅博著 内なる帝国・内なる他者 3,500円 (本体価格)	廣澤孝之著 現代日本政治史 2,200円 (本体価格)
小堀眞裕著 サッチャリズムとブレア政治 2,900円 (本体価格)	村田邦夫著 史的システムとしての民主主義 3,400円 (本体価格)
金屋平三著 17世紀イングランドの 家族と政治思想 3,400円 (本体価格)	山谷清志著 政策評価の理論とその展開 2,900円 (本体価格)
山本周次著 旅と政治 2,900円 (本体価格)	副島豊次郎著 ヨーロッパ国際政治 2,200円 (本体価格)
黒田忠史著 西欧近世法の基礎構造 3,250円 (本体価格)	吉田美喜夫著 タイ労働法研究序説 5,500円 (本体価格)
西尾孝司著 ベンサム の 幸福論 2,600円 (本体価格)	角田猛之著 法文化の諸相 2,600円 (本体価格)
松尾 匡著 近代の復権 3,500円 (本体価格)	坂田裕輔著 ごみ問題と循環型社会 2,800円 (本体価格)
木元富夫著 産業化の歴史と景観 2,600円 (本体価格)	渡 哲郎著 戦前期の我が国電力独占体 2,816円 (本体価格)

風呂 勉著

第二次大戦日米英流通史序説

1,800円 (本体価格)

竹歳一紀著

中国の環境政策

3,000円 (本体価格)

西嶋 淳著

都市再生における効率性と公平性

3,300円 (本体価格)

若森章孝著

レギュレーションの政治経済学

3,150円 (本体価格)

金川幸司著

協働型ガバナンスとNPO

2,600円 (本体価格)

馬頭忠治著

脱マネジメント論

2,900円 (本体価格)

羽路駒次著

我が国商品取引所制度論

3,883円 (本体価格)

中山久憲著

苦闘元の街に住みたいんや!

2,300円 (本体価格)

小川賢治著

勲章の社会学

3,200円 (本体価格)

梁 愛舜著

在日朝鮮人社会における祭祀儀礼

3,000円 (本体価格)

倉橋重史著

社会学史点描

3,600円 (本体価格)

芝田正夫著

新聞の社会史

2,500円 (本体価格)

野尻武敏著

長寿社会を生きる 第1巻

1,000円 (本体価格)

小池 誠著

東インドネシアの家社会

4,300円 (本体価格)

佐藤嘉一著

物語のなかの社会と

アイデンティティ

2,600円 (本体価格)

井ノ口淳三著

命の教育, 心の教育は何をめざすか

2,100円 (本体価格)

古宮 昇著

大学の授業を変える

2,000円 (本体価格)

栗田 修著

デューイ教育学の特質と

その思想的背景

3,600円 (本体価格)

井上勝也著

新島襄人と思想

2,800円 (本体価格)

高島昌二著

社会福祉Q & A 100選

1,300円 (本体価格)

高島昌二著

スウェーデン社会福祉入門

2,300円 (本体価格)

竹原利栄著

体験的精神障害者福祉論

3,000円 (本体価格)

伴 義孝著

「生きる力」の再発見

2,600円 (本体価格)

伴 義孝著

身体運動の人間学改訂版

3,200円 (本体価格)

菅沼 惇著

英語の語源と由来

2,000円 (本体価格)

豊原治郎著

會津八一の学风

1,650円 (本体価格)

豊原治郎著

會津八一の史眼

1,700円 (本体価格)

豊原治郎著

會津八一の手紙

1,600円 (本体価格)

豊原治郎著

学匠會津八一の生涯

1,800円 (本体価格)

豊原治郎著

教育者會津八一論

1,600円 (本体価格)

豊原治郎著

孤高の学匠會津八一

1,600円 (本体価格)

豊原治郎著

随筆家會津八一

1,800円 (本体価格)

豊原治郎著

文学者會津八一論

1,700円 (本体価格)

田村修一著

芥川龍之介青春の軌跡

2,800円 (本体価格)

佐々木伸尚著

今生きるヴォーリズ精神

1,400円 (本体価格)

桂 文子著

オーローラ・リー

3,700円 (本体価格)

上田 博著

新しい短歌観賞 第4巻
尾上柴舟石川啄木

2,900円 (本体価格)

杉本 明著

鏡の中の愛

2,800円 (本体価格)

森脇善明著

小林秀雄論

3,800円 (本体価格)

縄田 榮次郎著

錯覚と憑依(続)

1,600円 (本体価格)

小山三郎 著

文学現象から見た現代中国

3,400円 (本体価格)

上田 博 著

まるごと小説は面白い

1,800円 (本体価格)

丹下和彦 著

ラ イ ン 河

1,900円 (本体価格)

❖ 書名索引 ❖

(A)		アドルノの芸術哲学	46
A Syntactic Structure of Lexical Verbs	165	アーバンカルチャーズ	119
(J)		アフリカ安全保障論入門	57
Juvenile Crimes and Social Problems in Japan	73	アフリカ国家を再考する	67
(P)		アフリカと世界	67
POLITENESS AND REGULATION	165	アフリカと帝国	67
Psychosocial Factors Associated with Recidivism among Male Japanese Criminals of Offender Rehabilitation Facilities	120	アフリカ・ドラッグ考	123
(T)		アフリカにおける貧困者と援助	58
The Effects of Explicit Reading Strategy Instruction on Student Strategy Use and Metacognitive Awareness Development	165	アフリカの医療・障害・ジェンダー	58
(あ)		アフリカの女性とリプロダクション	58
ICTを活用した組織変革	111	アフリカの地方分権化と政治変容	67
愛する者の死とどう向き合うか	24	アヘンさよなら、学校こんには	148
愛する者は死なない	24	アマルティア・センの世界	96
愛する者をストレスから守る	25	アメリカ型市場原理主義の終焉	60
あいだ哲学者は語る	3	アメリカ経済論入門	92
會津八一の学風	177	アメリカ住宅金融の仕組みと証券化	115
會津八一の史眼	177	アメリカの核ガバナンス	71
會津八一の手紙	177	アメリカの教育委員会と教育長	146
相手も自分も大切にコミュニケーション	126, 173	アメリカのスポーツ現場に学ぶマーケティング戦略	102
アイデンティティとアメリカ小説	169	アメリカ反トラスト政策論	86
愛と正義の構成	40	アメリカ未完のプロジェクト	27
愛の哲学的構成	11	アーモスト大学と同志社大学の関係史	147
アカデミック・ライティングの基礎	144	アリストテレス講義・6講	13
アキレスと亀	11	アリストテレス『デ・アニマ』注解	173
芥川龍之介青春の軌跡	177	アリストテレスと目的論	1
アジア経済の変貌とグローバル化	92	アリストテレスの神論	5, 173
アジアの経営・財務戦略30講	104	荒れる子と向き合う	144
アジアの市民社会と NGO	67	アンドレ・マルロー美術史論研究	47
アジアの地域連携戦略	93	(い)	
アジアの農地制度と食糧	175	イエーナ精神哲学	173
芦屋大学卒の事業家たちの教え	115	E. M. フォースターの謎	169
アダプテーションの理論	137	医学生のための社会学入門	122
「アダム・スミス価値尺度論」欧米文献の分析 (下)	82	いかに生きるか	24
「アダム・スミス価値尺度論」欧米文献の分析 (上)	82	生き方は自分で決める、そして逝き方も	128
新しい視点から見たカント「判断力批判」	6	生きづらさの自己表現	134
新しい短歌鑑賞	171	生きてゆくドン・キホーテ	166
新しい短歌観賞 第4巻 尾上柴舟石川啄木	177	生きなおしたいあなたに	42
アドルノという「社会学者」	10	生きられた死生観	41
		イギリス検認遺産目録研究	85
		イギリス政治の変容と現在	66
		イギリス帝国と世界システム	175
		イギリスの教育と経済衰退	52
		生きること死ぬこと物語ること	40
		生きることの哲学	11
		「生きる力」の再発見	177
		イクメンじゃない「父親の子育て」	135

石坂荘作の教育事業	147	英語の語源と由来	165, 177
イシダ	116	Excel で学ぶ社会科学系の基礎数学 (第2版)	100
イスラーム信仰とその基礎概念	45	エコシステムサービスの環境価値	89
イスラームにおける運命と啓示	45	A子と依存症	135
依存学ことはじめ	134	A子と不妊治療	135
移動する人々	120	エコノミックオーガニゼーション	102
伊藤茂七と大阪砂糖商	54	エコロジーとコモنز	88
いのちとすまいの倫理学	40	越境する造形	49
命の教育、心の教育は何をめざすか	176	エッジを歩く	138
いのちのむすび	38	NPOと労働法	61
「いのち」を生きる	22	エネルギー経済とエコロジー	89
異文化交流の歴史構想と展開	51	エネルギー国際経済	92
今生きるヴォーリズ精神	177	エネルギー政策の新展開	89
意味としての自然	126	エピソードから始まる保育の描き方・学び方	145
移民都市の苦悩と挑戦	127	エピソードの就活	140
イメージ	47	絵本を用いた臨床心理面接法に関する研究	37
EUにおける政策過程と行政官僚制	72	エリノア・フロスト	169
イラクの女性たち	68	LGBTIの雇用と労働	133
遺留分制度の研究	76	エレメンタル欧米経済史	81
医療事故の原因究明と責任追及をめぐる 医療と司法の対立	78	エレメンタル 現代経済学	81
医療者教育のビデオ・エスノグラフィー	136	エレメンタル マクロ経済理論	81
医療心理学を考える	37	アントロピーの常識が崩壊した!	173
医療ソーシャルワーク	155		
医療と宗教と法	73	〈お〉	
医療紛争の法的分析と解決システム	78	欧州社会保障政策論	60
医療保障の課題と政策	155	欧州新時代	91
インター・カルチャー	26	オウムという現象	31
インバウンド観光入門	91	応用行動分析から対人援助学へ	37
〈う〉		応用倫理学入門	40, 174
ヴィジュアル・カルチャー入門	49	大阪ソーシャルワーカー協会	152
ウィリアム・ベイリー研究	84	大阪都構想の対策	65
ウィリアム・ベイリーの政治哲学	84	大手化粧品メーカーの経営史的研究	114
Win-Winの社会をめざして	140	沖縄観光とホスピタリティ産業	108
WindowsPCによる材料力学	157	奥行の生と世界	34, 173
ヴェーバー『職業としての学問』の研究	123	教えるから学ぶへ	142
Webで学ぶ情報処理概論	111	オーストリア国民意識の国制構造	68
上山春平と新京都学派の哲学	1	オタク文化と宗教の臨界	132
ウェールズの教育・言語・歴史	52	オーテス・ケリーの生涯	54
ウソだろ!? バリアフリー	124	音ってすごいね。	138
内子町のまちづくり	130	音で学ぶ中国語	163
内なる帝国・内なる他者	52, 175	尾上柴舟 石川啄木	171
うつの人の風呂の入り方	134	お墓の社会学	136
〈え〉		オープン・イノベーション・システム	105
AiIBの発足とASEAN 経済共同体	92	覚書 性急ではない和解のために	28
エアライン・ビジネス入門	107	オーローラ・リー	177
映画音楽からゲームオーディオへ	138	音楽による表現の教育	147
映画に学ぶ危機管理	139	温暖化のウソと真実	30
英国議会「自由な解散」神話	61	女と夜と死の広告学	125
		女の怪異学	133

(か)		環境リスク社会の到来と環境運動	139
絵画で綴る哲学と倫理学	4	関係性の学び方	143
解決志向グループワーク	126	関係の創造を目指して	37
海港パリの近代史	52	観光学入門 (第3版)	131
外国人介護労働者の受入れと課題	120	観光社会学のアクチュアリティ	132
介護人材の確保と職場定着策	154	韓国「周辺部」労働者の利害代表	126
海事産業の現状と未来	87	韓国認知症政策のセオリー評価	61
解釈学の根本問題	19	看護・チーム支援に活かすカウンセリング	154
会社法	77	関西経済論	130
解説社会福祉六法・関係法事典 (改訂版)	152	関西のポテンシャル	129
解体後のユーゴスラヴィア	71	監視社会とライアンの社会学	124
改訂版 道德教育のフロンティア	142	「患者」の生成と変容	119
介入と逸脱	120	患者の力	134
概念の主体性	1	感情のコントロールと心の健康	36
開発援助アジェンタの政治化	71	感じる道德	39
開発政策の合理性と脆弱性	96	感性と造形表現	146
科学技術の現況といま必要な倫理	41	カント研究会	17
科学哲学の根本問題	19	カント『純粹理性批判』	14
鏡・意志・魂	23	カント 自律と法	1
鏡の中の愛	177	カントとオートポイエーシス	1
学習社会学の構想	146	カントと敬虔主義	7
学匠會津八一の生涯	177	カントと現代哲学	17
学生と市民のための社会文化研究ハンドブック	121	カントとその時代	6
カジノ戦争	65	カントと討議倫理学の問題	6
過剰な理想	22	カントにおける神学と哲学	6
風の現象学と雰囲気	27	カントにおける倫理と政治	1
家族情緒の歴史社会学	135	カントの世界市民主義	2
学級における生徒指導論	145	カントの人間哲学	173
学校教育のフロンティア	150	カントの平和構想	7
仮名もじ人生手帳	167	「観音経」入門	43
可能性としてのフッサル現象学	8	ガンバレ! 先生・教育委員会	144
ガバナンスと評価	72	韓米FTAと韓国経済の危機	93
歌舞伎をめぐる環境考	48		
株式投資成功への道	100	(き)	
株主指向か 公益指向か	102	キェルケゴール『死に至る病』	14
貨幣帝国主義論	99	企業間分業とイノベーション・システムの組織化	105
カーボ・ヴェルデ・クレオール語への誘い	165	企業政策研究会	111
火・水 (KAMI)	25	企業不祥事と日本的経営	102
神と生命倫理	40	企業倫理学1	106
からだ	160	企業倫理学2	106
唐物屋から美術商へ	48	企業倫理学3	106
カリフォルニア政治とラティーン	67	企業倫理学4	106
カルチャー・ミックス	28	企業倫理を歩む道	107
カール・ポランニーと金融危機以後の世界	84	起業論再考	112
「考える葦」を育てた [近代学校] 教育	142	技術からみた日本衛生行政史	158
環境 ISO 有効利用のエッセンス	115	技術社会をく超えて	124
環境税制改革の「二重の配当」	90	技術における倫理	124
環境とマーケティング	114	技術・倫理・教育	41
環境と身の現象学	27	既成概念をぶち壊せ!	122
環境の倫理	41	基礎から学ぶ会社法	77
		基礎から学ぶ財政学	99

現代中国語に見られる近世中国語の影響	165	「声」とメディアの社会学	120
現代中国の産業と企業	95	顧客の創造	103
現代中東の宗派問題	61	国際関係とメディアクライシス	60
現代哲学の根本問題	19	国際関係のなかの子どもたち	58
現代ドイツにおける学校制度改革と学力問題	145	国際関係を生きる	59
現代日本語の条件を表わす複文の研究	162	国際技術移転の理論	92
現代日本政治史	175	国際合弁企業と知識創造	110
現代日本と平生鈞三郎	55	国際社会を学ぶ(改訂版)	57
現代日本の金融取引入門	98	国際政治経済学の新機軸	83
現代日本の深層国家論	174	国際政治経済学要論	83
現代のエネルギー・環境政策	89	国際政治の〈変化〉を見る眼	57
現代の技術と知識労働	109	国際平和協力論	59
現代の国際通貨制度	80	孤高の学匠會津八一	177
現代の産業・企業と地域経済	108	ここから始める経営入門	109
現代の社会病理と福祉	155	心の論理	11
現代のマーケティング・マネジメント	115	古事記神話と日本書紀神話	44
現代マクロ金融論	98	子育てにおける子どもとの上手な関わり方	145
現代ミャンマーの貧困研究	94	子育て文化のフロンティア	150
現場視点の経営学	104	古代・中世経済学史	84
原発と倫理問題	140	コーチのミッション	160
憲法と国際人権を学ぶ	75	国境を越えるラテンアメリカの女性たち	57
		古典派政治経済学者の教育思想	84
		言葉とアートをつなぐ教育思想	142
		ことばとフィールドワーク	162
		子ども家庭福祉のフロンティア(新版)	149
		子ども家庭福祉論(第3版)	152
		「子どもから学ぶ」58のエピソード	142
		子供とともに哲学する	3
		子どもの現在	144
		子どもの教育と親・教師	145
		子どもの幸せと親の幸せ	145
		子ども・若者政策のフロンティア	150
		5分野から読み解く現代中国	66
		個別的労使関係と人事労務管理	110
		ごみの環境経済学	88
		ごみ問題と循環型社会	88, 175
		コミュニティ・デザインによる賃貸住宅 のブランディング	114
		コミュニティメディアの未来	125
		コミュニティリーダーを育てる	140
		米騒動と社会福祉	153
		コモンズ論再考	74
		コールドチェーン	115
		これからの観光を考える	107
		これからのソーシャルワーク実習	155
		これからの大学経営	104
		これならわかる!! 教員採用試験・SPI・就職試験対 策用大学生のための数学・理科基礎計算ドリル	157
		これならわかる!! 大学生のための計算ドリル	100
		これならわかる!! 大学生のための統計学ドリル	100
		コンカレント・カンパニー	112
(こ)			
講演集ハイデガーと西洋形而上学	13		
郊外社会の分断と再編	129		
郊外の衰退と再生	128		
後期シェリングと神話	174		
公共ガバナンス論	68		
公共経済学への招待	83		
公共サービスの外部化と「独立行政法人」制度	72		
工業社会の史的展開	85		
交響するロマン主義	21		
公共部門における評価と統制	72		
公共部門のガバナンスとオンブズマン	72		
公共部門の評価と管理	68		
公共文化施設の歴史と展望	131		
「工芸」と「美術」のあいだ	48		
工作機械産業と企業経営	105		
構造と主体	64		
構築と解体	25		
交通事故被害者の生活支援(改訂版)	154		
高等教育におけるつながり・協働する学習 環境デザイン	148		
神戸百年の大計と未来	127		
神戸を読む	138		
功利主義と経済学	83		
高齢期のクオリティ・オブ・ライフ	141		
高齢期の幸福な老いとエイジズム	152		
高齢者ソーシャルワーク	155		
高齢者福祉とソーシャルワーク	155		
港湾ロジスティクス論	115		

「根拠」への探究	32	自己理解と自己超克	30
コンタクト・ゾーンの人文学 第I巻	23	自殺対策の政治学	133
コンタクト・ゾーンの人文学 第II巻	24	死者と苦しみの宗教哲学	10
コンタクト・ゾーンの人文学 第III巻	24	詩集 寄港地	167
コンタクト・ゾーンの人文学 第IV巻	24	市場・企業・企業者精神	82
コンプライアンス論から規範競合論へ	69	システムという存在	31
コンフリクト・マネジメント	107	自然主義の可能性	12
		自然神学再考	43
(さ)		自然哲学とその射程	16
災害と安全の情報	139	自然との和解の美学一序説	34
災害と行政	68	自然の現象学	26, 174
災害報道	139	自然法および国家学に関する講義	5
Psychosocial Factors Associated with Recidivism among Male Japanese Criminals of Offender Rehabilitation Facilities	37	自然法および国家法	5
最初期ハイデッガーの意味論	8	時代の車窓から見た中小企業	108
在日コリアンと精神障害	134	自治体経営の人的資源管理	154
在日朝鮮人社会における祭祀儀礼	176	自治と協働からみた現代コミュニティ論	121
差異の王国	46	実験映像の歴史：映画とビデオ	49
サステナビリティの政策と経営	108	実際の中国語会話 [初級編]	163
サステナブルツーリズム	126	実践哲学とその射程	16
サッカーのある風景	121	知っておきたい金融論	97
錯覚と憑依(続)	177	質的比較分析(QCA)と関連手法入門	121
サッチャリズムとブレア政治	175	史的システムとしての民主主義	175
里山学講義	127	詩的創造の水脈	48
里山のガバナンス	127	自動車産業と生産システム	105
サプライチェーン管理会計	111	自動車ディーラー・システムの国際比較	115
3・11以後の日本の危機管理を問う	64	自動車電動化時代の企業経営	105
参加型評価	68	自動車のエレクトロニクス化と標準化	105
産業化の歴史と景観	85, 175	自動車の電動化・電子化とサプライヤー・システム	105
産業経済の発展と競争政策	82	児童・生徒のサポートの互恵性と精神的健康	145
産業集積と地域産業政策	87	児童扶養手当制度の形成と展開	152
産業組織論と競争政策	83	老舗企業にみる100年の知恵	106
産業内貿易の理論	82	老舗ブランド「虎屋」の伝統と革新	113
三世代近居の健康長寿学	119	死の力	146
		地場産業の高価格ブランド戦略	113
(し)		自分と社会からキャリアを考える	119
ジェリー・クラウス	160	自閉症と豊かな暮らし	134
シェリング芸術哲学における構想力	7	資本蓄積と産業発展のダイナミズム	94
シェリング自然哲学への誘い	21	島津製作所	115
シェリングとドイツ・ロマン主義	21	市民社会の系譜学	140
シェリングとヘーゲル	21	市民の科学	141
シェリング論集	21	市民の港 大阪港一五〇年の歩み	54
ジェンダー不平等起源論	133	自明性と社会	122
自我の探究	16	じゃあ、どうしろって言うのさ!	152
時間の思想史	29	社会学史点描	176
思考の自由とはなにか	9	社会学的国家概念と法学的国家概念	74
思考の道具箱	30	社会共生学研究	103
自己実現とアメリカ文学	169	社会共創学概論	109
自己と他者	8	社会経営学序説(改訂版)	103
自己の正体を求めて	22	社会経営学のすすめ	109
		社会人基礎力	144
		社会心理学	36

社会的課題に挑戦する若き起業家たち	112	初学者のための現象学	2
社会哲学の領野	16	初期ギリシア哲学講義・8講	13
社会に開かれたカリキュラム	143	食関連産業の経済分析	80
社会福祉援助技術	156	職業としての学問	123
社会福祉 Q&A 100選	152, 176	食と環境	89
社会文化研究	141	〈女子マネ〉のエスノグラフィー	138
社会変革の協同組合と連帯システム	99	女性教員のキャリア形成	145
若年生活困難者支援とガバナンス	120	女性地方議員と地域社会の姿貌	125
ジャーナリズムの使命	125	女性へ贈る7つのメッセージ	146
ジャパノロジー—ことはじめ	54	書評誌に見る批判哲学—初期ドイツ観念論の展相	2
周縁からの市場経済化	94	ショーペンハウアー兵役拒否の哲学	7
従業員	36	初歩の熱力学	157
宗教科にみる〈他者〉表象	44	ジョン・デューイ	146
宗教多元主義とは何か	44	ジョン・ロックの権利論	22
宗教の発見	44	シリーズ「大学評価を考える」	151
宗教のポリティクス	43	自立する関西へ	129
宗教法人の法律と会計	78	シルクとイタリアン・ファッションの経済史	80
宗教法と民事法の交錯	78	新・学習憲法	75
17世紀イングランドの家族と政治思想	175	進化デザイン戦略	103
10代の母というライフスタイル	135	新・観光学入門	131
集団間関係の社会心理学	36	新教育基本法のフロンティア	150
集団の社会学	123	新銀行論	99
自由と行為	16	新グローバル公共政策	57
自由の探求	34	新・現代養生訓	141
18歳の政治学	62	人権保障の憲法論	75
18歳の読書論	30	人口移動の経済学	80
自由への道	53	新興国企業の成長戦略	102
自由民主主義の理論とその批判	64	信じ愛すること	166
シュライアマハーの対話的思考と神認識	4	新時代の個別的労使関係論 (第2版)	110
笑育ドリル	143	新時代の幼児教育と幼稚園	145
障害児保育	153	新自由主義・国家・フレキシビリティの最前線	83
障害者福祉の政策学	72	新・18歳の読書論	30
生涯消費者教育論	98	「新書」から考える公務員の地域創生力	128
商学の基本を学ぶ 15講	112	「新書」から学ぶ公務員の教養力	140
小企業・自営業がつくる未来社会	111	心身関係論	26
証券市場の基礎知識	98	新・スポーツと健康の科学	159
証券投資の基礎知識	80	真正の深い学びへの誘い	142
証券論15講	99	深層のフランス啓蒙思想	26
少子高齢化の経済動学	96	身体運動の人間学改訂版	177
しょうせつ 教育原論202X	142	身体・空間・造形	48
商店街活性化と環境ネットワーク論	130	人的資源管理要論	110
小児がん病棟と学生ボランティア	136	人道支援は誰のためか	62
消費行動	113	新聞の社会史	136, 176
消費者金融システム論	98	人命の脱神聖化	39
消費者金融の新展開	98	信頼と合意の教育的リーダーシップ	144
消費者市民社会の構築と消費者教育	98	真理の灯籠	44
情報化社会のリテラシー	110	新・倫理考	41
情報化とデジタル・ネットワークの展開	124	人類共通の信仰	9
情報と自律性の管理	111	人類史のなかの人口と家族	132
情報マネジメントが経営を変える	111	人類は今やその行動力で自滅に向かっている	31
情報問題研究	141		

〈す〉		政治概念の歴史的展開 第十卷	70
衰退しない大英帝国	52	政治思想のなかの女	64
随筆家會津八一	177	政治・社会論集	62
スウェーデン社会福祉入門	177	政治哲学と対話の弁証法	4
数学からやりなおす!! 大学生のための リメディアル電磁気学入門	157	政治哲学入門	27
数学からやり直す!! 大学生のための リメディアル力学入門	157	政治の司法化と民主化	71
スーツ統計学	85	精神病院時代の終焉	155
数理統計の探求	86	精神病理学の認識論的基礎	33, 174
スコットランド近代繊維工業の展開	85	精神分裂病者に対する 心理療法の臨床心理学的研究	33, 174
スコボス理論とテキストタイプ別翻訳理論	23	生徒指導のフロンティア (新版)	150
鈴木商店と台湾	54	生と死の現在	40
図説 神と紙の里の未来学	119	制度・制度変化・経済成果	86
スタートしよう! 中国語!	163	制度として宗教	43
ストレスとともに働く	36	制度としての EU 共通航空政策の展開	86
スピノザ『エチカ』	14	政府の銀行貸出への関与は日本の中小企業 を強くしたか	96
スピリチュアル・アフリカ	45	政府の政治理論	63
すべての人は芸術家である	46	生命倫理における宗教とスピリチュアリティ	41
すべてはゲストのために	114	西洋教育思想小史	146
スポーツガバナンスとマネジメント	117	西洋思想叢書	34
スポーツ産業論	117	西洋哲学の軌跡	3
スポーツにおける逸脱とは何か	118	西洋の歴史を読み解く	51
スポーツの「あたりまえ」を疑え!	118	世界金融危機と欧米主要中央銀行	99
スポーツの経済と政策	90	世界史単元開発研究の研究	53
スポーツの組織文化と産業	90	世界市民の地理学	56
スポーツ文化論	117	世界市民の哲学	17
スポーツマーケティング入門	117	世界に広がる農村生活改善	119
スポーツマーケティング論	117	石中の火、木中の花	55
スポーツマンシップ論	117	セーフティプロモーション	118
スポーツ倫理学の射程	42	蟬しぐれ	167
隅田川・向島のエスノグラフィー	127	セレモニー概論	130
スリランカの農園地域における母子保健	156	1930年代のモンゴル・ナショナリズムの諸相	58
スリリングな哲学	11, 173	戦後西ドイツ外交の分水嶺	66
		戦後日本の国際関係	175
		戦後らい法制の検証	78
		戦前期の我が国電力独占体	175
		戦争と福祉	118
		戦争の記憶と和解	59
		戦争をしないための8つのレッスン	59
〈せ〉			
西欧近世法の基礎構造	175		
西欧世界におけるユートピア思想	25		
正義への挑戦	96		
世紀末ウィーン文化探究	52		
政策評価の理論とその展開	69, 175		
政治概念の歴史的展開 第一巻	70	宋教仁の研究	174
政治概念の歴史的展開 第二巻	70	創業と会社変更のための会社法	77
政治概念の歴史的展開 第三巻	70	造形の構造	48, 174
政治概念の歴史的展開 第四巻	70	相互依存の経済学	86
政治概念の歴史的展開 第五巻	70	総合政策科学の現在	63
政治概念の歴史的展開 第六巻	70	総合政策学入門	63
政治概念の歴史的展開 第七巻	70	総合的現象としての観光	56
政治概念の歴史的展開 第八巻	70	創世記と地質学	29
政治概念の歴史的展開 第九巻	70	漱石に英文学を読む	166
		〈そ〉	

創造・再生のまち おおだて	119	台湾映画（新編）	50
創造するコミュニティ	68	台湾原住民の社会的教化事業	132
《想像的人間》としてのニーチェ	10	台湾現代文学・映画史年表	168
創造都市への戦略	129	台湾現代文学の研究	168
創造の場と都市再生	129	台湾社会における放送制度	125
創造村をつくろう！	129	台湾総統選挙	62
像と平面構成Ⅰ	10, 173	台湾の海洋安全保障と制度的展開	61
〈僧侶らしさ〉と〈女性らしさ〉の宗教社会学	132	ダウン症者・家族が幸せに暮らすために	153
副島豊次郎	175	多角化視点で学ぶオリンピック・パラリンピック	159
続・18歳の読書論	30	高安月郊研究	167
ソクラテスのダイモニオンについて	2	卓越の倫理	39
ソーシャルスキルと職業性ストレス	106	多元的世界における寛容と公共性	43
ソーシャルワークの固有性を問う	155	多崎つくるはいかにして決断したのか	166
ソフトウェア・ビジネス	111	他者を負わされた自我	32
ソフト経済小説で読む超高齢化社会	90	多神教世界における日常の法	74
存在の呪縛	4	「正しく」考える方法	10
存在の諸相	1	脱アルコールの哲学	118
存在論の根本問題	19	脱マネジメント論	176
		たてなおしの福祉哲学	153
〈た〉		楽しい中国語会話 一初 級一	163
大学教育と地域社会	148	楽しい中国語会話 一中 級一(改訂版)	163
“大学教授” ウェーバーと “ホームレス” マルクス	28	旅する木下圭太郎／太田正雄	167
大学経営学序説	103	旅と政治	175
大学経営の評価システム	104	旅の気分でポルトガル語	165
大学サッカーの断想	160	多文化時代の市民権	74
大学人ウェーバーの軌跡	123	魂にみちた教育	147
大学スポーツの新展開	159	多面的視点からのソーシャルワークを考える	155
大学生と語る性	41	探求と方法フランス近現代美術史を解剖する	47
大学生のための社会学入門	122	男女共同参画政策	125
大学生のための知性を磨く哲学と論理40問	11		
大学のグローバル化と内部質保証	148	〈ち〉	
大学の授業を変える	176	地域活性化戦略	129
大学の学びを変えるゲーミング	142	地域活性化のデザインとマネジメント	121
大学評価学会年報『現代社会と大学評価』	151	地域から平和をきずく	59
タイ近代土地・森林政策史研究	127	地域共創と政策科学	69
体験的精神障害者福祉論	177	地域共同体とグローバリゼーション	95
「第3の道」序説	121	地域経営分析	80
第三の道とその批判	121	地域経済分析ハンドブック	87
第三の道の経済思想	84	地域研究概論	59
大正期の結婚相談	135	地域研究への扉	123
大正文学史	166	地域コーディネーションの実践	119
「対人援助学」キーワード集	152	地域再生学	88
対人援助学の到達点	154	地域資源とコミュニティデザイン	128
対人援助学を拓く	154	地域社会からみた人形劇	119
対人援助における通訳者の倫理	136	地域スポーツクラブ指導者ハンドブック	161
対人プロセスと心理的諸問題	36	地域生態論	56
代替養育の社会学	135	地域創生学	88
第二次大戦日米英流通史序説	91, 176	地域創生の戦略と実践	129
大連立政権は民主政治の十分条件か	65	地域創造への招待	69
タイ労働法研究序説	175	地域とNPOのマネジメント	108
対論・日本のマスメディアと私たち	125	地域と歴史学	52

地域産業の盛衰と家族変動の社会学	135	中小企業における経営計画による経営理念の浸透	101
地域のトップリーダーを育む スカウト教育の復権	128, 173	中小企業のコーポレート・ブランド生成	101
地域福祉のエンパワメント	128	中小企業論	108
地域紛争の構図	62	中日・日中法律用語辞典	79
地域保健とマーケティング	141	中文課本甲	164
地域メンテナンス論	128	中文課本翔龍	164
地域力	127	中文課本碧水	164
小さな拠点と軸とする共生型ちいきづくり	128	中文課本蘭風	164
知識人の責任	64	中文課本緑風	164
知性を磨くための論理37問	30	超越論的批判の理論	16
知の座標軸	32	超越論哲学とはなにか	16
地方観光政策と観光まちづくりの展開	131	長期にわたる最適化とケインズ経済学	86
地方圏の時代	87	長江正義と勇気の大海へ〔上〕〔下〕	172
地方港湾からの都市再生	88	長寿社会を生きる	141, 176
地方自治の憲法学	75	長城万里図シリーズ	172
地方発 外国人住民との地域づくり	120	長新太の絵本の不思議な世界	30
チーム学校に求められる教師の役割・職務とは何か	143	調整と調整行為	162
チャイニーズセンテンスの理解と実践	162	超中国語入門	163
チャンピオンスポーツの人間学	161	超入門ジャーナリズム	125
中央銀行と金融政策	98	知を愛する者と疑う心	3
中華民国史研究の動向	53	賃金と働き方	101
中国大型国有企業の経営システム改革	105	陳公博の革命イデオロギー 「民生主義革命」の形成と崩壊	67
中国近現代作家の政治	168	沈黙の詩法	26
中国金融市場論	95		
中国現代文学	168	〈つ〉	
中国語課本	164	土田杏村の思想と人文科学	25
中国語基礎	162	罪と罰の哲学的考察	74
中国語最重要単語2000	163		
中国語読本	164	〈て〉	
中国語レッスン70	164	ディアロゴス	4
中国語を話そう	162	ディアロゴスの現象学	27, 174
中国思想の流れ（上）	25	抵抗する知性のための19講	23
中国思想の流れ（中）	25	「帝国」としての中期共和政ローマ	175
中国思想の流れ（下）	25	ディーセント・マネジメント	103
中国滞在実践会話〔初級編〕	163	ディーセント・マネジメント研究	103
中国地方の自動車産業	80	低炭素社会のビジョンと課題	90
中国とアメリカと国際安全保障	66	TPPと日米関係	92
中国都市商品建物予約販売制度の研究	79	「一ている」の意味とロシア語のアスペクト	165
中国都市廃棄物と環境ガバナンス	90	デカルト『方法序説』	14
中国農村の土地公有制及びその法的分析	79	テキストブック国際政治学	58
中国農民工の調査研究	95	テキストとコンテキスト	27
中国の環境政策	176	デザイン之力	49
中国の環境法政策とガバナンス	76	デジタルアーカイブの構築と技法	137
中国のグローバル化と経営管理	104	デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法	124
中国の消費社会と消費者行動	94	デジタルアニメーション	136
中国の政治・文化・産業の進展と実相	53	デジタルコミュニケーション	136
中国文化史上における漢賦の役割	53	デジタル・ネットワーキングの社会学	124
中国水環境問題の協働解決論	118	デジタル・ネットワーキングの展開	124
中国民商法の比較法的考察	76	哲学史の変奏曲	9
中小企業再生の道 精選版	101	哲学書 概説シリーズ	14

哲学としての美学	12	途上国研究	57
哲学のアポリア	3	途上国における軍・政治権力・市民社会	71
哲学の苑にて	2	屠場みる・きく・たべる・かく	138
哲学の体系性	17	都心・まちなか・郊外の共生	128
哲学の立場	3	ドストエフスキイとセザンヌ	47
哲学の眺望	3	都道府県改革論	64
哲学のメタモルフォーゼ	3	ドナウ河	170
「哲学」のゆくえ	3, 173	ともに歩む会	135
哲学ワールドの旅	3	トヨタショックと愛知経済	87
哲学を学ぶ	2	トヨタ品質管理のメカニズム	102
手塚マンガの不思議	137	ドラッカー思想と現代経営	103
鉄道と商業	107	ドラッカーの周辺	103
デュエイ教育学の特質とその思想的背景	176	トランスジェンダーの心理学	37
デュエイ自然主義の生成と構造	35		
転換期中国の企業群像	94	〈な〉	
転換期の国際政治	71	内容学と架橋する保健体育科教育論	159
天王寺屋五兵衛の事績	51	長崎一記憶の風景とその表象	131
天皇制絶対主義 国家論の再構築・試論	64	名古屋経済圏のグローバル化対応	87
天皇ヒロミチとその時代	54	ナショナル・アイデンティティ論の現在	68
〈と〉		ナショナル・シネマの彼方にて	137
ドイツ啓蒙の哲学者 クリスティアン		なぜ、共生倫理なのか？	106
・ヴォルフのハレ 追放顛末記	5	なぜ、市場化に違和感をいだくのか？	121
ドイツ産業革命	85	夏目漱石と帝国大学	166
ドイツ人とドイツ美術	49	何が地方都市再生を阻むのか	87
ドイツで暮らそう	134	“なりわい” 産業の危機と光	104
ドイツ都市交通行政の構造	66	南京陥落・平和への祈り〔上〕〔下〕	172
唐王朝の宮城と御前会議	53	〈に〉	
統計解析の基礎	86	新島襄人と思想	176
統計学	85	ニーチェ思想の根柢	33
道元の心の哲学	43	匂いの哲学	29
当事者訴訟の機能と展開	76	西陣室町織維産業の信用システム	101
投資信託税制の理論と課題	100	西田幾多郎『善の研究』	14
島嶼経済とコモンズ	88	西田哲学読解	174
同性パートナーの尊重から見えること	121	21世紀型新民主論	100
当代中国語会話〔初級編〕	163	21世紀のジェンダー論（改訂版）	133
道德教育の視点	148	21世紀の商学原論講義	112
道德教育のフロンティア	149	21世紀の政治と暴力	62
道德性の逆説	34, 174	21世紀の世界経済と日本	92
道德的主体としての現代企業	109	21世紀の「日本」と「日本人」と「普遍主義」	64
東南アジアにおける地方ガバナンスの計量分析	61	21世紀の日本を見つめる	132
動物からの死のメッセージ	138	20世紀の歴史学	51
動物園の社会心理学	130	20カ国のスペイン語①	164
徳と政治	61	20世紀アジアのポリティカルエコノミー	92
徳は何の役に立つのか	40	二〇世紀の都市ガバナンス	80
特別活動のフロンティア	151	2017年度版ポケット教育小六法	143
どこに向かう日本の翼	101	ニーチェ『ツァラツストラかく語りき』	15
都市再生における効率性と公平性	176	日常生活の中の趣	46
都市と森林	88	日米経済の資金循環モデル	82
都市における乗合旅客自動車輸送	90	日経連の賃金政策	81
都市の憧れ、山村の戸惑い	127	ニココロ・マキアヴェッリと現象学	5

PUNの缶詰 (増補版)	114	ファッションイラストレーションの体系	46
		ファッションビジネス戦略的ブランドマネジメント	113
〈ひ〉		ファッションビジネスの進化	113
悲哀の底	10	ファミリー・バイオレンス	135
ピア・サポートの社会学	136	フィヒテ研究	18
ピアジェ思想入門	26, 174	フィヒテ知識学の根本構造	35, 174
ビーイング・グッド: 倫理学入門	39	フィヒテ知識学の全容	7
美学47		フィヒテのイェーナ期哲学の研究	7
比較宗教学への招待	43	フィヒテを読む	7
東アジア経済の発展と日・米・欧の諸相	93	フィルムスタディーズ入門	50
東アジア経済の変容	93	不況を拡大するマイナス・バブル	91
東アジア市場統合の探索	93	福井地域学	87
東アジア諸国の企業経営とグローバリゼーション	110	福井の経済	88
東アジア新興市場と地場産業	94	ふくいブランドとフードシステム	130
東アジア「地方的世界」の社会学	140	複眼の思想	146
東アジアの産業発展と水産食品企業	94	福祉国家論	86
東アジアの地域経済発展と中小企業	93	福祉と教育の接点	155
東アジアの地域経済連携と日本	93	福祉の先駆者たち	153
東アジアのなかの日本と中国	66	福田金属箔粉工業	116
東インドネシアの家社会	176	腐食防食用語事典	157
東日本大震災ノート災害ボランティアを考える	139	舞台のうへのジャーナリストたち	124
東日本大震災復興: 復興に向けて	139	双子のパラドックスの論理	30, 174
ビギナーのための国際経済学	91	フッサールとハイデガー	9
ビジネス英語のすべて	165	フッサールの現象学	8
ビジネスマナー中国語	164	フッサール〈危機〉書の研究	34
ビジネス倫理学	106	フッサール現象学の理路	34, 174
ビジネス倫理学読本	106	フッサールの現象学	27
美術で綴るギリシア宗教と思想	28	フッサールの後期還元思想	26
美術で綴るキリスト教と仏教	28	フッサールの志向性理論	8
「非」常用労働者の200年	120	フッサールの脱現実化的現実化	174
肥大化する中国軍	66	フッサール『ヨーロッパ諸学の危機』	15
筆記用具のイギリス文学	170	物質循環のエコロジー	89
ヒット商品連発にみるプロダクト・イノベーション	113	物流発展と生産性	81
美的経験の現象学を超えて	48, 174	船乗りがつなぐ大西洋世界	52
美とうつくしさ	12	舟橋聖一の大東亜文学共栄圏	167
美と崇高の彼方へ	6, 173	普遍教会と国家-法理論	44
美の中断	46	プラグマティズム	9
批判的形而上学とはなにか	16	ブラジル国家の形成	58
批判的社会理論の現在	27	プラトニズム講義・4講	13
PB 商品戦略の変遷と展望	114	プラトン後期的ディアレクティケー	4
ひろがる日本のミュージアム	131	フランス交通論	81
琵琶湖水域の可能性	126	フランス認識論における非決定論の研究	9
貧困ガバナンス論	80	フランスの共済組合	153
貧困・環境と持続可能な発展	89	ブランド・インサイト	114
貧困と社会保障制度	99	ブランド価値創造戦略に求められるもの	113
貧困の逆説	167	ブランド価値の創造	113
貧困の世代間継承 (第2版)	153	ブリーモ・レーヴィへの旅	133
貧困, 紛争, ジェンダー	62	ブルボン公とフランス国王	53
		フローと再帰性の社会学	121
〈ふ〉		雰囲気の美学	12
ファイナンシャルリスクマネジメントの理論と実証	99	文学現象から見た現代中国	178

マネー経済学	91	ものづくり産業集積の研究	87
マネジメントのための ICT 基礎講座	111	百恵讃	137
まるごと小説は面白い	178	森のサステイナブル・エコノミー	126
マルチ・リーガル・カルチャー	74	森原英壽	119
丸山眞男とハイデガー	28	モンキー・D・ルフィは実在した!?	106
マレーシアの政治とエスニシティ	67		
マンガをもっと読みなさい	137	〈や〉	
記・丘の博物誌 第一部 日本編	132	野球における暴力の倫理学	42
記・丘の博物誌 第二部 海外編	132	薬剤師のこれから	158
		ヤーコプゾーンの生涯	52
〈み〉		やさしい経営入門読本	109
見えざる手」の痕跡を求めて	84	ヤスパース暗黙の倫理学	39
未完の教育学者	147	ヤスパースとハイデガー	34
三木清とフィヒテ	7	山崎重雄	119
水田洋 社会思想史と社会科学のあいだ	29	闇市から来た反一哲学者—木田元論	55
水先案内人	138	「やりがいのある仕事」と「働きのいい職場」	109
緑の党政権の誕生	66	柔らかなカント哲学 (増補改訂版)	173
Meanings of Leisure in Japan	160		
身のまわりから学ぶ流体力学	157	〈ゆ〉	
ミャンマーの「法」と「開発」	78	友情と詐欺の社会学	138
民際学の展開	87	遊牧の経済学	94
民俗学読本	118	誘惑論・実践篇	29
民法改正とアメリカ契約法	76	ユダヤ教徒に見る生き残り戦略	44
		ユートピアの再構築	63
〈む〉		夢みる防災教育	139
無期懲役囚の更正は可能か	134	揺れ動く死と生	24
「無償教育の漸進的導入」と大学界改革	104		
無知と文明のパラドクス	23	〈よ〉	
無の人間学	11	善いものと美しいもの	4
		幼児教育行政学	149
〈め〉		幼児教育のフロンティア	151
明治憲法制定とその周辺	76	要説 独占禁止法	76
明治思想史の一断面	147	善く生きることとカント	22
明治初年の裁判	75	欲望論	4
明治日本と鉄道	51	欲望を知る	11
メコン地域開発と ASEAN 共同体	93	与謝野晶子 岡本かの子	171
メジャーリーグの現場に学ぶビジネス戦略	114	吉本隆明の社会理論	122
メタフィジックス	2	ヨーロッパ国際政治	65, 175
メディア、使者、伝達作用	8	ヨーロッパ史への扉	52
メディアというプリズム	125	ヨーロッパとは	51
メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』	15	ヨーロッパ歴史学の新潮流	51
		〈ら〉	
〈も〉		ライフコースの健康心理学	37
モアのユートピア	26	ライフ・サイクルと社会保障・福祉	100
もうひとつの長崎さるく	131	ライフストーリーでつづる	
燃えるジンバブウェ	140	国際ボランティアの歩き方	60
モデルネの鬘り	21	ライブニッツにおける弁論的思惟の根本動機	26
元 CA 訓練部長が書いた日本で一番やさしく、		ライブニッツ『モナドロジー』	14
ふかく、おもしろい ホスピタリティの本	107	ライン河	170, 178
物語とレヴィナスの「顔」	27	楽天的闘病論	134
物語のなかの社会とアイデンティティ	176		

落涙成珠	167	労働管理の基本構造	110
ラテンアメリカの年金政治	68	労働法の現在	77
		労働法の原点	77
〈り〉		労働法の再構築	77
リスク・ファミリー	135	労働法の新展開	78
リズム（身体感覚）からの逃走	29	老年の超越	141
理性の夢Ⅰ	4	労務理論学会誌	116
理性への問い	17	6人の世俗哲学者たち	10
立法補佐機関の制度と機能	74	ロシア経営学の新潮流	107
留学生と中学生・高校生のための日本史入門	54	ロシア芸術学序説	48
竜とみつばち	53	ロシア・東欧史における国家と国民の相貌	53
旅行取引論	107	ロシア統計論史序説	91
旅行ビジネスの本質	107	ロジスティクス SCM 革命	101
リリース	133	ロジスティクス・SCM の実際	115
臨界点の政治学	63	ロック倫理学の再生	39
臨床言語心理学の可能性	36	ロバート・フロスト哲学者詩人	169
臨地の対人援助学	154	ロバート・フロストの牧歌の技法	166
倫理学基礎講座	39	ローマに学ぶ防災先進都市の条件	139
倫理学研究	42	論理的構文論：哲学する方法	12
倫理学の根本問題	19	論理と分析	1
		〈わ〉	
〈れ〉		ワールド・シネマ・ヒストリー	50
冷戦期アメリカのアジア政策	71	我が国商品取引所制度論	176
冷戦変容と歴史認識	71	若狭のおさかな	130
レオ・シュトラウスと神学-政治問題	26	若者支援の日英比較	120
「歴史とは何か」の歴史	51	若者のキャリア形成を考える	146
歴史に学ぶ侵略と戦争の論理	64	わかりやすい航空工学入門	157
歴史の慣性	57	我心深き底あり	55
歴史のなかの国際秩序観	71	我らが大地	170
歴史のなかの特許	78	ワンハンドショットのメッセンジャーたち	16
レギュレーションの政治経済学	176		
		〈ろ〉	
労使関係法	77		

❖ 著（訳編）者名索引 ❖

〈ア〉

アーベル, K. O. 19
 相原耕作 70
 相原正道 117, 159, 117
 青木 敬 165
 青木高夫 102
 青木みのり 36
 青木裕子 70
 青木 亮 81
 青水 司 140
 青山 勝 49
 赤池慎吾 119
 赤井正二 27
 赤尾勝己 146
 秋田 巖 134
 秋田和彦 161
 秋丸知貴 47
 秋山 弥 144
 アグリエッタ, M. 99
 浅井 篤 39
 浅田昇平 143
 浅沼圭司 47
 浅野英一 60
 浅野健一 125
 浅野豊美 70
 浅野 亮 66
 朝広謙次郎 16
 芦名定道 43
 芦屋大学ビジネス研究センター
 115
 足立勝彦 114
 安達智史 121
 安達智子 119
 安達房子 111
 新 茂之 27, 35
 アトキンソン, A. B. 86
 アドラー, A. 9
 安孫子勇一 97
 安部 浩 3, 4, 33
 天野正輝 143
 荒井英治郎 150
 荒井正雄 174
 荒木晃子 135
 荒木紀幸 148
 荒木穂積 154
 荒木 勝 70

有賀 寿 51
 有賀 誠 61, 63
 アーリ, J. 121
 有福孝岳 3, 6, 14, 43
 有福美年子 3
 アルバート, H. 19
 アルワイス, L. 9
 安西敏三 55

〈イ〉

飯島昇藏 26
 飯田奈美子 136
 飯田善郎 81
 飯野勝己 2
 飯野由里子 118
 飯山千夜子 132
 家高将明 154
 家近亮子 66
 庵 功雄 54
 池内靖子 133
 池尾靖志 59
 池島真策 77
 池田 潔 121
 池田 喬 8
 池田全之 10
 池田善昭 3, 14, 26, 31, 55, 173
 池松辰男 2
 池見澄隆 44
 伊坂青司 21
 石井 健 52
 石井 正 78
 石井徳章 105
 石井基博 34
 石川公彌子 70
 石川利江 37
 石川 肇 167
 石川文康 16
 石川正子 120
 石川 求 17
 石黒 馨 62, 68
 石黒 太 144
 石崎嘉彦 4, 26, 63, 70
 石田京子 1
 石田 淳 121
 石田信博 115
 石田光規 129
 石田易司 134

石田洋子 58
 石塚哲也 86
 石原敬子 86
 石前禎幸 74
 井島 勉 46, 47
 石村卓也 143
 石村真紀 37
 石本眞八 92
 伊集院利明 11
 伊集院令子 10, 173
 泉 文明 137
 磯江景孜 19, 20
 磯造厚子 156
 磯前順一 29
 磯山 淳 100
 伊多波良雄 90, 99, 104
 井田泰人 107, 112, 114
 市川 功 26, 41, 174
 市川きみえ 38
 市川虎彦 65
 市川嘉彦 114
 市原靖久 73
 イッガース, G. G. 51
 一般社団法人アリーナスポーツ協議
 会 159
 井手豊也 91
 伊藤秋仁 58
 伊藤央二 160
 伊藤一雄 151
 伊藤和夫 109
 伊藤邦武 3, 9
 伊藤健市 109
 伊藤浩平 129
 伊藤 淳 160, 161
 伊東眞一 98
 伊藤貴雄 7
 伊藤智樹 136
 伊藤朋子 143
 伊東久智 25
 伊藤 博 167
 伊藤博志 108
 伊藤博美 148
 伊藤美佳子 145, 149, 150
 伊東道生 9
 伊藤彌彦 147
 伊藤良高 142, 143, 145, 146, 149,
 150, 151

- 伊藤慶郎 4
 稲垣 諭 3, 8
 伊奈新祐 49
 稲葉 穰 24
 伊波洋一 59
 稲本恵子 107, 144
 稲本隆壽 130
 犬竹正幸 16
 犬塚 元 70
 犬伏雅一 49, 50
 井上 薫 102
 井上克人 4
 井上勝也 176
 井上欣儒 50
 井上慧真 120
 井上純一 27
 井上武史 88, 89
 井上摩記 168
 井上真理子 135
 井上泰夫 91, 143
 井内敏夫 53
 井ノ口淳三 176
 井野瀬久美恵 67
 井面信行 49
 井原勝介 59
 伊原千晶 158
 伊原紀子 23
 伊吹勇亮 90
 今井信治 132
 今泉喜一 162
 今枝法之 121, 122
 今田 治 93
 井柳美紀 70
 入江恵子 120
 入江幸二 51, 52
 入江幸男 7
 岩城見一 32
 岩崎俊夫 91
 岩崎久志 36, 154
 岩崎陽子 29
 岩浅 巧 117
 岩田拓夫 67
 岩谷昌樹 112
 岩満賢次 120
 岩本 勲 63, 64
 岩本 諭 98
- 〈ウ〉
 ヴァイス, A. V. 20
 ヴィスメール, J. M. 169
 ウィトゲンシュタイン, L. 11
- ウィリアムソン, O. E. 102
 ウィントロープ, N. 64
 上尾真道 37
 上杉敬子 41
 上田耕造 51, 53
 上田滋夢 117
 上田純子 152
 植田真司 117
 上谷浩一 53
 上谷聡子 159, 161
 植田 均 163, 164
 上田 博 166, 171, 177, 178
 植田宏文 97, 98
 上續宏道 155
 上野太祐 23
 上野 仁 46
 ヴェーバー, M. 123
 上原禎弘 159
 植村恒一郎 16
 植村 巳 132
 上山清二 111
 ウォーカー, J. A. 49
 ウォーバートン, N. 30
 氏家伸一 64
 牛尾洋也 75, 127
 宇治郷毅 147
 白井英治 151
 内上 誠 81
 内田 智 70
 内山 昭 92
 内山敏典 86
 内山怜和 92
 ウッツ, A. 84
 馬場 哲 81
 海野敦史 76, 83
 梅澤啓一 146
 梅津和郎 96
 梅津光弘 106
 梅原浩次郎 87
 梅原 猛 31
 烏雲高娃 58
 浦 達雄 131
 ウルフ, J. 27
 宇和川 雄 8
- 〈エ〉
 エイチチャンプイン 94
 江口信清 56
 江口博保 66
 江尻雅一 169
 エステベス, K. 57
- 絵所秀紀 96
 榎 新二 113
 榎本 渉 29
 海老澤善一 14
 闊 学通 57
 円城由美子 68
 遠藤英樹 132
- 〈オ〉
 青海忠久 130
 大石沙都子 166
 大泉光一 109
 大泉常長 58, 109
 大浦康介 29
 大川聡子 135
 大川玲子 45
 大串和雄 62
 大久保健晴 70
 大倉季久 126
 大阪市立大学大学院創造都市研究科 129
 大阪ソーシャルワーカー協会 153
 大崎 優 119
 男澤智治 115
 大澤 麦 70
 大嶋泰治 31
 大城道則 52
 大須賀明 114
 大関雅弘 122
 太田一樹 115
 大竹敏次 101
 太田進一 111
 太田喬夫 48
 太田直道 173
 大谷照裕 147
 大田英昭 70
 太田義器 26
 大塚健司 118
 大塚尚武 157
 大塚正之 31
 大津真作 57
 大津真作 9
 大津尚志 142, 149, 150, 151
 大坪哲也 9
 大西昭生 110
 大西勝明 108
 大西 謙 106
 大西正曹 101, 108, 119
 大西正志 88, 109
 大西光弘 9
 大西裕司 117

大沼義彦 121	奥田宏司 95	春日井敏之 154
大野 徹 175	奥野克己 120	春日 修 76
大野宏之 117	奥野恒久 75	数家鉄治 107
大橋 勝 49, 50	奥野元子 25	春日雅司 125
大橋容一郎 16	奥山英司 99	加瀬和俊 104
大橋良介 20	奥山直司 24	ガセット, O. Y. 10
大林 稔 58	奥山倫明 43	カーター, L. E. 41
大町 公 41	小黒 純 125	片上平二郎 10, 137
大峰光博 42, 118	小阪隆秀 108	片淵卓志 102
大村和正 63	小澤照彦 27	片淵悦久 137, 169
大村邦年 113	男澤智治 115	ガーダマー, H. G. 19, 20
大村照夫 84	小沢道紀 103	片柳榮一 4
大村英昭 41	小沢 亘 128	片山智彦 75
大森淳史 48	押村 高 70	片山慶隆 70
大森 晋 101	織田健志 70	勝間 靖 57
大藪俊志 63	小田龍哉 22	勝山紘子 8
大山英樹 166	織田直文 131	桂 文子 177
岡井崇之 119	小田部胤久 21	加藤 敦 111
岡崎 昭 100	落合雄彦 45, 57, 58, 67, 123	加藤 茂 48, 174
岡崎晴輝 70	落合史生 100	加藤 節 70
小笠原 真 123	越智 貢 40	加藤辰夫 130, 94
小笠原欣幸 62	オドーネル, M. G. 84	可藤豊文 44
岡地勝二 86	乙部哲郎 76	加藤尚武 32, 40, 174
岡 伸一 60	小野 真 6	加藤秀治郎 62
岡田勝明 10	小野塚佳 83	加藤博史 128, 153
岡田紀子 28	小野原雅夫 17	加藤泰史 6, 16, 17
岡田昌毅 37	尾鼻 崇 138	加藤善夫 52
岡田三津子 144	小山和伸 23	門屋秀一 4, 6, 28
岡田光弘 136	折戸洋子 109	門脇 健 24
岡林 洋 28, 46, 48	オルト, E. W. 34	金川幸司 68, 108, 176
小藤原敏夫 166	恩田守雄 122	金谷重樹 75
岡部芳彦 85		要真理子 50
岡村健志 119		金森 剛 113
岡本仁宏 70	〈カ〉	金屋平三 175
岡本茂樹 134	魁生由美子 120	金子邦彦 81, 97
岡本 隆 110	柏原幾松 100	金子裕介 1, 9, 11
岡本卓也 36	カウルバッハ, F. 19	金子由芳 78
岡本正明 61	加賀裕郎 35	金子芳樹 67
岡本泰弘 145	鏡 圭祐 61	金田知子 58
岡山勇一 169	賀川真理 67	金芳外城雄 139
小川賢治 123, 176	加國尚志 3, 15, 21, 26, 55, 174	鏡木政彦 70
小川紘一 105	角野幸博 128	カプリオ, M. 120
小川 侃 4, 5, 19, 27	影山貴彦 137	カベサス, A. 164
小川直樹 98	鹿子生浩輝 70	鎌田東二 25
小川浩之 71	笠井俊和 52	神垣享介 64
沖田行司 25	梶尾悠史 8	神木良三 98
呉京煥 166	梶谷真司 12	上久保誠人 62
萩原 隆 65	榎田美雄 136	神島裕子 70
オーキン, S. M. 64	梶 英樹 119	神野賢治 118
奥井亜紗子 126	柏木信一 112	カムバルテル, F. 19
奥田 寛 164	柏木理佳 104	亀本 洋 73
	梶原克彦 68	

- 鴨川啓信 137
 嘉本伊都子 122
 加茂直樹 122, 123
 加茂英臣 4
 萱沼美香 100
 加戸谷將平 168
 からだ気づき教育研究会 160
 荻部 直 70
 カルナップ, L. 12
 河合正二 77
 川合大輔 25
 河井徳治 14
 川浦昭彦 99
 川上 勉 68
 河上倫逸 74
 川上祐司 102, 114
 川阪宏子 76
 川島 哲 92, 93
 川島秀一 34
 川島 真 53
 川島 隆 8, 125, 169
 川島龍一 127
 川西 勝 139
 河野和永 155
 河野憲一 122
 河野有理 70
 河野洋子 142
 川端正久 54, 67
 河原清志 162
 河村有教 61, 73
 川村覚昭 143
 河村克俊 6, 16
 河村能夫 94
 河本英夫 3, 8
 ガン, D. 111
 韓 燕麗 137
 関西活性化研究会 129
 関西大学経済史研究会 85
 関西中小企業研究所 111, 112
 関西人間学会 152
 関西倫理学会 42
 菅野聡美 70
 神林恒道 47, 49
 神林信之 144
 菅 英輝 61, 71
 神戸一生 129
 カン, N. 165
 姜 美香 120
- 企業政策研究会 111
 菊地夏野 118
 菊池理夫 63, 70
 菊本智之 159
 木阪真行 16
 紀司かおり 37, 120
 岸田道彦 109
 岸根敏幸 43, 44
 岸野浩一 70
 岸 文和 49
 岸本吉弘 49
 キーゼヴェター, F. 85
 木曾陽子 153
 北垣宗治 54, 146
 北川勝彦 67
 北川秀樹 76, 130
 北川雄也 72
 木田 元 14
 北出真紀恵 120
 北野幸子 149, 151
 北原 淳 93, 127
 氣多雅子 14
 北村研一郎 85
 北村未央 29
 橋高通泰 155
 ギデンズ, A. 121
 衣本篁彦 87
 木下達文 131
 木下太志 132
 木船久雄 89, 90
 木部尚志 70
 木股知史 171
 金 善美 127
 金 泰泳 134
 金 美珍 126
 木村光伸 56
 木村茂雄 169
 木村 準 160
 木村俊道 70
 キムリッカ, W. 74
 木元富夫 85, 175
 キャッツ, S. L. 169
 キャラハン, R. E. 146
 キャリル, P. 160
 九州 ICT 教育研究会 111
 姜 春潔 57
 京都経済短期大学・職員研究会
 148
 京都産業学研究シリーズ第一巻編集
 委員会 115
 京都産業学研究シリーズ企業研究第
- 二巻編集委員会 116
 京都産業学研究シリーズ企業研究第
 三巻編集委員会 116
 京都産業学研究シリーズ企業研究第
 四巻編集委員会 116
 京都産業学研究シリーズ編集委員会
 110
 京都産業学シリーズ テーマ別研究
 第2巻 編集委員会 101
 「京都産業学を創る」編集委員会
 114
 京都生命倫理研究会 41
 京都人間学塾 22, 24
 杏林大学外国語学部中国語教育研究
 室 164
 清 真人 10
 許菁娟 168
 清滝仁志 70
 ギリスピー, C. C. 29
 桐原隆弘 39
 近畿地区高等専門学校保健体育研究
 会 159
 金紅実 90
- 〈ク〉
 久呉高之 16
 日下部吉信 13
 葛谷 彩 71
 楠家重敏 51, 54
 工藤和男 8, 9, 27, 34, 40, 174
 工藤康宏 117
 國末泰平 166
 國友順市 77
 久保 進 162, 165
 久保田賢一 60, 148
 窪寺俊之 41
 久保裕愛 162
 久保雅博 162
 熊倉修一 98
 熊谷忠和 155
 倉田致知 110
 倉橋重史 176
 倉本 香 34, 174
 グラント Jr., J. 155
 クリステイン, R. 9
 クリストドゥリディス, E. A. 74
 栗田 修 9, 47, 176
 栗田英幸 96
 栗田真樹 122
 栗原 裕 92, 97
 栗山浩一 89
- 〈キ〉
 企業危機管理研究会 109

クルティース=ドゥナミ, S. 23	後藤弘志 40	
訓覇暉雄 19	五島祐治郎 160	(サ)
椋田 療 90	後藤幸弘 159	齋藤圭介 121
クレーマー, S. 8	後藤嘉也 8, 14	齋藤實男 114
黒岩裕市 133	後藤玲子 96	斎藤拓也 1
黒岡佳栞 2	ゴードン, B. 84	齋藤富雄 139
黒澤正一 115	小長谷一之 129	齋藤了文 10
黒澤寛己 117	小波秀雄 157	齋藤尚文 54
黒田忠史 175	コナリー, S. 143	斉藤日出治 94, 99
晴谷憲洋 165	小西唯雄 83	斎藤真緒 27
グロック, H.J. 27	小西真理子 39	齊藤 稔 78
グローネマイヤー, A. 50	小西洋平 153	齋藤元紀 8
桑原桃音 135	小林明子 154	斎藤 渉 12
郡司 健 112	小林 泉 59	崔 英靖 88, 109
	小林和雄 142	斎山美津子 159
(ケ)	小林和美 140	佐伯靖雄 80, 105
ケルゼン, H. 74	小林弘二 107	三枝博行 139
巖 善平 95	小林 順 170	酒井 潔 9
原発史研究会 107	小林俊治 106	酒井啓子 61, 71
	小林大祐 66	境 毅 122
(コ)	小林 武 75	坂井多穂子 163
小池郁子 24	小林 盾 61	坂井めぐみ 119
小池清康 152	小林俊和 89	堺 恵 152
小池 誠 53	小林秀雄論 177	坂上雅治 89
小池誠 176	小林 誠 62	榊原哲也 15
公益社団法人大阪港振興協会・大阪 港埠頭株式会社 54	小林正弥 63	榊原正幸 109
公益社団法人日本医療社会福祉協会 154	小林靖子 146	榊原良太 36
皇學館大学社会福祉学部 152	小林頼子 47	坂寄仁美 50
香崎智郁代 142	小原克博 43	坂下 晃 80, 98, 99
好田順治 85	コヘイン, R. 62	坂田幹男 92, 93, 94
甲田純生 6, 11, 166, 173	小堀真裕 61, 175	坂田裕輔 88, 175
黄當時 164	古牧徳生 133	坂本隆行 101
神戸学院大学学際教育機構防災・社 会貢献ユニット 139	小卷泰之 99	坂本 正 85
神戸学院大学東日本大震災災害支援 対策本部 139	駒田安紀 24	坂本知宏 4, 27, 39, 30
黄名時 164	小松史朗 112	坂本信雄 110
古賀敬太 63, 70	小松正史 138	作田良三 144
小口将典 149	古宮 昇 176	佐久間清美 141
小崎恭弘 152	小宮理恵子 114	佐久間泰司 73
古島義雄 95	呼美蘭 164	櫻井公人 83
小島律子 147	小山和伸 91, 124	櫻井慶一 149
小城拓理 39	小山三郎 50, 168, 178	桜井健吾 85
小杉考司 36	小山弘美 121	櫻井康夫 117
コズニック, C. 144	近藤 敦 142	櫻庭和典 163
木立 力 96	近藤耕人 47	佐古 丞 59
小谷正典 51	近藤佐知彦 54	佐々木掌子 37, 173
ゴットリーブ, A. 4	近堂 秀 6	佐々木信彰 94, 95
後藤隆基 167	近藤隆則 96	佐々木伸尚 177
	近藤高弘 25	佐武弘章 105
	近藤隆己 148	佐藤啓介 10
	近藤達郎 153	佐藤幸治 40
	今野茂充 66	佐藤潤一 75

- 佐藤卓利 128
 サトウタツヤ 152
 佐藤千景 92
 佐藤 仁 159
 佐藤 光 22, 84
 佐藤守弘 49
 佐藤泰子 24, 134
 佐藤裕太郎 58
 佐藤嘉一 27, 176
 佐藤義之 3, 27, 39
 佐野 誠 70
 佐野安仁 148
 ザハヴィ, D. 2, 8, 27
 澤田篤子 147
 沢田誠二 148
 澤野義一 75
 サンダーソン, M. 52
- 〈シ〉
- シェイクスピア, W. 170
 ジェソップ, B. 99
 シェーンリッヒ, G. 6
 塩沢由典 129, 130
 塩田眞典 82, 84
 塩津ゆりか 99
 塩見治人 87
 式部 信 12
 重久俊夫 2
 重本直利 103, 104, 108
 重森臣広 64
 宍戸邦章 141
 地主敏樹 99
 篠原清夫 122
 篠原三郎 28, 103
 篠原資明 3, 46
 篠原有子 28
 シーハン, S. 152
 柴田賢一 149
 芝田正夫 136, 176
 柴山英樹 142
 シバーン, F.C. 9
 渋谷治美 10, 12, 16
 渋谷典子 61
 島岡 宏 59
 島尾永康 29
 嶋田英晴 44
 島 敏夫 92
 島村直幸 57
 島本美智男 84
 清水重樹 147
 清水 習 64
- 清水 博 31
 清水みさを 28
 清水靖久 70
 清水 麗 67
 『市民の科学』編集委員会 141
 下川 潔 70
 下坂 剛 149
 霜田博史 127
 霜田 求 122
 暁 剛 127
 社会経営学研究 103
 社会文化学会 121, 141
 雀 誠姫 147
 ジャケ, C. 29
 ジャット, T. 64
 シャリー, J. 126
 シュヴァイドラー, W. 6
 周而復 172
 周宝玲 163
 朱濤 79
 シュッツェ, S. 124
 シュトレカー, E. 19
 シューメーカー, M. 40
 シュルター智子 44
 Jun Ayukawa 73
 肖賢富 79
 庄司博人 117
 庄司真理子 57
 常 清秀 104
 邵展眉 162
 情報問題研究会 141
 徐 治文 96
 徐林卉 164
 ジョンソン, J.L. 155
 白石恵理 22
 白井弘子 144
 白井元康 59
 ジラルデ, R. 68
 シリーズ「大学評価を考える」編集委員会 151
 シンガー, P. 39
 新川信洋 7
 新 茂之 147
 秦 辰也 67
 新地比呂志 53, 67
 進藤修一 127
- 〈ス〉
- 居石正和 75
 末川 清 51
 末廣貴生子 156
- 末松 剛 118
 菅沢竜文 16
 菅沼 惇 165
 菅原 潤 1, 23, 167
 菅原 光 70
 杉江雅彦 99
 杉田 敦 70
 杉原左右一 85
 杉村和彦 119
 杉村昌昭 122
 杉本 明 177
 杉本 孝 93
 杉本敏夫 154
 杉山和一 131
 杉山 武 10
 鈴木 茂 130
 鈴木健之 126, 173
 鈴木龍也 74, 78, 127
 鈴木利章 51
 鈴木紀子 133
 鈴木光代 165
 鈴木 泰 91, 96
 鈴木好美 131
 樹仙齋 138
 スタンリス, P.J. 169
 スーツ, D.B. 85
 須藤 功 81
 須藤義人 29, 174
 住田育法 58, 165
 スメルサー, N.J. 123
 諏訪清二 139
- 〈セ〉
- 清野良榮 87, 93
 勢力尚雅 142
 関沢英彦 125
 関下 稔 83
 関 劭 84
 関根 薫 152
 関 めぐみ 138
 関谷次博 81
 積山敬経 160
 セグリン, C. 36
 瀬島 誠 62
 瀬々敦子 76
 瀬波大土 157
 妹尾哲志 66
 千石好郎 52
 千 相哲 118, 131

- 〈ソ〉
 総田純次 33, 174
 相馬伸一 142
 相馬利行 97
 副島豊次郎 65
 徐 京植 23, 133
 徐 勝 93
 外島健嗣 80
 染谷高士 113
 ソルター, A. 111
 孫 新 79
 孫 飛舟 115
- 〈タ〉
 大学スポーツコンソーシアム
 KANSAI 159
 大学評価学会年報編集委員会 151
 タイボ, K. 57
 高井康弘 140
 高岡尚子 133
 高岡弘幸 118
 高嶋修一 80
 高島昌二 176, 177
 高嶋哲夫 148
 高島 博 130
 高田 太 6
 高田富三 127
 高田光雄 128
 高頭直樹 9
 高梨友宏 48, 174
 高橋和子 160
 高橋 弦 121
 高橋信弘 82, 95
 高橋秀寿 68
 高橋秀行 85
 高橋正人 73
 高橋正紀 117
 タカハシマサル 141
 高橋陽一郎 7
 高橋庸一郎 53
 高橋良輔 70
 高原孝生 59
 田上孝一 63
 田上博司 136
 田上雅徳 70
 高村学人 69
 高屋定美 98
 高山 守 21
 滝内大三 147
 瀧本和成 166
- 瀧 由紀子 165
 竹市明弘 19
 武居奈緒子 113
 竹内オサム 137
 竹内真雄 104, 109, 111, 124
 竹内章郎 121
 竹内 毅 102
 竹内真澄 29
 竹内靖子 134
 竹内裕二 128
 竹下 賢 73, 74
 竹下公視 86
 竹島博之 70
 武田珂代子 23
 武田丈太郎 117
 武田尚子 118
 武谷嘉之 120
 武田雅史 137
 竹歳一紀 89, 176
 竹中 健 136
 竹中正治 97
 竹中 亨 174
 竹端 寛 155
 竹原利栄 177
 竹村和也 73
 竹山相哲 163
 竹山博英 133
 田崎嗣人 70
 田島陽一 95
 田島良輝 118
 橘木俊詔 126
 橘 恵昭 110
 立花直樹 149, 152, 155
 立本博文 105
 立野了嗣 140
 巽 真理子 135
 伊達浩憲 105
 立山善康 147, 148
 田中照純 107
 田中きよむ 127, 128
 田中健吾 36, 106
 田中 滋 127
 田中恒行 81
 田中利彦 88
 田中裕明 76
 田中 宏 81
 田中洋美 133
 田中雅一 23, 24
 田中美佐 138
 田中祐二 92, 95
 田中有美 166
- 田中龍山 2
 田辺希久子 23
 田邊 匡 166
 谷内篤博 110
 谷内 満 93
 谷釜尋徳 159
 谷口健治 51
 谷口弘一 145
 谷口静浩 7
 谷口知司 107, 124, 137
 谷塚 哲 117
 谷村賢治 98, 131
 田畑真一 70
 田端信廣 2
 田端 太 161
 田林 葉 64
 玉井金五 85
 玉井敬人 92
 玉井雅隆 57, 69
 玉田芳史 71
 玉田龍太郎 7
 玉里恵美子 127
 田村香月子 80, 98
 田村公江 41
 田村修一 177
 田村八十一 108
 樽井正義 16
 ダーレンドルフ, R. 62
 丹下和彦 170, 178
 丹治 隆 101
 段 端聡 66
 丹松美恵子 142
 丹松美代志 142
- 〈チ〉
 近 勝彦 91
 千地万造 131
 千野万里子 165
 千葉ジェシカ 58
 千葉 眞 63, 70
 茶谷直人 1
 チャップリン, S. 49
 唱 新 92, 93, 94
 張健同 163
 千代島 雅 11, 30, 173, 174
 陳月吾 163
 陳敏 162
 陳 友駿 95
- 〈ツ〉
 ツェラー, G. 7

- 塚本 潔 44
 次田憲和 3, 39
 月村太郎 62, 71
 辻本雅史 70
 津田真一郎 160
 津田直則 99
 土田宣明 154
 都築 勉 70
 堤 正史 34
 常俊宗三郎 19
 角田猛之 73, 74, 175
 円谷裕二 16
 坪井秀人 22
 鶴 宏史 149, 153
- 〈テ〉
- 出家健治 130
 ティムスキー, G. 98
 テイラー, D.M. 36
 テイラー, R. 39
 出口俊一 127
 出口剛司 27
 手塚洋輔 122
 出原政雄 70
 デメッロ, M. 133
 デューイ, J. 9, 47
 デュフレンヌ, M. 19
 デュムシエル, P. 96
 寺井 晃 81
 寺沢正晴 132
 寺島俊徳 64, 70
 寺田俊郎 17
 寺田盛紀 146
 寺田良一 139
 寺前典子 29
- 〈ト〉
- トイニッセン, M. 19, 20
 土居充夫 121
 藤稿亜矢子 126
 同志社大学グローバル地域文化学部
 123
 同志社大学人文科学研究 97, 147
 同志社大学大学院総合政策科学研究
 科 63
 唐 亮 66
 遠塚谷富美子 154, 155
 徳江順一郎 130
 徳島文理大学大学院総合政策学研究
 科 63
 徳田昭雄 105
- 徳田完二 154
 徳田 剛 120
 徳永高志 131
 徳永哲也 153
 ドジソン, M. 111
 外島健嗣 98
 土倉莞爾 63, 64
 外園一人 141
 戸田剛文 3
 戸田信正 84
 戸田真紀子 57, 62
 五嶋俊彦 129
 十名直喜 102
 富江英俊 142, 149
 富岡基子 23
 富澤公子 141
 富沢 克 70
 富田晴生 142, 149, 150
 富野暉一郎 74
 富野幹雄 58
 外村 彰 171
 友松憲彦 85
 豊田志保 154
 豊田祐輔 142
 豊原治郎 177
 豊原正智 49, 50
 ドレフェス, M. 153
 トーンスタム, R. 141
- 〈ナ〉
- 内航海運 115
 内藤 明 171
 内藤和美 125
 内藤純郎 4
 内藤葉子 70
 内藤可夫 33
 永井 彰 27
 中井大介 83
 永井隆則 47, 49
 永井史男 61
 中井良育 154
 中岡成文 19
 長岡延孝 108
 中尾 清 131
 中川明才 7, 35, 174
 中川栄治 82
 中川 理 120
 中川吉晴 40, 147
 長倉誠一 16
 中里弘穂 146
 長澤邦彦 7
- 長沢幸子 46
 長沢伸也 101, 102, 113, 114, 115
 中澤 務 2
 中島清貴 97
 中嶋慎治 93
 中島義道 6, 16, 173
 中田兼介 122
 中谷 愛 146
 中谷常二 106
 中谷武雄 131
 中谷 彪 144, 145, 146, 150, 151
 中谷 猛 68
 中谷常二 130
 中田喜万 70
 中田善啓 102
 中塚朋子 136
 中津孝司 91, 92, 96
 長綱啓典 26
 中根雅夫 111
 長野順子 21
 永野典詞 142, 149, 150, 151
 中野啓明 148
 永畑沙織 8
 仲林真子 96
 仲間裕子 48, 49
 中 みき子 163
 中道 眞 108
 中南 勲 144
 中村共一 103, 106
 中村啓佑 51
 中村このゆ 134
 中村 進 85
 中村 正 152, 154
 中村拓也 2, 8, 9, 27
 中村忠司 131
 中村 亨 82
 中村 徹 86
 中村敏子 70
 中村真典 107
 中村雅秀 95
 中村幹雄 51
 中村瑞穂 106
 中村光世 10
 中村元哉 53
 中本 悟 95
 中山一郎 140
 中山貴夫 122
 中山剛史 39
 中山久憲 139, 176
 仲 万美子 53
 名古屋学院大学総合研究所 99

- 浪江 巖 110
 奈良県立大学地域創造研究会 69
 成田孝三 128
 鳴滝善計 80
 縄田榮次郎 167, 177
 南波浩史 96
 南保 勝 80, 87
- 〈二〉
- 新川匠郎 65
 新澤秀則 88
 ニヴェル, A. 47
 二階堂裕子 120
 西尾久美子 122
 西尾孝司 175
 西尾祐吾 152, 155, 156
 西川真理子 144
 西川佳秀 58
 西川吉光 58
 西口清勝 93
 西崎雅仁 86
 西澤信善 65, 93
 西嶋 淳 176
 西田 毅 32
 西谷 敬 19, 29
 西谷裕作 19
 西田雅弘 2
 西田充徳 23
 西平 直 40
 西村 修 113
 西村和志 98
 西村勝志 109, 112
 西村邦行 70, 71
 西村 剛 107
 西村敏雄 125
 西村雅樹 52
 西村 陽 89, 90
 西山 茂 82
 西山廣司 72
 尼寺義弘 81, 173
 西脇邦雄 65
 二杉 茂 160, 161
 新田博衛 19
 新田義弘 19
 尼寺義弘 5
 二宮周平 133
 二宮正司 85
 日本材料学会腐食防食部門委員会
 157
 日本セーフティープロモーション学
 会 118
- 日本フィヒテ協会 18
 日本保育ソーシャルワーク学会
 148, 149
 二村和之 99
 庭田茂吉 23, 34
 庭田文近 81
 丹羽宣子 132
 丹羽由一 104
- 〈又〉
- 布川あゆみ 145
 沼口智則 73
 沼田千恵 23
- 〈ノ〉
- 野口和行 134
 野口 隆 173
 野口雅弘 70
 野口祐子 146
 野崎敏郎 123
 野島正興 167
 野尻武敏 84, 141, 167, 176
 野尻洋平 124
 野尻 亘 56
 ノース, D. C. 86
 野瀬正治 110
 野田正彰 125
 野田 遊 64
 ノディングズ, N. 147
 野波 寛 36
 野村幸一郎 133
 野村文宏 12
 野村 実 119
 野村宗訓 89, 90
 野村恭代 154
- 〈ハ〉
- ハーバーマス, J. 19, 27
 バーリンゲーム, J. 168
 ハイデッガー, M. 19, 20
 ハインテル, E. 19
 ハウフェ, T. 49
 バヴレンカ, C. 42
 袴田俊一 126
 萩原 稔 70
 萩原能久 70
 朴 勝俊 81, 90
 朴 シネ 146
 朴 一 92
 羽地 亮 6, 11
 橋本一雄 142, 149, 150
- 橋本圭多 72
 橋本誠一 75
 橋本孝明 157
 橋本高勝 25, 164
 橋本信子 144
 橋本法明 42
 橋谷聡一 77
 バスカー, R. 12
 蓮見二郎 70
 長谷川一年 64, 68, 70
 長谷川健二 104
 長谷川正 110
 長谷川弘子 169
 秦 源治 53
 畠田靖久 142
 秦 劼 97
 畑中綾子 78
 畑中和夫 79
 波田埜英治 152
 端 信行 131
 畠山圭一 66
 秦 由美子 146
 初谷譲次 68
 バックランド, W. 50
 初瀬龍平 58, 71
 八田英二 90
 ハッチオン, L. 137
 服部 治 102, 110
 服部元彦 163
 服部敬弘 23
 馬頭忠治 176
 バトナム, H. 9
 羽鳥卓也 85
 花方寿行 170
 羽路駒次 176
 馬場香織 68
 馬場 哲 80, 81
 馬場正実 113
 馬場真光 83
 浜渦辰二 8, 22
 濱真一郎 70
 濱田恵三 129
 浜野 潔 132
 浜野研三 41
 濱 道生 100
 早川 誠 70
 林 克樹 34, 173
 林 公子 48
 林久美子 133
 林 治郎 144
 林 恒宏 117

- 林 尚之 65
 林 信弘 11, 24, 166
 早鳥 瑛 51
 林 松国 93
 林 妙音 85
 林 泰成 147
 早田幸政 148
 葉柳和則 131
 原田禎夫 99
 原田 徹 72
 原田平作 49
 バルツツイ, A. 19
 番匠谷光晴 155
 ハンター, A. 58
 半田 裕 117
 坂東佑治 102
 伴 ひかり 95
 伴 義孝 177
- (ヒ)
- 檜垣良成 17
 東 自由里 127
 東出加奈子 52
 樋口勝一 100, 157
 樋口克次 109
 樋口浩造 2
 樋口 武 98
 日暮雅夫 27
 比佐 篤 51, 52, 175
 ビーチヤム, T.L. 106
 ビトフスキー, R. 86
 日野真紀子 80
 姫岡とし子 133
 檜山雅人 62
 ヒューバー, J. 133
 平尾昌宏 3
 平田一郎 41
 平田俊博 16, 173
 平田雅博 52, 175
 平野 武 73, 75, 76, 78
 平野 実 110
 平光睦子 48
 平山 弘 113
 廣江満郎 90
 廣岡裕一 107
 廣川桃子 131
 廣川嘉裕 63
 廣澤孝之 65, 175
 廣重剛史 126
 廣重 紫 130
 廣瀬典生 53
- 廣田 功 81
 広野好彦 59
 広原盛明 127
- (フ)
- フィリップス, J. 155
 フェアメーア, H.J. 23
 フェレー, A. 164
 深澤 敦 153
 深見純生 53
 福井逸子 145
 福石賢一 52
 福井弘幸 107
 福田國彌 105, 168
 福田敏浩 84
 福田知子 48
 福谷 茂 16
 福田秀俊 91
 福田正治 11
 福山直寿 129
 藤井 薫 152
 藤井一成 161
 藤井千春 146
 藤井宏史 98
 藤井ひろみ 121
 藤井政則 42
 藤井 勝 140
 藤井美和 41
 藤井康生 138
 藤井 泰 52
 藤江啓子 169
 藤崎和彦 136
 藤澤三佳 134
 藤田榮一 165
 藤田 香 89
 藤田加代子 53
 藤田里実 144
 藤田省一 41
 藤田昇吾 10
 藤田隆正 41
 藤田宏郎 65, 175
 藤田正勝 21, 32
 藤田昌志 140
 藤田泰正 105
 藤壽文子 23
 藤間公太 135
 藤本 茂 95
 藤本建夫 85, 87
 藤本武司 128
 藤本武士 101
 藤本 忠 3, 29
- 藤本雅樹 166, 169
 藤本義治 104
 藤原武弘 36
 藤原隆信 108
 藤原秀夫 97
 布施将夫 51
 二村祐輔 130
 船木伸江 139
 船橋新太郎 134
 船場保之 17
 船山 徹 23
 フライシャッカー, S. 83
 フライターグ, G. 124
 ブラウス, G. 19
 ブラックバーン, S. 39
 フラマン, J.H. 112
 ブリュッセイ, L. 53
 古川哲史 168
 古性摩里乃 130
 古田 昇 56
 古田雅雄 62
 古林勝也 174
 古牧徳生 3, 39, 40
 フレチェット, K.S. 41
 風呂 勉 91, 176
 文 楚雄 162, 163
 文能照之 121
- (ヘ)
- ベーカーースミス, D. 26
 ヘーゲル, G.W.F. 5
 ベーメ, G. 6, 12
 ベゲラー, O. 19, 20
 ベッカー, C. 24, 25
 ベッカー, W. 20
 ベック, K. 144
 ベック, L.W. 10
 何彦旻 90
 ベルティング, H. 49
 ヘルト, C. 19
 ベルトナー, G. 10, 12
 ベルマン, A. 41
 卞惟行 162, 163
 ヘンリッヒ, D. 19
- (ホ)
- ボイスヴァート, R.D. 146
 ボウイ, N.E. 106
 宝月 誠 126
 ホーマイヤー, C.G. 5
 ボーリン, R. 98

- ホール, L. 28
 保坂 稔 66
 千川剛史 121, 124
 星野 智 63, 140
 星野満博 86
 細川 孝 104, 148
 細川裕史 124, 134
 細川亮一 8
 細谷昌志 32
 細谷 実 41
 堀田新五郎 70
 堀田 力 128
 ポペロ, J. 24
 堀 栄造 26, 174
 堀江正伸 62
 堀江有里 118
 堀口 正 94, 119
 堀野正人 132
 ホルクハイマー, M. 20
 ホホワイト, D. 160
 ホング, J. 99
 本多深諦 78
 本多真隆 135
 本田 豊 80
- 〈マ〉
- マーシャル, M. 155
 マイアー, H. 26
 米原 謙 70
 前川 修 49
 前川志織 29
 前田和範 117
 前田啓一 121
 前田 茂 50
 前田純一 82
 前田 勉 70
 前田尚子 135
 前田益尚 118, 124, 134
 前田幸男 70
 前林清和 140, 159
 牧瀬英幹 37
 蒔田 純 74
 牧野英二 16
 牧野圭一 137
 牧野圭子 46
 牧野丹奈子 104
 牧野格子 50
 牧野雅彦 70
 檳村久子 136
 マクドナルド, A. 155
 マサイアス, P. 85
- 増島 建 71
 増田啓子 130
 増田梨花 37, 38
 増田頼道 119
 町田哲司 169
 松井一美 165
 松井三郎 4
 松井敏邇 108
 松井吉康 4
 松浦明宏 4
 松浦一悦 80
 松浦さと子 125
 松浦哲郎 125
 松岡京美 68
 松岡憲司 105
 松尾 匡 175
 松川俊夫 40
 松倉梨恵 50
 松崎行代 119
 松崎朱芳 90
 松下 冽 57
 松下啓一 62
 松島泰勝 87, 88
 松田与理子 37
 松平好人 105
 松田吉郎 132
 松田宏一郎 70
 松田 哲 58
 松田利彦 29
 松谷邦英 124
 松田真理子 37
 松田康博 66, 67
 松田幸弘 36
 松田吉郎 53
 松田与理子 36
 松野周治 93
 松野光範 90
 松原淳一 88, 91
 松原仁美 123
 松久玲子 57
 松村國隆 170
 松本英紀 174
 松本保宣 53
 松森奈津子 70
 松山壽一 3, 16, 21, 40
 的射場敬一 70
 間藤芳樹 129
 マニユエル, F. E. 25
 マニユエル, F. P. 25
 馬原潤二 70
 丸茂俊彦 97
- マルテンス, E. 3
 丸山正次 70
 丸山徳次 9
 丸谷冷史 86
- 〈ミ〉
- 三浦一郎 103
 三浦耕吉郎 138
 三浦誉史加 168
 三上貴教 57
 見上崇洋 69
 三木順子 48
 御子柴善之 17
 三阪佳弘 75
 三崎和志 3
 三品桂子 155
 三島憲一 14, 15
 水谷利亮 127
 水谷 周 45
 水地宗明 5, 173
 水野清文 114
 水野邦彦 3
 水之拓夢 90
 水野正己 119
 水本有香 57
 溝井高志 170
 溝口宏平 20
 溝口隆一 27
 溝畑寛治 160
 三田英二 126
 道中 隆 153
 三井 哲 99
 三ツ木道夫 29
 光澤滋朗 113
 三成美保 133
 三俣 学 88
 皆川芳輝 111
 湊 邦生 94
 南野佳代 122
 源 由理子 68
 嶺 秀樹 4
 美馬佑造 99
 宮内拓智 103
 宮浦富保 127
 宮城博文 108
 三宅剛一 19
 三宅正伸 128, 140, 154
 宮坂和男 40, 41
 宮坂純一 101, 107, 109
 宮崎宏志 147
 宮下篤志 103

- 宮嶋恒二 104
 宮島康暢 101
 宮田由紀夫 86, 92
 宮原 勇 27, 174
 宮部真由美 162
 観山雪陽 19
 宮村治雄 70
 宮本孝二 122
 宮本英征 53
 宮守代利子 73
 宮脇敏哉 102
 宮脇 昇 57, 69, 142
 ミュラー, A. W. 40
 三好明夫 149
 三好皓一 127, 128
 ミラー, J. P. 147
- 〈ム〉
- 務台俊介 64
 武藤秀太郎 70
 武藤 崇 36, 37
 宗像 優 118
 村井明彦 84
 村上幸造 164
 村上 信 155
 村上 毅 39
 村上 寛 23
 村上真樹 46
 村上弥生 39
 村澤真保呂 122, 127
 村下 博 75
 村瀬 学 30
 村田邦夫 52, 64, 175
 村田誠一 34
 村田毅之 77, 78
 村田充八 44
 村田康常 41
 村本邦子 154
 村山 皓 65
 村山 徹 68, 139
 室田 武 89
- 〈メ〉
- メルケ, A. 110
- 〈モ〉
- モグハッダム, F. M. 36
 望月 昭 37, 152, 154
 望月太郎 148
 望月みや 47
 本松豊太 129
- 元山 健 75
 百瀬和夫 143
 森岡邦泰 26
 森川曉子 139
 森川輝一 70
 森 幸治 105
 森 宜人 52, 80
 森 隆行 54, 115, 138
 森田安洋 34
 森田洋二 97
 森田吉彦 63
 森 哲彦 22
 森 利博 115
 森 延江 165
 森原英壽 119
 森 裕之 69
 森 誠 86
 森本清美 128
 森山花鈴 133
 森 淑仁 21
 森脇善明 47, 167, 177
 諸井克英 137
 諸井克美 130
 諸岡建治 173
 師岡宏之 37
 諸熊建次 128
 門間都喜郎 25, 26
- 〈ヤ〉
- 八尾信光 92
 矢ヶ崎紀子 91
 柳父圀近 70
 八木 匡 90
 矢島邦昭 113
 安井邦夫 20
 保岡啓子 120
 安田誠人 152, 155, 156
 安富 信 139
 安原義仁 52
 安森敏隆 171
 谷田部光一 109, 110
 梁川洋子 51, 52
 矢野達雄 75
 八幡さくら 7
 藪下義文 89
 藪田正弘 139
 藪 亨 47, 49
 藪中 暁 164
 山内孝幸 106, 114
 山内友三郎 39
 山内廣隆 6, 22
- 山縣 熙 47
 山上賢一 155
 山川 卓 67
 山口和子 21, 174
 山口祐弘 1
 山口良臣 49
 山崎幸治 96
 山崎重雄 119
 山崎その 104
 山崎 望 70
 山崎広光 11
 山下章夫 82
 山下 香 144
 山下和也 1, 7, 31
 山下紘嗣 168
 山下新樹 160
 山下隆之 80, 87
 山下秀智 14, 22
 山下紘嗣 50
 山下未奈 50, 168
 山下善明 2, 12
 山田一隆 143
 山田幸平 47, 48, 49
 山田弘明 14
 山田央子 70
 山中恵利子 136
 山中 優 70
 山名 淳 142
 山根健至 57
 山根雄一郎 17
 山本佳世子 24
 山本佳代子 149
 山本修作 51, 73, 75
 山本周次 175
 山本修平 88
 山本純子 112
 山本誠作 14, 41
 山本 隆 80
 山本武信 60
 山本 通 23, 81
 山本紀生 112
 山本真紗子 48
 山本道雄 5, 6
 山森 泉 145
 山谷清志 69, 125, 175
 山谷清秀 72
 矢守克也 139
 梁 愛舜 176
- 〈ユ〉
- 湯浅正彦 16

- 湯浅良雄 88
 劉 仙姬 71
 裕末ひとみ 117
 湧口清隆 81
 櫛木純二 75
 兪 敏浩 66
- 〈ヨ〉
- 楊 秋麗 105
 楊 川 145
 楊 韜 125
 養老孟司 137
 横田陽子 158
 横見宗樹 115
 横山勝彦 90
 吉池毅志 155
 吉井奈々 126, 173
 吉浦昌子 144
 吉江弘和 29
 吉川寿一 75
 吉國恒雄 140
 吉田暁路 66
 吉田和男 95
 吉田謙二 12, 27
 吉田慎吾 125
 吉田妙子 162
 吉田忠彦 108
 吉田友彦 69, 128
 吉田宜路 74
 吉田秀生 170
 葭田英人 77
 吉田浩之 145
 吉田美喜夫 175
 吉田美津 169
 吉永 潤 142
 吉中康子 159
 吉野忠男 112
 吉弘淳一 145
 吉用宣二 28
 吉本浩和 33
 米原 謙 70
 寄川条路 5, 6, 22, 25, 26
- 〈ラ〉
- ライ, M. 155
 ライス, K. 23
 ライフヒストリー研究所 55
- ライル, G. 19
 ラッシュ, S. 121
 ラントグレーベ, L. 19
- 〈リ〉
- リー, N. 8
 李 愛華 163
 リーズ, A.L. 49
 リヴィングストン, A. & I. 59
 リウー, B. 121
 李 永淑 136
 李 永燃 79
 李 遠明 110
 李 海峰 94
 李 康國 93
 李 青 163
 李 相哲 125
 李 澤建 102
 立命館大学現代社会研究会 132
 立命館大学社会システム研究所
 128
 リネン, J.F. 166
 劉 建輝 53, 166
 龍谷大学社会学部コミュニティマネ
 ジメント学科 140
 劉 容菁 107
 李 庸吉 78
 李 義昭 153
 李 玲珠 61
 林 怡蓉 125
 林 珠榮 167
 林 哲洙 100
- 〈ル〉
- ルーピンステイン, W.D. 52
 ルッツ, M.A. 83
 ルベルティ, B. 46
- 〈レ〉
- レイガン, C.C. 121
 レイチェルズ, J. 3, 39
 レイチェルズ, S. 3, 39
 レーヴィ, P. 133
- 〈ロ〉
- 魯 啓華 162
 ローティ, R. 27
 ロドリゲス, J. 164
 ロムバッハ, H. 19
- 〈ワ〉
- 若森章孝 83, 89, 99, 176
 鷺崎秀一 167
 和田謙一郎 78
 和田聡子 82, 83, 121
 和田周三 171
 渡邊和典 8
 渡辺和行 64
 渡邊二郎 21
 渡邊 眞 49
 渡辺貴史 131
 渡辺哲男 142
 渡辺広之 130
 渡邊雅弘 70
 渡辺 学 31
 渡辺幹雄 70
 渡部瑞希 138
 渡邊裕一 22
 渡辺雄三 33, 174
 渡辺容一郎 66
 渡 哲郎 175
 和田 渡 30
 ワッツ, M.W. 143
 王 家福 79
 王 静 131

❖ 主な取扱書店一覧 ❖

下記の書店は、晃洋書房刊行図書の主な取扱書店です。
ご購入やお問い合わせにご利用下さい。

〈北海道〉		〃 あおい書店（六本木店）	03-3403-0327	
札幌市	MARUZEN & ジュンク堂札幌店	文京区 東京大学生協（本郷店）	03-3811-5017	
〃	011-223-1911	新宿区 紀伊國屋書店（本店）	03-3354-0131	
〃	紀伊國屋書店（札幌店）	〃 芳林堂書店（高田馬場店）	03-3208-0241	
〃	コーチャンフォー美しが丘店	〃 早稲田大学コーププラザ	03-3202-3236	
	011-889-2000	豊島区 東京旭屋書店（池袋店）	03-3986-0311	
〃	コーチャンフォーミュンヘン大橋店	〃 ジュンク堂書店（池袋店）	03-5956-6111	
	011-817-4000	渋谷区 ブックファースト（渋谷文化村通り店）	03-5459-3531	
〃	コーチャンフォー新川通店	〃 文教堂（渋谷店）	03-5468-2431	
〃	北海道大学生協	太田区 くまざわ書店（グランデュオ蒲田店）	03-3737-5351	
小樽市	喜久屋書店（小樽店）	011-852-7244	中野区 あおい書店（中野本店）	03-3319-5161
	0134-31-7077	世田谷区 櫻門書房（日大法学部）	03-5275-8571	
〈青森県〉		墨田区 くまざわ書店（錦糸町店）	03-5610-3034	
弘前市	紀伊國屋書店（弘前店）	0172-36-4511	江東区 紀伊國屋書店（ららぽーと豊州店）	03-3533-4361
〈岩手県〉		立川市 オリオン書房（ノルテ店）	042-522-1231	
盛岡市	ジュンク堂書店（盛岡店）	019-601-6161	八王子市 中央大学生協	042-674-3031
〈宮城県〉		〈千葉県〉		
仙台市	丸善（仙台アエル店）	022-264-0151	習志野市 丸善（津田沼店）	047-470-8311
〃	ジュンク堂書店（仙台 TR 店）	022-265-5656	印西市 宮脇書店印西牧の原店	0476-40-6325
〈茨城県〉		〈神奈川県〉		
水戸市	川又書店（県庁店）	029-301-1811	川崎市 あおい書店（川崎駅前店）	044-233-6518
〈栃木県〉		〃 KaBos（宮前平店）	044-870-1221	
宇都宮市	喜久屋書店（宇都宮店）	028-614-5222	〃 丸善ラゾーナ川崎店	044-520-1869
〈群馬県〉		横浜市 有隣堂（伊勢佐木町本店）	045-261-1231	
前橋市	煥乎堂	027-235-8111	〃 有隣堂（ルミネ店）	045-453-0811
〈東京都〉		〃 あおい書店（上大岡店）	045-846-1836	
千代田区	丸善（丸の内本店）	03-5288-8881	〃 あおい書店（横浜店）	045-349-8377
〃	三省堂書店（本店）	03-3233-3312	〃 ブックファースト（青葉台店）	045-989-1781
〃	東京堂書店	03-3291-5181	〃 紀伊國屋書店（ららぽーと横浜店）	045-938-4481
〃	書泉グランデ	03-3295-0011	〃 ACADEMIA 港北店	045-914-3320
中央区	八重洲ブックセンター	03-3281-1821	平塚市 東海大学ブックセンター	0463-50-1250
港区	慶應義塾大学生協（三田店）	03-3455-6631	藤沢市 ジュンク堂書店（藤沢店）	046-652-1211
		〈埼玉県〉		
		さいたま市ジュンク堂書店（大宮店）	048-640-3111	
		〃 紀伊國屋書店（さいたま新都心店）	048-600-0830	

〃 ブックデポ書楽 048-859-4946
川越市 紀伊國屋書店(川越店) 049-224-2574

〈新潟県〉

新潟市 ジュンク堂書店(新潟店) 025-374-4411

〈富山県〉

富山市 紀伊國屋書店(富山店) 076-491-7031
〃 BOOKS なかだ(本店) 0764-92-1192
高岡市 文苑堂書店(福田本店) 0766-27-7800

〈石川県〉

金沢市 うつのみや(柿木島本店) 076-234-8111
〃 文苑堂書店(示野本店) 076-267-7007
〃 明文堂書店(金沢ビーンズ) 076-239-4400

〈福井県〉

福井市 SuperKaBoS(新二の宮店) 0776-27-4678

〈岐阜県〉

岐阜市 自由書房(EX高島屋店) 058-262-5661

〈愛知県〉

名古屋市 ジュンク堂書店(名古屋店) 052-589-6321
〃 丸善(名古屋栄店) 052-261-2251
日進市 丸善(愛知学院大売店) 05617-3-4103
瀬戸市 丸善(名古屋学院大学売店) 0561-41-3310
豊橋市 精文館(本店) 0532-54-2345
〃 愛知大学生協(笹島店) 052-564-6192

〈静岡県〉

静岡市 谷島屋 054-254-1301
〃 戸田書店(静岡本店) 054-205-6111
〃 MARUZEN & ジュンク堂書店(新静岡店) 054-275-2777

〈三重県〉

四日市市 宮脇書店(四日市本店) 0593-59-5910

〈滋賀県〉

草津市 立命館大学生協びわこ・くさつ店
077-561-2828

〈京都府〉

京都市 アバンティ・ブックセンター(京都店)
075-682-5031
〃 ジュンク堂書店(京都店) 075-252-0101
〃 丸善(京都本店) 075-253-1599
〃 京都大学生協(ルネ店) 075-771-7336
〃 京都大学生協(吉田店) 075-753-7632
〃 同志社大学生協(今出川店) 075-251-4427
〃 立命館大学生協 075-465-8288
〃 龍谷大学生協(大宮店) 075-352-3981
〃 龍谷大学生協(深草店) 075-642-0103
〃 大垣書店(仏教大学店) 075-491-2141
〃 山崎宝文堂 075-371-6695
京田辺市 同志社大学生協(京田辺店) 0774-65-8372
福知山市 ツタヤ AVIX 福知山店 0773-24-4566

〈奈良県〉

天理市 天理大学購売部 0743-63-0868
生駒郡 奈良産業大学売店 0745-32-1319

〈大阪府〉

大阪市 紀伊國屋書店(梅田本店) 06-6315-8970
〃 喜久屋書店(阿倍野店) 06-6634-8606
〃 ジュンク堂書店(大阪本店) 06-4799-1090
〃 ジュンク堂書店(天満橋店) 06-6920-3730
〃 ジュンク堂書店(難波店) 06-4396-4771
〃 ジュンク堂書店(上本町店) 06-6771-1005
〃 大阪経済大学生協 06-6379-2231
茨木市 紀伊國屋書店追手門学院大学ブックセンター
072-640-5133
吹田市 関西大学生協 06-6368-7549
〃 紀伊國屋書店(大阪学院大学店)
06-6318-2017
豊中市 大阪大学生協 06-6841-4949
東大阪市 栗林書房(大商大) 06-6721-1150
〃 近畿大学生協 06-6725-3335
寝屋川市 大阪電気通信大学生協 0720-21-0720
大東市 紀伊國屋書店(大阪産業大学店)
072-871-4396
枚方市 丸善関西外国語大学売店 072-805-6180
松原市 阪南大学生協 0723-34-2921
和泉市 桃山学院大学生協 0725-54-1252

〈兵庫県〉

西宮市 ジュンク堂書店(西宮店) 0798-68-6300
〃 関西学院大学生協 0798-53-5233
神戸市 ジュンク堂書店(三宮店) 078-392-1001
〃 ジュンク堂書店(三宮駅前店)
078-252-0777

〃	学院書店（神戸学院大学店）	078-974-1734			
〃	甲南大学生協	078-441-7910			
明石市	ジュンク堂書店（明石店）	078-918-6670			
姫路市	ジュンク堂書店（姫路店）	079-221-8280			
	〈和歌山県〉				
和歌山市	TSUTAYA WAY ガーデンパーク（和歌山店）	073-480-5900			
	〈広島県〉				
広島市	ジュンク堂書店（広島駅前店）	082-568-3000			
〃	紀伊國屋書店（広島店）	082-225-3232			
〃	フタバ図書 MEGA（祇園中筋店）	082-830-0567			
〃	広島大学生協	082-249-8601			
安芸郡	フタバ図書 TERA（広島府中店）	082-561-0770			
	〈岡山県〉				
岡山市	紀伊國屋書店（クレド岡山店）	086-212-2551			
〃	宮脇書店（岡山本店）	086-242-2188			
〃	フタバ図書 MEGA（岡山青江店）	086-803-6011			
〃	啓文社（岡山本店）	086-805-1123			
	〈愛媛県〉				
松山市	ジュンク堂書店（松山店）	089-915-0075			
〃	愛媛大学生協	089-925-5801			
〃	松山大学生協	089-924-9262			
	〈香川県〉				
高松市	宮脇書店総本店	087-823-3152			
	〈福岡県〉				
福岡市	ジュンク堂書店（福岡店）	092-738-3322			
〃	紀伊國屋書店（福岡本店）	092-434-3100			
〃	紀伊國屋書店（ゆめタウン博多店）	092-643-6721			
〃	金文堂書店（福岡大学店）	092-871-1611			
〃	丸善（九州産業大学店）	092-673-5145			
〃	あおい書店（博多本店）	092-433-7197			
北九州市	ブックセンタークエスト小倉店	093-522-3912			
〃	喜久屋書店（小倉店）	093-514-1400			
〃	ブックセンタークエスト黒崎店	093-643-5511			
粕屋郡	フタバ TERA（福岡東店）	092-939-7200			
	〈大分県〉				
大分市	ジュンク堂書店（大分店）	097-536-8181			
〃	紀伊國屋書店（大分店）	097-552-6100			
〃	明林堂書店（大分本店）	097-573-3400			
	〈佐賀県〉				
佐賀市	紀伊國屋書店（佐賀店）	0952-36-8171			
	〈熊本県〉				
熊本市	喜久屋書店（熊本店）	096-319-8581			
	〈鹿児島県〉				
鹿児島市	ジュンク堂書店（鹿児島店）	099-216-8838			
〃	紀伊國屋書店（鹿児島店）	099-812-7000			
〃	ブックスマスミオプシア	099-813-7012			
	〈沖縄県〉				
那覇市	ジュンク堂那覇店	098-860-7175			

❖ 電子書籍取扱店一覧 ❖

Amazon Kindle ストア

eBookJapan

エルパカ BOOKS

GALAPAGOS STORE

紀伊國屋書店 K i n o p p y

コダワリ編集部イチオシ for スマートフォン

コープデリ e フレンズ電子書店

コンテン堂

セブンネットショッピング

TBS ブックス for スマートフォン

d マーケット BOOK ストア

Digital e-hon

どこでも読書

Neowing

VarsityWave eBooks

ひかり TV ブック

BooksV

BOOKSMART Powered by Booker's

BookPlace Cloud Innovations

BookLive!

boocross (mibon)

フジテレビ BOOKS for スマートフォン

honto

本よみうり堂デジタル

漫画全巻ドットコム

MOBI-BOOK

Yahoo! ブックストア

楽天 kobo

株式会社 晃洋書房

本 社

☎ 615-0026 京都市右京区西院北矢掛町7番地

営業部

☎ 075(312)0788 Fax 075(312)7447

mail@koyoshobo.co.jp

編集部

☎ 075(312)0790 Fax 075(312)7447

edit@koyoshobo.co.jp

http://www.koyoshobo.co.jp/

郵便振替口座/01040-6-32280

銀行口座/三菱UFJ銀行西七条支店(普通)284326

